

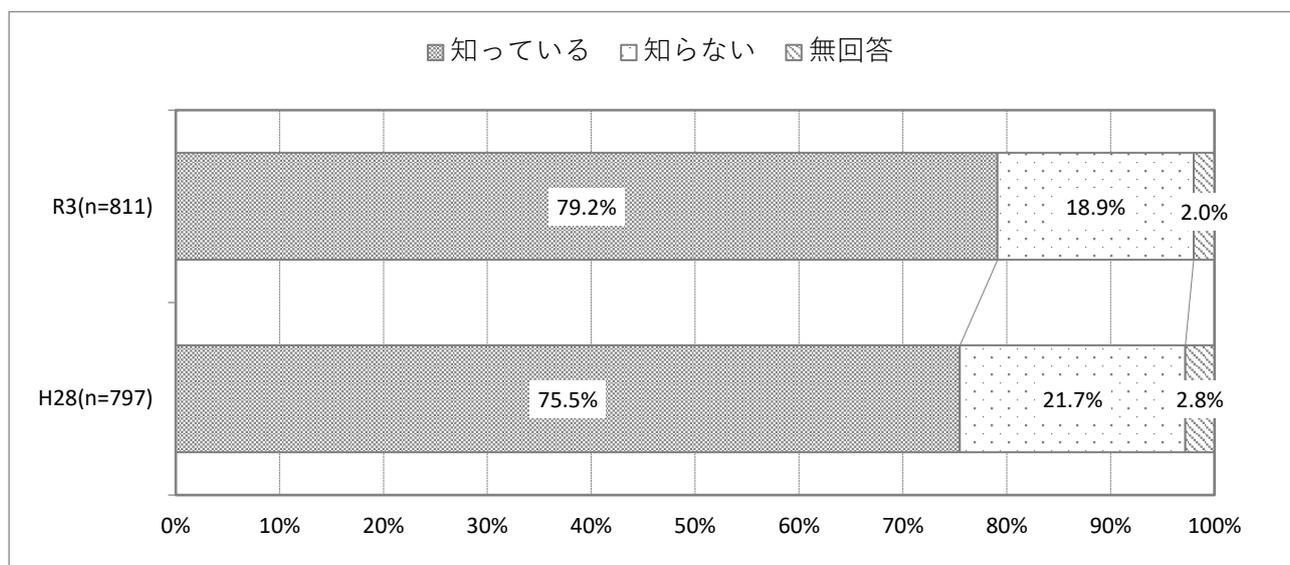
IV 調査結果の概要

1 男女平等の意識について

問2 あなたは「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。

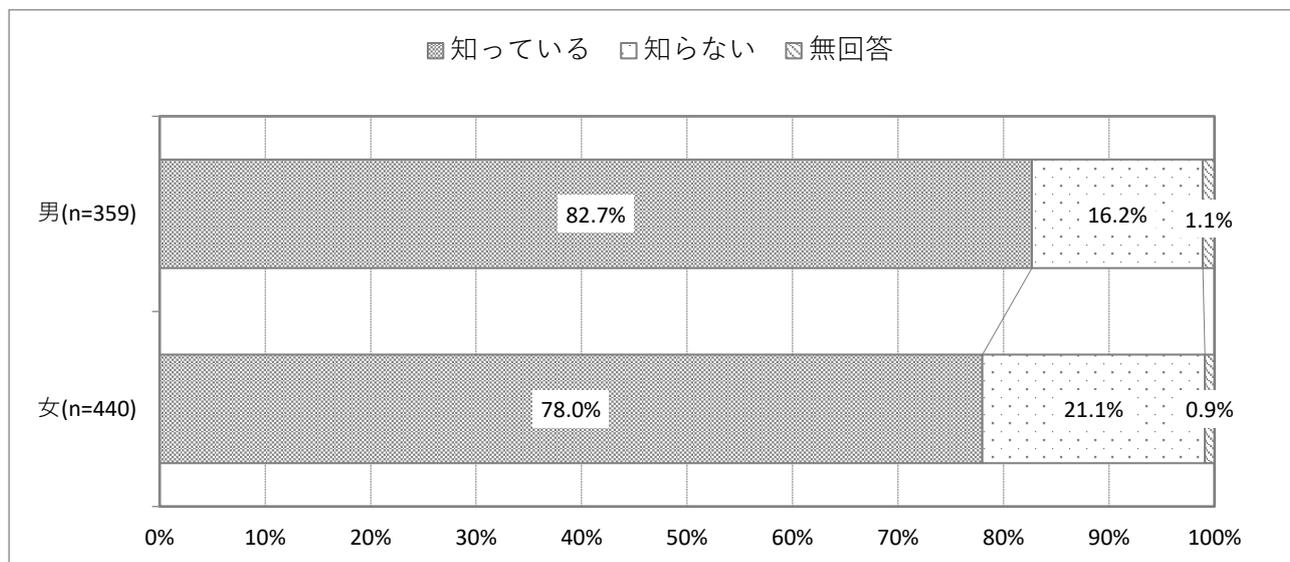
【経年比較】

全体では、「知っている」642人(79.2%)、「知らない」153人(18.9%)となっている。
前回調査と比較してみると、「知っている」の割合が3.7ポイント増加している。



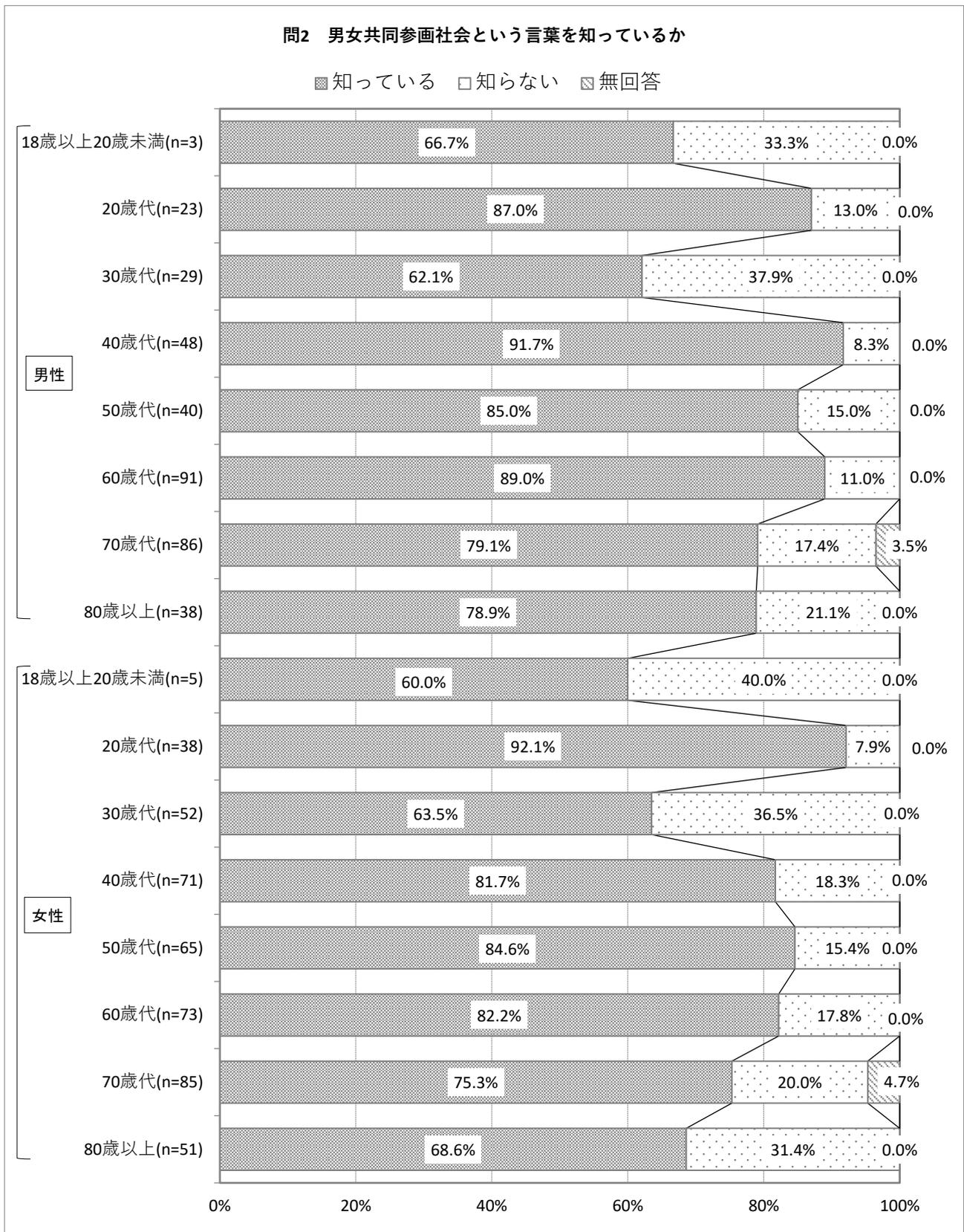
【男女比較】

性別でみると、男性では「知っている」297人(82.7%)、「知らない」58人(16.2%)、女性では「知っている」343人(78.0%)、「知らない」93人(21.1%)であり、男性の方が「知っている」と回答した人の割合が高い。



【年代比較】

年代別では、男性では40歳代での認知度が91.7%で最も高く、女性では、20歳代での認知度が92.1%で最も高い。男女とも、18歳以上20歳未満、30歳代で「知らない」と回答した人の割合が高い。

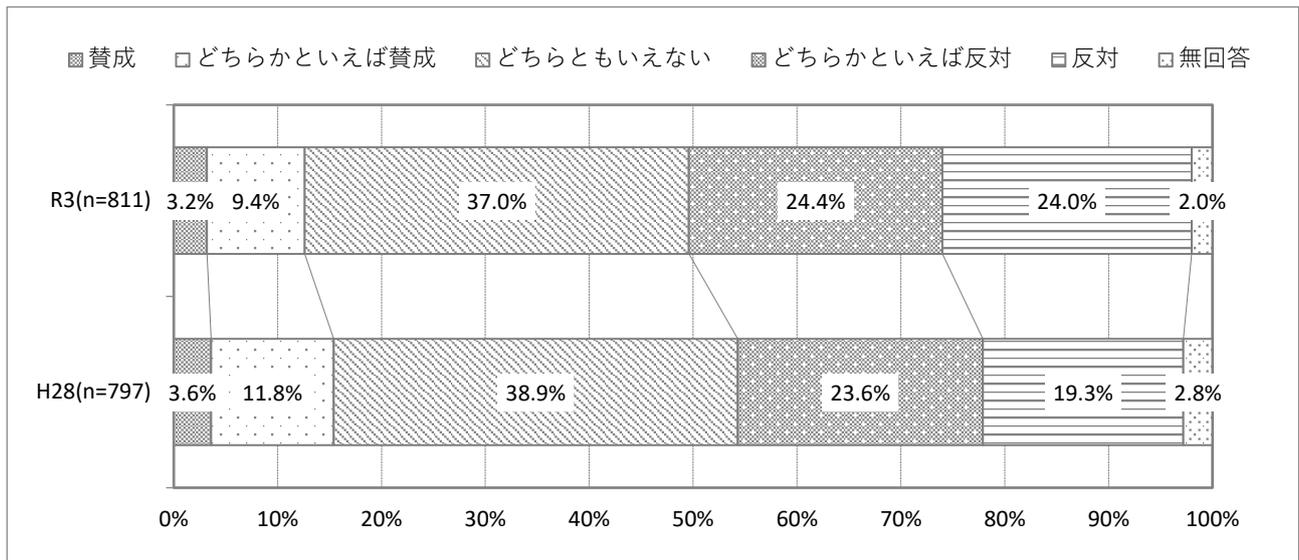


問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこのような考え方についてどう思いますか。

【経年比較】

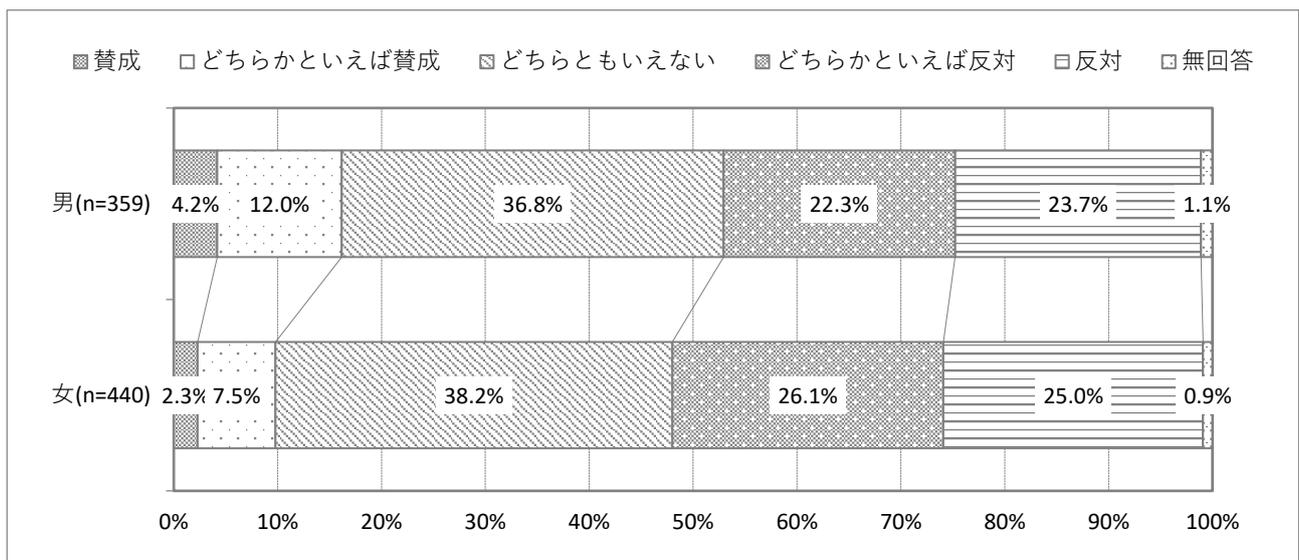
全体では、「どちらともいえない」が300人(37.0%)と最も多く、次に「どちらかといえば反対」が198人(24.4%)、「反対」が195人(24.0%)となっている。

前回調査と比較すると、「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が減少し、「反対」「どちらかといえば反対」の割合が増加している。



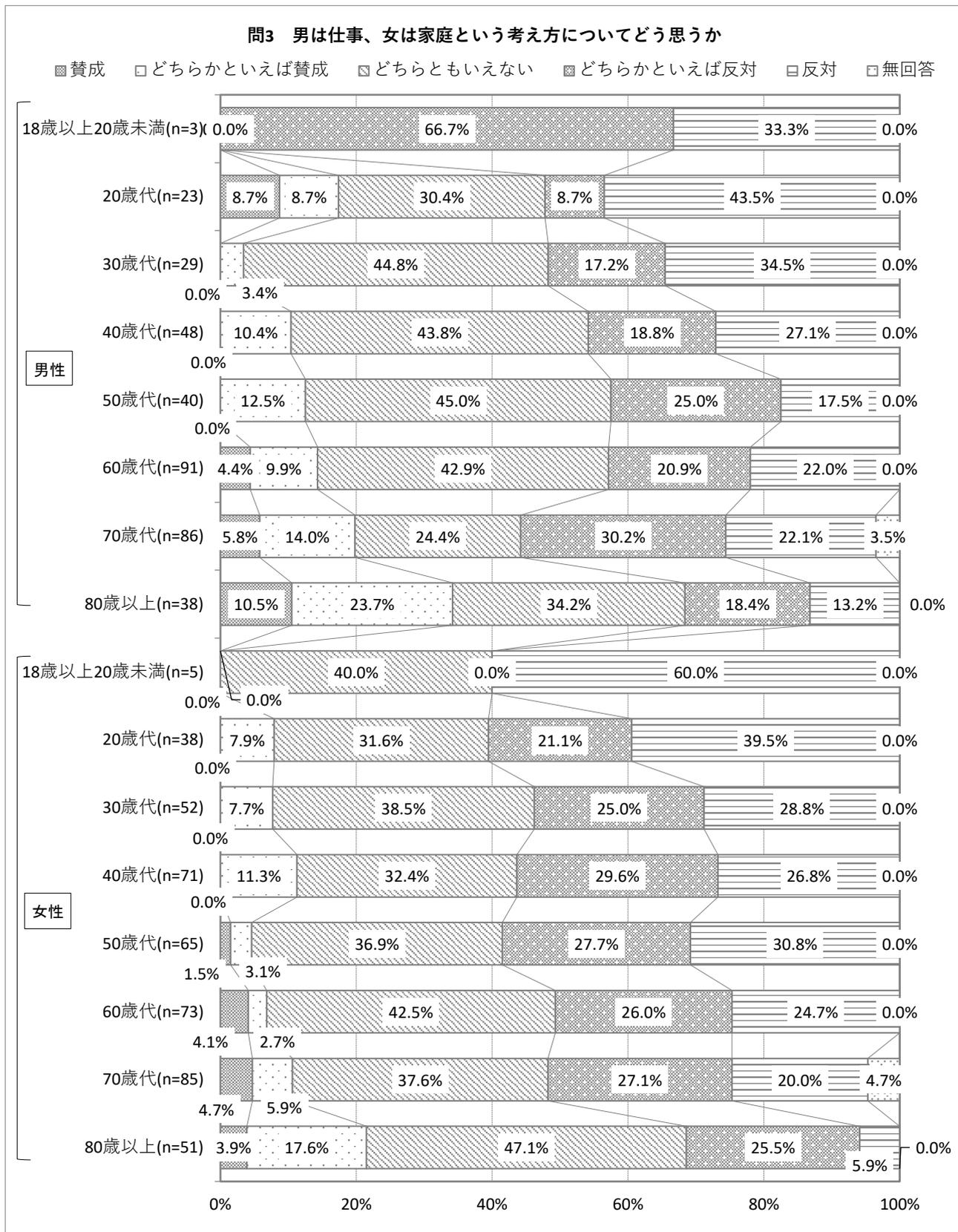
【男女比較】

性別でみると、男性では「どちらかといえば反対」22.3%、「反対」23.7%に対して、女性では「どちらかといえば反対」26.1%、「反対」25.0%であり、女性の方がこの考え方に反対という意見が多く、半数を占めている。



【年代比較】

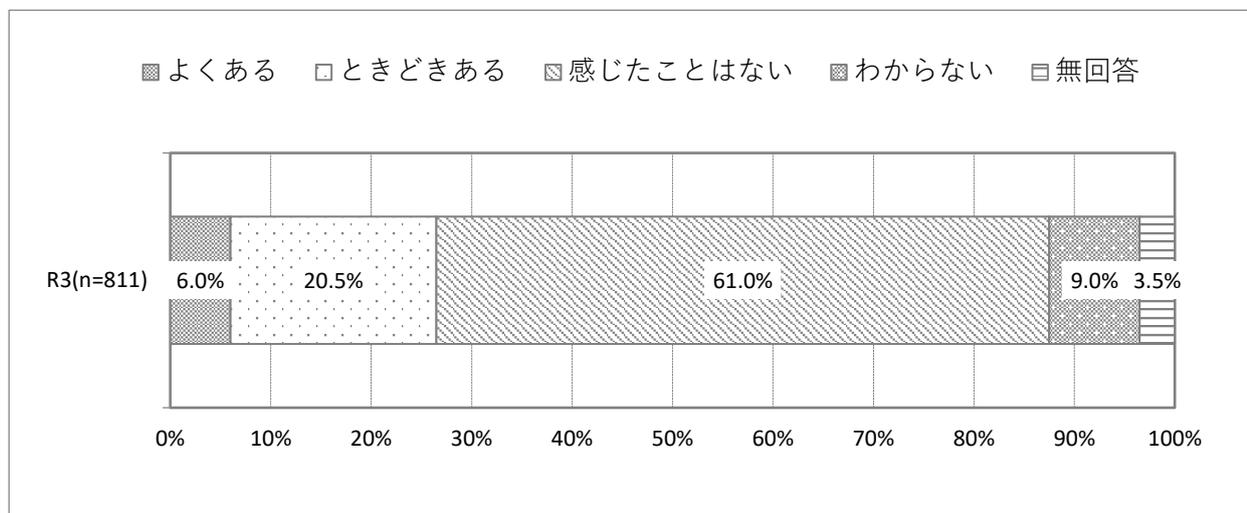
年代別では、18歳以上20歳未満の男女で「反対」「どちらかといえば反対」と回答した割合が高い。男性では、高齢になるほど、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した割合が高い傾向にある。



問4 あなたは、男性または女性であるという理由で不快な思いをしたり、不満を感じたりすることはありますか。

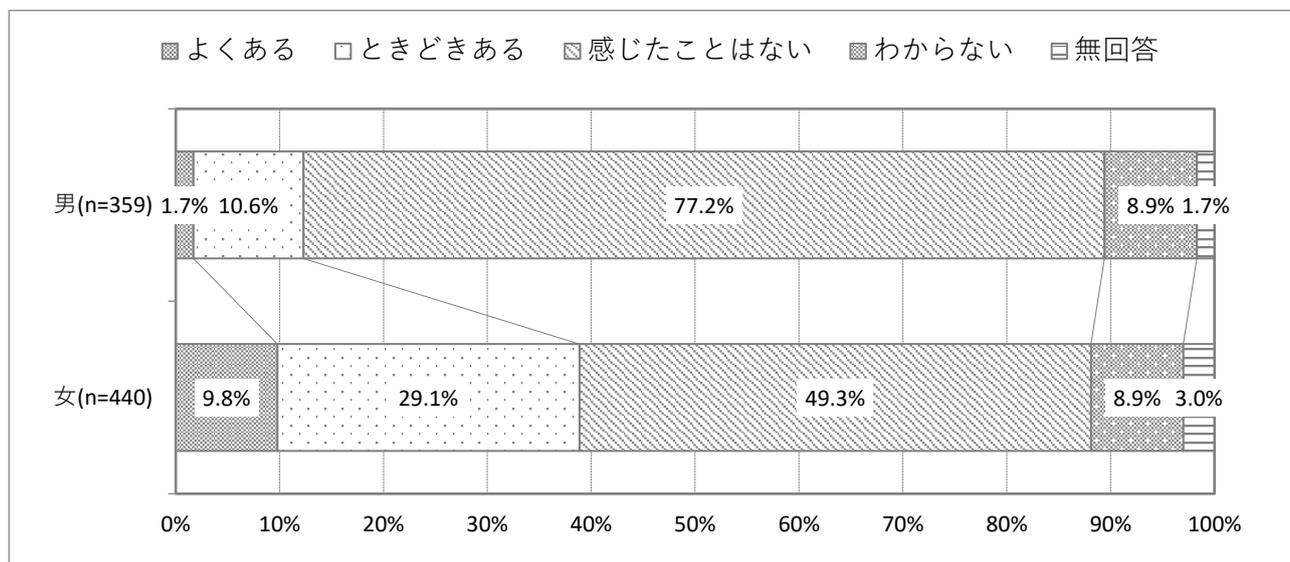
【全体】

全体では、「よくある」「ときどきある」が26.5%、「感じたことはない」が61.0%、「わからない」が9.0%である。



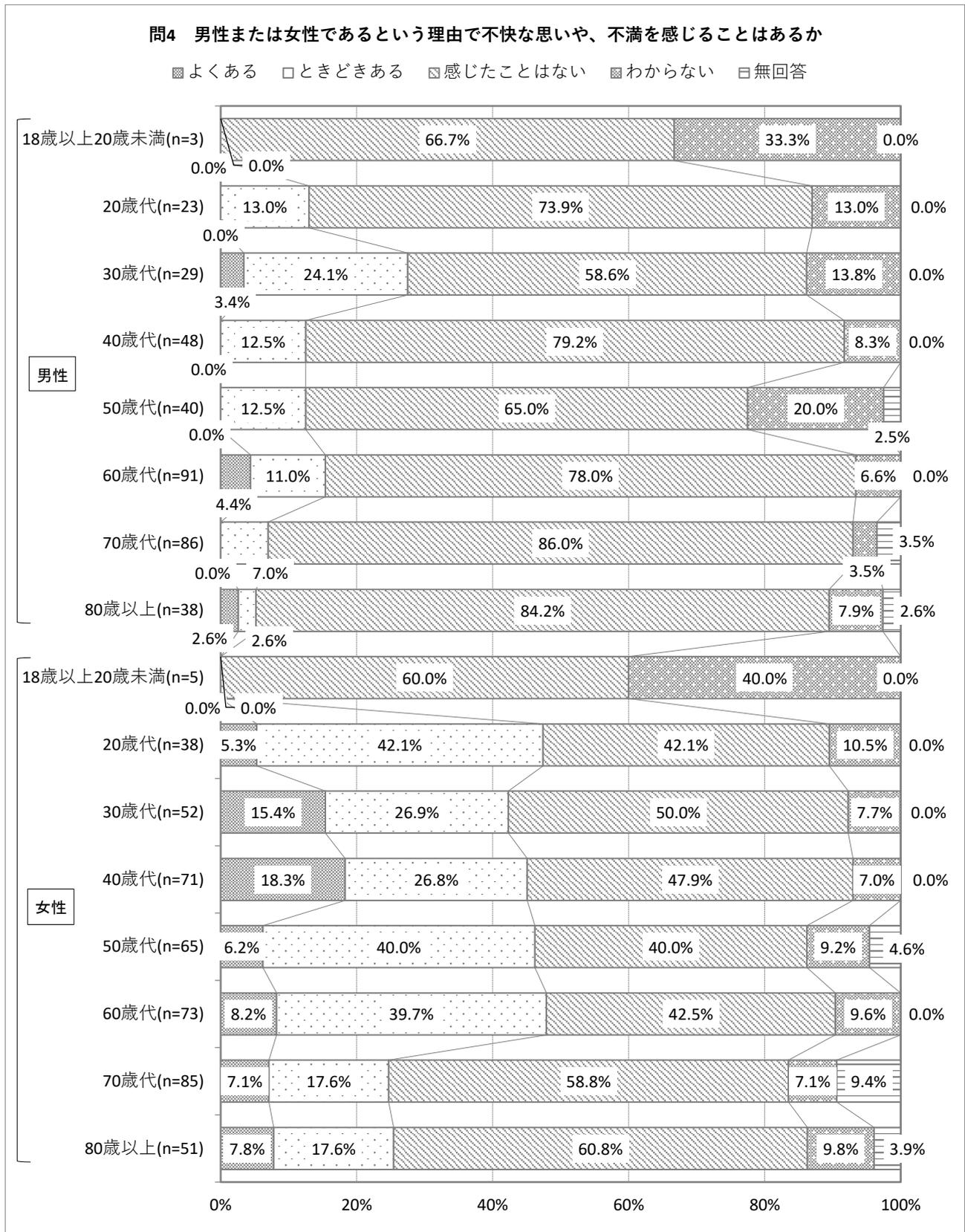
【男女比較】

性別でみると、男性では「よくある」1.7%、「ときどきある」10.6%と約2割だが、女性では「よくある」9.8%、「ときどきある」29.1%と約4割となっており、女性の方が不快な思いや不満を感じている人が多い。



【年代比較】

年代別では、男性ではどの年代でも6~8割の人が「感じたことはない」と回答している。女性では、20歳代から60歳代で4割以上の人が「よくある」「ときどきある」と回答しているが、70歳代、80歳以上では、「よくある」「ときどきある」と回答している人は約2割である。



【問 4-1 よくあるの回答】

家事・育児で感じる不満

- ・家事は女性がする物と思われている。(80歳以上・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・父から家事をしると強制される。父がまったく家事に協力しない。(50歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・家族の中の男性が全く家事をする気がない(しない)(40歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・家事は女性がしてあたり前と思われている(40歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・毎日の食事のしたく。そうじ、せんたく…(50歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・子育て、家事のほとんどを女性が受けあう(60歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・家事があたりまえの仕事という見方(40歳代・女・職業不明)
- ・親世代(60代)だと女性が子どもの世話をするのがあたり前と思われているところ(30歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・家事は女性が行うと言う考え(80歳以上・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・主に子供や家事の分担をさせられる(40歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・家事をするのは女性のしごと。そうやって夫を支えるのが妻のつとめという世間一般の考え(30歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・仕事をフルタイムでしていても女性だからということで家事育児を全部しないといけないと言われること。(40歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・義父母と同居。家事・仕事・育児全て休みなくしている。(40歳代・女・職業不明)
- ・夫の実家において女性が台所に立つのがあたり前である。先に男性陣が食事をとり女性陣は男性が終わってから。ムカつく。何時代や。貴族か。馬鹿にするな。(30歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・差別もしくは区別される。母親だからと言って、家事育児ほぼ全て行う。父親とはなんなのか？(40歳代・女・常勤(正社員・正職員))

家庭内で感じる不満(家事・育児以外)

- ・女だからとか女のくせにとか言われる時。又結婚生活において夫が優先されてあたり前と思っていると感じる時。(50歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・夫である事を力にいばる(70歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・結婚した相手が男尊女卑の考え方だったため生活の中での多くのことにおいて理不尽に感じる事が多く悲しい思いをした。(50歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・夫婦の関係性の中で(40歳代・女・自営)

子どもがいないことで感じる不満

- ・子供がいない事を責められる(30歳代・女・学生)
- ・女性は結婚して子どもを産むのがあたり前で、それができない人は少子化に反する人間のような言い方をされますが、私のように望んでいても原因が分からず子どもを授かることができなかった人

もいます。そういう人もいるんだということを理解して欲しいです。(40歳代・女・常勤(正社員・正職員))

職場で感じる不満

- ・主人の仕事の都合で転職しなければならない。女性だからと責任のある仕事をさせてもらえない。(40歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・仕事の内容にかかわらず、男性の方が給料が多かった。(70歳代・女・無職)
- ・仕事中に女のくせにと結構言われる(40歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・介護仕事、調理仕事でパートだけで男性が上から目線で言葉がひどい。(70歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・職場(40歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・62才まで働いていたが昇進も入社当時のまま23年間勤務した(70歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・職場で女性は役職がつかないといわれた。(30歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・団塊世代が男がやるものだという認識のある職業の話があったが性別のせいではなくなったことがある。(30歳代・女・自営)
- ・お茶だし、留守番は女性がやるものという風潮。女性だから料理が得意という暗黙の空気感。(20歳代・女・常勤(正社員・正職員))

世間一般に感じる不満

- ・「女性ならではの視点で…」とか言われる事。(40歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・女性に対する差別待遇を見せられ不快に思う。(60歳代・男・自営)
- ・80以上の人になると何にもせず育って来た人が多い(80歳以上・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・情報(60歳代・男・無職)
- ・女性というだけであおり運転されやすい。仕事の振られ方など(30歳代・男・常勤(正社員・正職員))
- ・マスコミ・影響力の強いTVなど男性と女性の起用が平等ではないし、カメラの視線が男視線だと感じる場面が多い(60歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))

地域に感じる不満

- ・主人が亡くなってから特に他の人からいやがらせやバカにされる(80歳以上・女・職業不明)
- ・PTAや子供会の役員は女性の方が多く、当然のように女性側に話をされる。また、家族(夫・親)も妻がやるものだというスタンス(30歳代・女・常勤(正社員・正職員))

男性だから〇〇、女性だから〇〇と言われたことに対する不満

- ・男だったら、頑張れ…(60歳代・男・その他)
- ・男のくせに…(60歳代・男・常勤(正社員・正職員))

容姿で感じる不満

- ・容姿で評価される機会が多いこと (20 歳代・女・学生)

トラブル発生時に感じる不満

- ・トラブルがある時に我慢をするものだと思われがち (60 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))

【問 4-2 ときどきあるの回答】

家事・育児で感じる不満

- ・夫婦間で。若い時から夫は家事をしなかった。(80 歳以上・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・女性が家事をする事があたり前と思われている事 (雑用等)。年配の方からは男性にさせるべきではないという考え方があったり。(50 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・女性が家事をするのがあたり前と思われている (40 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・フルタイムで 2 人とも仕事をしていても、家事は女性がするものという意識が高い (親からも) (40 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・家庭と仕事を両立しなければ成り立たない (50 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・女だから家事をするのがあたり前と言われた事 (40 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・炊事、家事をやっても当然という風潮 (40 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・仕事と家事の配分 (40 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・毎日の食事準備の時 (60 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・男性でも多くの人が料理をする。「あなたも料理したらどう」と女房から聞く「毎日料理するのは大変よ」理解できるが私は料理したことが全くない。(70 歳代・男・無職)
- ・共働きなのに、子ども関連のことでは母親の方が休まなくてはならない人がまわりにいる時。また、子育てのために、より良い仕事に就きにくい友人と話したとき。(30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・家事を手伝ってくれない (60 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・めんどくさい事、家事などすべて処理することが多い (60 歳代・女・職業不明)
- ・家事は結婚してから現在まで女である私が殆ど行っていた (60 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・必然的に、女性は家事で仕事は主婦しながらのパートで家計のやりくりをする。主人には、家事分担という概念がない (60 歳代・女・職業不明)
- ・昔からの慣習でこれは女がやる事だと当然のように考えられている事が多い (家事や育児など) (30 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・家事・育児は母親がやってあたりまえと思われるところ (30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・共働きにも関わらず、「家事は女性の仕事」という意識が、社会全体にある。(20 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・家事は女性の仕事と言う観念が家族の中にある (80 歳以上・女・無職)

- ・家でのおんびりできていいよね。子供と遊んでおけばいいじゃない。(40歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・炊事は女がするものと思われている(70歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・家事を毎日すること(30歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・料理をするのは当たり前みたいな空気を感じる(60歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・家事は分担しているが、料理だけは非協力的なので 文句は言わないが、いつまでも待っている。(40歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・仕事をしていても家事はほぼ女性が行うのがあたりまえ(50歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・家庭内では女性の負担が大きい。(50歳代・女・臨時(フルタイム勤務だが一時的なもの))
- ・食事の用意等の家事について、周囲から妻がするものというレッテルありきで話をされることで不快に思うことがある。(20歳代・女・常勤(正社員・正職員))

家庭内で感じる不満(家事・育児以外)

- ・嫁としてこうあるべきをだいぶ押しつけられました(60歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・嫁という立場での役割を嫁ぎ先で暗黙の諒解で求められ、夫も何の疑問ももたずにいること(60歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・夫婦間でのことば使い(70歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・父親から家に居るために楽な仕事でいいと言われる(50歳代・女・臨時(フルタイム勤務だが一時的なもの))
- ・結婚すると嫁という立場になることから、男性側優位の流れを強要されることが多い。(50歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・夫が自分のことを家族にやってもらってあたりまえと考えている(70歳代・女・自営)

子どもがいないことで感じる不満

- ・子供はまだか?という圧力的発言を受けたり、女性には年齢によるリミットがあると感じる(30歳代・女・常勤(正社員・正職員))

結婚に関する不満

- ・20代の頃は結婚が遅れると売れのこりと言われたり結婚問題色々(60歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・結婚の事をきかれる(20歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・じいちゃんに女は家庭に入るものと結婚を急かしてくる(20歳代・女・学生)

学業で感じる不満

- ・成績が女性全員が上で平等でないと感じた(20歳代・男・学生)

職場で感じる不満

- ・待遇を平等にするなら業務も平等にするべき（40歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・職場で来客があった時、今だに女性が茶を出す傾向にある。（40歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・出産育児でキャリアがストップする。（30歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・それは女の仕事だという台詞を聞くことがある。（50歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・出産（妊娠）で仕事を休まなければならない（30歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・パートなどで時間給が違う（70歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・職場で花束を渡したりする時、女性のほうが絵になると言われたことが多くあった。（40歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・会社外部の人に「女じゃ話にならん！男にかわれ！」と言われた（20歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・休憩時間にお茶を入れてほしいと頼まれる事（40歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・業務分担で補助を多くまかされる（50歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・社会的な組織の中で、長や幹部を決めるとき（60歳代・男・無職）
- ・役職の昇進時に女性という理由だけで男性より早く昇進させるケースが見受けられる。（60歳代・男・臨時（フルタイム勤務だが一時的なもの））
- ・職場で試食をした後の皿洗いや準備をお願いされる。（50歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・女性から重労働を強いられることがある（60歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・以前勤めていた会社の「取締役」は男性のみ。当時、仕事のできる優秀な女性は多くいらっしゃいました。（60歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・仕事でお客様からクレームを言われた際、同じ内容のことを説明しているのに、男性が対応すると相手が納得する。女性が見下されていると思うことが多々ある。（50歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・職場・地域での位置・立場について（70歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・昔のことです。職場での朝当番が女性だけというのには不満がありました。現在はいいかも…（60歳代・女・自営）
- ・お茶をいれる行動（＝心遣い）を上司が「飯炊き女」と言う。（60歳代・女・臨時（フルタイム勤務だが一時的なもの））
- ・古い会社の体質なので休みを取得する時に小言を言われる（40歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・服が汚れるような仕事は男性がやるべきとの職場の雰囲気など（40歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・仕事をする上で（40歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・働いていた頃に職場内で格差を感じたことがある。（60歳代・女・無職）
- ・任される仕事に女性だからと違いが多少ある（30歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・職場で不適切な発言があった。『女性だから結婚・出産で…』（20歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・体力仕事、仕事の責任について平等である前提でも、男性に負荷がある場面が多々ある。（50歳代・男・常勤（正社員・正職員））

- ・就活の時に、職種に制限が多少あると感じたから。(20歳代・女・学生)
- ・仕事(40歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・職業が保育士なので女性の職場というイメージがあるため(30歳代・男・常勤(正社員・正職員))
- ・同一の仕事で女性のほうが基本給が低いのはおかしいと思う(60歳代・男・無職)
- ・職場では自分よりも歳が上の方は大体が男性優位の考えであると思う。(40歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・妊娠中にセクハラを受けた。子供を保育園に預けてまで仕事をするなんて子供がかawaiiそうと言われた。(50歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・現在育休中だが復帰しづらい職場環境(30歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・職場で(40歳代・男・臨時(フルタイム勤務だが一時的なもの))
- ・子供の送迎や発熱などでの突然の迎えは主に母親がやるという会社の風潮時短勤務をさせてもらっているが「女は羨ましい」など嫌味を言われること(20歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・職場で上司に、女だから客になめられているのではないかと怒られたこと(20歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・女性(事務職)だから負担を強いられることに反発を受ける。(30歳代・男・常勤(正社員・正職員))

世間一般に感じる不満

- ・女性が弱いので権利を要求する。(70歳代・男・臨時(パートタイム勤務))
- ・便利に使われることがある。なめられる。(60歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・困難なことは、男性に任せれば良いと発言する女性がいる。(60歳代・男・臨時(パートタイム勤務))
- ・男性が家に居ないと甘くみられる。(60歳代・女・その他)
- ・苦情を言った時の反応(70歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・専業主夫は許されない(50歳代・男・常勤(正社員・正職員))
- ・男性が働かなければならない風潮がある(50歳代・男・常勤(正社員・正職員))
- ・男と女で態度が違うなどと思う事がある。(50歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・夫と一緒にいる時、店員やスタッフは夫の意見を優先する。(50歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・苦勞を押し付けられる(40歳代・男・常勤(正社員・正職員))
- ・昔からのしきたりやマナーの中で感じる事がある。(40歳代・女・常勤(正社員・正職員))

地域に感じる不満

- ・共同作業に夫は勤務で代理で出席する男欠席分代金支払っていたことある(80歳以上・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・地域役員等で女性はそれを理由に断る(60歳代・男・無職)
- ・趣味のサークルで男性に家を空ける事に対し批判された。(60歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))

- ・重要な案件は男性に先に話がいたり、逆に PTA や自治会では、リタイアしているにもかかわらず女性が会議に出て、男性陣は家にいる。(60 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・山口市は男尊女卑の意識が強い。特に高齢者 (60 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・地域の集まりや行事が男性主体 (60 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・地域の行事で、固定観念があり、聞く耳を持たない (60 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・自治会などで女性が発言すると男性は聞く耳を持たない様に思う (60 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・これまでの社会風習が男性中心となっておるように思います。いろんな祭り事で男性を主体にしたものとなっている。(70 歳代・男・無職)
- ・自治会で発言をすると長老の方からうるさがられる (60 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・PTA 等の学校関係等で男性だから委員長をとか言う話があったりする。(50 歳代・男・自営)

男性だから〇〇、女性だから〇〇と言われたことに対する不満

- ・男のくせに泣くななど (20 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・言葉の差別 女のクセに…女だてらに etc (70 歳代・女・自営)
- ・女は男の言うことに従うべきといわれたことがある (70 歳代・女・自営)
- ・女だから〇〇しなさいと言われ、する事を当たり前のように言われる事が多い。(30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・男なんだから早く決断しろ、シャキっとしろと言われる (30 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・男らしくないと言われること (50 歳代・男・自営)
- ・固定概念にとらわれた言い回しをされたとき (20 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・母に女の子だから〇〇しなさい、と言われるのが嫌いでした。(20 歳代・女・学生)
- ・女性だからこうだと価値観を押し付けられる時がある (20 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))

発言に関する不満

- ・女性は意見が言いにくい場合が多く、あきらめている (60 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・男性の前で意見を言ったら生意気だと言われる事がある (60 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))

制度に感じる不満

- ・制度上夫婦別姓にできないため (70 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))

サービスに感じる不満

- ・いろいろなサービスの違い (60 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・レディース DAY (40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

その他

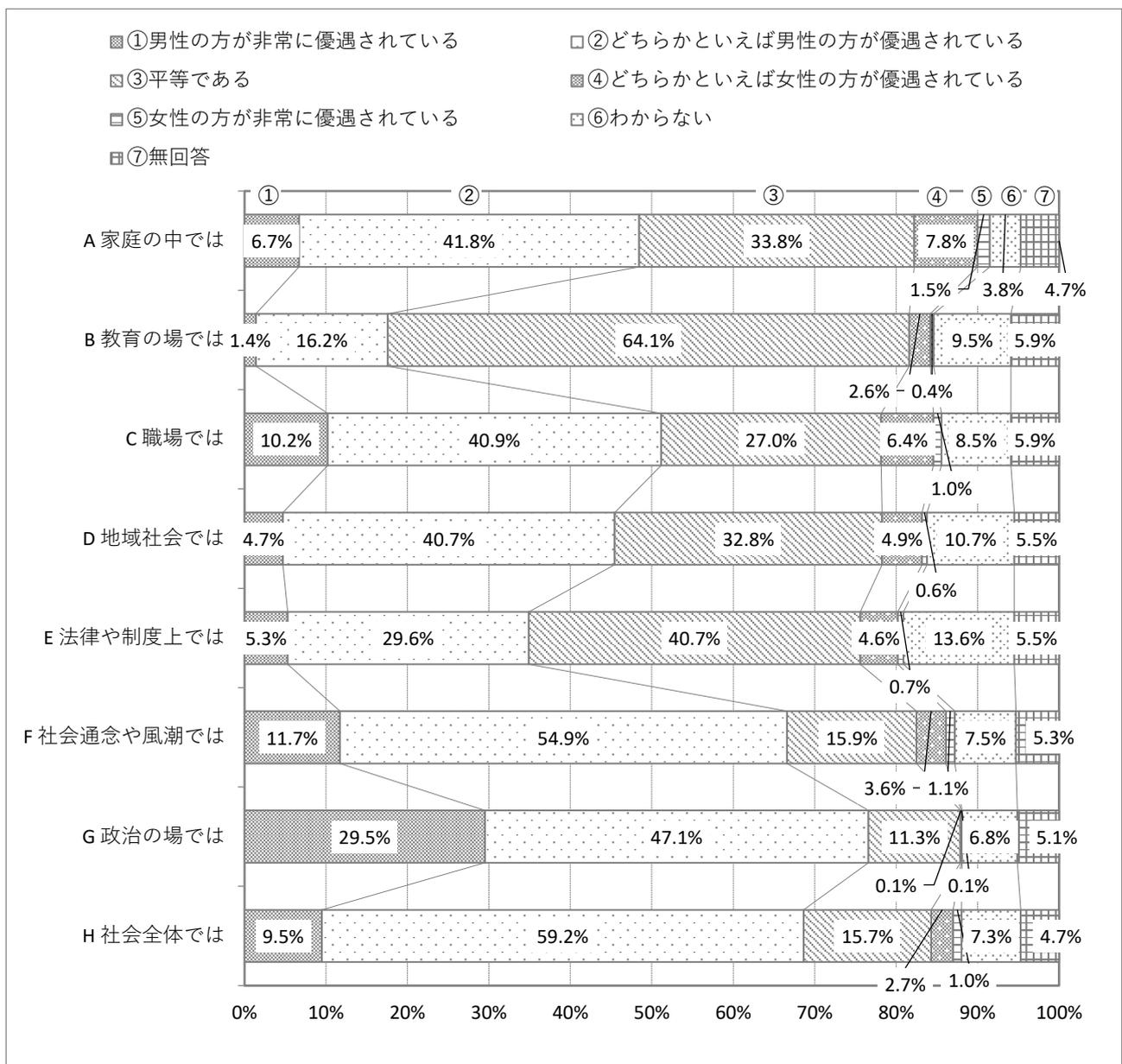
- ・ただ感じるだけ。(40歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・自分で出来ない事がある(80歳以上・女・無職)
- ・男女平等には限界がある。女性優遇が最近目立つ。(30歳代・男・常勤(正社員・正職員))
- ・男性同士できめている(80歳以上・女・無職)
- ・ずい分昔のこと 具体例は多々有りました。(80歳以上・女・無職)

問5 あなたは次の分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。

- A 家庭の中では
- B 教育の場では
- C 職場では
- D 地域社会では
- E 法律や制度上では
- F 社会通念や風潮では
- G 政治の場では
- H 社会全体では

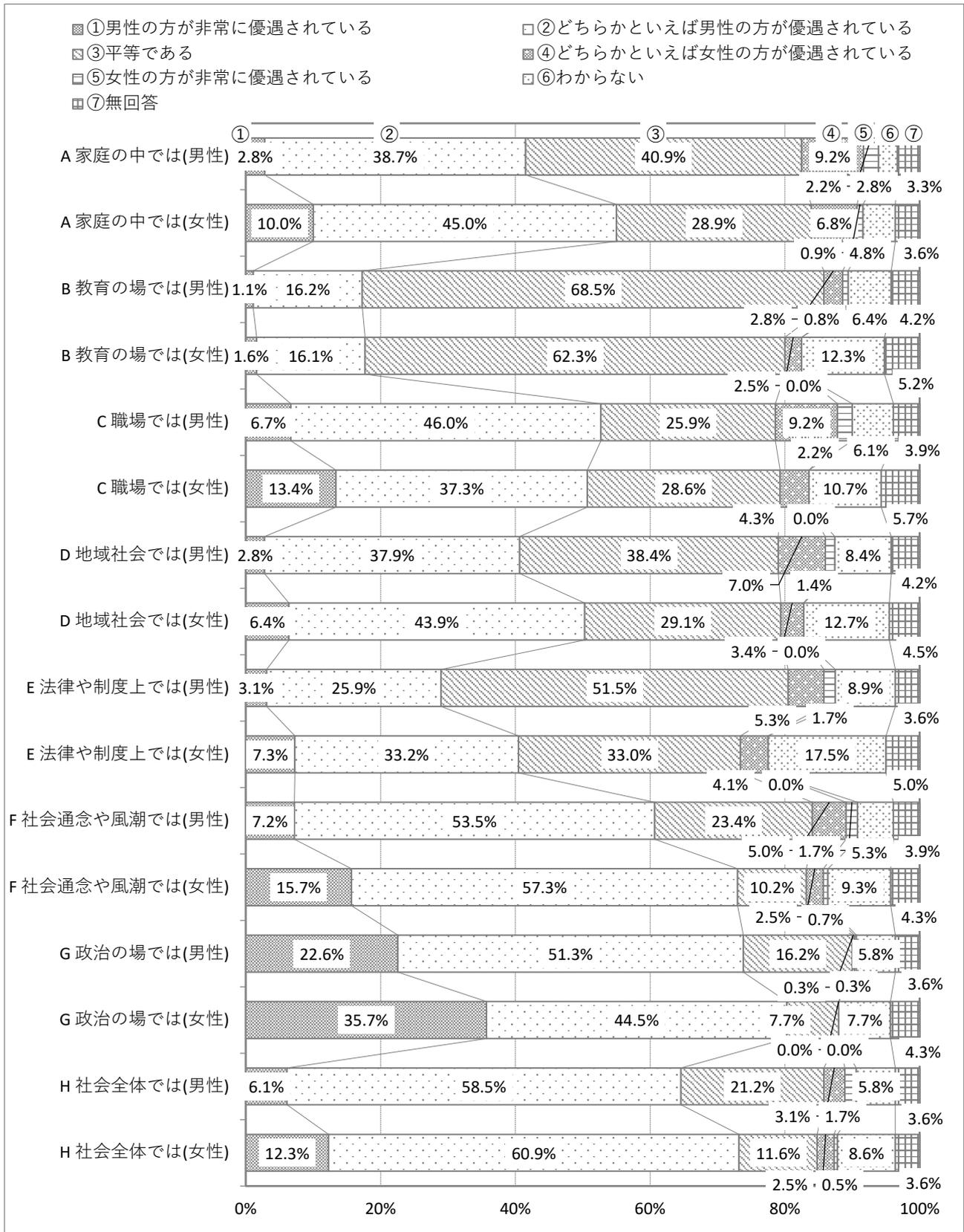
【全体 (n=811)】

「平等である」と答えた割合が最も高いのは、「B 教育の場」で64.1%だった。次に「E 法律や制度上」が40.7%と高い。「平等である」と答えた割合が最も低いのは、「G 政治の場」で11.3%、次に「H 社会全体」15.7%、「F 社会通念や風潮」15.9%である。



【男女比較（男性 n=359、女性 n=440）】

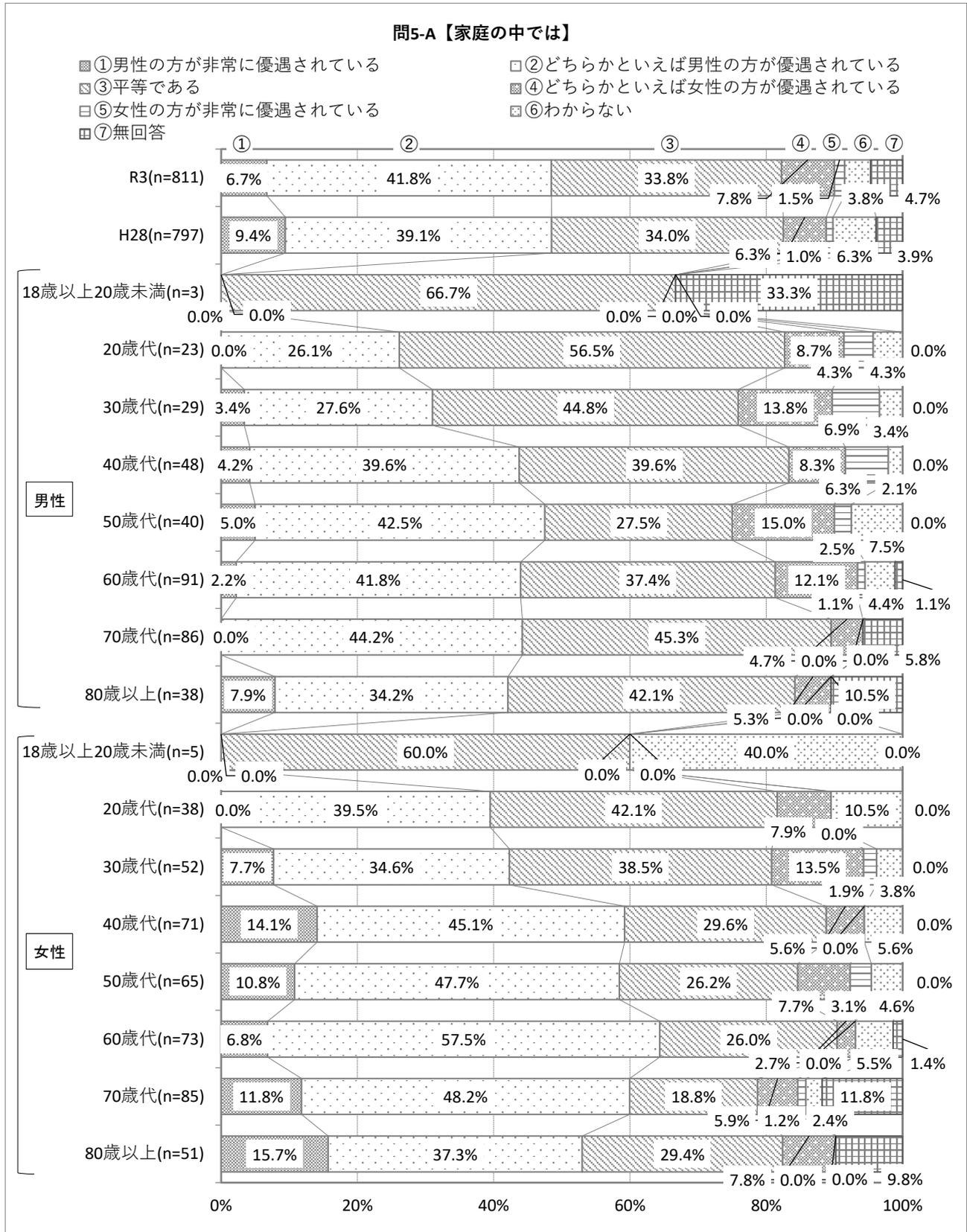
全ての項目で、「男性の方が非常に優遇されている」と回答した人の割合が、男性より女性の方が高くなっている。



【経年・年代比較（問5-A 家庭の中では）】

「家庭の中」において、男女とも、40歳代から80歳以上で男性の方が優遇されていると感じている割合が高い。

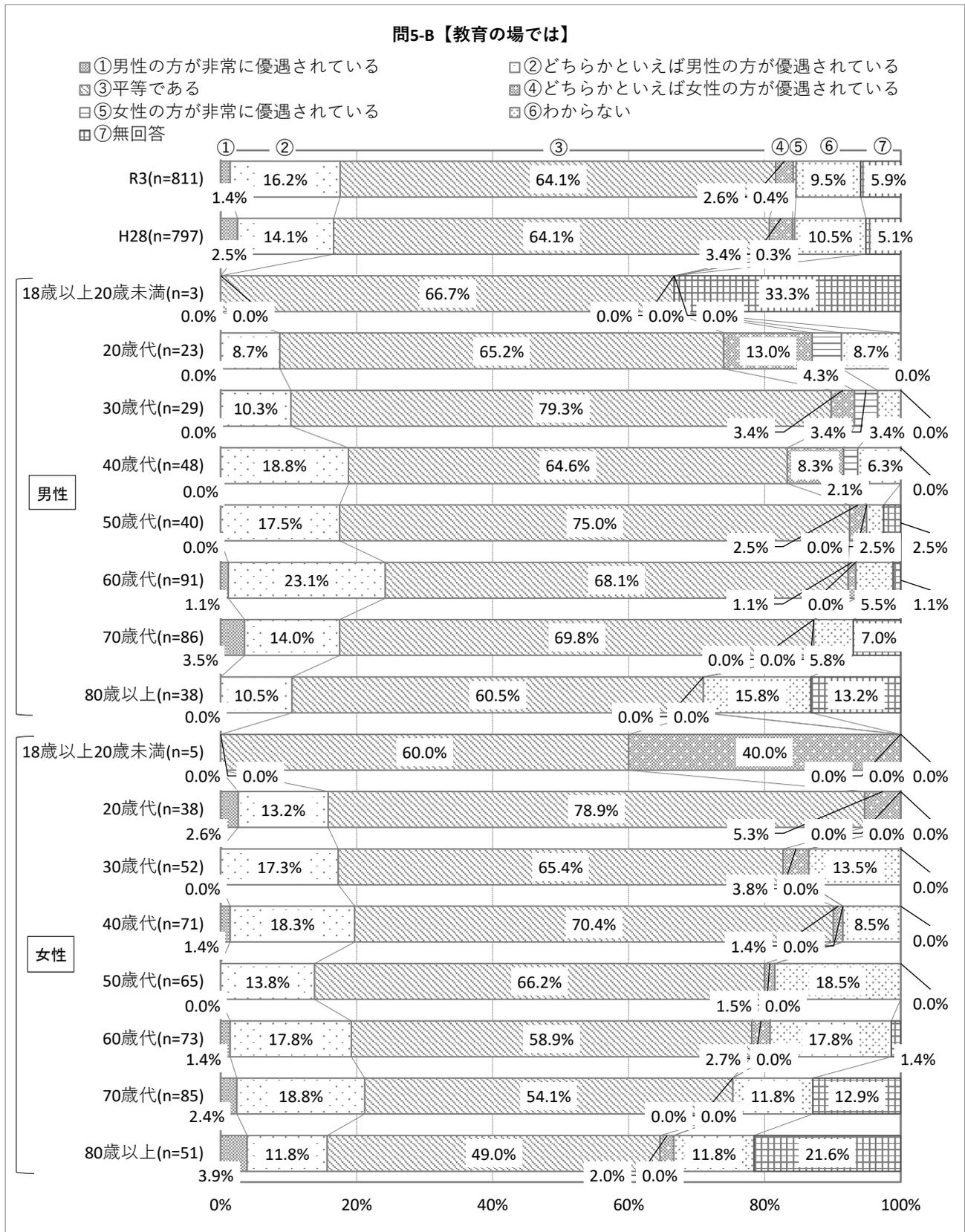
前回調査と比較してみると、「男性の方が非常に優遇されている」と感じている割合が、2.7ポイント減少している。



【経年・年代比較（問5-B 教育の場では）】

「教育の場」において、男性では、30歳代、50歳代が平等であると感じている割合が高い。女性では、20歳代、40歳代が平等であると感じている割合が高い。

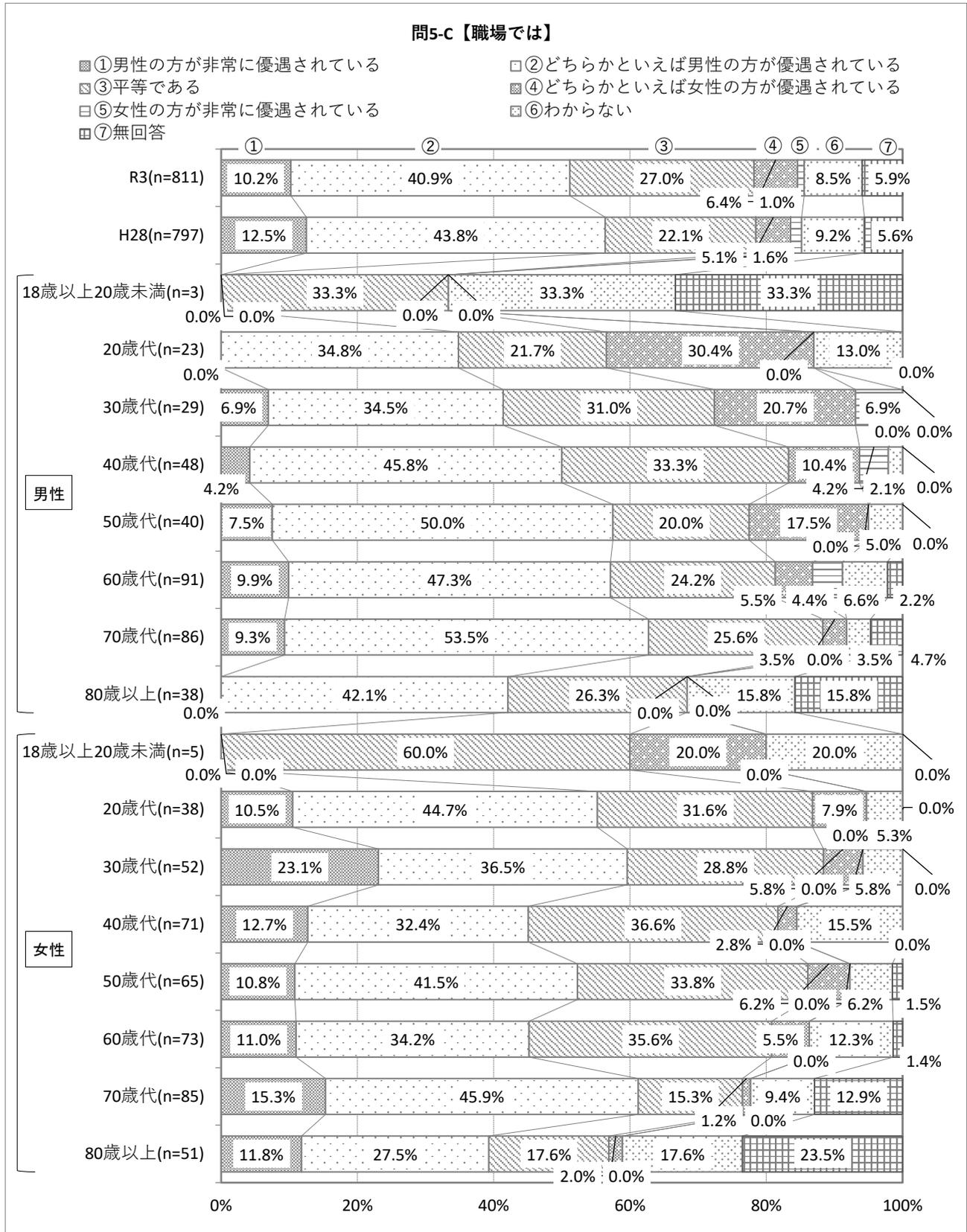
前回調査と比較してみると、大きな違いはない。



【経年・年代比較（問5-C 職場では）】

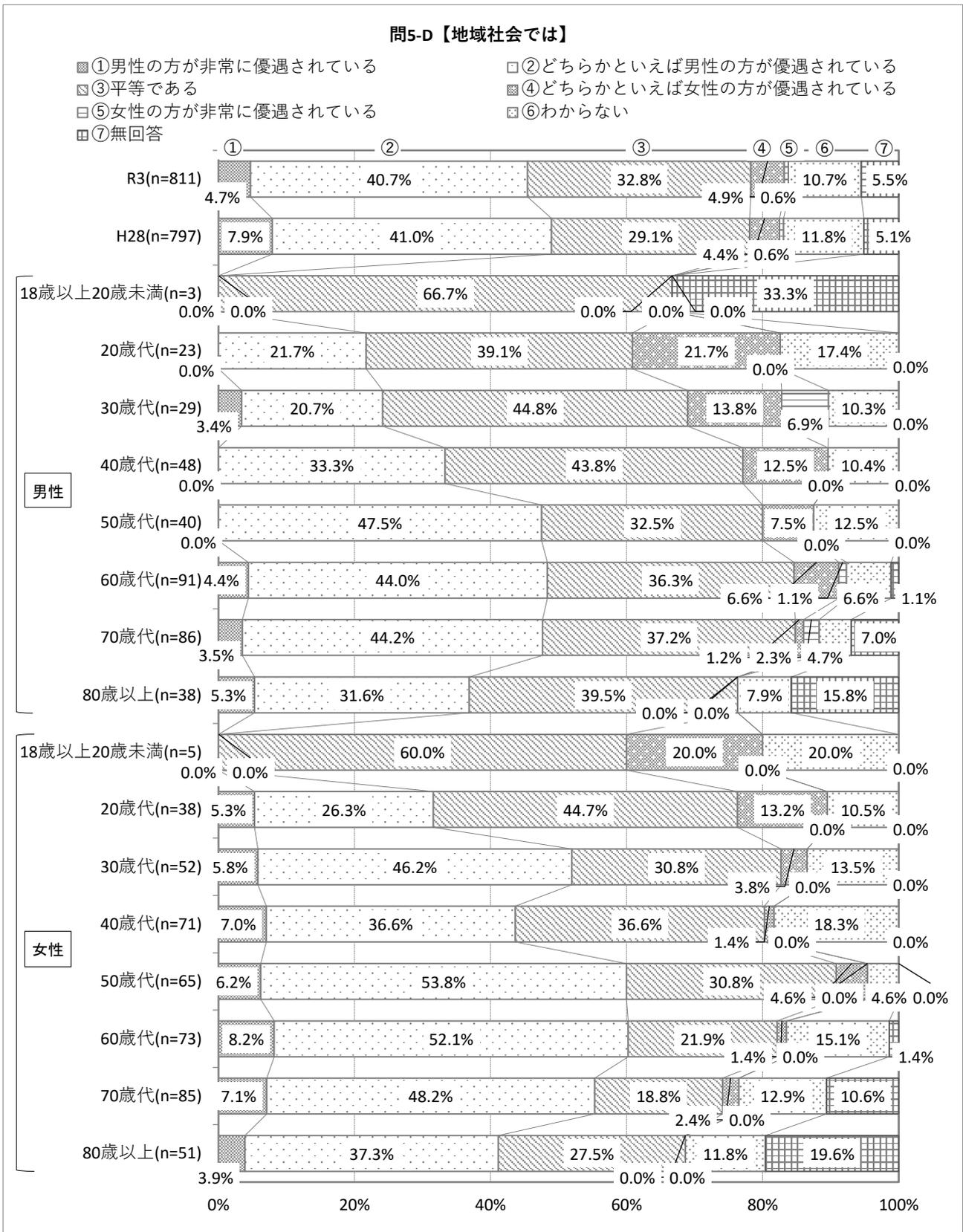
「職場」において、男性では高齢になるほど男性に優遇と答えている人が多い傾向にある。女性ではどの年代でも4~6割が男性に優遇と答えている。

前回調査と比較してみると、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えている割合が5.2ポイント減少し、「平等である」が4.9ポイント増加している。



【経年・年代比較（問5-D 地域社会では）】

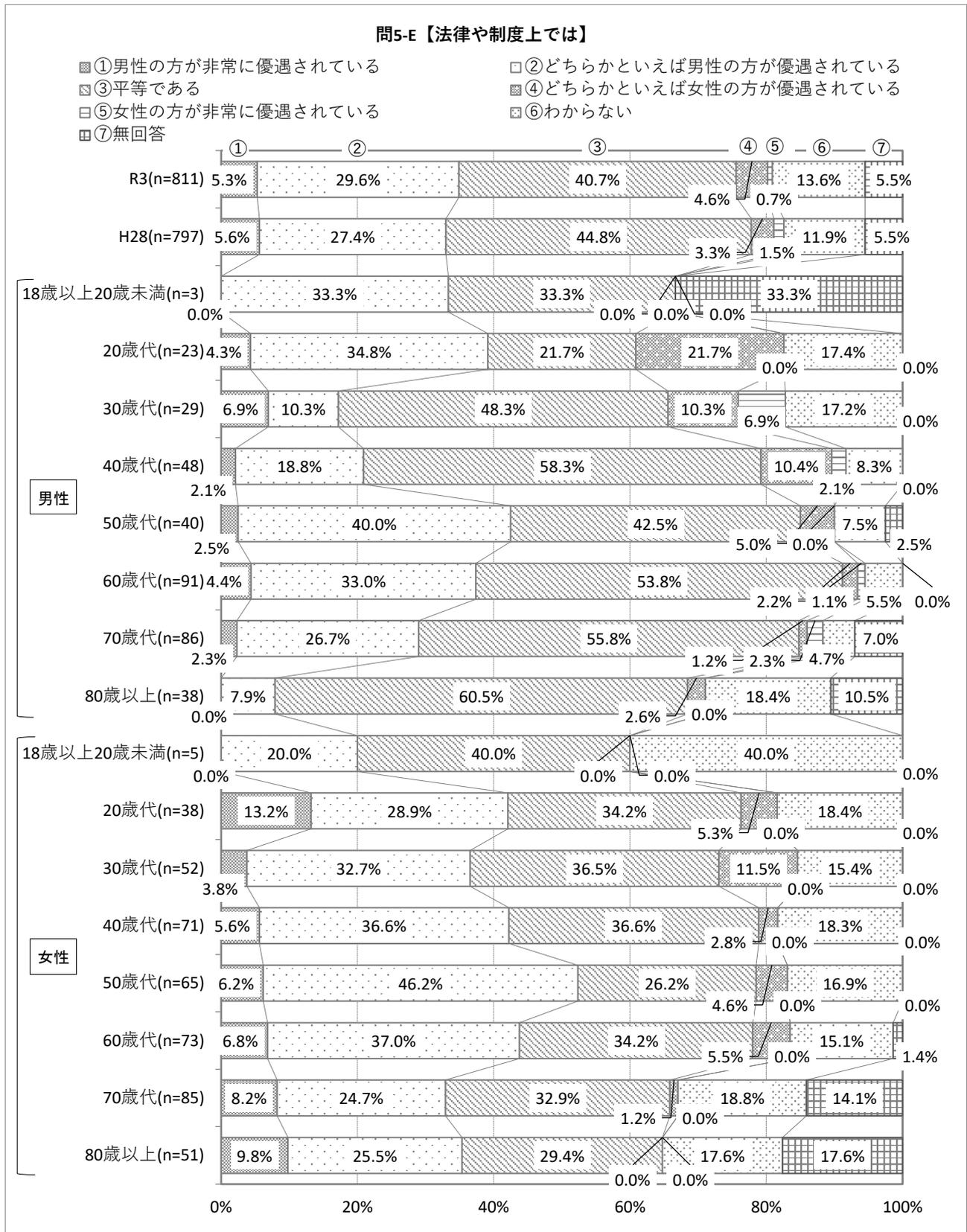
「地域社会」において、男女ともに50歳代、60歳代、70歳代が、男性に優遇と答えた割合が高い。前回調査と比較してみると、「男性の方が非常に優遇されている」と答えた割合が3.2ポイント減少している。



【経年・年代比較（問5-E 法律や制度上では）】

「法律や制度上」において、男女ともに、50歳代で男性が優遇と答えた割合が、他の年代と比べて高い。男性では、80歳以上で「平等である」と答えた割合が、各年代の中で最も高い。

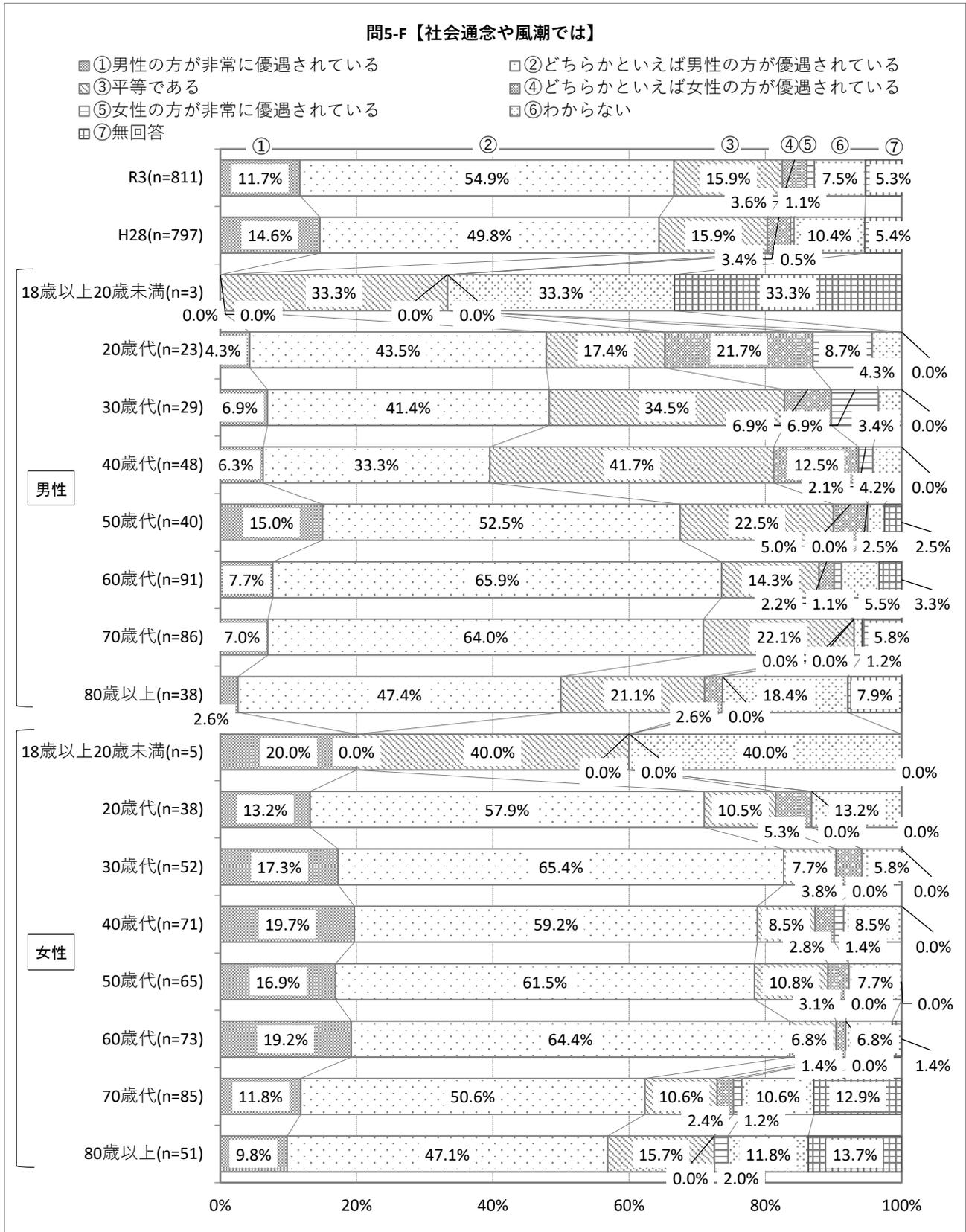
前回調査と比較してみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた割合が2.2ポイント増加している。「平等である」と答えた割合は4.1ポイント減少している。



【経年・年代比較（問5-F 社会通念や風潮では）】

「社会通念や風潮」において、男性が優遇と答えた割合は、男性では、50歳代から70歳代で約7割、女性では、30歳代、60歳代で約8割と高い。男性の20歳代では、女性が優遇と答えた割合が高い。

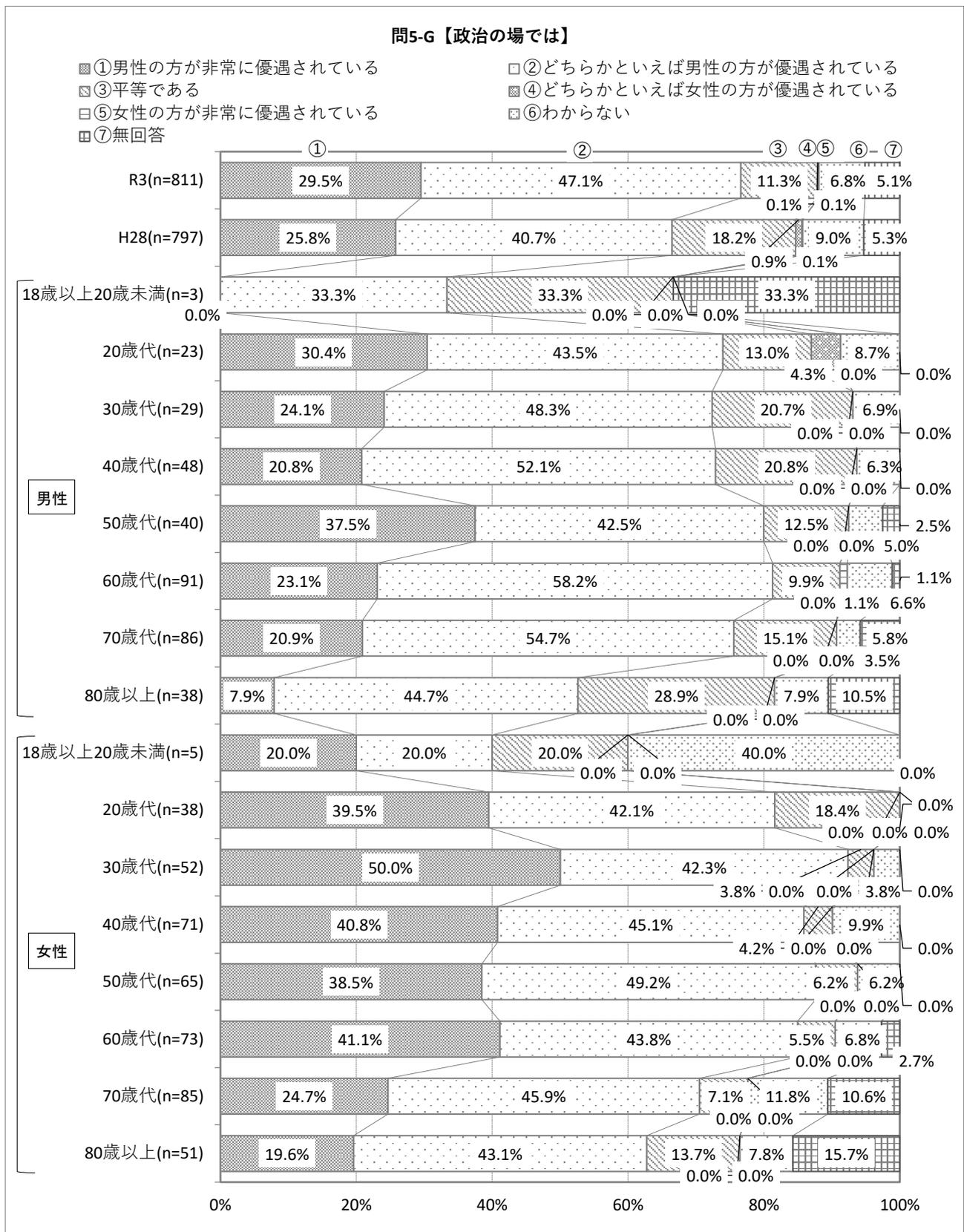
前回調査と比較してみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた割合が5.1ポイント増加している。



【経年・年代比較（問5-G 政治の場では）】

「政治の場」において、30歳代女性の5割が「男性が非常に優遇」と答えている。50歳代男性の約4割も同様に「男性が非常に優遇」と答えており、男女ともに男性が優遇という認識がある。

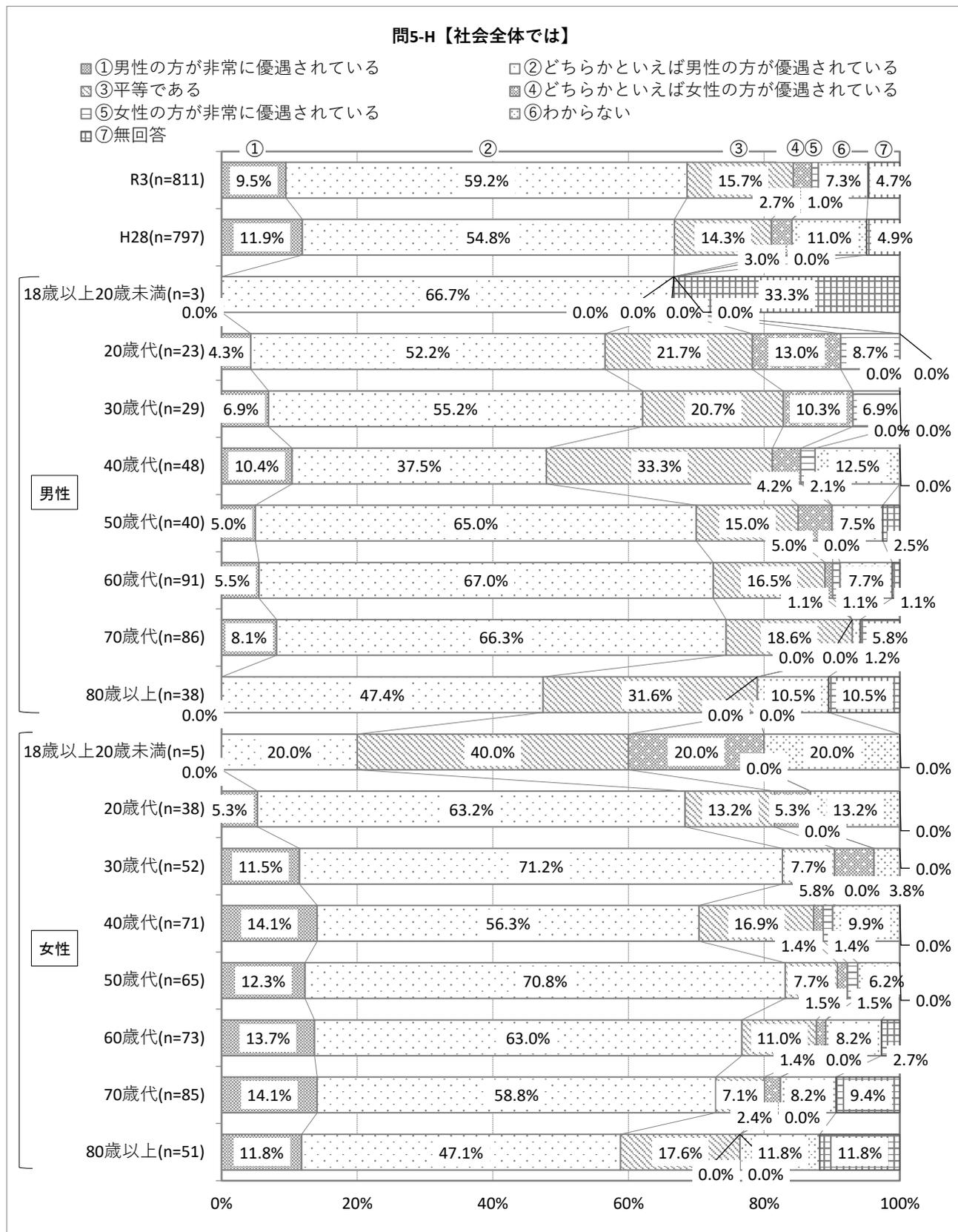
前回調査と比較してみると、男性が優遇と答えた割合が10.1ポイント増加している。



【経年・年代比較（問5-H 社会全体では）】

「社会全体」において、男性が優遇と答えた割合は、男性では、50歳代から70歳代で約7割、女性では、30歳代、50歳代で約8割と高い。

前回調査と比較してみると、男性が優遇と答えた割合が2.0ポイント増加している。

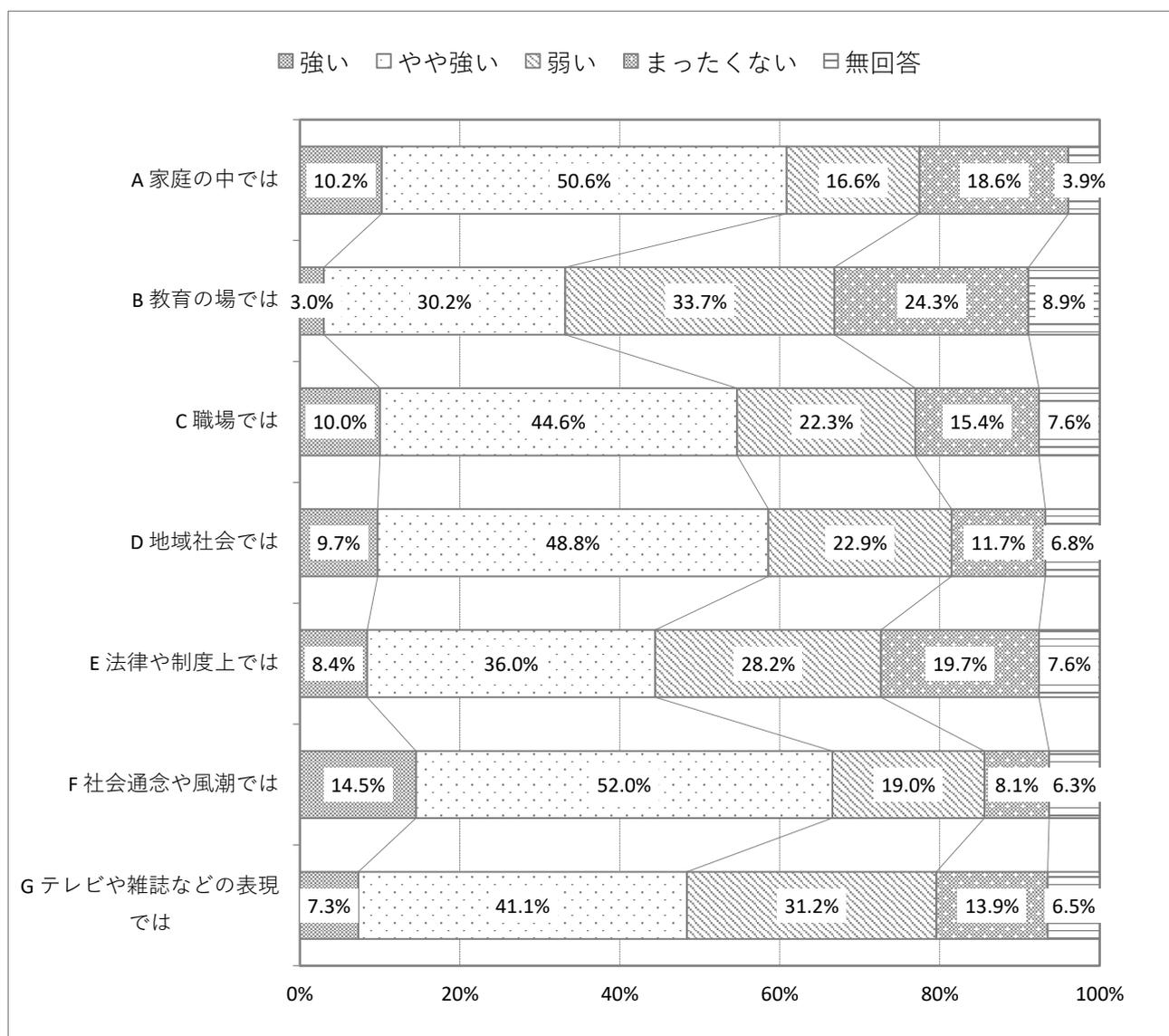


問6 次の分野の中で、「男はこうすべき、女はこうすべき」というように個人の能力や資質に関係なく、性別によって役割や特性を固定的にとらえる傾向があると思いますか。

- A 家庭の中では
- B 教育の場では
- C 職場では
- D 地域社会では
- E 法律や制度上では
- F 社会通念や風潮では
- G テレビや雑誌などの表現では

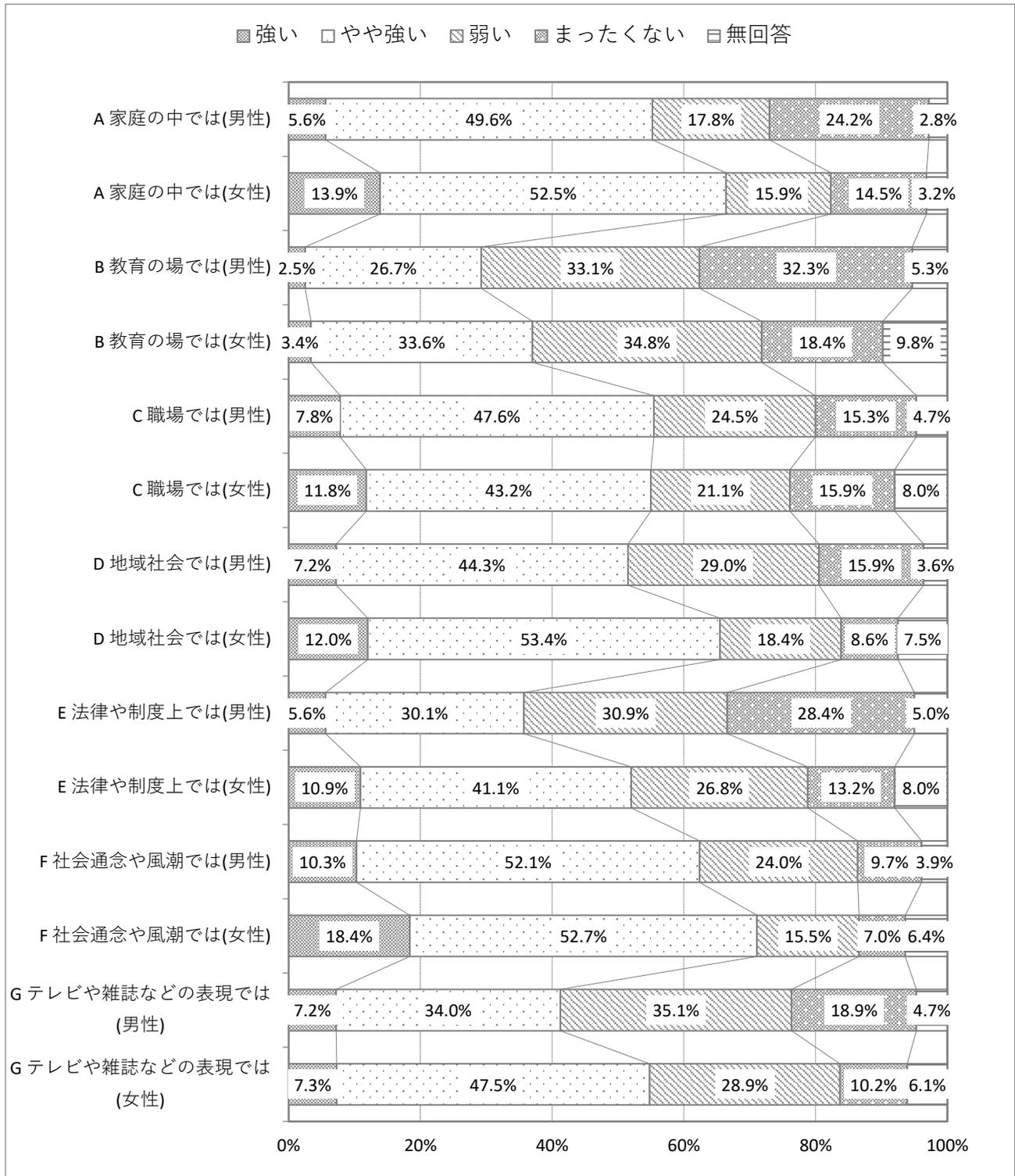
【全体 (n=811)】

「強い」「やや強い」と答えた人の割合は、「F 社会通念や風潮」が66.5%と最も高く、次に「A 家庭の中」60.8%、「D 地域社会」58.5%、「C 職場」54.6%、「G テレビや雑誌の表現」48.4%、「E 法律や制度上」44.4%と続き、「B 教育の場」が33.2%と最も低くなっている。



【男女比較（男性 n=359、女性 n=440）】

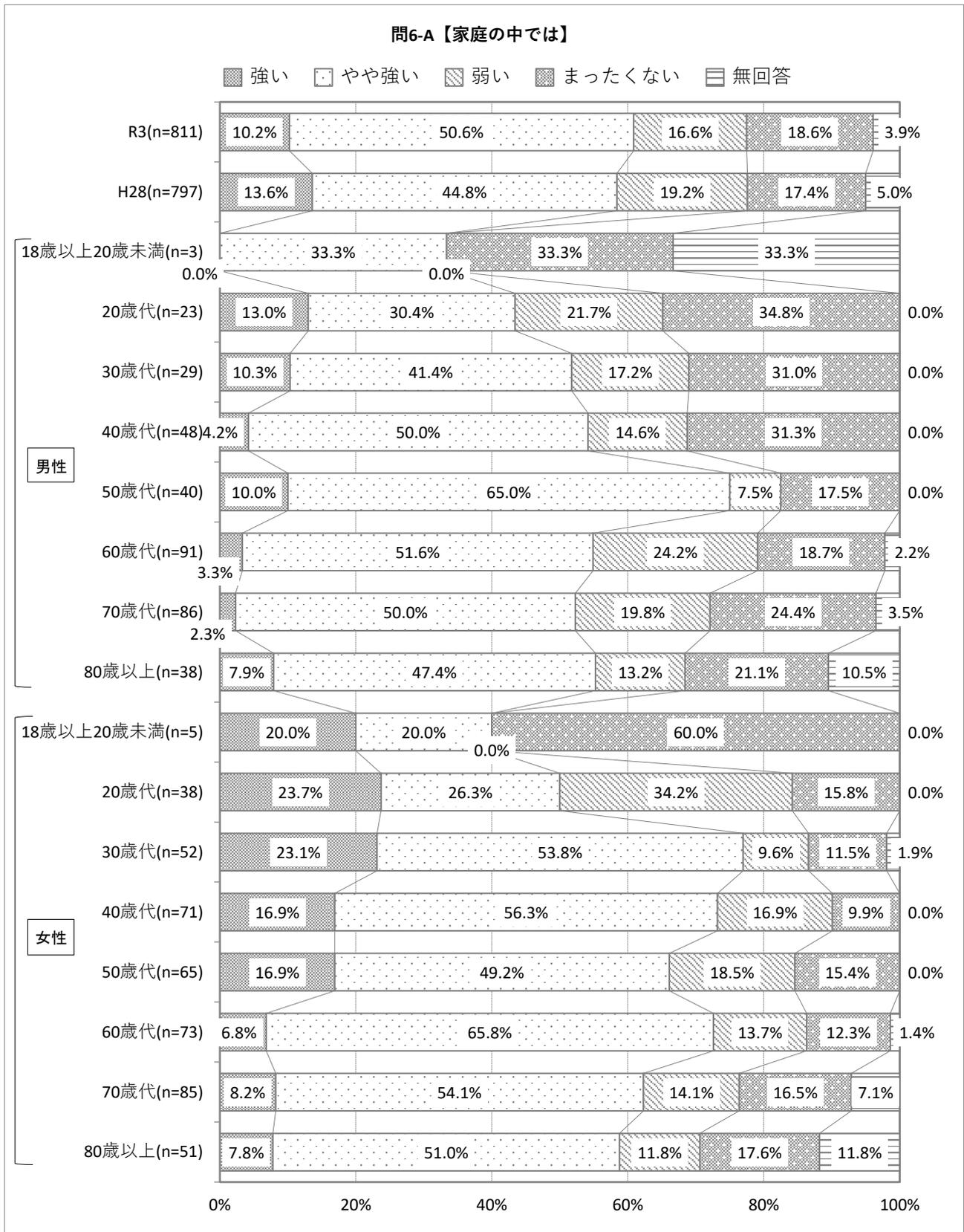
性別でみると、「強い」「やや強い」と答えている割合が、「C 職場」以外の項目では、女性の方が男性よりも高い。「C 職場」については、差があまりない。「E 法律や制度上」では、「まったくない」と答えた割合が、男性 28.4%、女性 13.2%と差が 15.2 ポイントと大きい。



【経年・年代比較（問6-A 家庭の中では）】

「家庭の中」において、「強い」「やや強い」と答えた割合は、男性では50歳代が75.0%で、各年代の中で最も高い。女性では30歳代が76.9%で、各年代の中で最も高い。

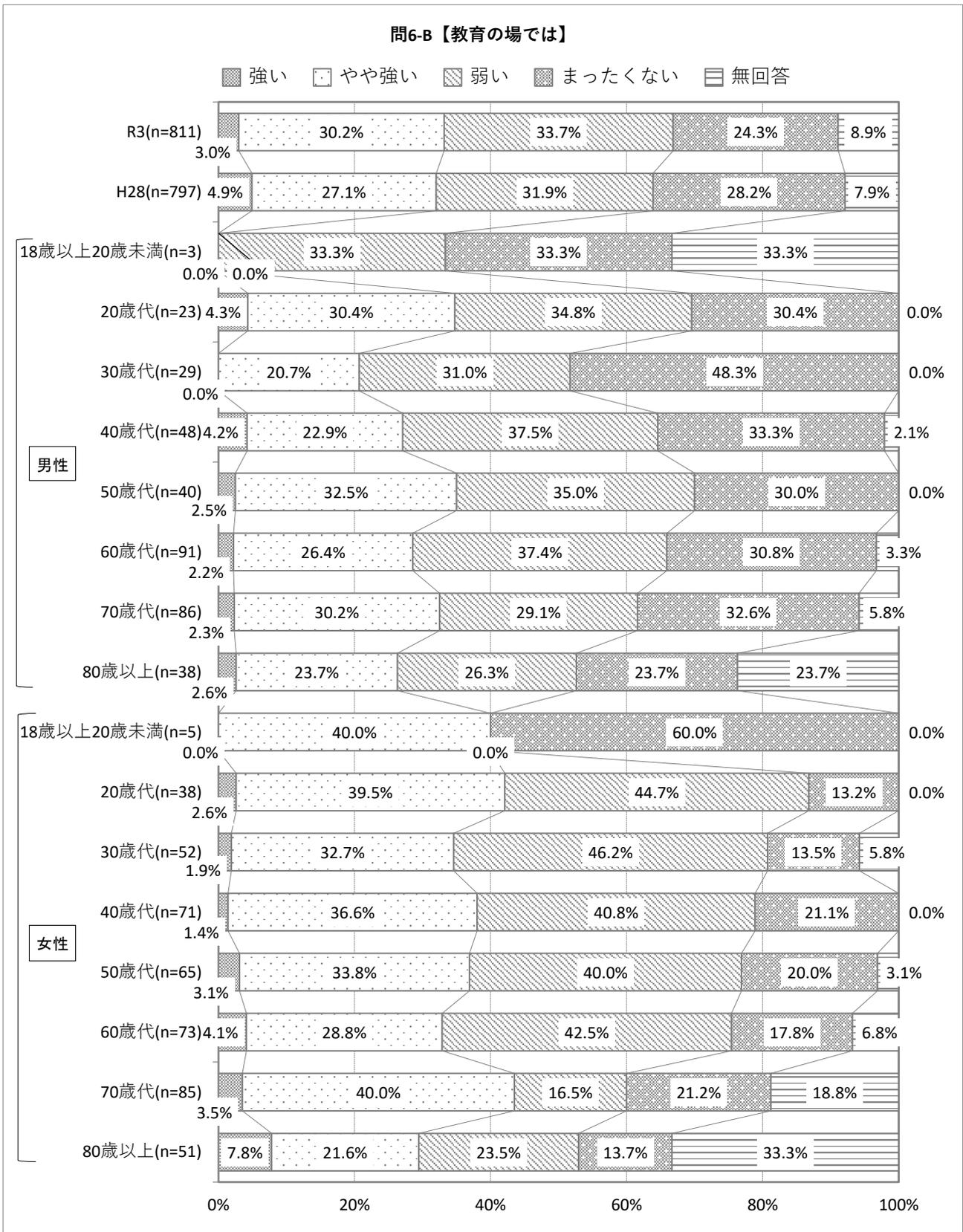
前回調査と比較してみると、「やや強い」と答えた割合が5.8ポイント増加している。



【経年・年代比較（問6-B 教育の場では）】

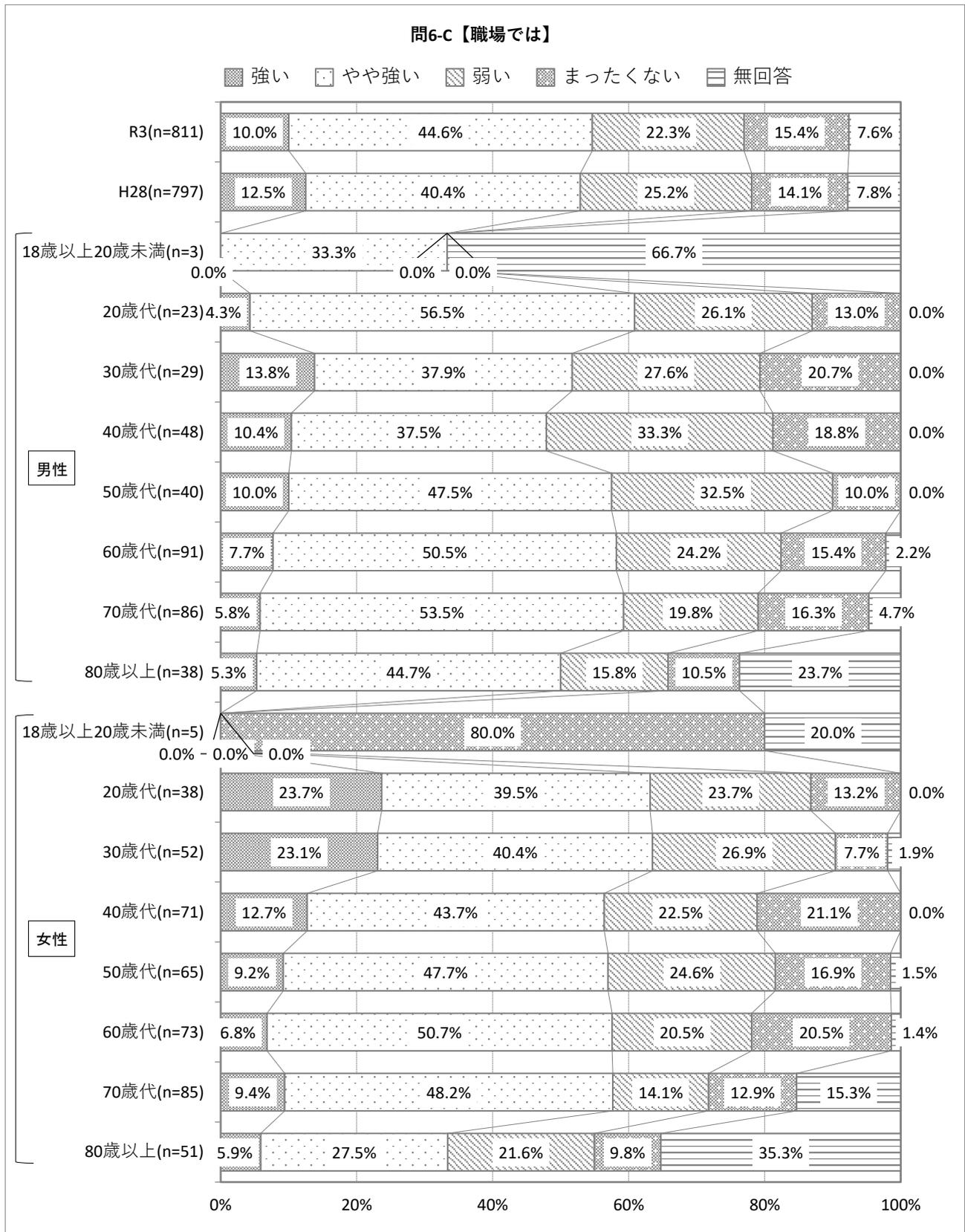
「教育の場」において、男性では30歳代で「まったくない」と回答した割合が約5割と高い。女性では、70歳代で「強い」「やや強い」と回答した割合が43.5%と高い。

前回調査と比較してみると、「まったくない」と回答した割合が3.9ポイント減少している。



【経年・年代比較（問6-C 職場では）】

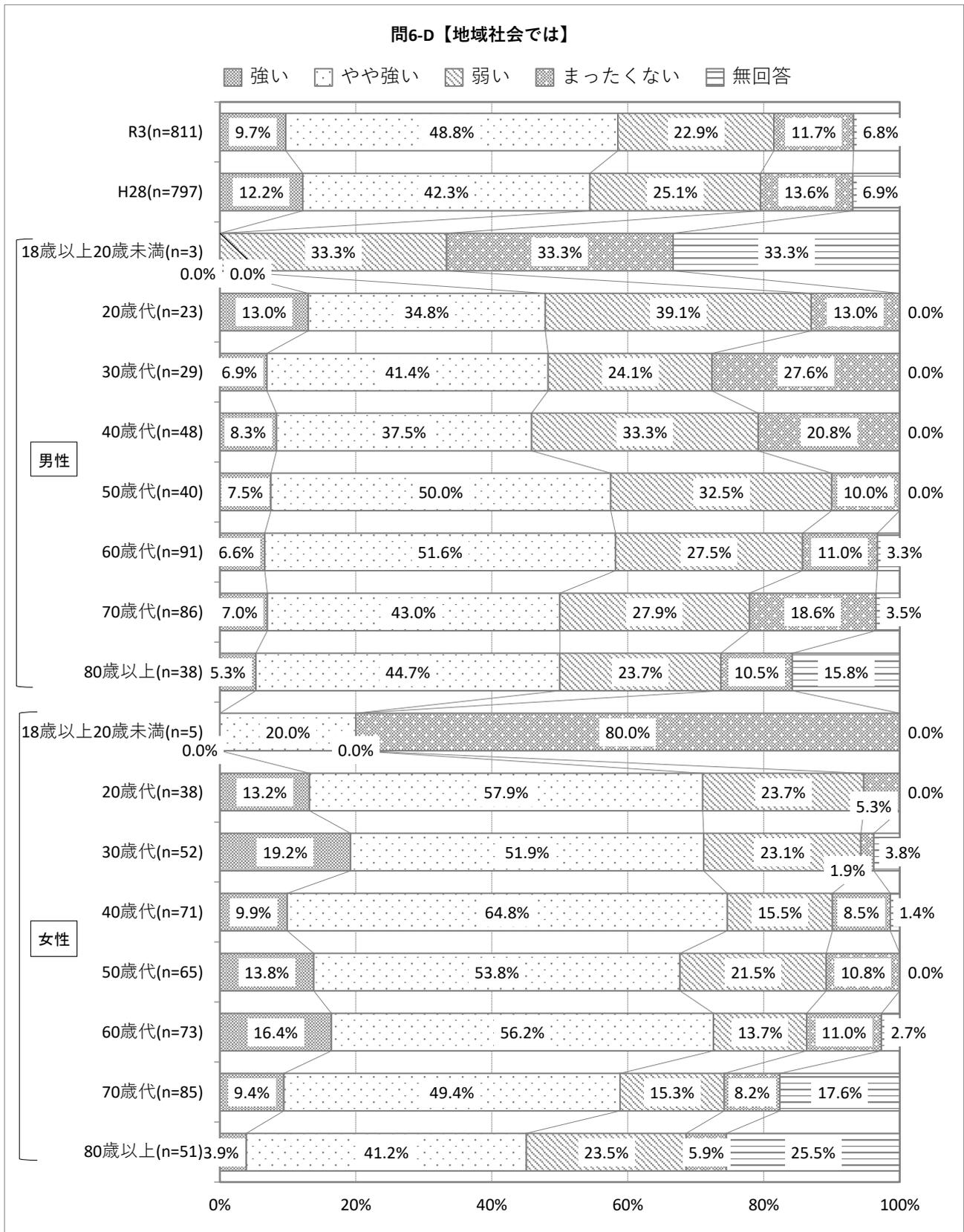
「職場」において、男性では20歳代で「やや強い」と回答した割合が56.5%と、各年代の中で最も高い。女性では、20歳代から30歳代で「強い」と回答した割合が、約2割と他の年代に比べて高い。前回調査と比較してみると、「強い」「やや強い」と回答した割合が1.7ポイント増加している。



【経年・年代比較（問6-D 地域社会では）】

「地域社会」において、「強い」「やや強い」と回答した割合は、男性では50歳代、60歳代で6割弱、女性では20歳代から60歳代で約7割となっている。

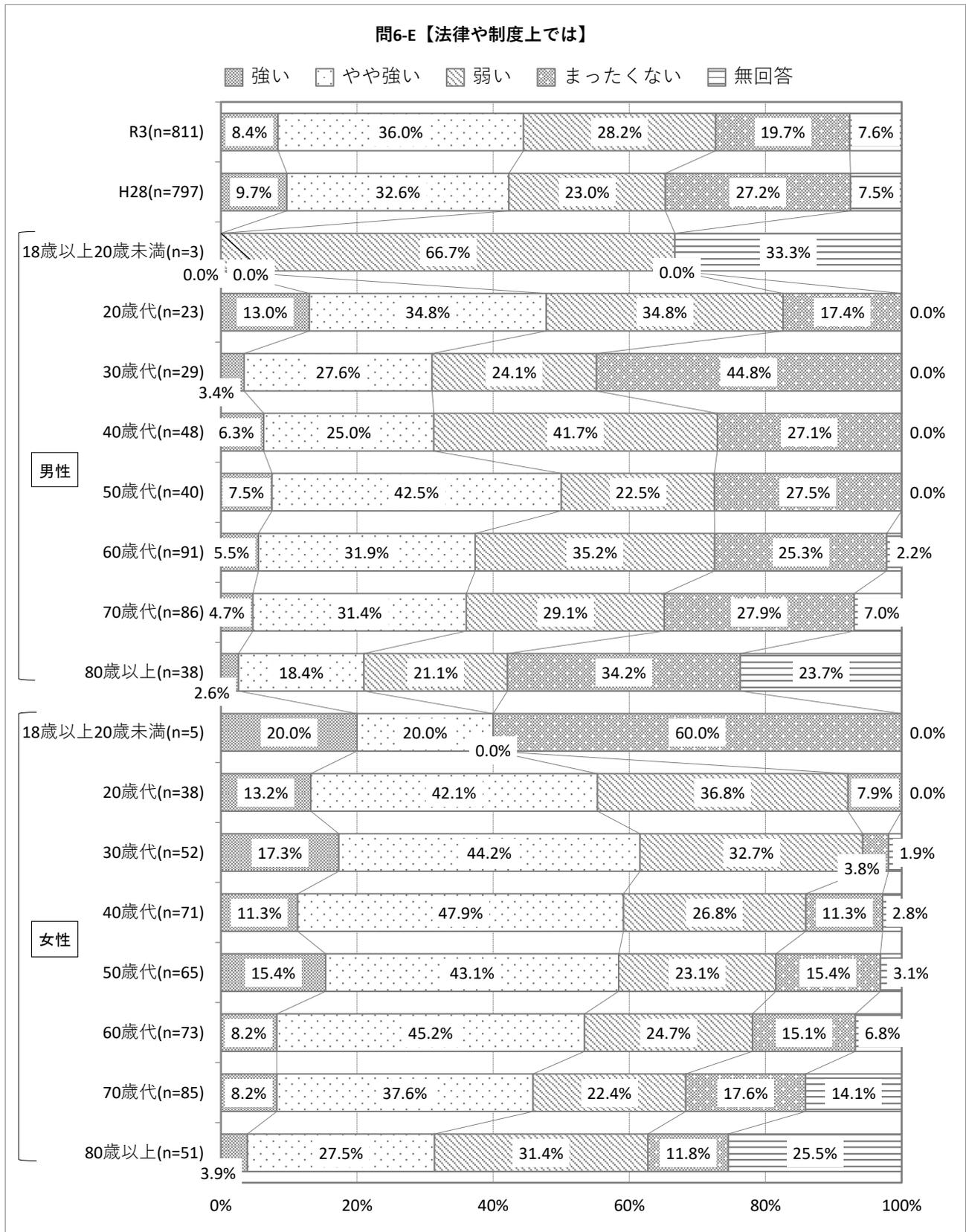
前回調査と比較してみると、「強い」「やや強い」と回答した割合が4.0ポイント増加している。



【経年・年代比較（問6-E 法律や制度上では）】

「法律や制度上」において、男性では20歳代、50歳代で「強い」「やや強い」と回答した割合が約5割となっている。女性では、年代が上がるにつれて、「強い」「やや強い」と回答した割合が概ね減少している。

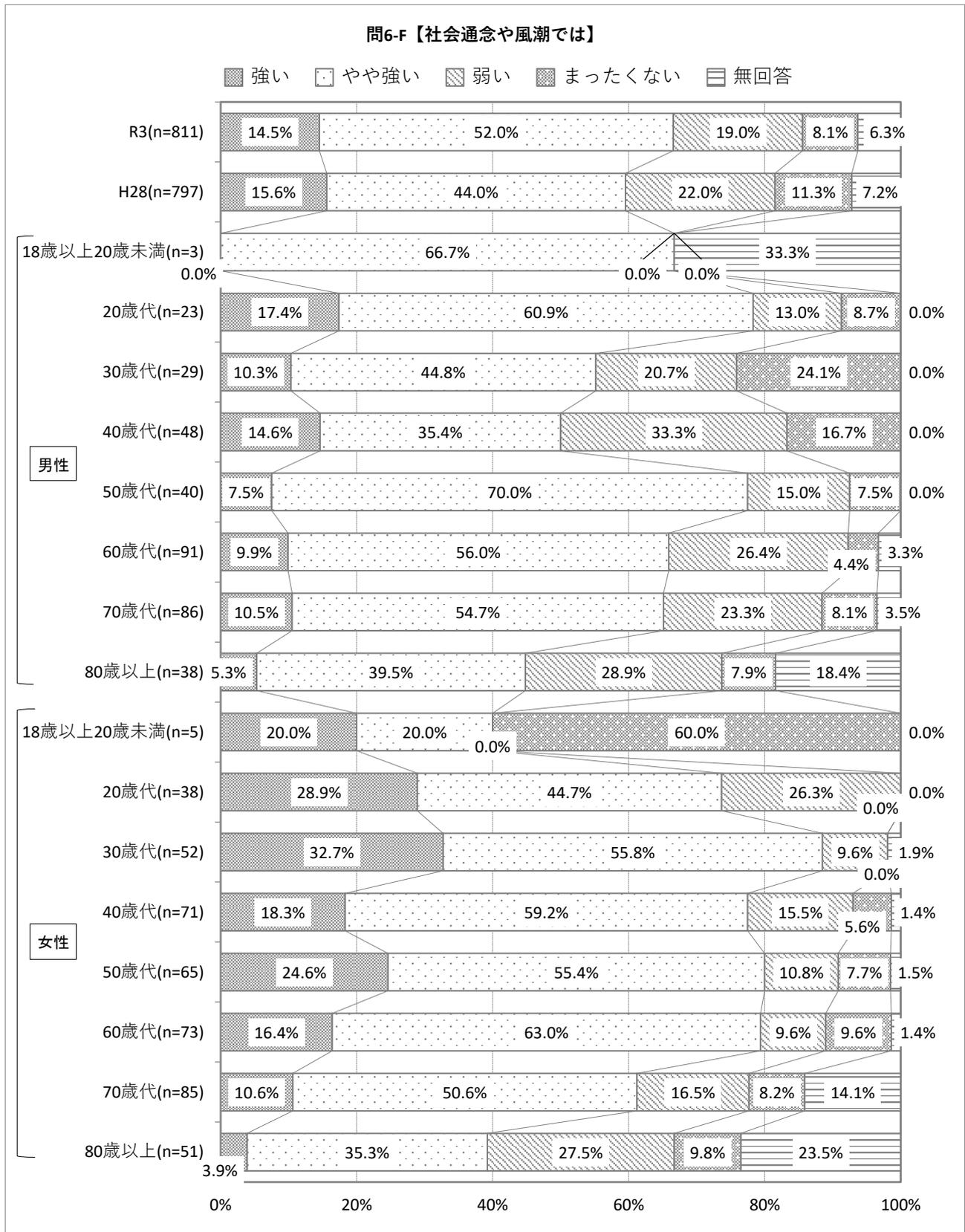
前回調査と比較してみると、「まったくない」と回答した割合が7.5ポイント減少している。



【経年・年代比較（問6-F 社会通念や風潮では）】

「社会通念や風潮」において、「強い」「やや強い」と回答した割合は、男性では20歳代、50歳代で約8割、女性では30歳代で約9割と、他の年代より高くなっている。

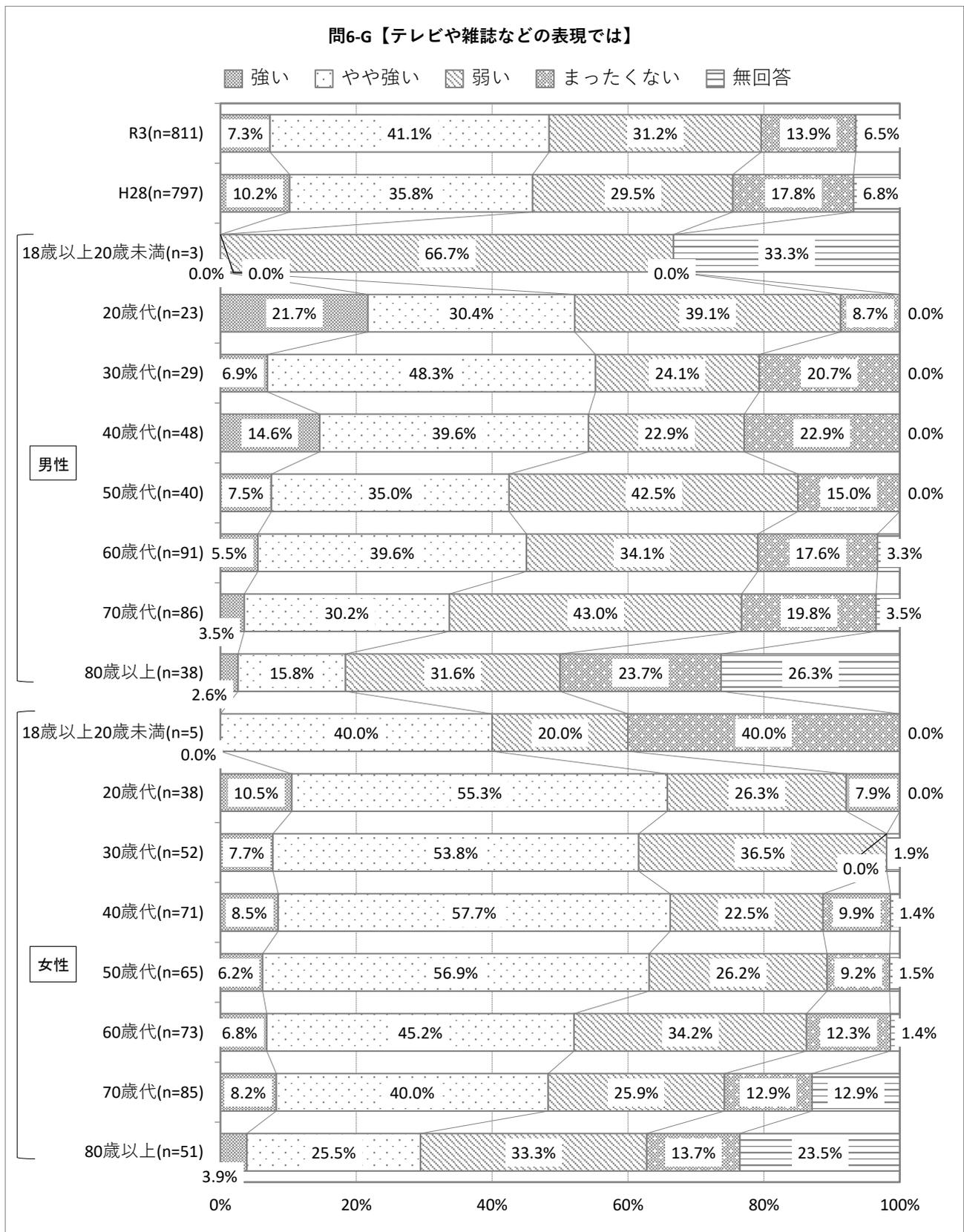
前回調査と比較してみると、「強い」「やや強い」と回答した割合が6.9ポイント増加している。



【経年・年代比較（問6-G テレビや雑誌などの表現では）】

「テレビや雑誌などの表現」において、男女ともに年代が上がるにつれて、「強い」「やや強い」と回答した割合が減少する傾向がある。

前回調査と比較してみると、「強い」「やや強い」と回答した割合が2.4ポイント増加している。

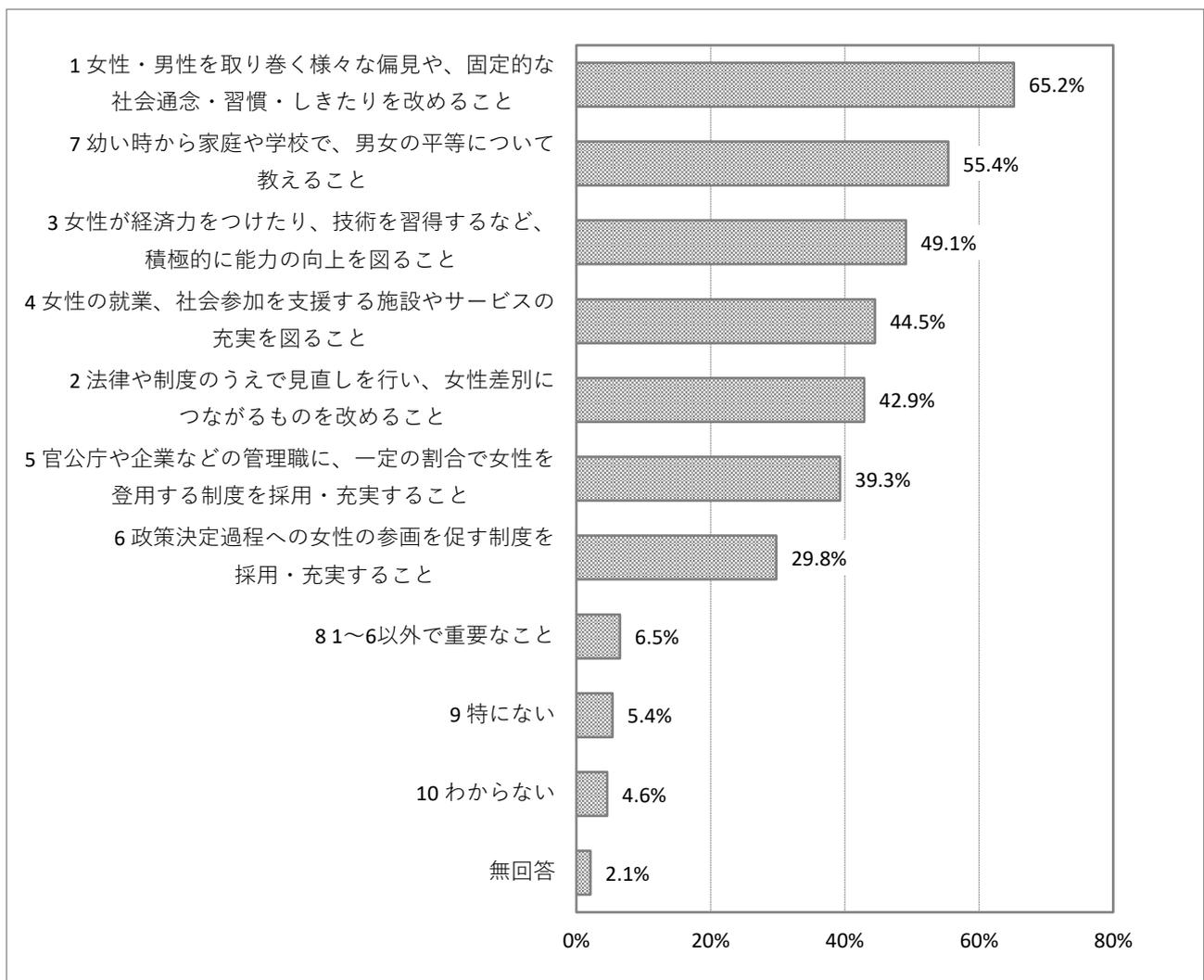


問7 今後男女があらゆる分野で平等になるために、重要と思うことは何ですか。

- 1 女性・男性を取り巻く様々な偏見や、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること
- 2 法律や制度のうへで見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
- 3 女性が経済力をつけたり、技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること
- 4 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
- 5 官公庁や企業などの管理職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- 6 政策決定過程への女性の参画を促す制度を採用・充実すること
- 7 幼い時から家庭や学校で、男女の平等について教えること
- 8 上記1～6以外で重要なこと
- 9 特にない
- 10 わからない

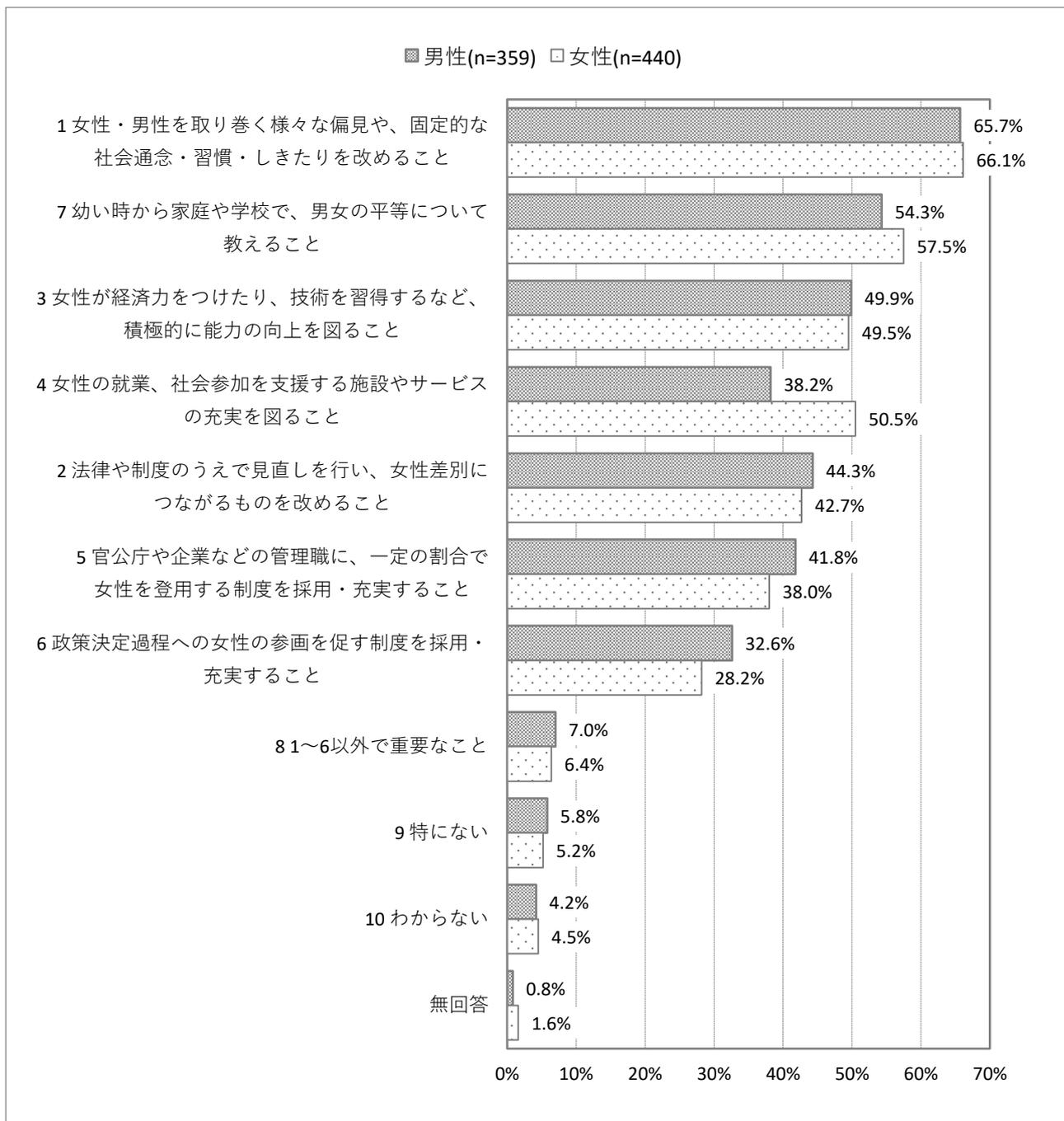
【全体 (n=811)】

「女性・男性を取り巻く様々な偏見や、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」と答えた人の割合が65.2%と最も高く、次に高いのは「幼い時から家庭や学校で、男女の平等について教えること」で55.4%である。



【男女比較】

男女ともに、「女性・男性を取り巻く様々な偏見や、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」と答えた人の割合が最も高い（男性 65.7%、女性 66.1%）。「幼い時から家庭や学校で、男女の平等について教えること」「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」の 2 つについては、女性の方が男性よりも割合が多く、差が出ている。「法律や制度のうえで見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」「官公庁や企業などの管理職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」「政策決定過程への女性の参画を促す制度を採用・充実すること」の 3 つについては、男性の方が女性よりも割合が多い。



【問 7-8 上記 1~6 以外で重要なことの回答】

家事・育児に関すること

- ・日本人の男性は、小さい時から男の方が偉いという所があるので、根本から考えをあらためた方がいいと思います。もっと子育てに参加するべきだと思う。(60 歳代・女・職業不明)
- ・子育て中の母親を大切に思い認めること！（産んで育てているだけすごいです！！）(50 歳代・女・臨時（パートタイム勤務）)
- ・家事の分担 (70 歳代・男・無職)
- ・家事や子育てを男がもっとしないと社会参画しにくい (40 歳代・女・常勤（正社員・正職員）)
- ・育児は女も男もするものであると広める (20 歳代・女・学生)

法律・制度に関すること

- ・本人の希望を尊重する。いたずらな制度設計は不要。(50 歳代・男・常勤（正社員・正職員）)
- ・父子年金の充実をはかる。年金の平等化（男女関係なく）(70 歳代・男・自営)
- ・男女共にワークライフバランスを整えること (30 歳代・女・常勤（正社員・正職員）)
- ・ブランクを経て再就職する事が多いと思うが（子育て後に）、それが不利にならない制度があれば良い。(30 歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人）)
- ・法を含めて現実整理を行う事 (60 歳代・男・常勤（正社員・正職員）)
- ・女性の産後の社会復帰と男性の育児休暇の義務化 (40 歳代・男・常勤（正社員・正職員）)
- ・年金の 3 号被保険者の制度をやめる。(30 歳代・男・常勤（正社員・正職員）)
- ・産後職場復帰後の子育て支援の強化、見直し (30 歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人）)

教育をすること

- ・平等の意味を履き違えてる事が多いので子供の時から何が平等かを大人が（大人も）教える！！
(70 歳代・男・臨時（パートタイム勤務）)
- ・男女の特性は生かしてどちらかに負担のかかることはなくす。男の自尊心が強すぎるので改めるような教育が必要。(60 歳代・女・常勤（正社員・正職員）)
- ・性差でなく、まず「人」として、互いが尊重されるよう、“尊厳”を重視するための「教育」が大切になってくる。令和時代の価値創造として、次世代を担っていく子ども達のために、頑張ってもらいたいことのひとつ。(60 歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人）)
- ・そういった風潮が根強い高齢者の認知を改める (20 歳代・男・臨時（フルタイム勤務だが一時的なもの）)

政治に関すること

- ・憲法第 14 条の規定のとおり (80 歳以上・男・その他)
- ・そんなことより政治がまともになれば男女平等も解決へと向かっていくだろう。全て政治・政治家がだめ。(50 歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人）)

差別と区別の意味をきちんと理解すること

- ・差別と区別を混同しないこと（40歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・区別と差別の意味をはき違えないよう幅広い世代に理解してもらえるよう促す。（40歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・男女の差別と区別を子供の頃からきちんと正しく教える。（50歳代・女・常勤（正社員・正職員））

職場の状況を変えること

- ・なかなか男女平等はすべてにおいては無理があるけれど実力等備わっていれば女性登用、採用も必要（70歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・実力社会なので一定割合の登用をすることによる弊害や周りのフォローが大変になる。大企業なら対応ができるが中小企業では対応できないと考える。（50歳代・男・自営）
- ・男女平等でと言うことは力仕事等、男しかできない仕事等もある事を踏まえて、協議し平等としないといけない事もあると思う。（30歳代・男・自営）

性別ではなく個人を見て評価すること

- ・男女関係なく人間としての人格を見ること。（60歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・性別に関係なくできる人ができる事をすすんでやっていく世の中になるように言っていくこと（40歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・男女に関係なく人としての思いやり（70歳代・男・無職）
- ・男女平等は当然だと思うが、女性を優遇しすぎて力量が乏しい女性が進出するには抵抗がある。性別ではなく、能力重視の考え方が必要と思う。（60歳代・男・臨時（フルタイム勤務だが一時的なもの））
- ・性別で決めるのではなく個人の能力で評価すること（20歳代・男・学生）
- ・ひとりの人間として考えること（50歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・性差より能力差をそれぞれが容認する事（40歳代・女・自営）

性への差別をなくすこと

- ・LGBT への差別を無くす。（70歳代・男・臨時（パートタイム勤務））
- ・男性、女性、それぞれちがいがいい（女性は出産、母性は男性には欠けている！どうお互が理解しあうか問題は大きい！）（60歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・同性による偏見もあるので、ふかんで観る習慣（60歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・フェミニストと呼ばれる人々による過剰な性的嗜好の非難や男性の痴漢冤罪など男性の性的差別の偏見を改めること。（20歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・男性の差別も見直す（20歳代・女・自営）
- ・性の特性にあった平等を考えること。（40歳代・男・常勤（正社員・正職員））

無理に平等にしなくてもよいという意見

- ・男と女では力も体力も違っているのは確かなので全てを平等にする必要はないと思います。平等にやれる事、それぞれの分野で別れる事も必要と思います。(70 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・生物としての男女の違いはある。無理に実現すべきではない。(80 歳以上・男・自営)
- ・男性、女性すべて平等はムリです～男、女ではなくその人なりの個人として差別なく改めたらいいと思います。生まれつき、男、女違うと思うので！(60 歳代・女・その他)
- ・平等だけが全てとは思わない。それぞれあった生き方をすれば良い。(50 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

平等をすすめることで差別が生まれるという意見

- ・個人でできる事を精一杯やり、評価する事。「男女は平等」という教育がしつこいと逆に差別を生む。(30 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・一定の割合で女性を登用するという考え自体が平等ではないことに気付くこと (40 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・女性であるから支援や登用する等は、逆差別でしかないと思います。個々の資質、特性に目を向けられる社会の構築が重要だと考えます。(50 歳代・男・自営)

女性の状況に関する意見

- ・そもそも男性ばかりが優遇されているとは思っていない。女性ばかりが不平等だ、差別だと声をあげている。(40 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・充分だと思う。むしろ女性の方が優遇されていると思うことが日常多々ある。(40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・最近女性の方が優遇されすぎている。社会立場上弱者だといいいながらそれを盾にして優遇を求めている。女性、男性という言葉や立場を気にする時点で平等ではない。(20 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

その他

- ・能力のある人がその力を存分に出せばよい。(50 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・スポーツ・芸能・料理人など専門職での男性の優遇を改めるべきである。(60 歳代・男・自営)
- ・ローカルニュースの一項目として取組を定期的に放送する (60 歳代・男・無職)
- ・個個人が日常的に差別について考えたり話し合ったりする。制度などにたよりすぎると逆差別が生まれてしまう。(60 歳代・女・自営)
- ・育った環境 (50 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))

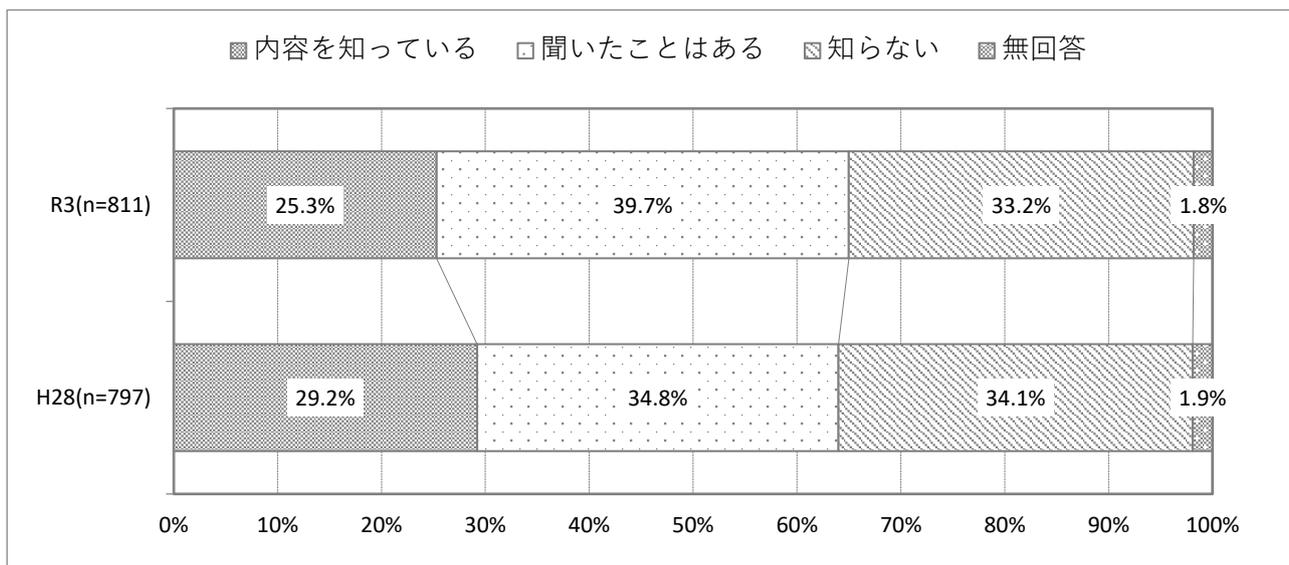
2 仕事と生活の調和について

問8 あなたはワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を知っていますか。

【全体】

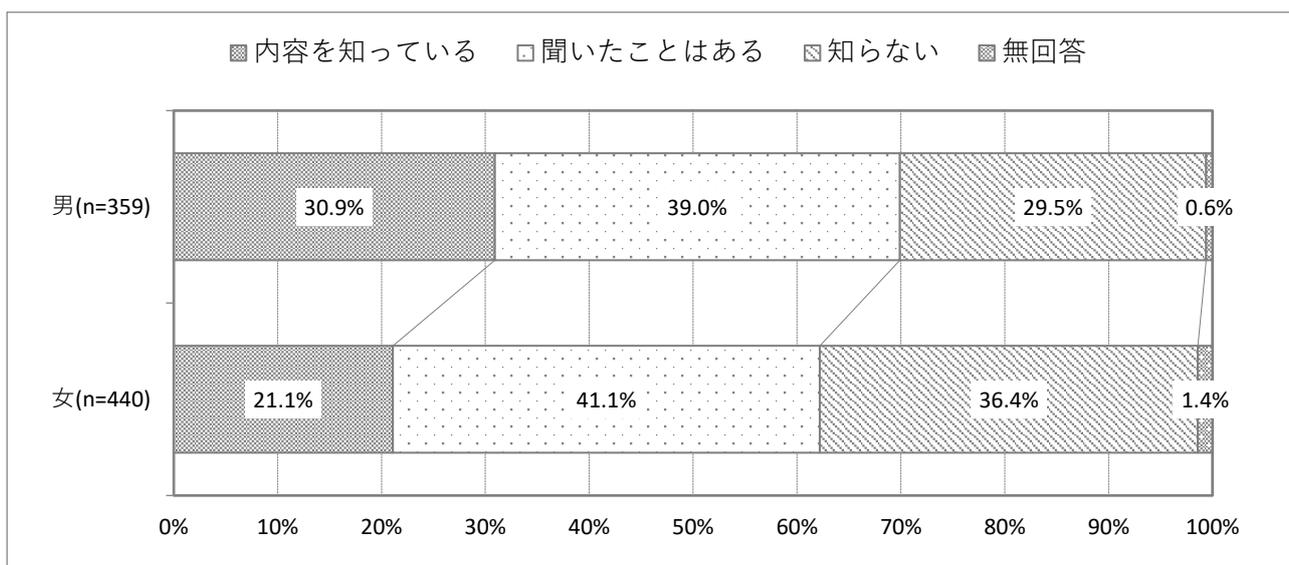
全体では、「内容を知っている」25.3%、「聞いたことはある」39.7%、「知らない」33.2%となっている。

前回調査と比較してみると、「聞いたことはある」と答えた人の割合が4.9ポイント増加している。



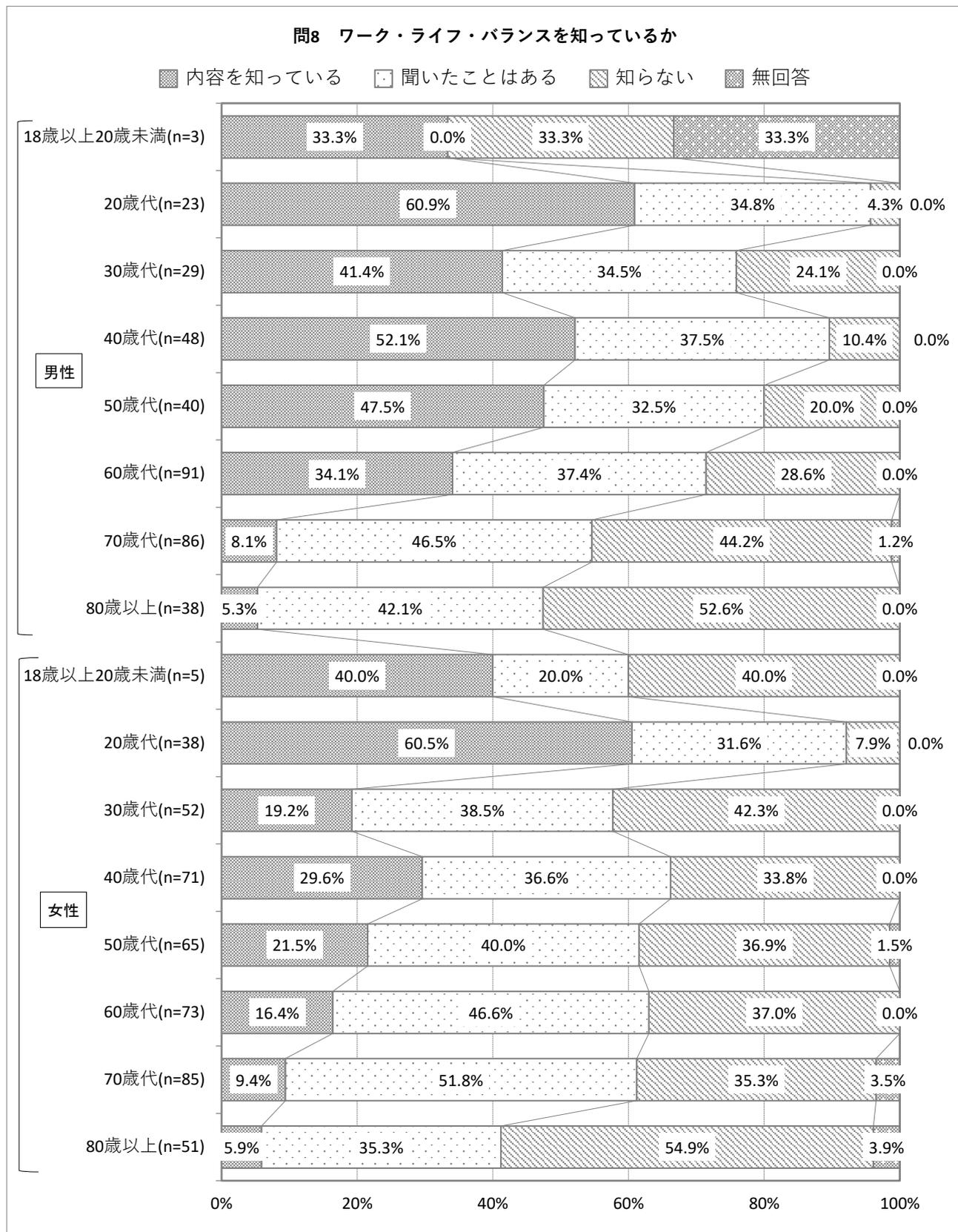
【男女比較】

性別でみると、男性では「内容を知っている」30.9%、「聞いたことはある」39.0%。女性では、「内容を知っている」21.1%、「聞いたことはある」41.1%で、男性の方が認知度が高い。



【年代比較】

男女とも、「内容を知っている」と答えた人の割合が高いのは20歳代で、約6割である。男性では、70歳代以上になると、「内容を知っている」と答えた人の割合が減少する。女性では、「知らない」と答えた人の割合は、80歳以上で54.9%と各年代の中で最も高い。

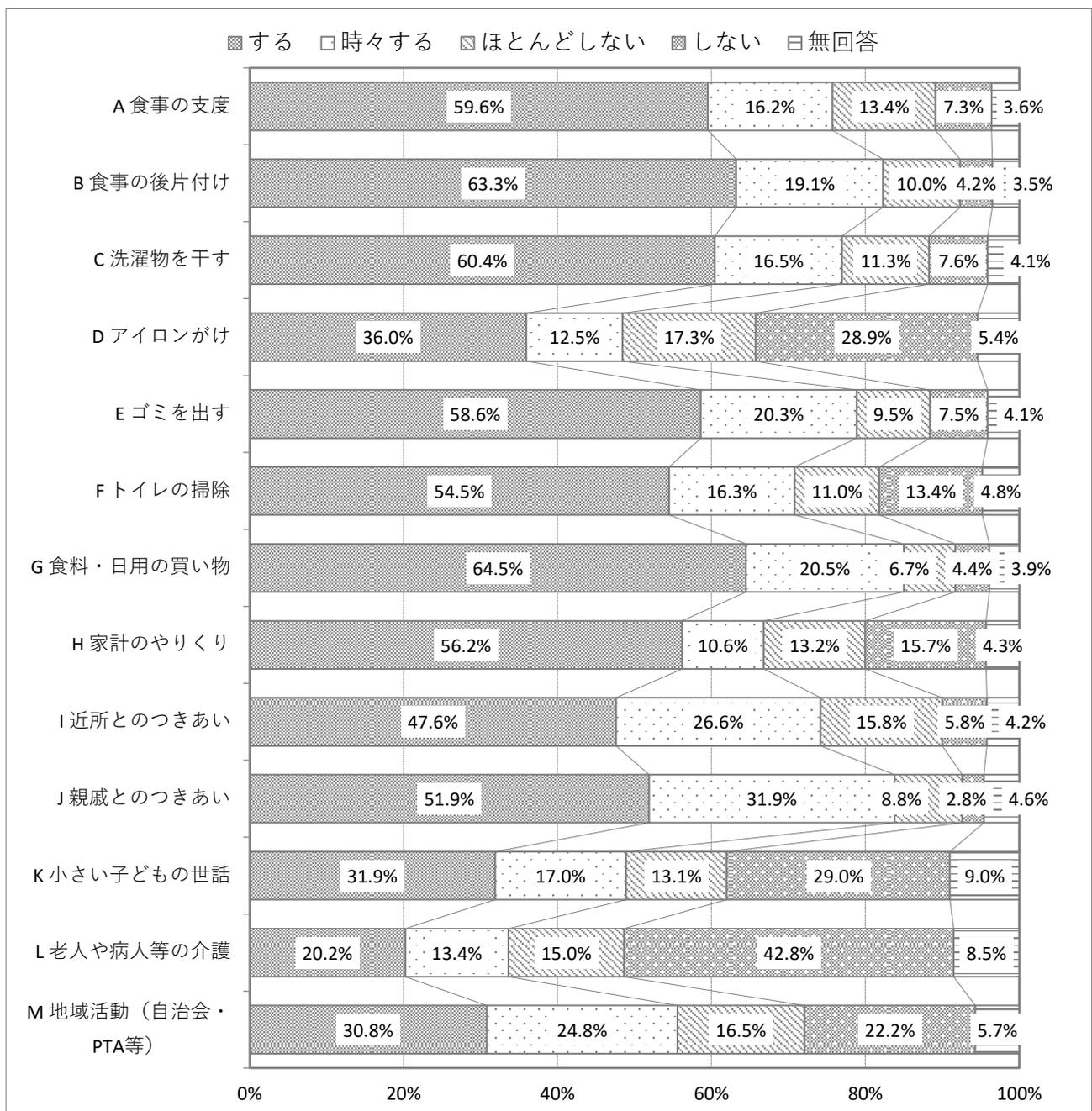


問9 あなたは家庭において次のことをどの程度行っていますか。

- A 食事の支度
- B 食事の後片付け
- C 洗濯物を干す
- D アイロンがけ
- E ゴミを出す
- F トイレの掃除
- G 食料・日用の買い物
- H 家計のやりくり
- I 近所とのつきあい
- J 親戚とのつきあい
- K 小さい子どもの世話
- L 老人や病院等の介護
- M 地域活動（自治会・PTA等）

【全体 (n=811)】

「する」と回答した割合が高いのは、「G 食料・日用の買い物」64.5%、「B 食事の後片付け」63.3%、「C 洗濯物を干す」60.4%である。「しない」と回答した割合が高いのは、「L 老人や病人等の介護」42.8%、「K 小さい子どもの世話」29.0%、「D アイロンがけ」28.9%である。



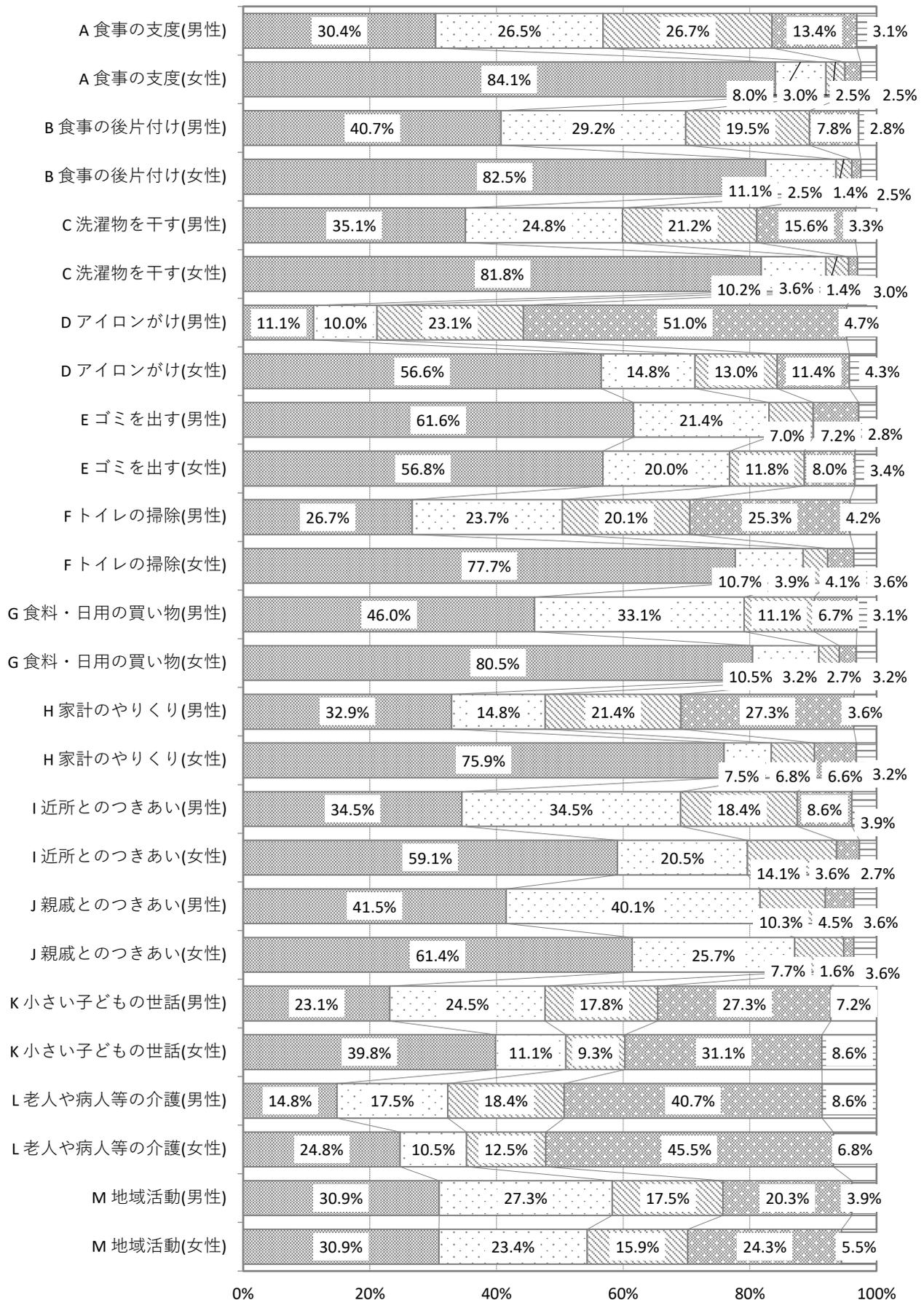
【男女比較（男性 n=359、女性 n=440）】

性別でみると、13の項目中11項目において、男性より女性の方が「する」と答えた人の割合が高いが、「E ゴミを出す」は、男性が女性を4.8ポイント上回っている。「M 地域活動」は、男女ともに同じ割合となっている。

男性が最もよくする家事は「E ゴミを出す」61.6%、「G 食料・日用の買い物」46.0%となっている。女性では、「A 食事の支度」「B 食事の後片付け」「C 洗濯物を干す」「G 食料・日用の買い物」が8割以上と高くなっている。

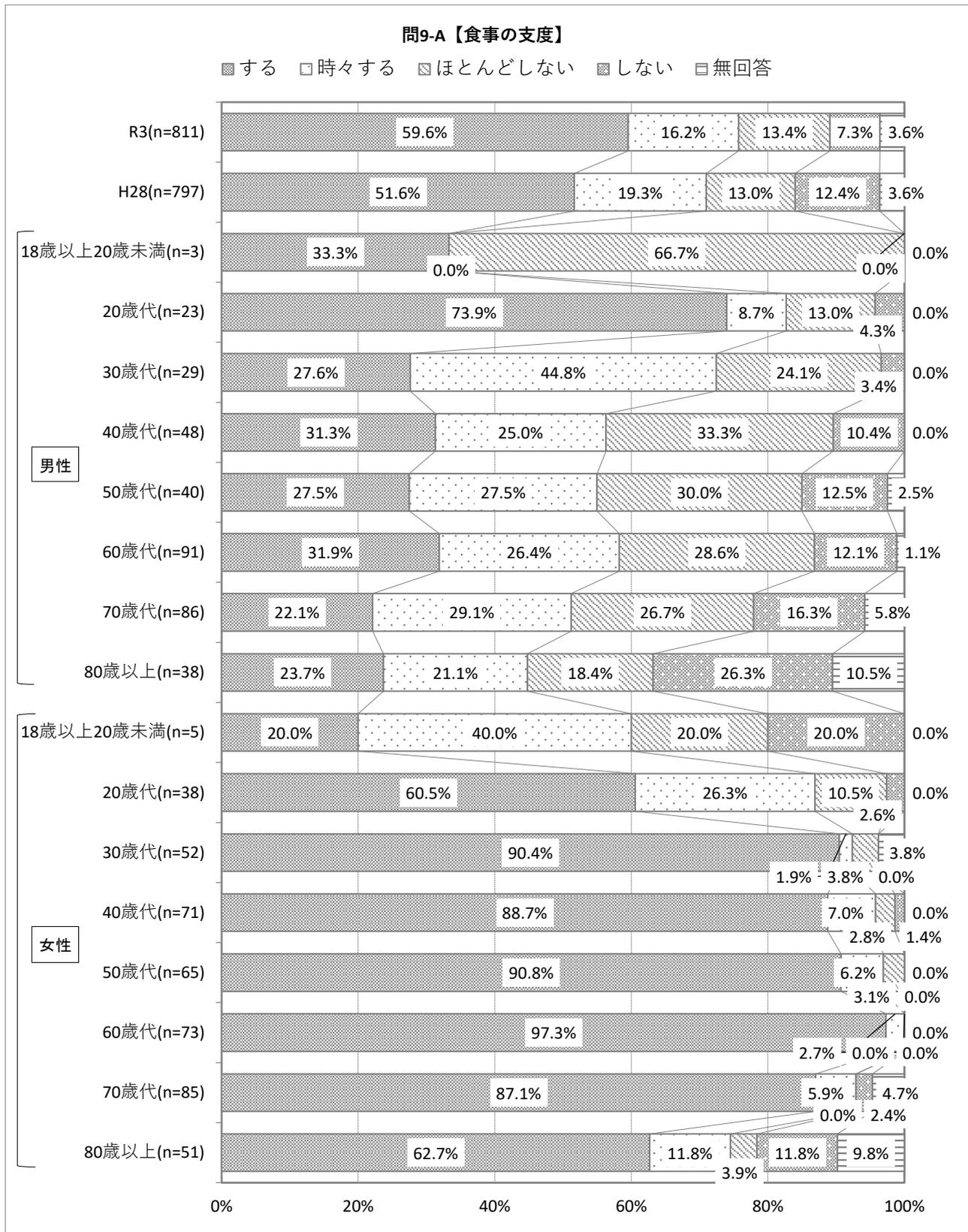
「する」「時々する」を合わせた割合でみると、「A 食事の支度」「C 洗濯物を干す」「D アイロンがけ」「F トイレの掃除」「H 家計のやりくり」の男女差が大きい。

■する □時々する ▨ほとんどしない ▩しない □無回答



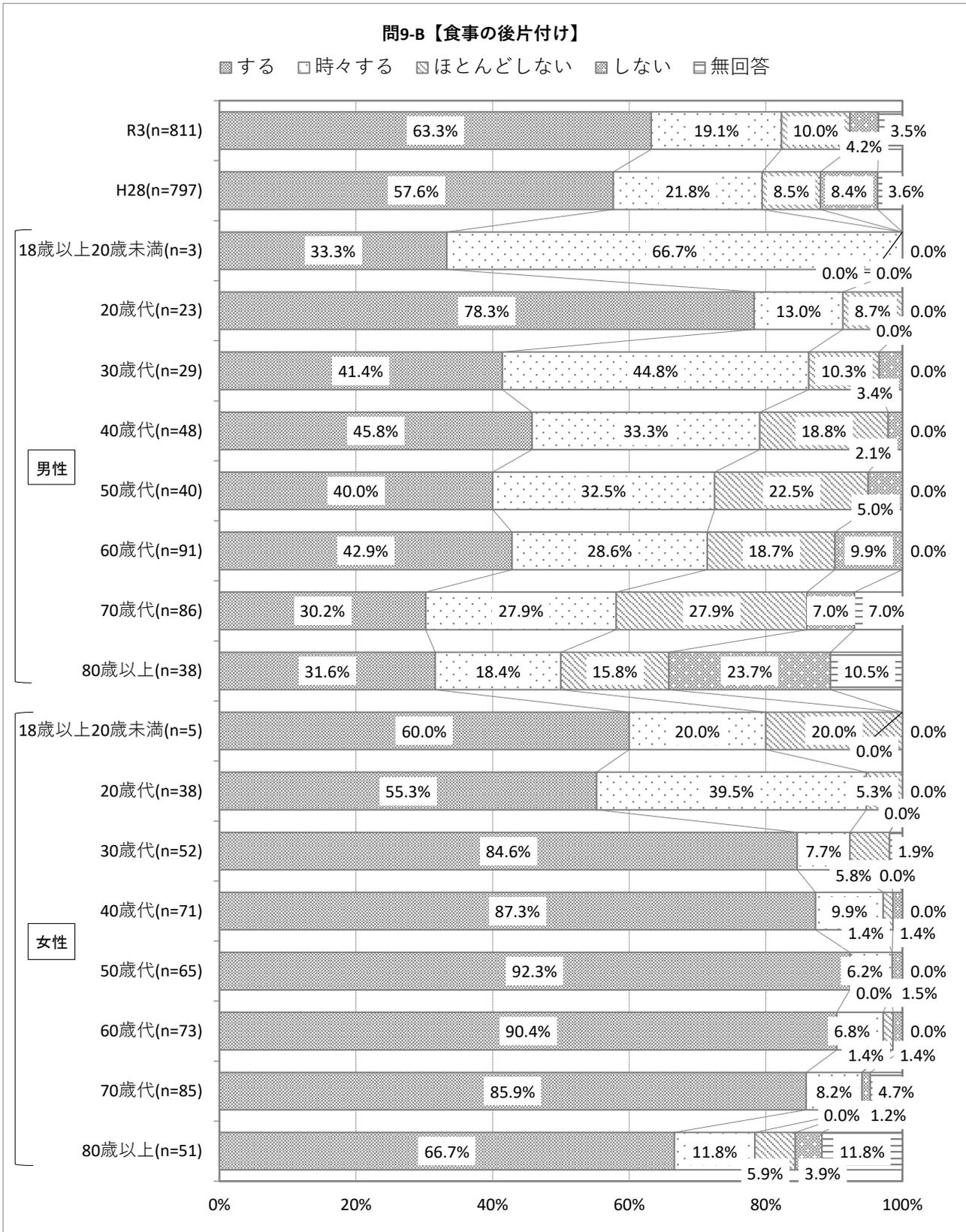
【経年・年代比較（問9-A 食事の支度）】

「食事の支度」について、女性では30歳から70歳代の約9割が「する」と回答している。男性では、「する」と答えた割合が最も高いのは20歳代で73.9%、最も低いのは70歳代で22.1%である。



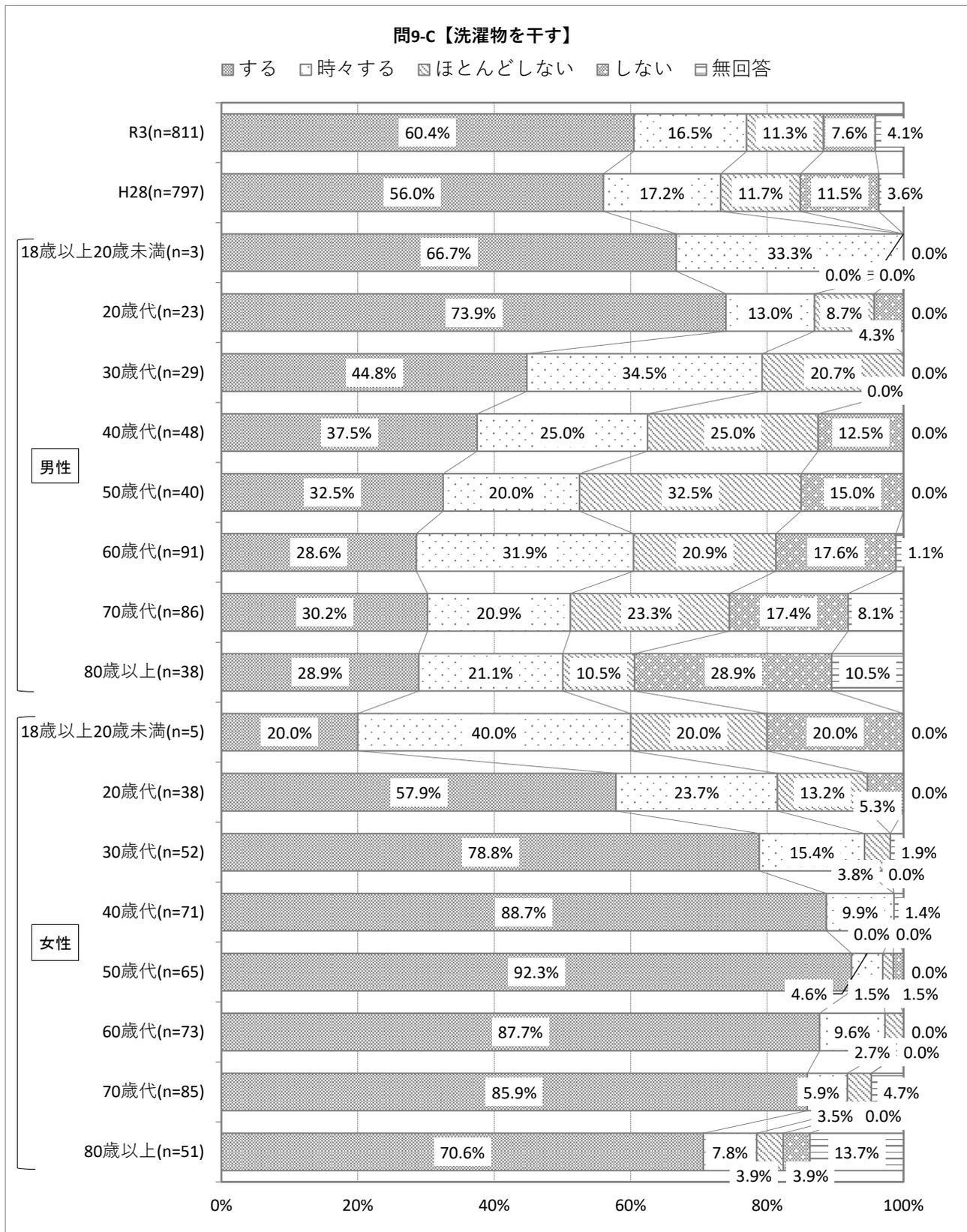
【経年・年代比較（問9-B 食事の後片付け）】

「食事の後片付け」について、女性では「する」と回答した割合が30歳から70歳代で約9割である。男性では、20歳代が「する」78.3%と最も高く、それ以外の世代は3~4割程度となっている。



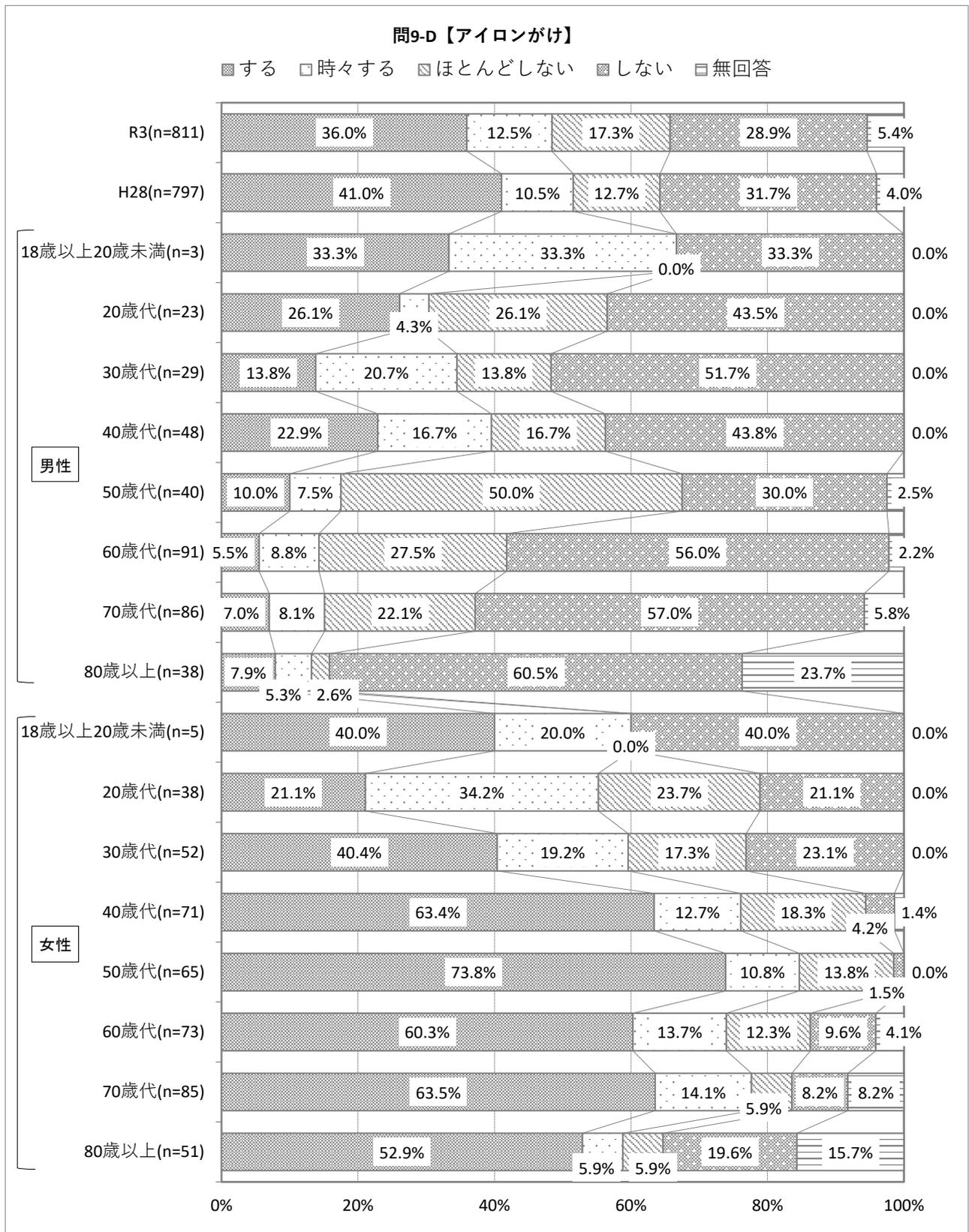
【経年・年代比較（問9-C 洗濯物を干す）】

「洗濯物を干す」について、女性では30歳以上の7～9割が「する」と回答している。男性では、18歳以上20歳未満、20歳代で「する」と答えた割合が約7割と高く、30歳代以上では、高齢になるにつれて「する」と答えた割合が概ね減少している。



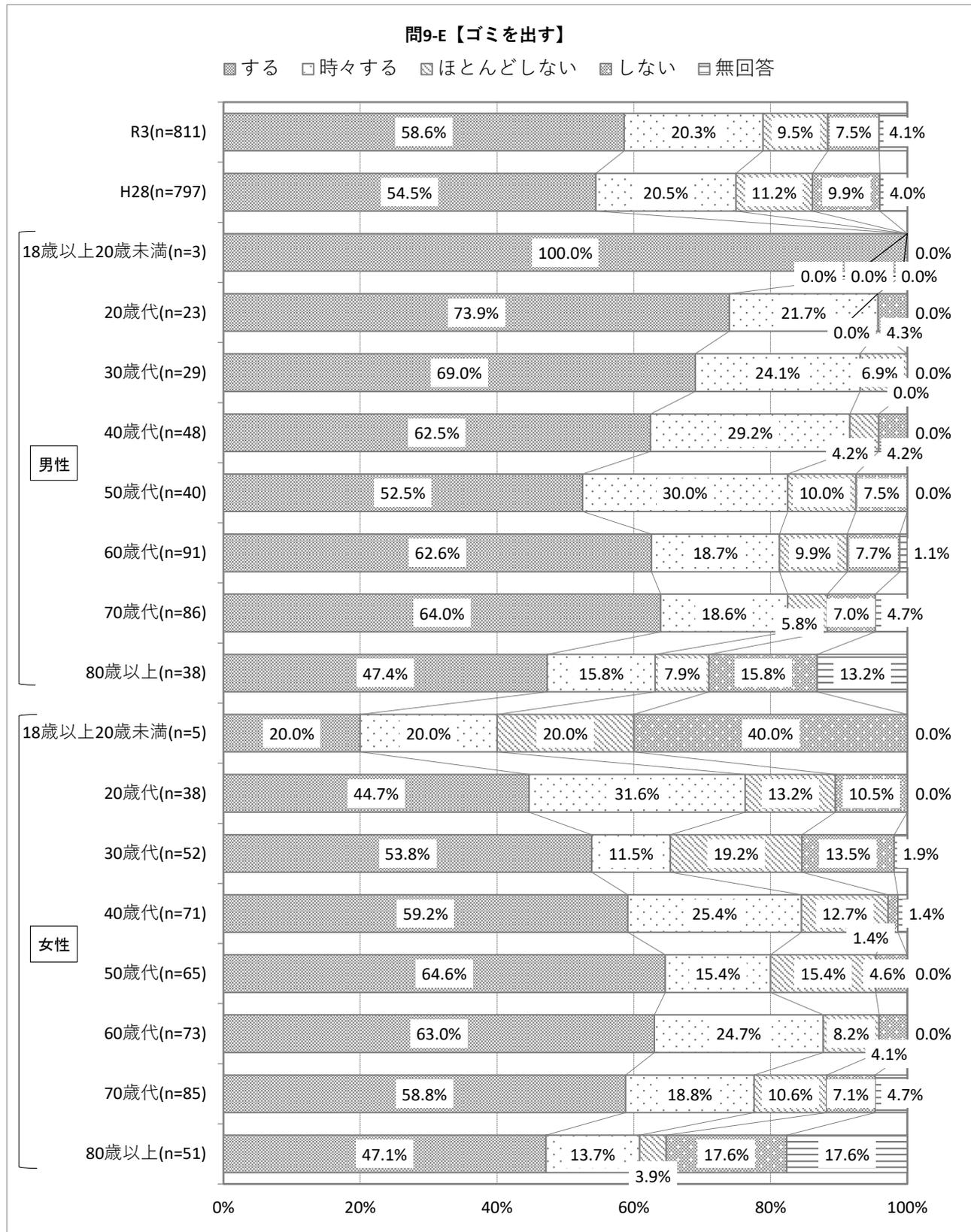
【経年・年代比較（問9-D アイロンがけ）】

「アイロンがけ」について、女性では、50歳代で「する」と回答した割合が、73.8%と各年代の中で最も高い。男性では、20歳代以上で6割以上が「しない」「ほとんどしない」と回答している。男性の18歳以上20歳未満で「する」と答えた割合が33.3%と最も高い。



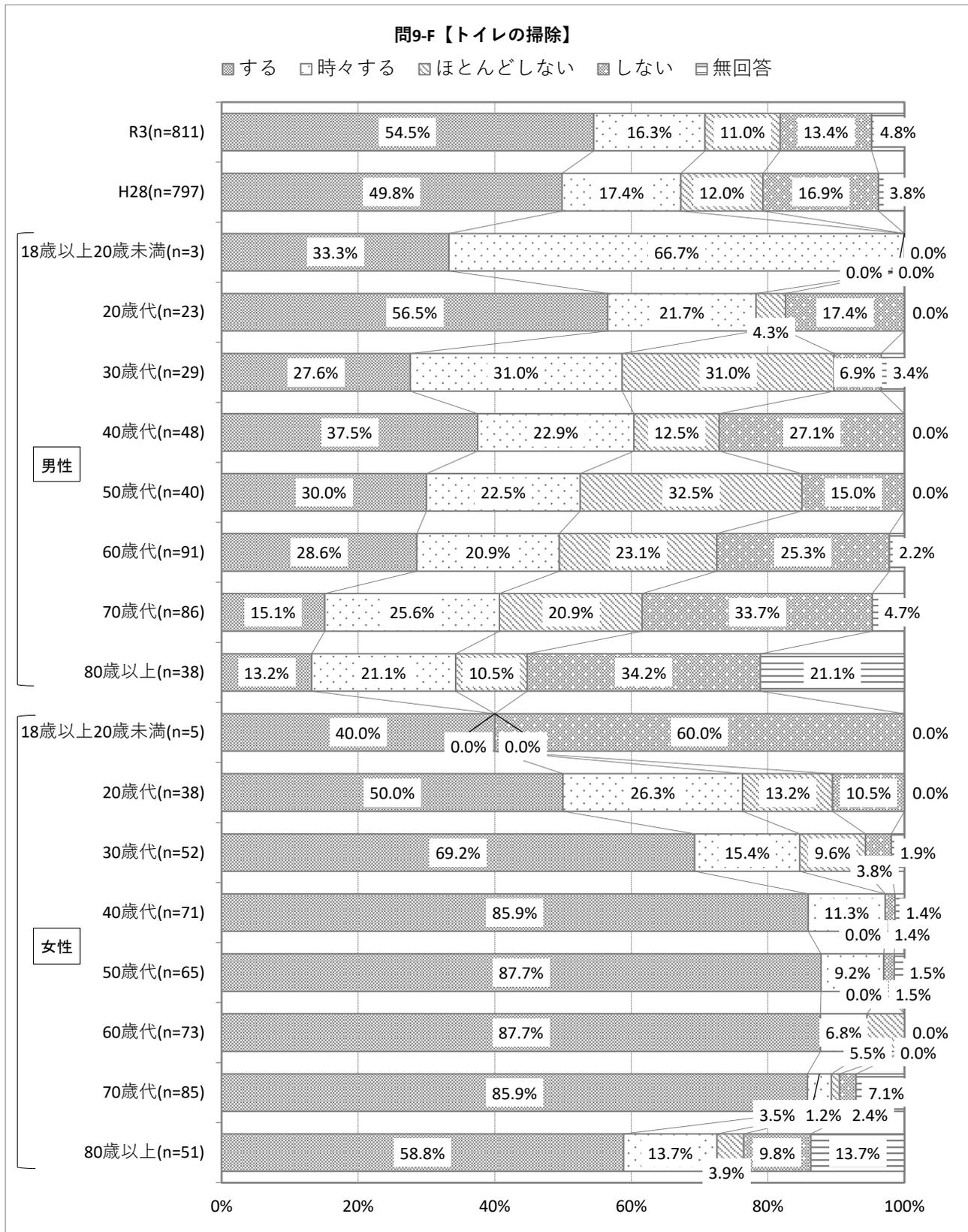
【経年・年代比較（問9-E ゴミを出す）】

「ゴミを出す」について、男女ともに「する」「時々する」と答えた割合は、4割以上である。どの年代でも、「する」と答えた男性の割合が、女性の割合を概ね上回っている。男性では、20歳代、30歳代で「する」と答えた割合が比較的高い。女性では、30歳代で「しない」「ほとんどしない」と答えた割合が高い。



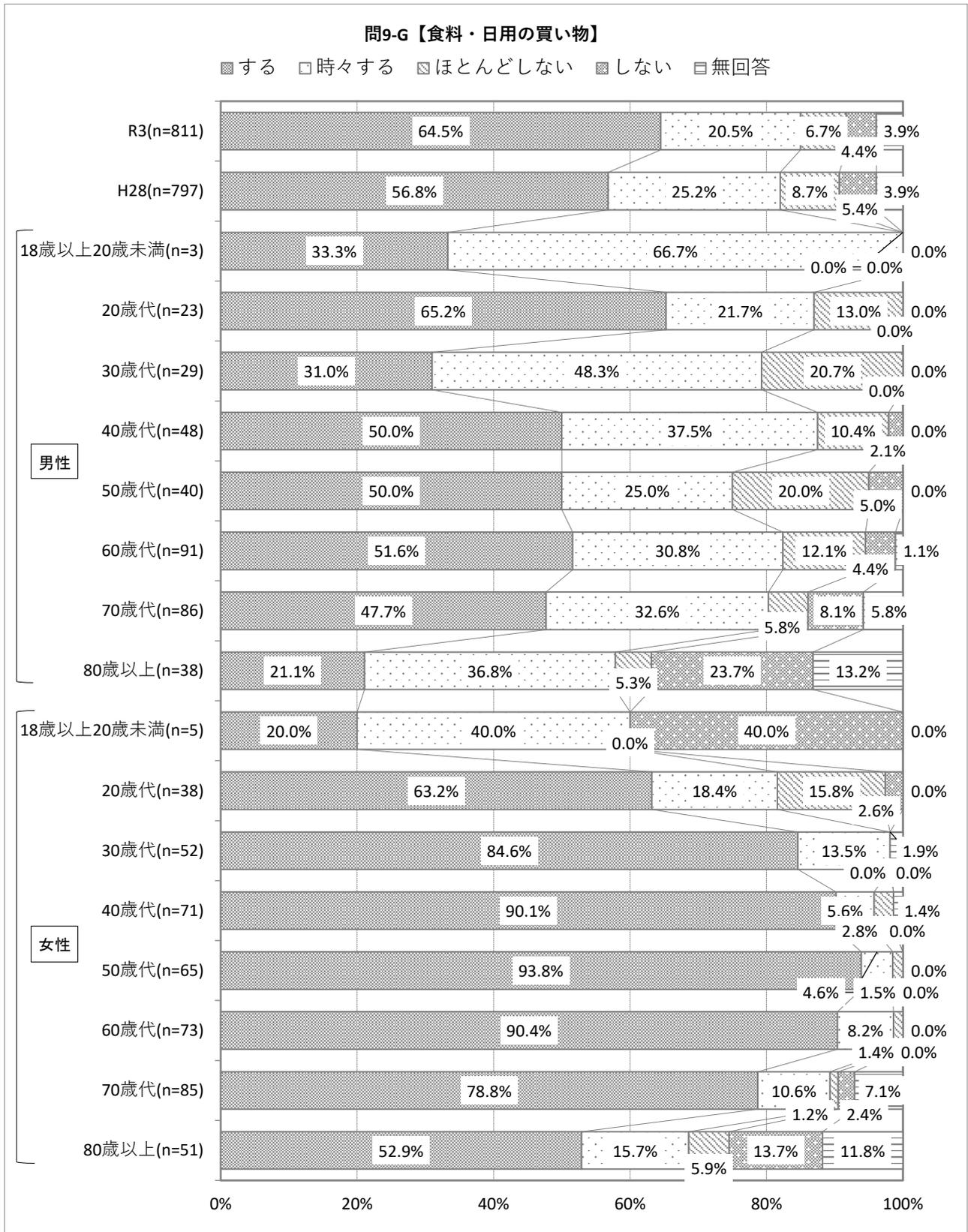
【経年・年代比較（問9-F トイレの掃除）】

「トイレの掃除」について、女性では30歳以上の6～9割が「する」と回答している。男性では、20歳代で「する」と回答した割合が56.5%と各年代の中で最も高い。



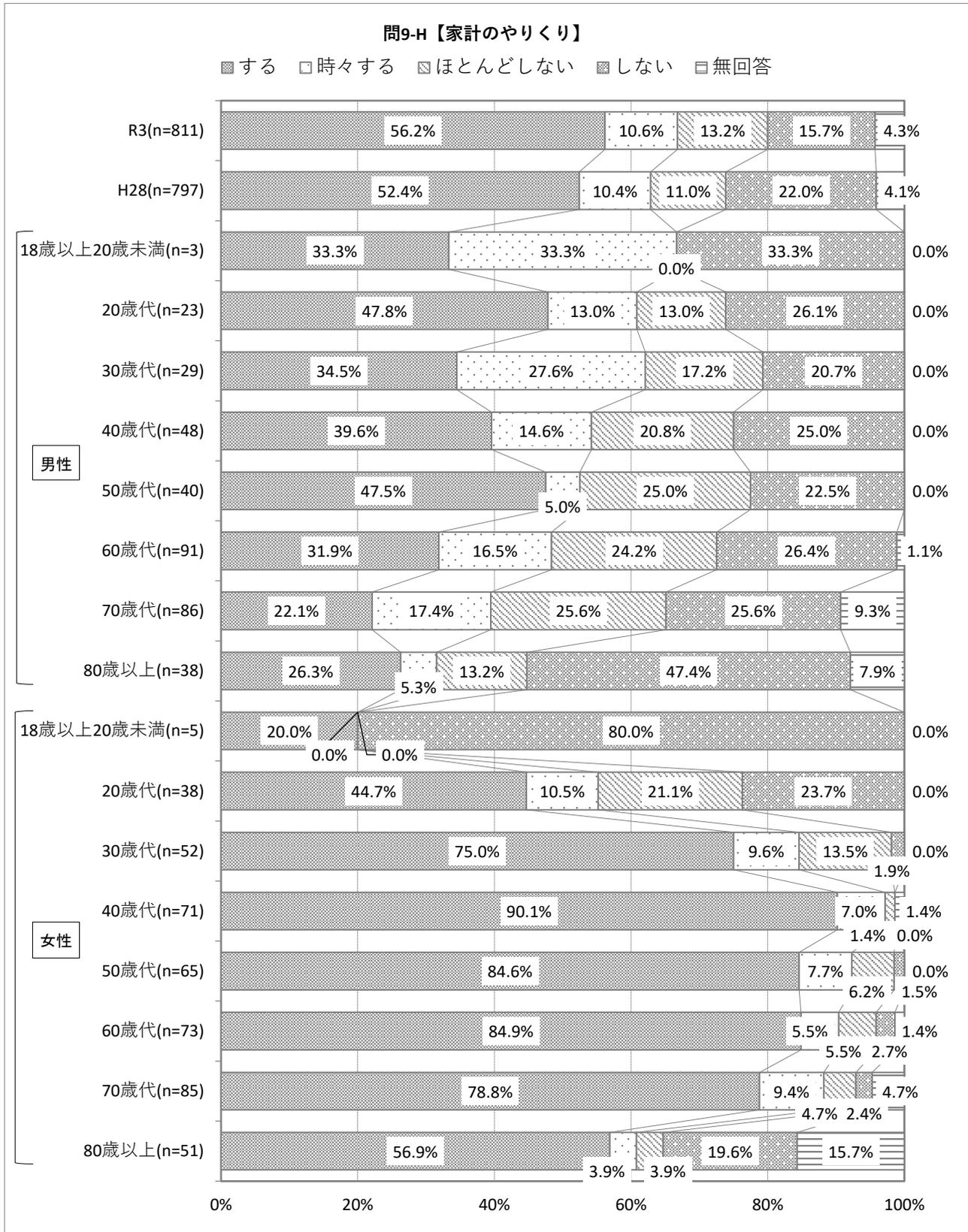
【経年・年代比較（問 9-G 食料・日用の買い物）】

「食料・日用の買い物」について、各年代の女性の6～9割が「する」「時々する」と回答している。男性では、20歳代は「する」65.2%と他の年代に比べて割合が高く、40歳代から70歳代の約半数が「する」と回答している。



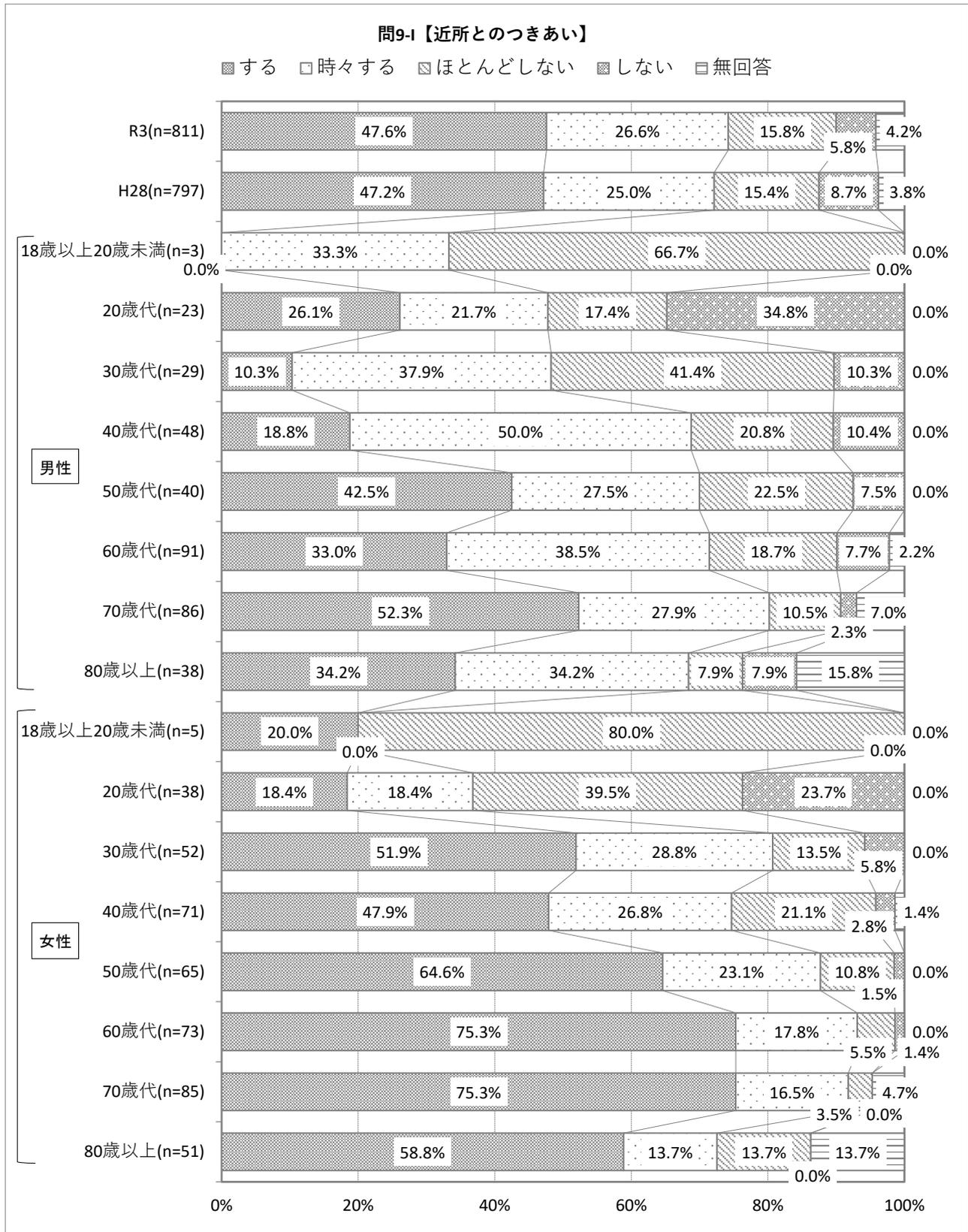
【経年・年代比較（問9-H 家計のやりくり）】

「家計のやりくり」について、女性では30歳代から70歳代の8~9割が「する」と回答している。男性では、20歳代、50歳代で「する」と回答した割合が高く、約半数である。



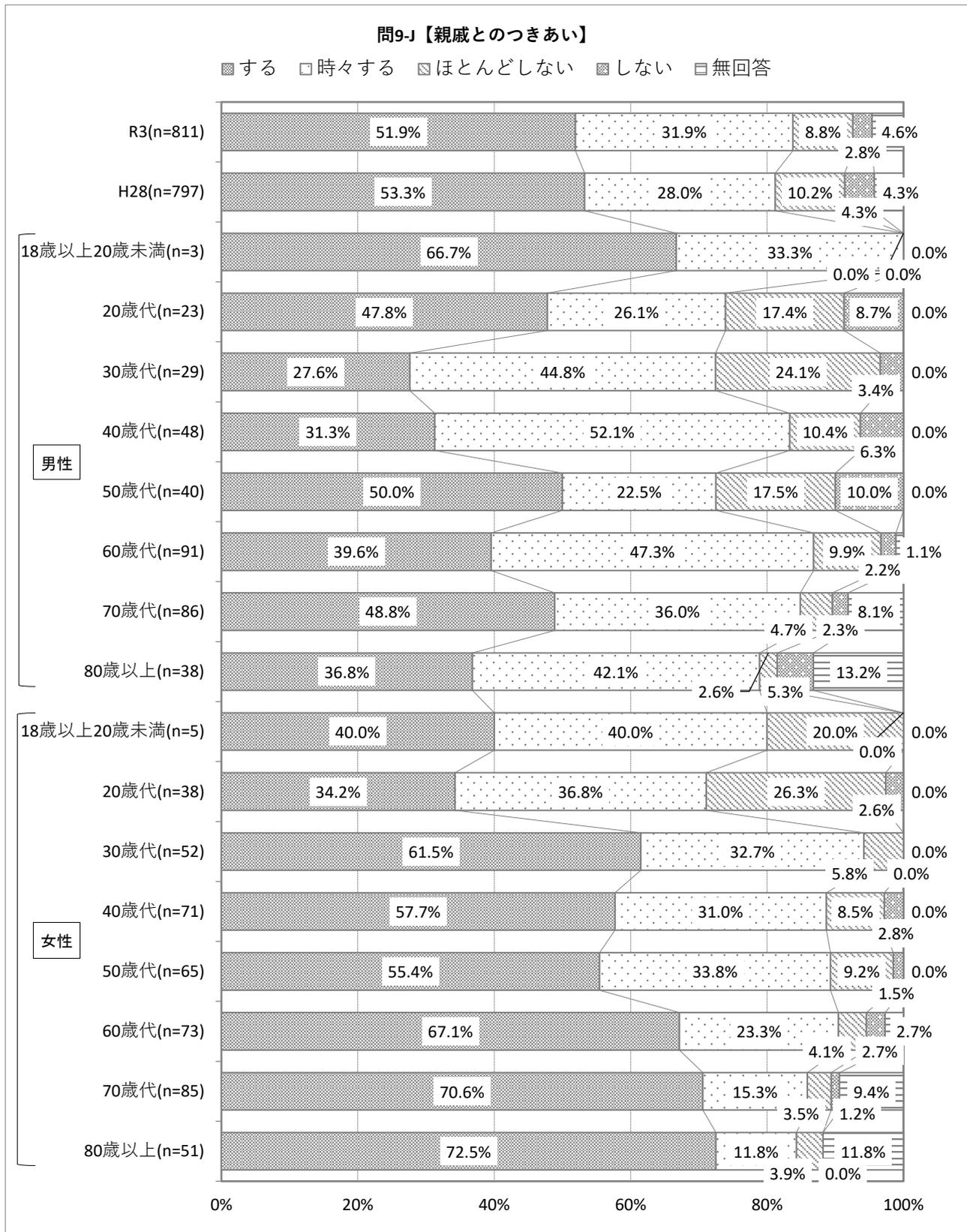
【経年・年代比較（問9-I 近所とのつきあい）】

「近所とのつきあい」について、女性では、60歳代、70歳代で「する」と回答した割合が最も高い。男性では、30歳代で「する」と回答した割合が10.3%と低く、30歳代の女性と比べると、41.6ポイントの差がある。



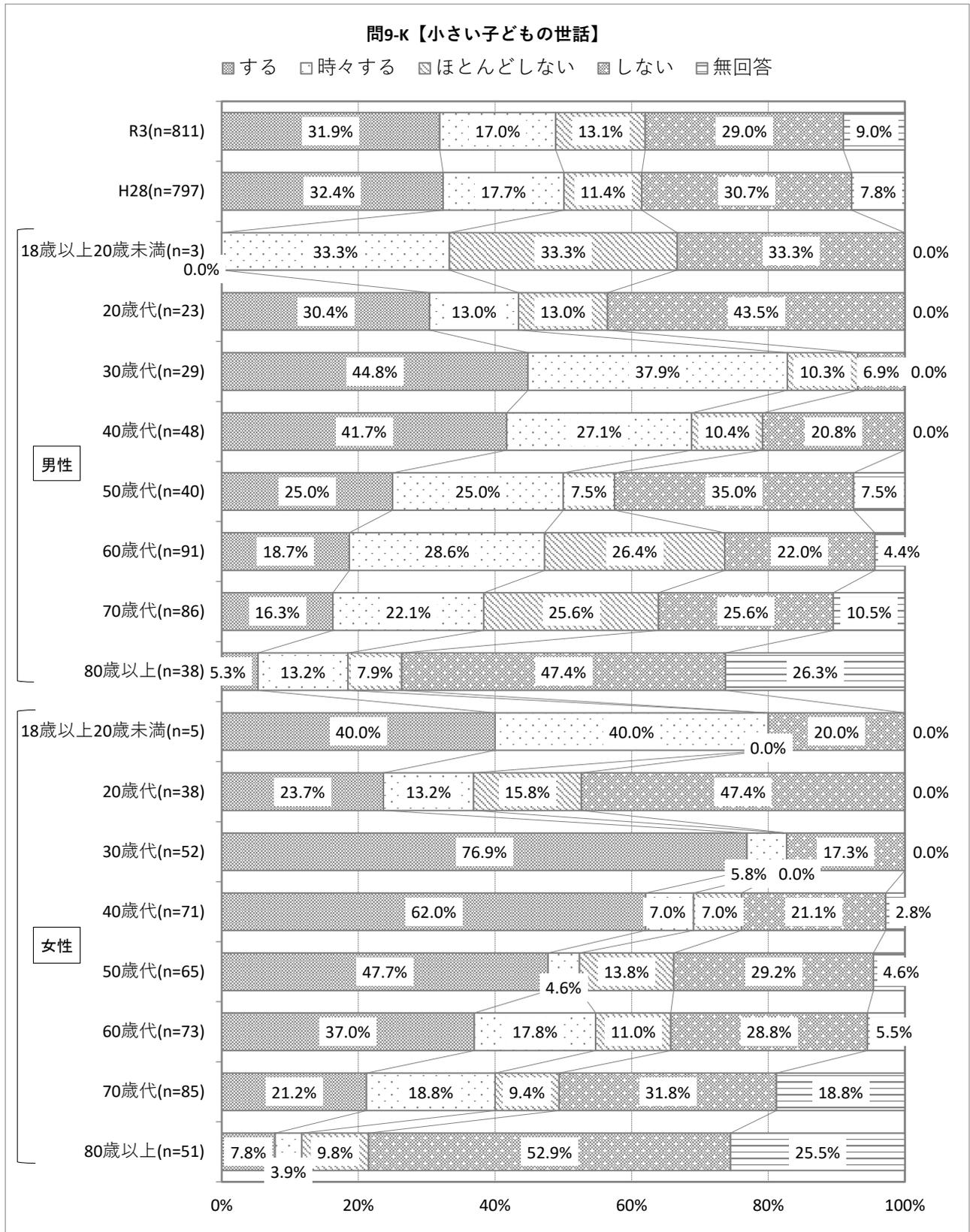
【経年・年代比較（問9-J 親戚とのつきあい）】

「親戚とのつきあい」について、男性では、18歳以上20歳未満で「する」と回答した人の割合が66.7%と各年代の中で最も高い。女性では、60歳代以上で「する」と回答した割合が約7割と高い。



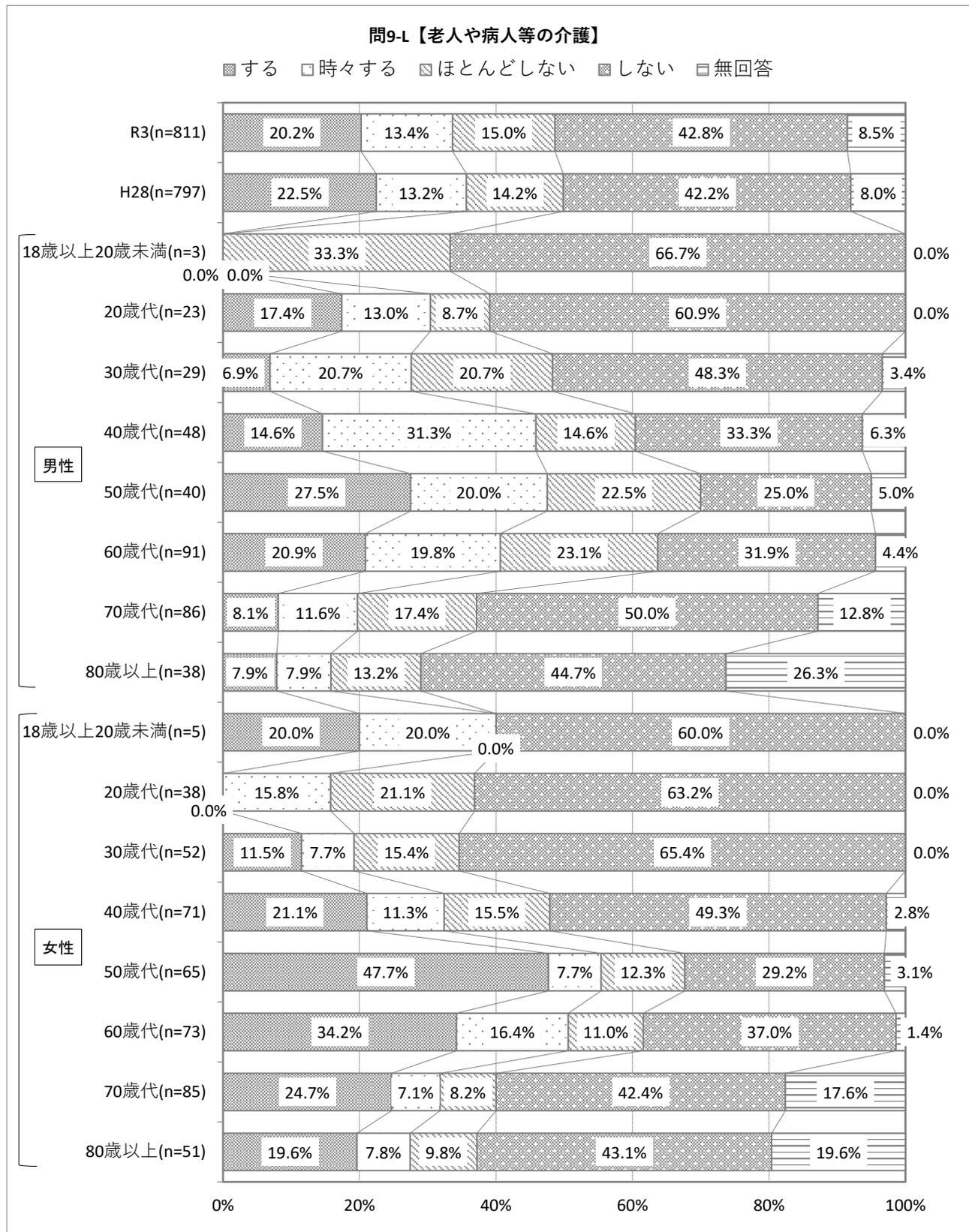
【経年・年代比較（問9-K 小さい子どもの世話）】

「小さい子どもの世話」について、女性では、「する」と答えた割合が30歳代で76.9%と最も高い。男性では、「する」と答えた割合が高いのは、30歳代で44.8%である。男女ともに、80歳以上では「しない」と答えた割合が約半数である。



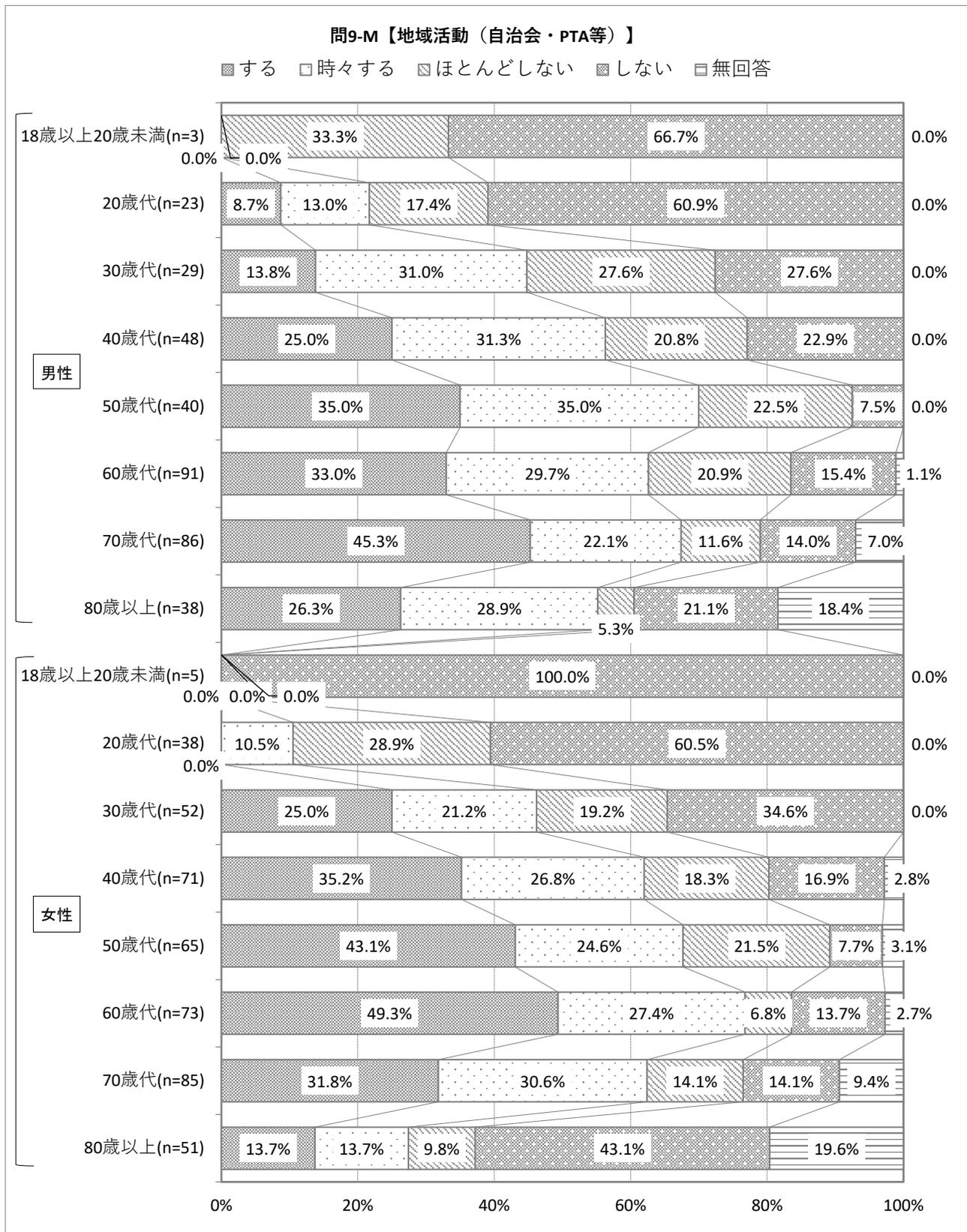
【経年・年代比較（問9-L 老人や病人等の介護）】

「老人や病人等の介護」について、女性では、「する」と答えた人の割合が50歳代で47.7%、60歳代で34.2%と、他の世代に比べて高い。男性では、50歳代が27.5%と最も高い。男女ともに、30歳代までと70歳代以上では、「する」と答えた人の割合が減少する。



【経年・年代比較（問9-M 地域活動（自治会・PTA等））】

「地域活動」について、女性では、60歳代で「する」と答えた人の割合が49.3%で、各年代の中で最も高い。18歳以上20歳未満では、すべての人が「しない」と回答している。男性では、70歳代で「する」と答えた人の割合が45.3%で、各年代の中で最も高い。

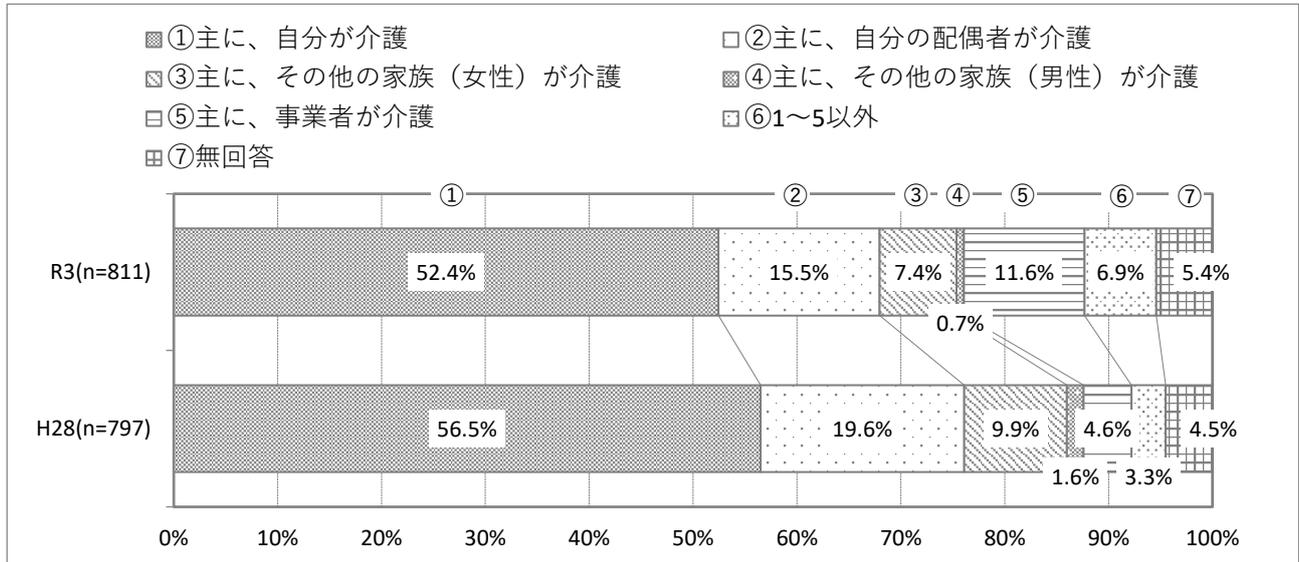


問10 自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族が介護を要する状態となった場合、主に誰が介護することになると思いますか。

【全体】

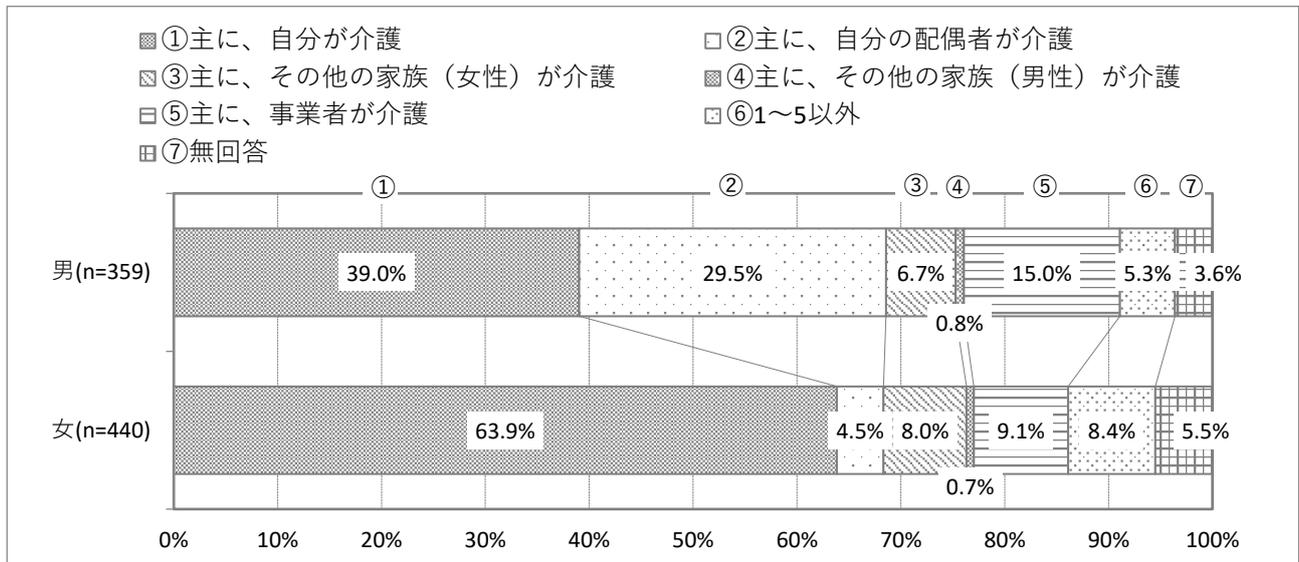
「主に、自分が介護」と答えた人が52.4%で最も多く、次に「主に、自分の配偶者が介護」15.5%、「主に、その他の家族（女性）が介護」7.4%となっている。

前回調査と比較してみると、「主に、事業者が介護」と答えた割合が7.0ポイント増加している。



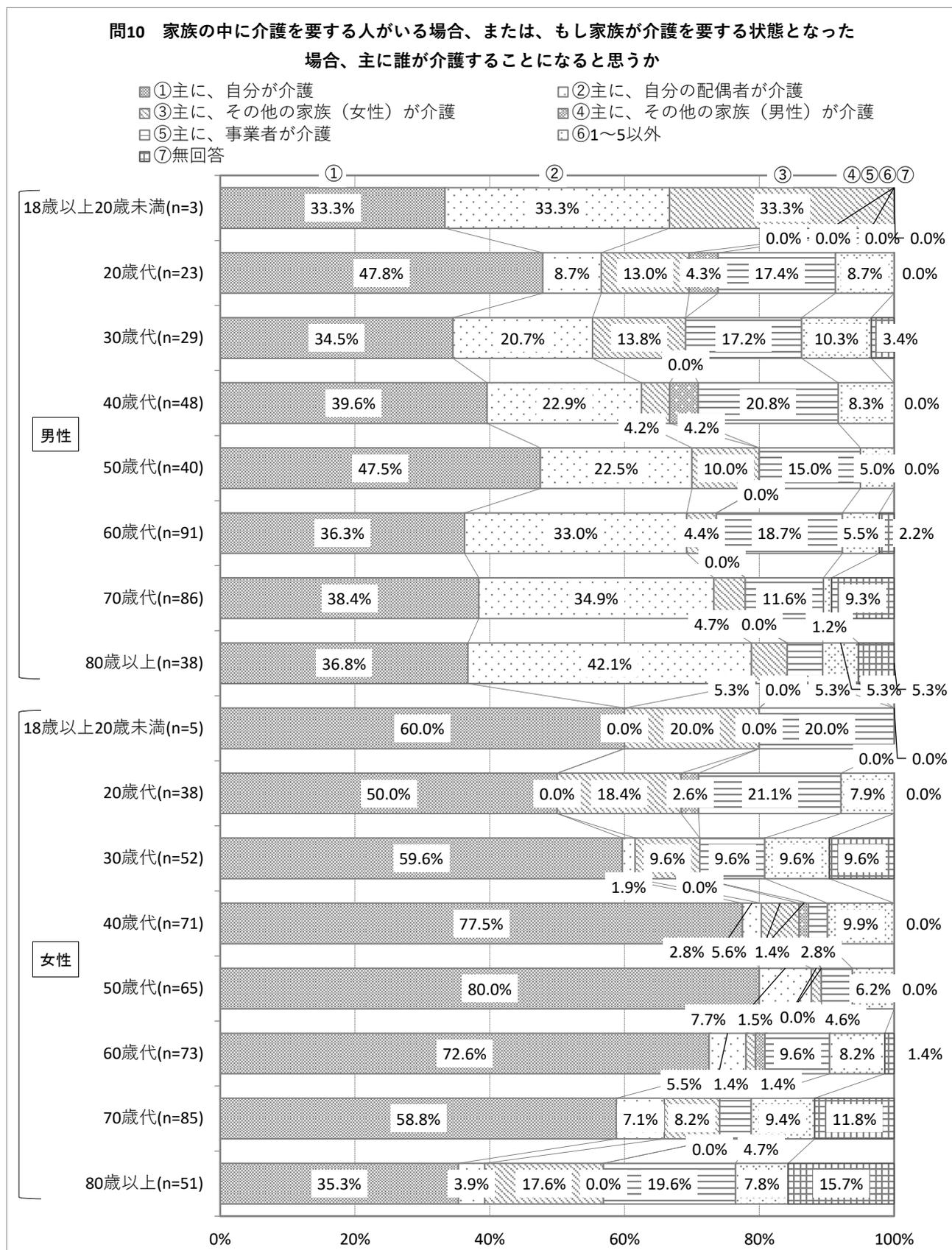
【男女比較】

性別で見ると、女性では「主に、自分が介護」と答えた人の割合が63.9%で最も高い。男性では、「主に、自分が介護」が39.0%、「主に、自分の配偶者が介護」が29.5%となっている。



【年代比較】

男性では、「主に、自分が介護」と回答した割合は、20歳代、50歳代で約5割と高い。女性では、40歳代から60歳代で約8割となっている。男女ともに、20歳代、30歳代で「主に、その他の家族（女性）が介護」と回答した割合が高い。



【問 10-6 上記 1~5 以外の回答の回答】

自分+配偶者

- ・ 2人が力を合わせることになる。(50 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・ 配偶者と自分 (70 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・ 主として自分と配偶者で介護 (80 歳以上・男・無職)
- ・ 半々で行いたい。自分と配偶者 (40 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・ 自分と配偶者 (40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・ 夫と共にする (70 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))

自分+事業者

- ・ 自分と介護事業者 (60 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))

夫婦+事業者

- ・ 夫婦と事業者 (60 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・ 事業者+夫婦二人でやっています。(50 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))

誰が介護を要する状態になるかによる

- ・ 要介護者が男か女かにもよる。女性であれば女性がやる方が本人の為になる部分がある。(40 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・ 自分が要介護になったら配偶者、配偶者が要介護となれば自分、子供が要介護となれば配偶者 (40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・ 誰が介護を要するかによる (50 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・ 誰が介護されるかによる。(30 歳代・女・自営)
- ・ 夫の場合施設に入れる。介護しない。子どもの場合自分ができる範囲で介護する。必要があれば専門の方に任せる。(30 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))

状況によって決める

- ・ 配偶者と相談し、状況に応じて決める (30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・ 共働きのため、お互い協力できる分担を決めると思われる為、現在は不明。(30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・ 状況による。(30 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

そのときにできる人が行う

- ・ 出来る者がする (60 歳代・男・無職)
- ・ その時にできる人 (30 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

ひとり暮らし

- ・一人暮らし（80歳以上・女・無職）
- ・介護する対象者がいない（同居人なし）（60歳代・女・無職）
- ・ひとり暮らし（50歳代・男・自営）
- ・ひとり暮らしなのでしない（60歳代・男・無職）

わからない

- ・わからない（70歳代・女・無職）
- ・分からない（40歳代・女・臨時（フルタイム勤務だが一時的なもの））
- ・先のことは分からない（50歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・その時の状態にならないとわからない（70歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・まだわからない（60歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・わからない（40歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・その時にならなければわからない（70歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・わからない（40歳代・男・常勤（正社員・正職員））

その他

- ・息子達夫婦（80歳以上・女・自営）
- ・子供（80歳以上・女・無職）
- ・家族が手分けして行なう。（60歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・半分ずつ受けもつ。（70歳代・女・無職）
- ・協力する（40歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・主は配偶者であるが、自分も積極的行うつもりである。もちろん事業（公的サービス）も使いながら。（60歳代・男・臨時（フルタイム勤務だが一時的なもの））
- ・事業者に頼りつつ家族でできる者が介護する（60歳代・女・自営）
- ・手が空いている人（30歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・それぞれ（30歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・今は家族が有るが老人のため後には事業者が介護（80歳以上・男・自営）
- ・主に自分がしようと考えているが、きょうだいも手伝ってくれると思う（20歳代・女・学生）
- ・地域住民（20歳代・男・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・兄弟（20歳代・女・常勤（正社員・正職員））

感想

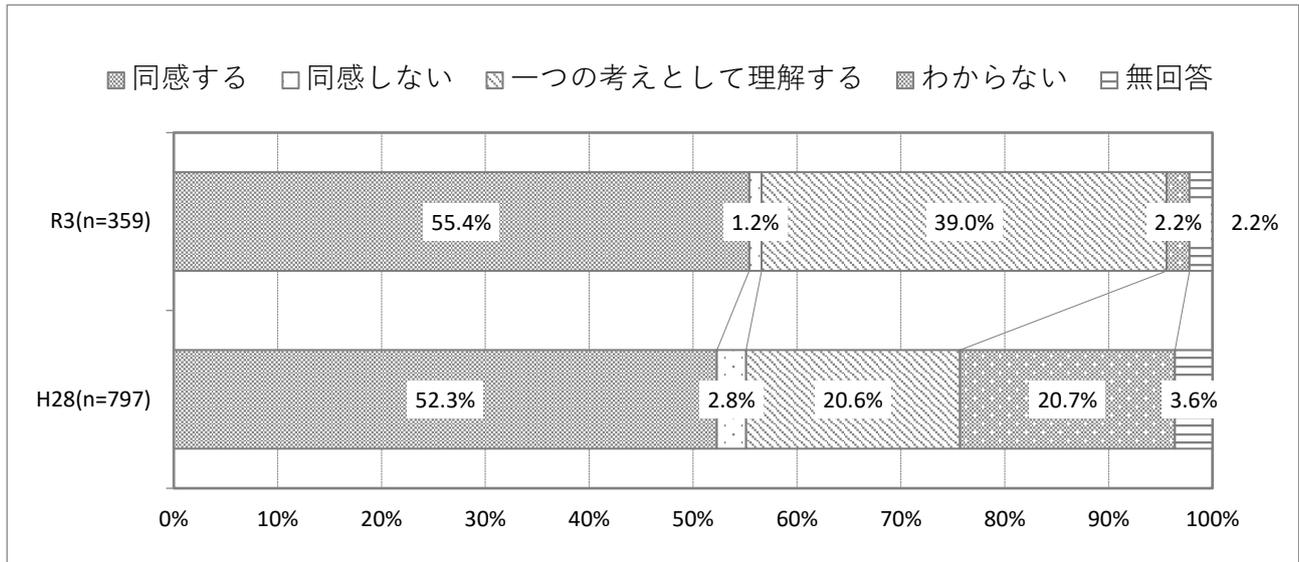
- ・40代の時、脳こうそくで失語症と右半身不随で約八年闘病生活をしていまして、盆・暮れには家政婦さん（寝泊り）で約一週間家での生活を昔にしていました。（70歳代・女・無職）

問 1 1 「男性はもっと家事、育児、介護や地域・社会活動に参画する必要がある」という考え方もありますが、あなたはこの考え方をどう思いますか。

【経年比較】

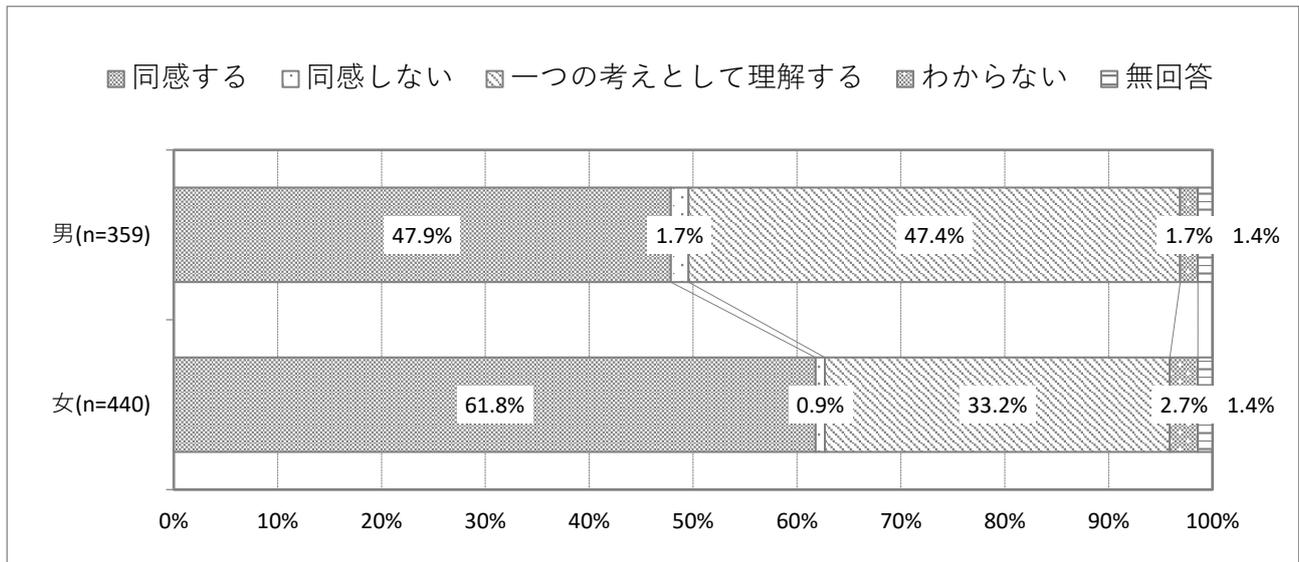
「同感する」と答えた人の割合が 55.4%と最も高く、「同感しない」と答えた人の割合は 1.2%である。「一つの考えとして理解する」と答えた人の割合は 39.0%である。

前回調査と比較してみると、「一つの考えとして理解する」と答えた割合が 18.4 ポイント増加している。



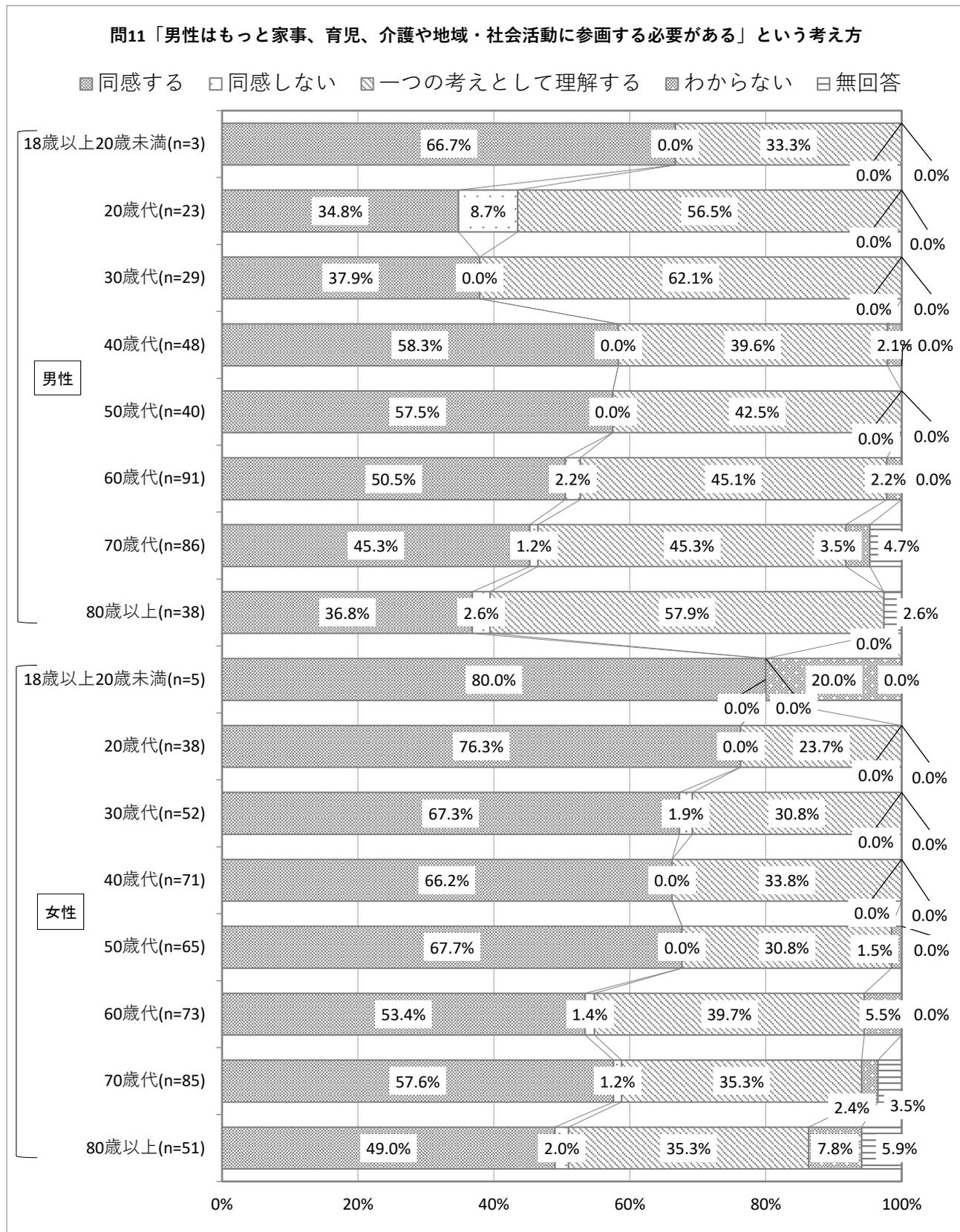
【男女比較】

性別でみると、男性では「同感する」47.9%に対して、女性では「同感する」61.8%と割合が高い。



【年代比較】

男女ともに、18歳以上20歳未満で「同感する」と答えた人の割合が、各年代の中で最も高い。男性では、20歳代で「同感しない」と答えた人の割合が8.7%と高い。



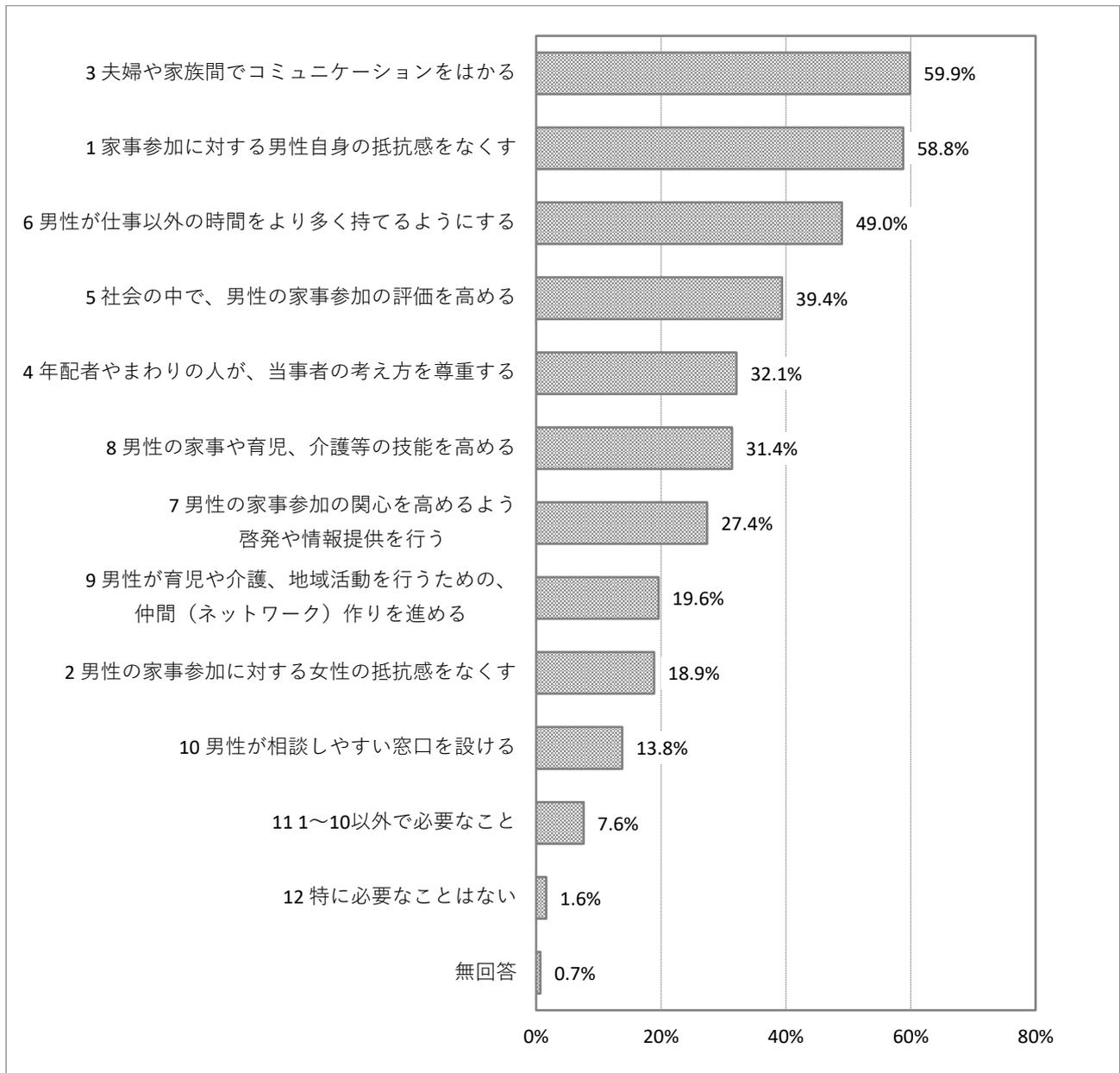
【問11で「同感する」と答えた方に伺います】

問12 今後、男性が女性とともに家事、育児、介護、地域・社会活動に積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたが思うものを5つ以内で選んでください。

- 1 家事参加に対する男性自身の抵抗感をなくす
- 2 男性の家事参加に対する女性の抵抗感をなくす
- 3 夫婦や家族間でコミュニケーションをはかる
- 4 年配者やまわりの人が、当事者の考え方を尊重する
- 5 社会の中で、男性の家事参加の評価を高める
- 6 男性が仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 7 男性の家事参加の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 8 男性の家事や育児、介護等の技能を高める
- 9 男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りを進める
- 10 男性が相談しやすい窓口を設ける
- 11 上記1～10以外に必要なこと
- 12 特に必要なことはない

【全体 (n=449)】

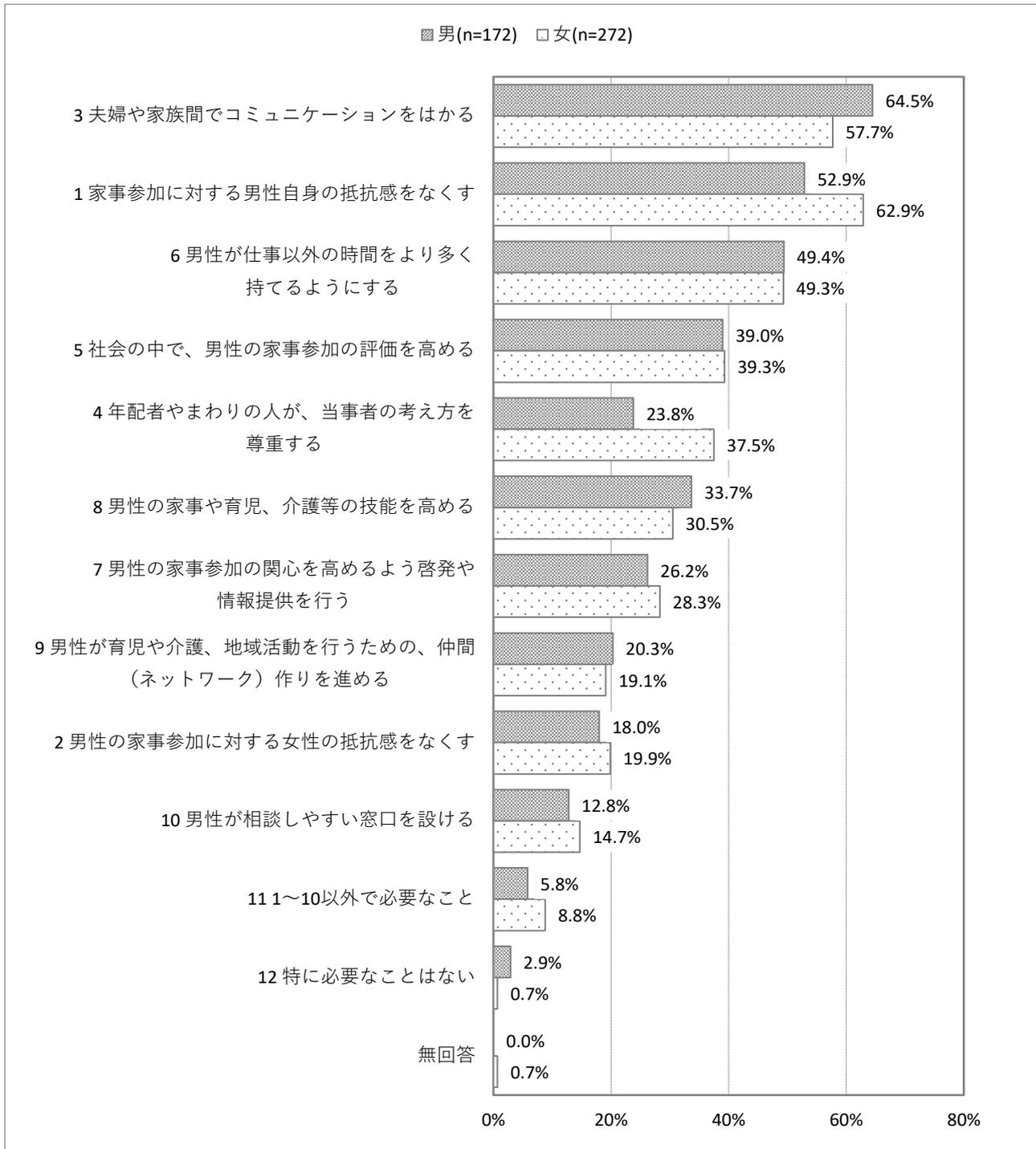
「夫婦や家族間でコミュニケーションをはかる」と答えた人の割合が 59.9%と最も高く、次に「家事参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」が 58.8%である。



【男女比較】

男性では、「夫婦や家族間でコミュニケーションをはかる」64.5%と答えた人の割合が最も高く、次に「家事参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」52.9%、「男性が仕事以外の時間をより多く持てるようにする」49.4%である。

女性では、「家事参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」62.9%と答えた人の割合が最も高く、次に「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」57.7%、「男性が仕事以外の時間をより多く持てるようにする」49.3%である。



【問 12-11 上記 1～10 以外で必要なことへの回答】

職場の状況を変えること

- ・男女共に休みをとれる環境であること（50 歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・5 につながりますが、勤務先の風土（50 歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・職場（会社）の理解（50 歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・7 番を義務化し会社に罰則（40 歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・男性が育児に参加することへの職場の理解（30 歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・男性の職場で理解を広める（20 歳代・女・常勤（正社員・正職員））

教育をすること

- ・家庭科など子供の授業で料理・せんたく等教える。（30 歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・親の教育のしかたを変える必要と思う。私の子供時代は親から女はこうあるべき等教えられた。又主人は昔からの女性感を持っている様だ。だから親の看護は主に女性がする物と思っている。（80 歳以上・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・教育（50 歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・小さい頃から教えていくことが大切だと思う。（40 歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・意識がもてる・変わるように、小さい頃から男性を教育する（40 歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・学校教育。幼、小、中、高と男女平等・対等という考えが自然に身につくようにする。（60 歳代・男・臨時（フルタイム勤務だが一時的なもの））
- ・自分のできる事をしてもらおうという甘い考えがあたりまえじゃないと教える《教育》（40 歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・幼少期の家庭教育（50 歳代・女・常勤（正社員・正職員））

固定観念を改めること

- ・男はこうあるべきという古い概念を改める。（60 歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・男性が幼い時から家事に参加する。（50 歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・家事や育児に参加するというより 2 人で（夫婦）で育てるのがあたりまえ（自然に）（60 歳代・女・職業不明）
- ・男性の意識改革（40 歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・男性が女性の仕事と思っている意識を変える。育児や家事について責任を持ち、男女平等の考えをもつ。（30 歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・そもそも考え方が甘いと思う。生きていたら、料理や家事は必要で、それを他人にしてもらってあたりまえと考えている男性が幼稚すぎる。（40 歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・男子を育てる母親の固定観念を外し、小さいうちから家事を教える。専業主婦の母親を持つ男子の方が家事能力が低い傾向があると思う。（50 歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・家事や育児を男性もすることが当たり前、という常識ができること（20 歳代・女・常勤（正社員・正職員））

環境を整備すること

- ・本当にすすめたいのであれば、達成目標を決め、達成することを義務化するくらいの必要性がある。(30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・男女平等を、法的観点で整備する。年金制度等、法自体が不平等。環境を整備しないと、アクションにつながりにくい。(60 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

意識を変えること

- ・男女関係なく、当事者意識をもつ (30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・持ち場、立場を互いに尊重する。(70 歳代・男・無職)

その他

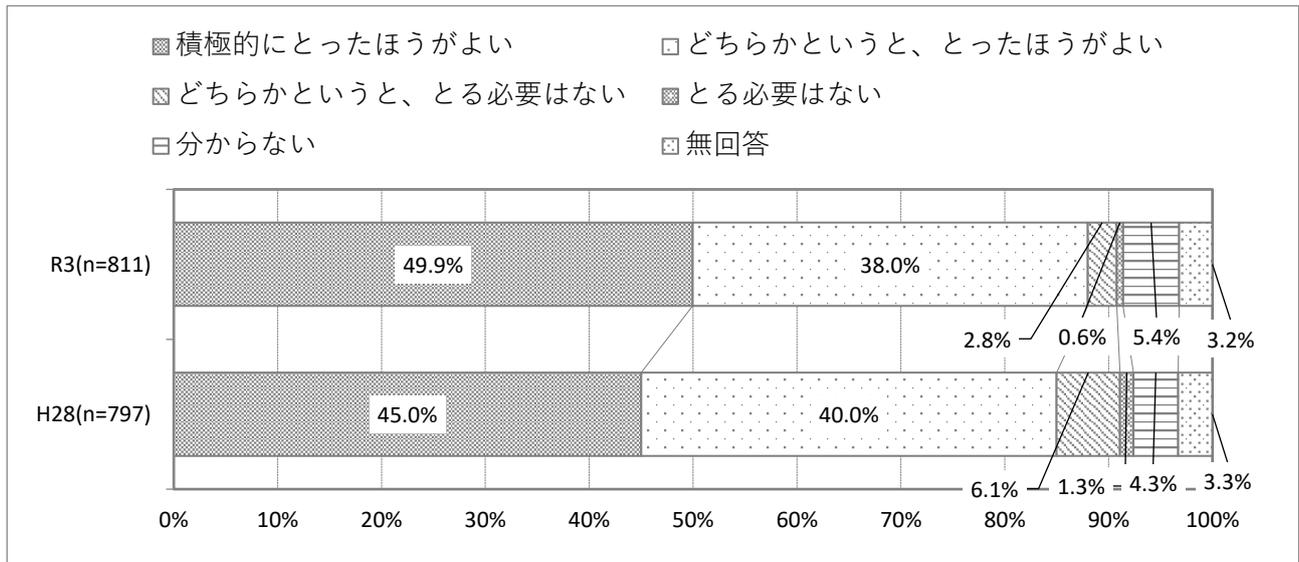
- ・自然に (70 歳代・男・無職)
- ・家庭ごといろいろな考えがあるから (50 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・自分に出来る事は自分で。(80 歳以上・男・無職)
- ・ひとり暮らしなのでやらざるを得ない (50 歳代・男・自営)
- ・家事は電化製品の充実でほとんど賄えます。全自動洗濯乾燥機、食器洗浄乾燥機、自動掃除機、自動床拭き機、自動調理器具。お風呂は塩素をまくだけです。電化製品があれば家事は楽だということを知ることが重要だと思います (30 歳代・女・自営)

問13 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。男性が、このような仕事と育児や家族の介護の両立を支援する制度を活用することについてどう思いますか。

【全体】

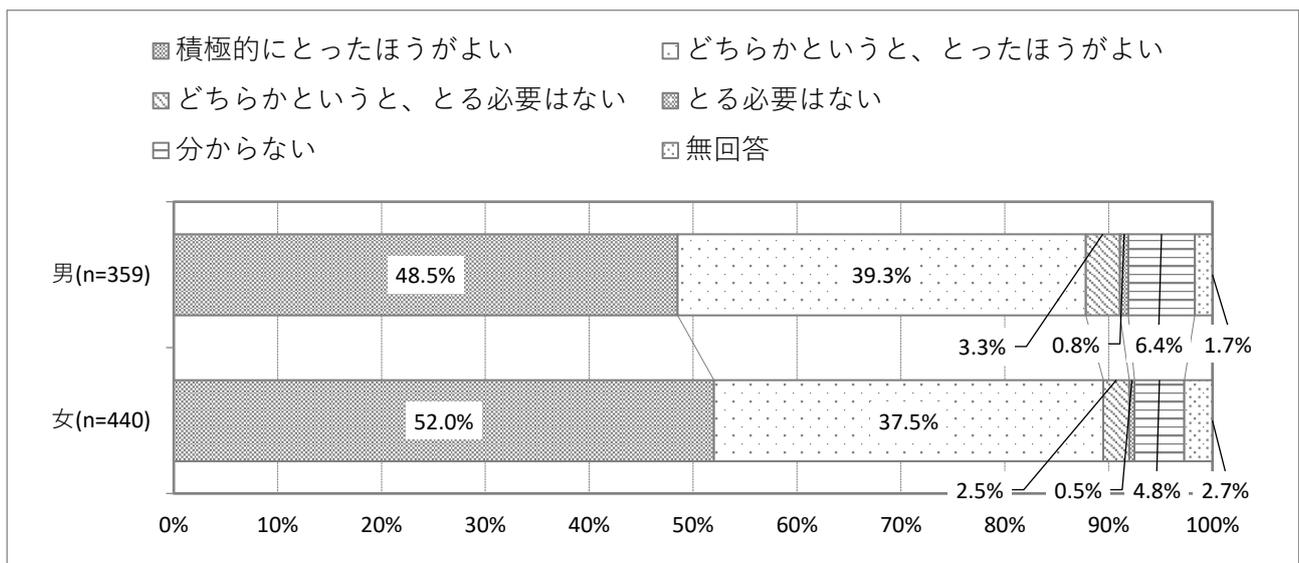
全体では、「積極的にとったほうがよい」と答えた人の割合が49.9%と最も高く、次に「どちらかという、とったほうがよい」が38.0%である。

前回調査と比較してみると、「積極的にとったほうがよい」と答えた人の割合が4.9ポイント増加している。



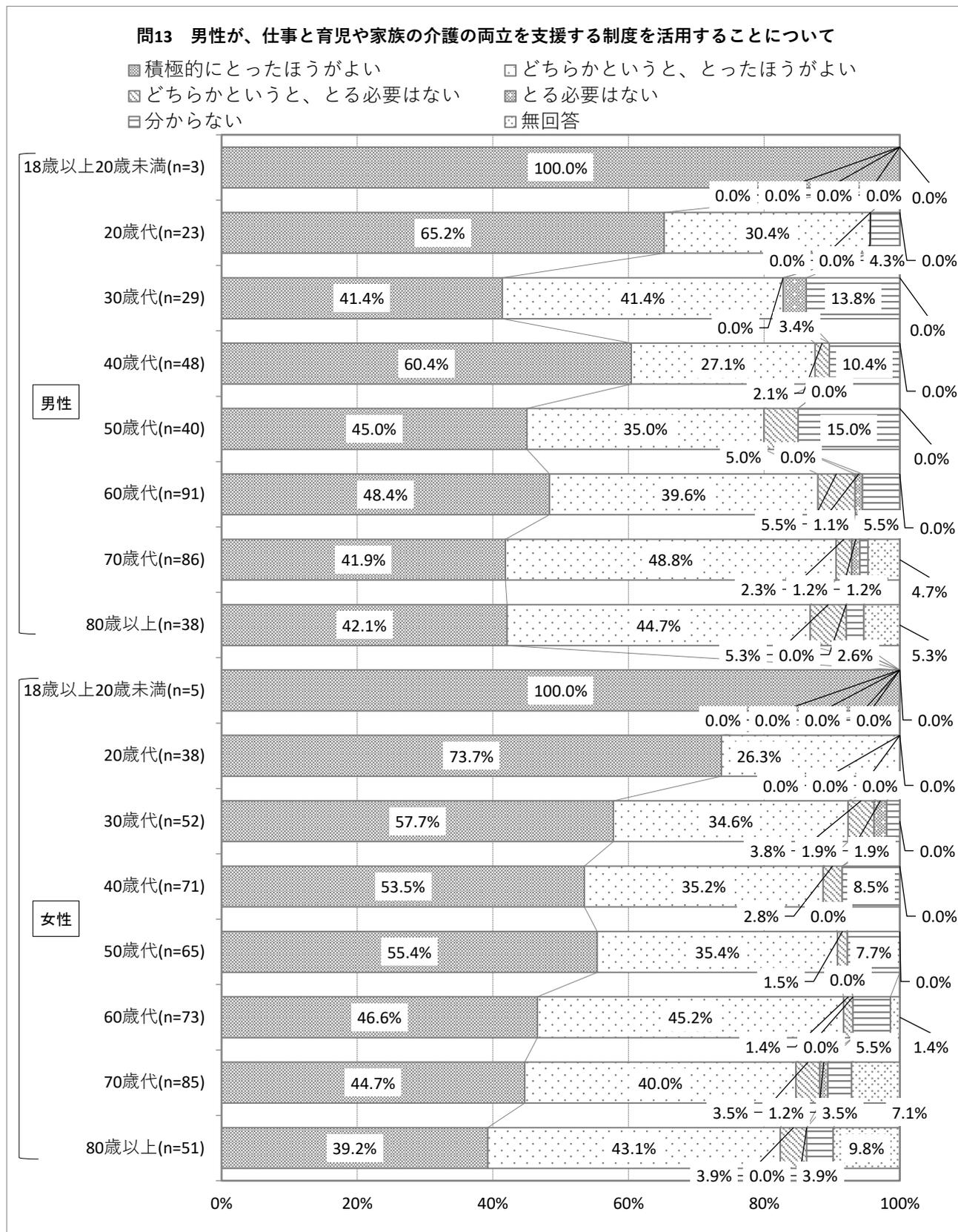
【男女比較】

性別でみると、「積極的にとったほうがよい」と答えた人の割合は女性の方が少し高い。



【年代比較】

「積極的にとったほうがよい」と回答した割合は、男女ともに18歳以上20歳未満が100.0%で最も高い。男性では、20歳代、40歳代が約6割である。女性では、高齢になるにつれて、「積極的にとったほうがよい」と回答した割合が概ね減少している。

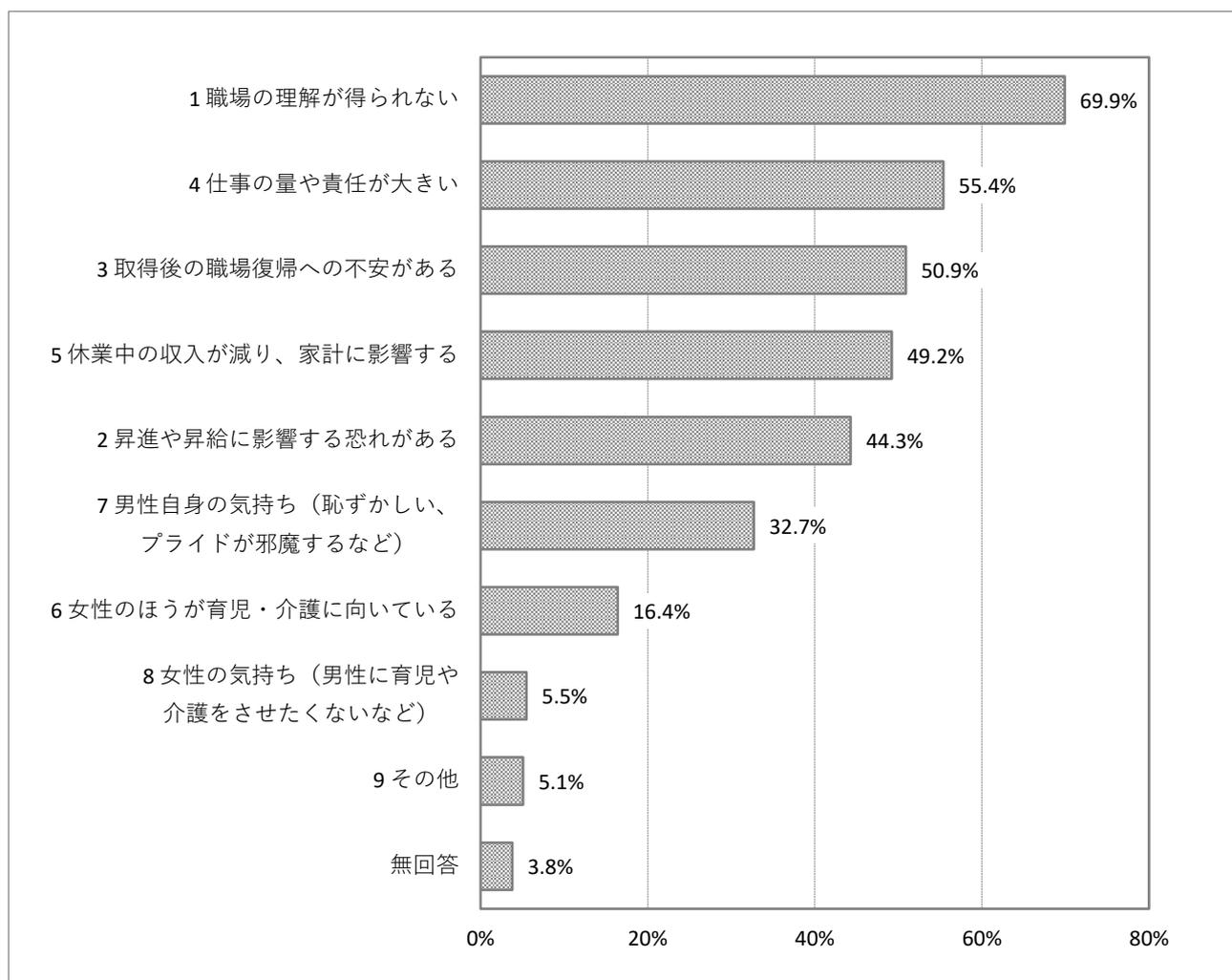


問14 育児休業・介護休業・子の看護休暇をとる男性が少ない状況にあります。その理由は何だと思いますか。次の中からあなたが思うものを5つ以内で選んでください。

- 1 職場の理解が得られない
- 2 昇進や昇給に影響する恐れがある
- 3 取得後の職場復帰への不安がある
- 4 仕事の量や責任が大きい
- 5 休業中の収入が減り、家計に影響する
- 6 女性のほうが育児・介護に向いている
- 7 男性自身の気持ち（恥ずかしい、プライドが邪魔するなど）
- 8 女性の気持ち（男性に育児や介護をさせたくないなど）
- 9 その他

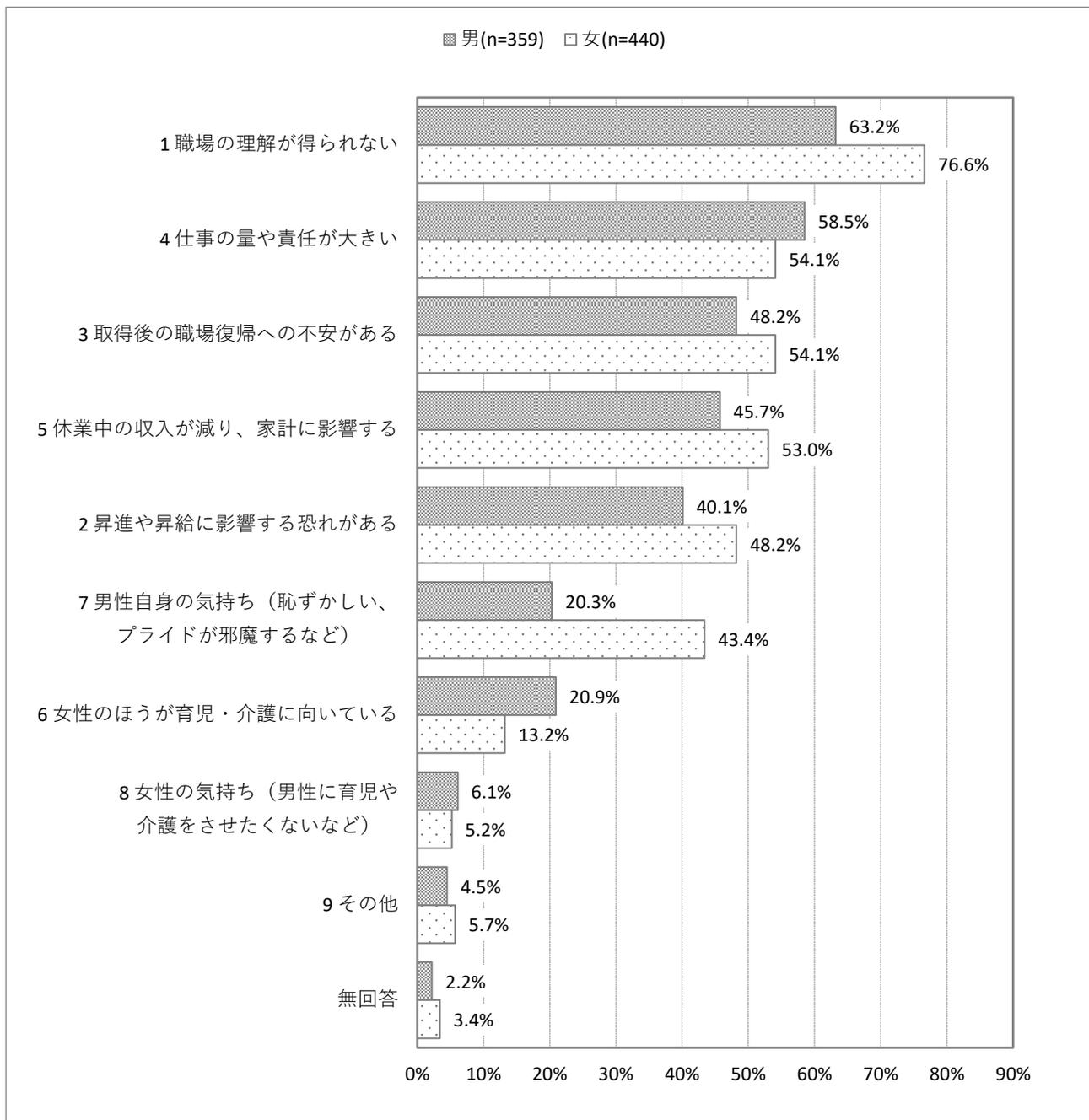
【全体 (n=811)】

全体では、「職場の理解が得られない」が69.9%と最も高く、次に「仕事の量や責任が大きい」55.4%、「取得後の職場復帰への不安がある」50.9%、「休業中の収入が減り、家計に影響する」49.2%、「昇進や昇給に影響する恐れがある」44.3%となっている。



【男女比較】

男女ともに、「職場の理解が得られない」と答えた人の割合が高く、男性 63.2%、女性 76.6%である。次に、「仕事の量や責任が大きい」「取得後の職場復帰への不安がある」となっている。「男性自身の気持ち」と答えた人の割合が男性 20.3%に対して、女性 43.4%で、女性の方が高い。



【問 14-9 その他の回答】

職場で前例がない・少ない

- ・取得してる男性職員が少数であること。(30 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・前例がないと休暇をとるのは立場が下なほどやりにくい。職場の上の立場の人ほど積極的に取るべき。(30 歳代・女・自営)
- ・まわりに事例がない (30 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

職場の人手不足

- ・交替要員がない (70 歳代・男・臨時 (パートタイム勤務))
- ・休業中・復帰後の人員問題 (70 歳代・男・無職)
- ・小企業には、人手の問題 (50 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・取れる環境ではないスタッフ人数など (40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

職場で他の人の負担になる

- ・簡単に仕事を引きつけない (40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・他の方への負担が掛る (70 歳代・男・臨時 (パートタイム勤務))
- ・他のメンバーに負担がかかることの心配 (60 歳代・男・無職)

その他 (職場の問題)

- ・企業への手当て (補助・助成金 etc.) (40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・職場での意識づくりの欠如がある。毎年、職場から休業・休暇についての説明をくり返し、取得しやすい状況を作る意識づくりをしていくことで、「恐れ」や「不安」が少なくなっていくと思う。
(60 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・休みやすい職場かどうか。ヒマな会社は休んでも平気だと思う。NTT とか。(50 歳代・女・臨時 (フルタイム勤務だが一時的なもの))

男性の意識の問題

- ・大変だからやりたくない。子育てが大変だと認識しているからこそにげている。(50 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・男性自身が何をしたら良いかわからない為。(50 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・男性自身の気持ちとして、「やりたくない」「妻にまかせたい」「自分の役割ではない」という当事者意識の低さ (30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・男性が自分に向いていないと逃げている。または女性に押しつけている。(50 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・男性自身が他人事だと思っている。必要性を理解していない (男性自身も周囲も)。(30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))

- ・男性の「とりたくない、やりたくない、できればめんどうなことは相手にしてほしい」という気持ち。多分、仕事の方が楽だから。昔からの「男は仕事、女は家庭」にそういう時だけのっかっている気持ち。都合が悪い時仕事があるからと逃げる気持ち。(40歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・男性自身にそのつもりがない(50歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・女がするものだと思っている男性が多い。自分の子どもでしょ!?自分の親でしょ!?自立できていない男性が多い。(40歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・本人次第。休暇がとれないのなら他の時間を使えば良い。自分はそうした。(40歳代・男・常勤(正社員・正職員))
- ・世間的に男性の場合少し抵抗感があるのでは…でも「男女参画」の時代なので世間一般が考え方を考える必要があるのでは…(70歳代・女・無職)
- ・男性自身が女性がするものと思い込んでいる。子どもが産まれた瞬間から女性にだけプレッシャーがかかるのはおかしい。命がけで産んだのに、そこから先窒息死しないか不安で全然寝れないのに、家で休めていいねとか言う。馬鹿なの?(30歳代・女・臨時(パートタイム勤務))
- ・配偶者等に任せておけばいいと思っている(20歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・育児、介護、子の介護、男性では、理解しづらい部分が多いと思われる。(一例 親のオムツの取り替え)(60歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))

無理にとらなくてもよい

- ・無理に実現すべきではない(80歳以上・男・自営)
- ・自分は女性だから同性が良い。(60歳代・女・常勤(正社員・正職員))
- ・女性が家庭にいれば(仕事をしていない) 必要ない(70歳代・女・無職)
- ・男性が手伝うという関係いいのでは…(70歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))

わからない

- ・わからない(70歳代・女・無職)
- ・分からない(60歳代・女・自営)
- ・わからない(80歳以上・男・自営)

その他(全体)

- ・実際に取得して役に立つかどうかの問題である(60歳代・男・常勤(正社員・正職員))
- ・そういう社会だから(50歳代・女・主婦・主夫(家族の家事を行っている人))
- ・文化(50歳代・男・常勤(正社員・正職員))
- ・乳児か幼児で対応が異なる。(30歳代・男・常勤(正社員・正職員))
- ・選択肢の全て(20歳代・女・学生)

感想

- ・私の年令から感じることは答の理解に苦しみます(80歳以上・女・無職)

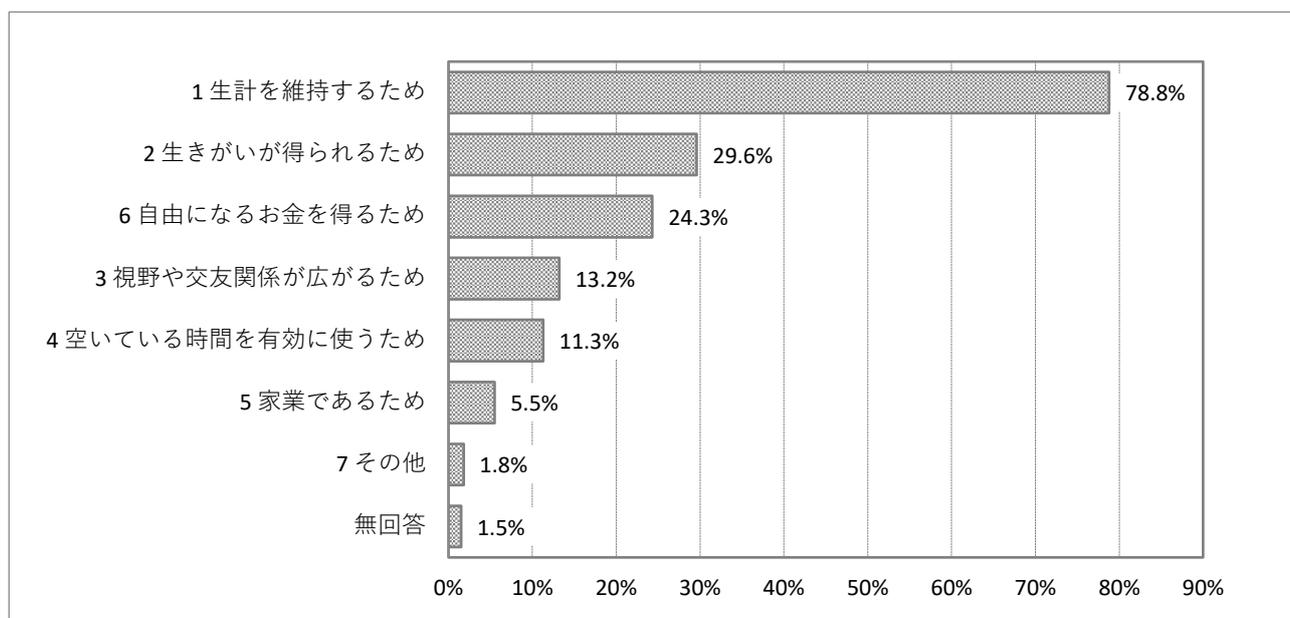
3 就労について

【現在職業をお持ちの方に伺います】

問15 あなたが仕事をしている主な理由は何ですか。2つまで選んでください。

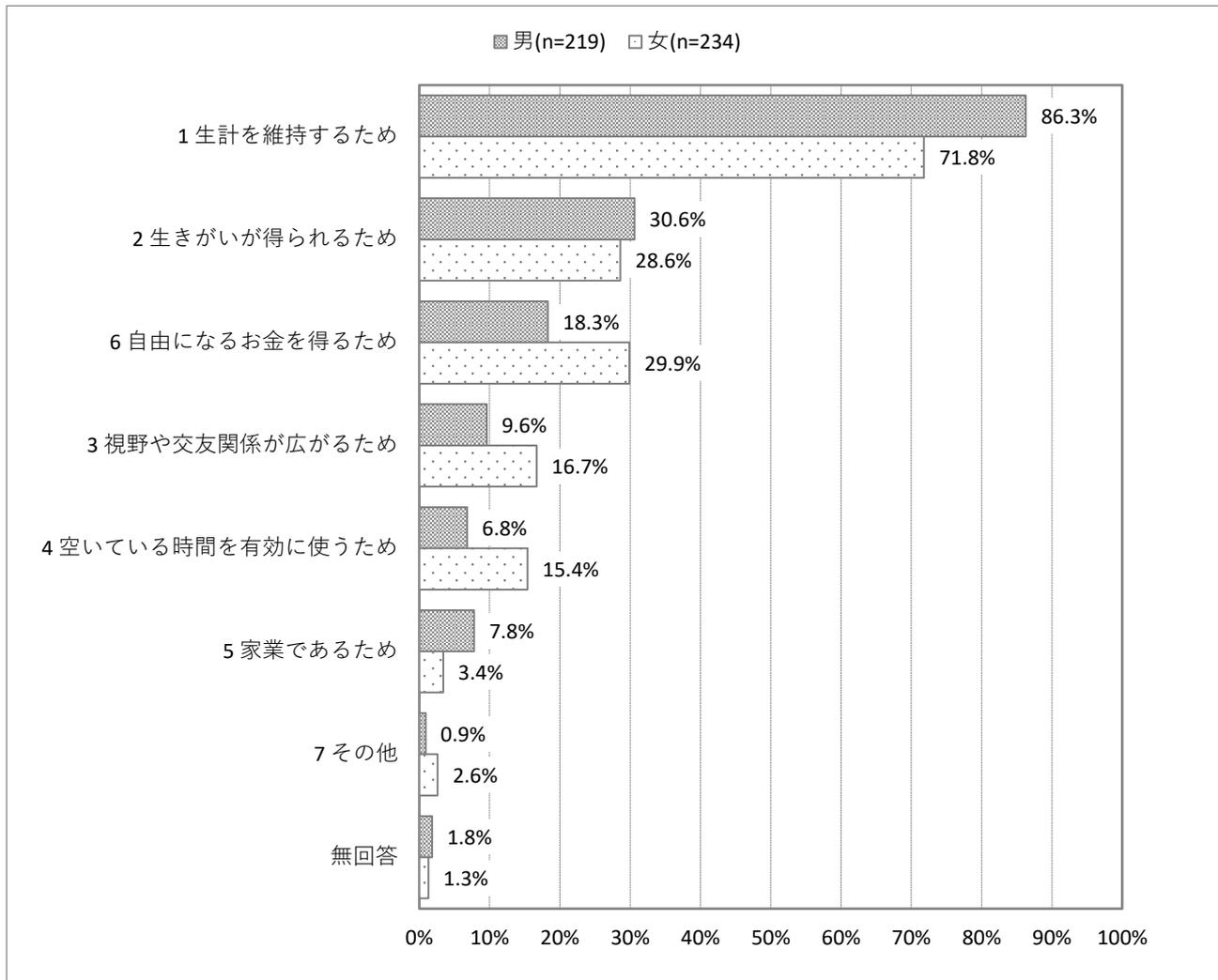
【全体 (n=453)】

「生計を維持するため」が最も多く78.8%で、次に「生きがいを得られるため」29.6%、「自由になるお金を得るため」24.3%となっている。



【男女比較】

男女ともに「生計を維持するため」と答えた人の割合が最も多く、男性 86.3%、女性 71.8%である。男性は次に、「生きがいを得られるため」30.6%、「自由になるお金を得るため」18.3%と続く。女性は次に、「自由になるお金を得るため」29.9%「生きがいを得られるため」28.6%と続く。「自由になるお金を得るため」「視野や交友関係が広がるため」「空いている時間を有効に使うため」は女性の方が、割合が高い。



【問 15-7 その他の回答】

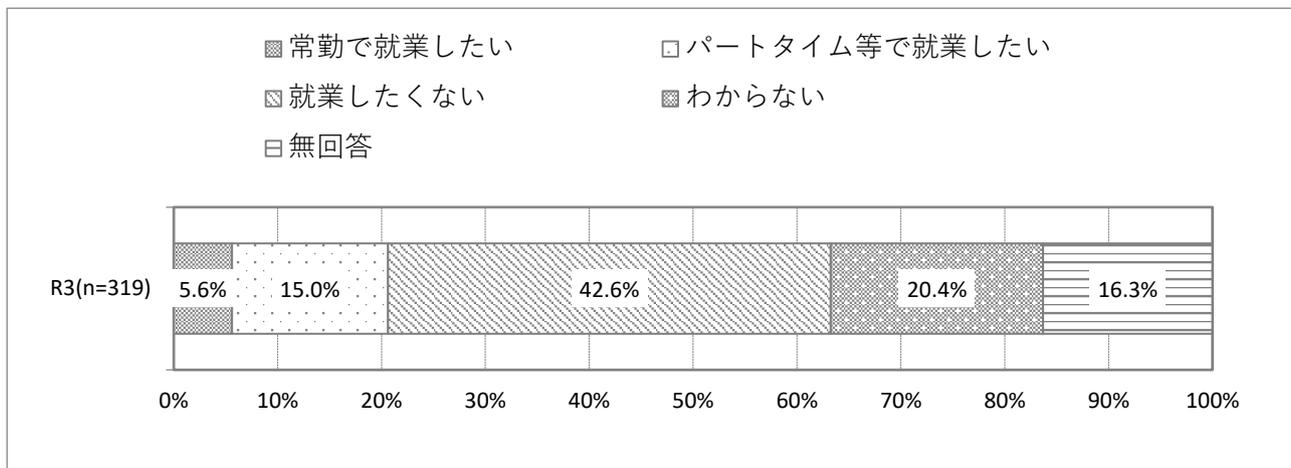
- ・認知能力低下防止 (70 歳代・男・臨時 (パートタイム勤務))
- ・子育ての為 (40 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・依頼があるから (60 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・自分にとって大切な仕事である。後継者がいない為。(60 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・健康なうちは、能力を活かせることをした方がよい。(60 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・大学で学んだことを活かすため (40 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・仕事の腕を落としたいくないため (30 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・家族のため (40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

【現在職業をお持ちでない方に伺います】

問16 あなたは、今後、仕事に就きたいと思いますか。

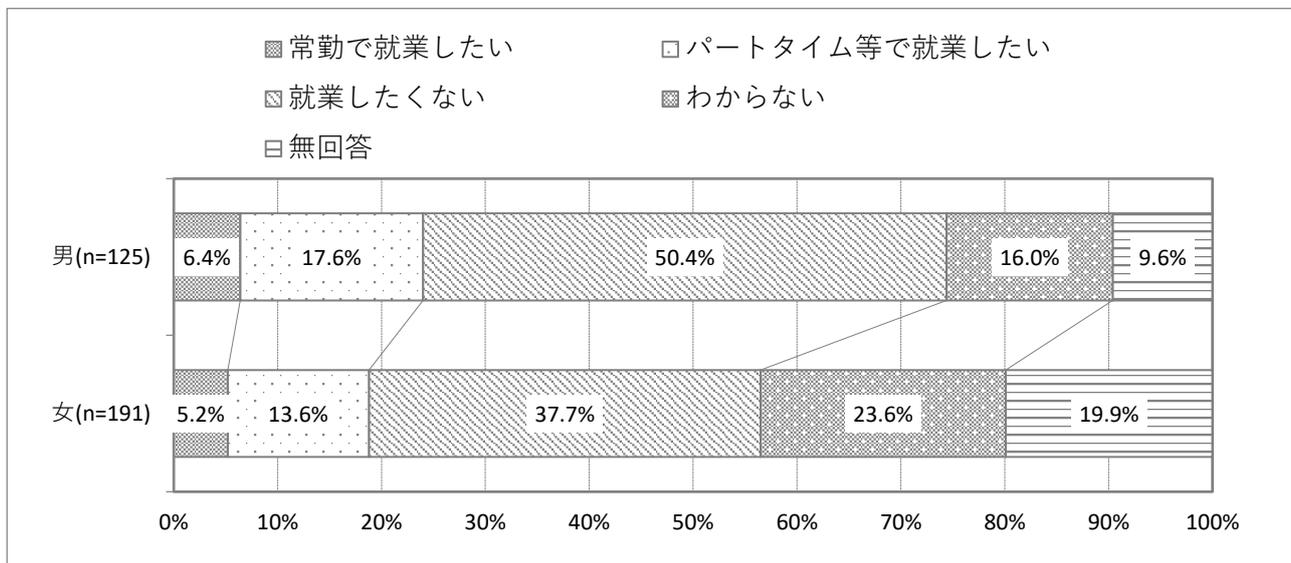
【全体】

全体では、「常勤で就業したい」5.6%、「パートタイム等で就業したい」15.0%、「就業したくない」42.6%となっている。



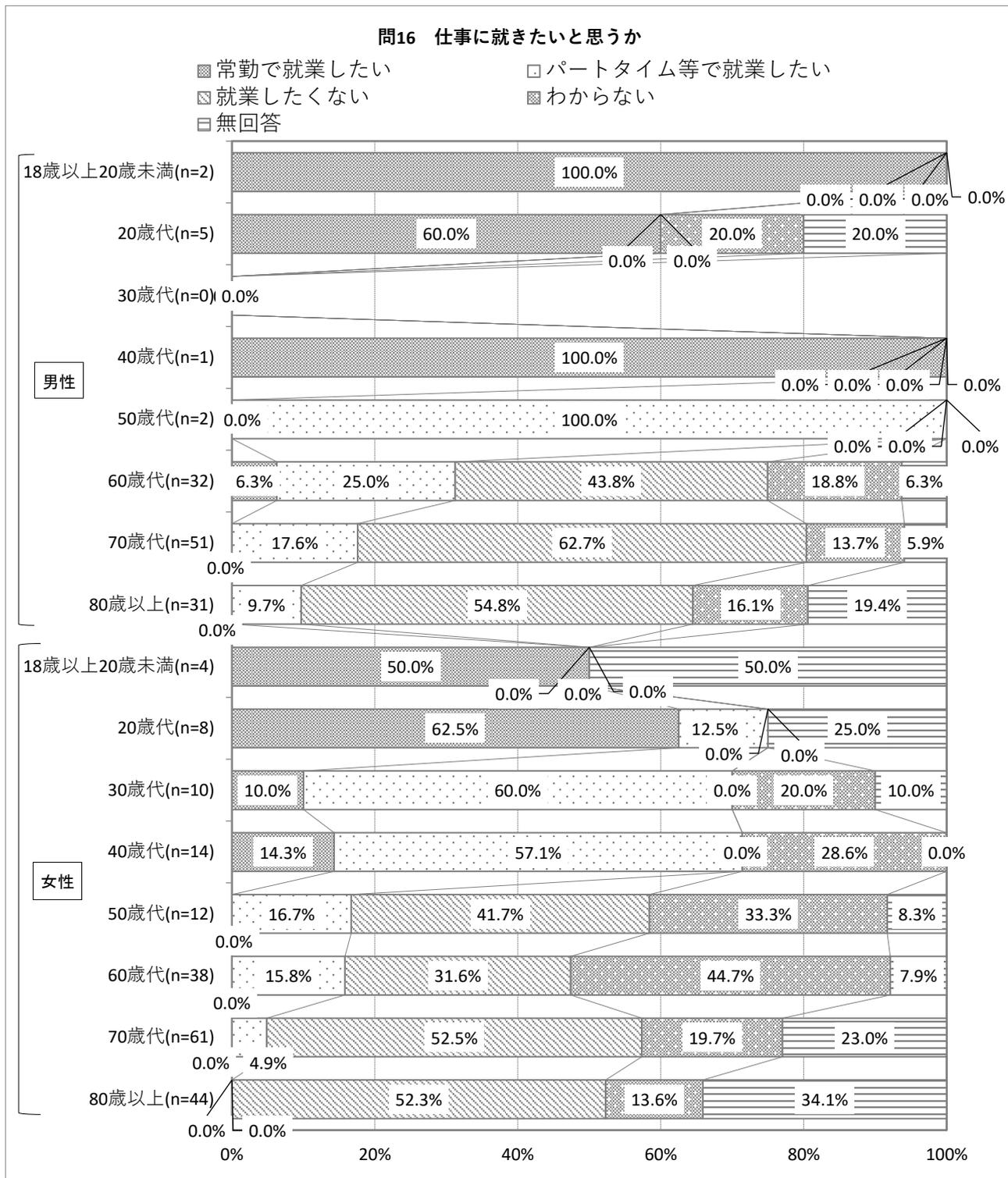
【男女比較】

性別でみると、男性では「常勤で就業したい」6.4%、「パートタイム等で就業したい」17.6%、「就業したくない」50.4%となっている。女性では「常勤で就業したい」5.2%、「パートタイム等で就業したい」13.6%、「就業したくない」37.7%となっている。男性の方が、「常勤で就業したい」で1.2ポイント、「パートタイム等で就業したい」で4.0ポイント高くなっている。



【年代比較】

男性では60歳代～80歳以上で「就業したくない」と回答した人の割合が高い。女性では、30歳代と40歳代で「パートタイム等で就業したい」と回答した割合が高く、50歳代～80歳以上で「就業したくない」と回答した人の割合が高い。



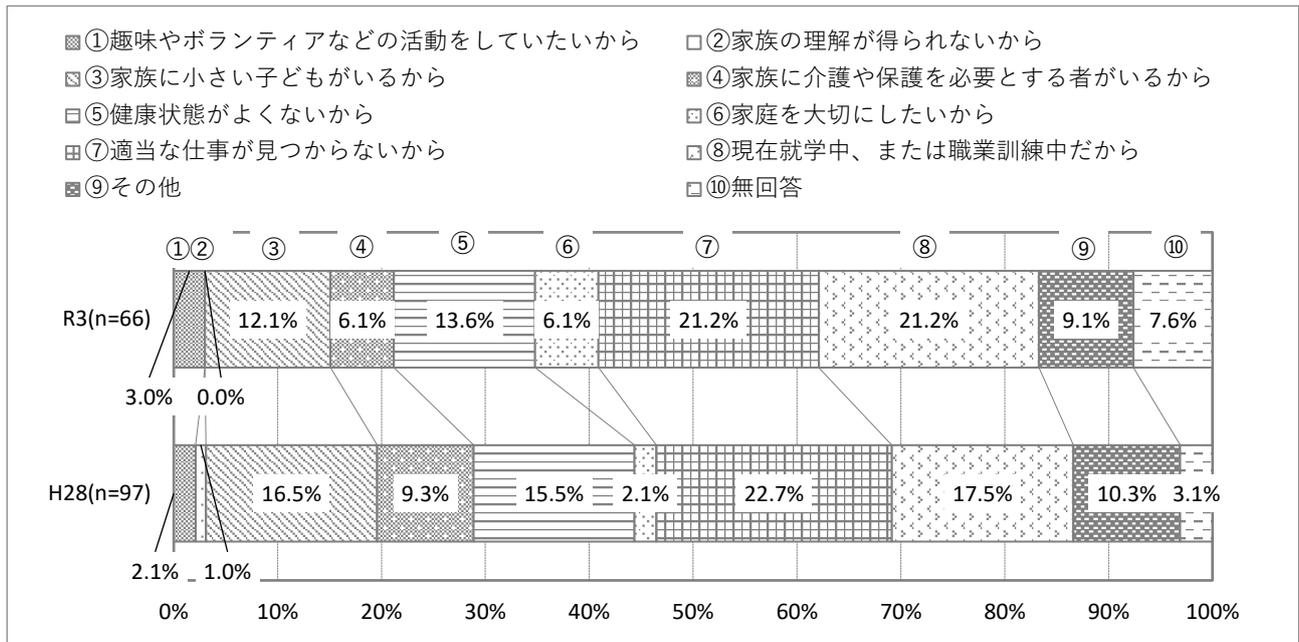
【問16で「常勤で就業したい」「パートタイム等で就業したい」と回答された方に伺います】

問17 あなたが現在仕事をされていない理由は何ですか。1つ選んでください。

【経年比較】

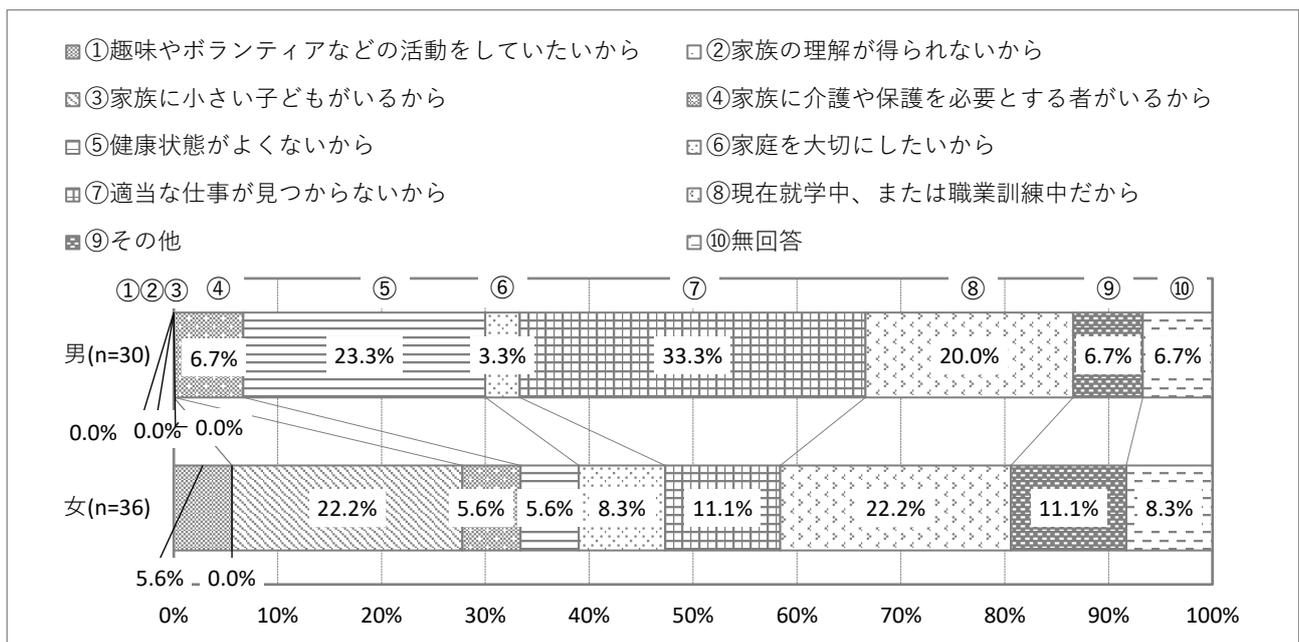
全体では、「適当な仕事が見つからないから」「現在就学中、または職業訓練中だから」が21.2%で最も高い。

前回調査と比較してみると、「家族に小さい子どもがいるから」が4.4ポイント減少し、「現在就学中、または職業訓練中だから」が3.7ポイント増加している。



【男女比較】

「適当な仕事が見つからないから」と答えた人は、男性33.3%、女性11.1%で、男性の方が22.2ポイント高い。「家族に小さい子どもがいるから」と答えた人は、男性0.0%、女性22.2%で、女性の方が22.2ポイント高い。



【問 17-9 その他の回答】

年齢

- ・ 年令制限 (70 歳代・男・無職)
- ・ 年令オーバー (70 歳代・女・無職)

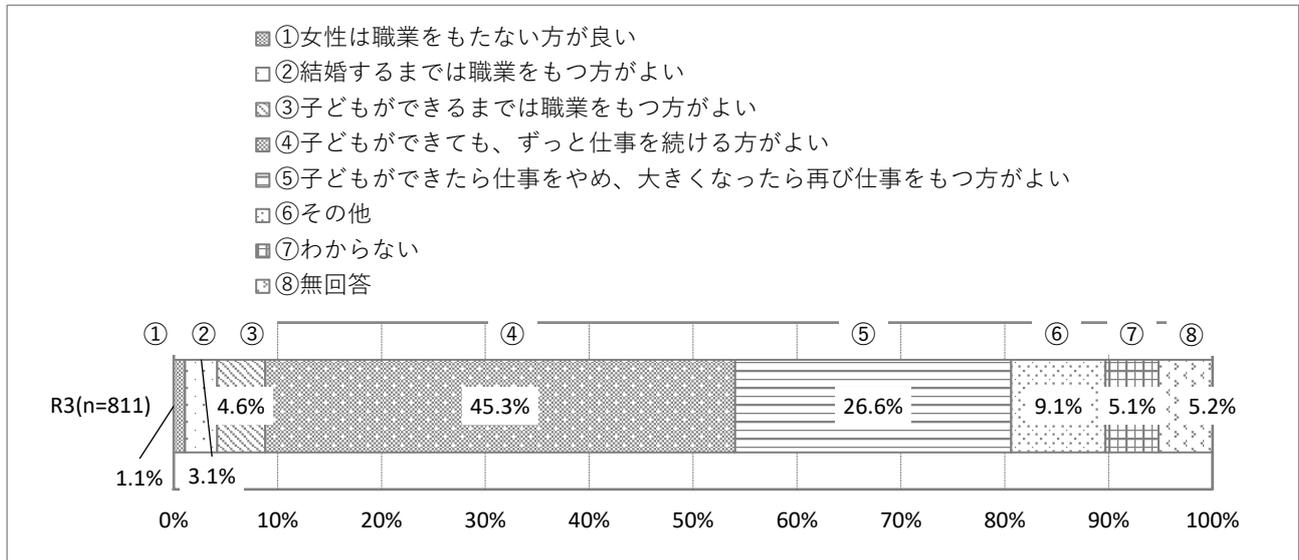
その他

- ・ 保育園に空きがないから (40 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・ 今後就学予定 (60 歳代・男・無職)
- ・ 子供の通院、自身も通院中のため、安定しないので (30 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・ コロナ禍でちゅうちょしている。(60 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・ 習い事の送迎・家事育児において夫の協力を得る事はできない為 (長時間勤務で)。自分が仕事を持つ負担が大きすぎる。(30 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・ 妊活中だから (30 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・ 年金受給のため (60 歳代・男・無職)

問18 あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どう思いますか。1つ選んでください。

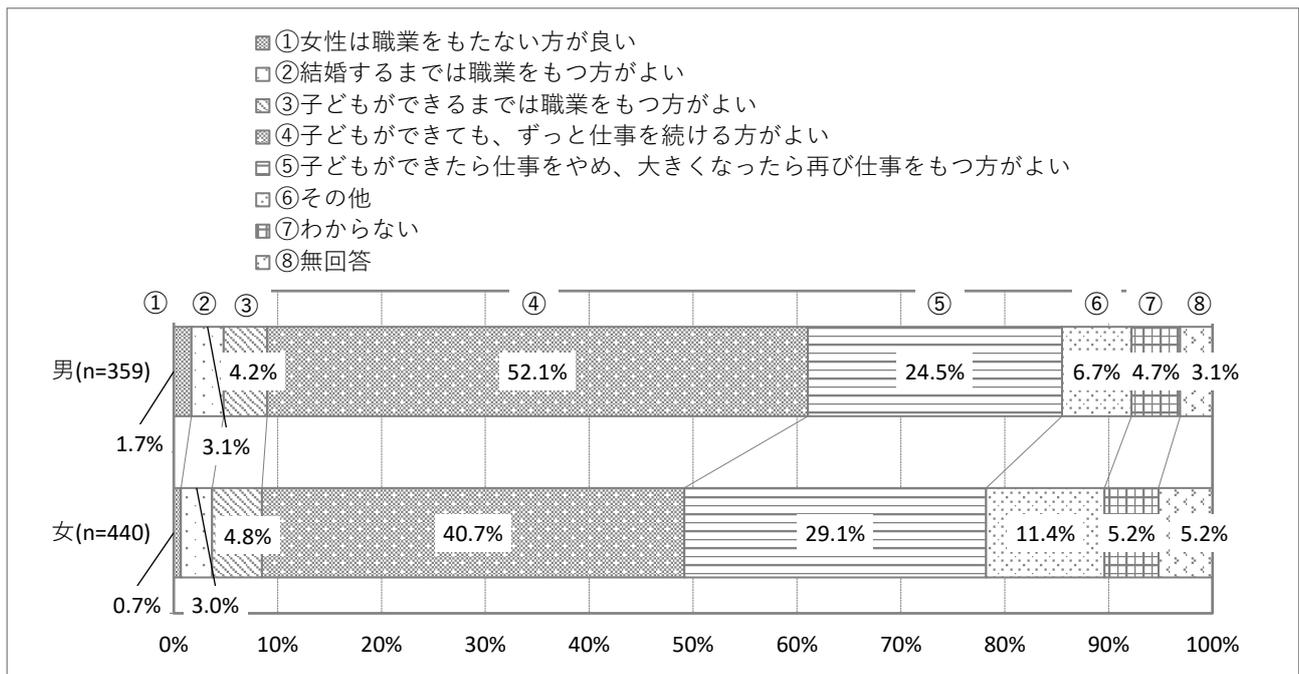
【全体】

全体では、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」と答えた人の割合が45.3%と最も高い。次に、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が26.6%となっている。



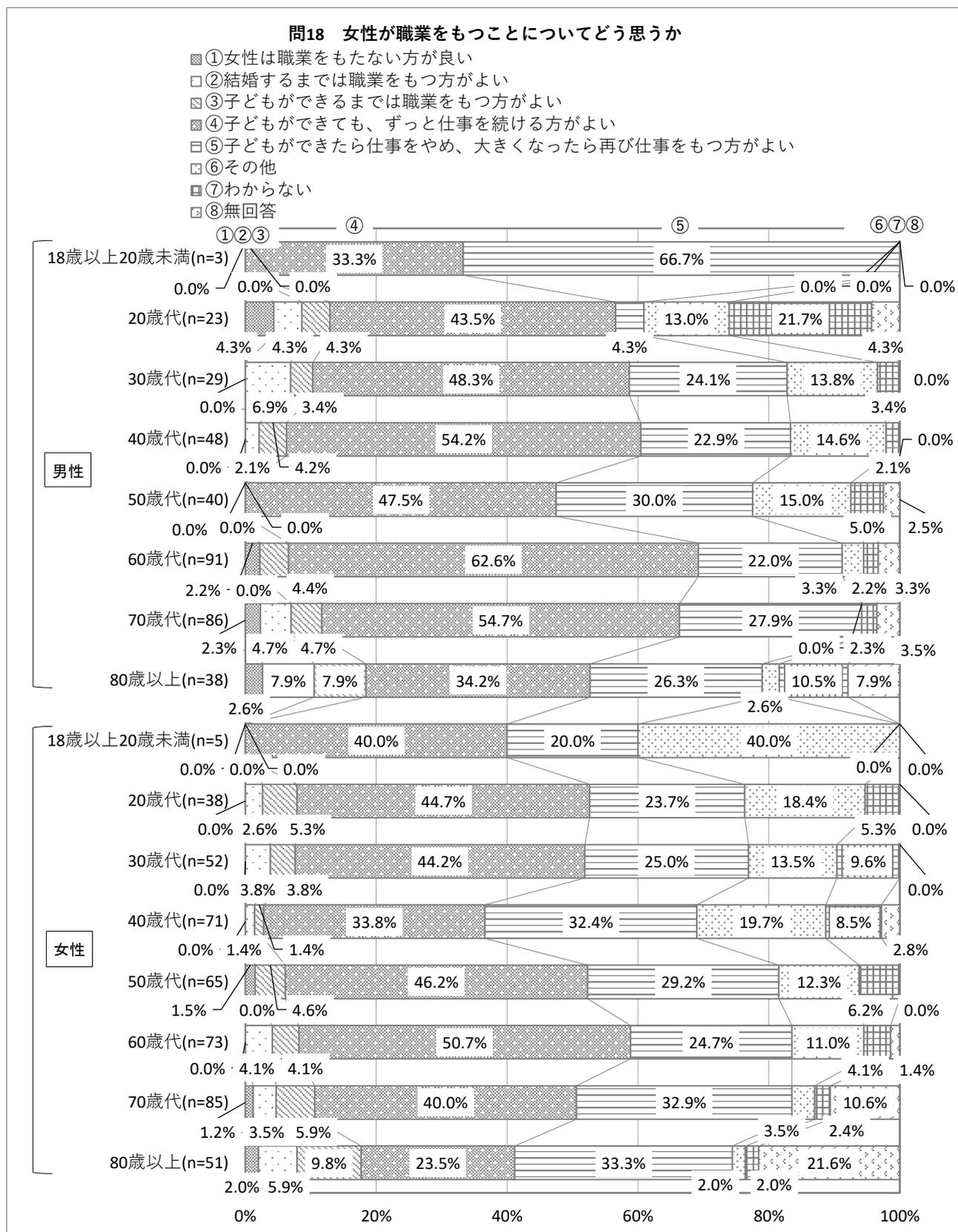
【男女比較】

性別でみると、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」と答えた人の割合は、男性52.1%、女性40.7%で、男性が女性を11.4ポイント上回っている。「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」と答えた人の割合は、男性24.5%、女性29.1%で、女性が男性を4.6ポイント上回っている。



【年代比較】

男女ともに、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」と回答した割合が最も高いのは60歳代である。80歳以上では、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」「子どもができるまでは職業をもつ方がよい」と回答した割合が、他の年代に比べて高い。



【問 18-6 その他の回答】

人それぞれ自由でよい

- ・人それぞれの考えと思う。(30 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・個人の意志を尊重する (50 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・考え方による (60 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・好きなようにしたらよい。どのような道もえらべたらよい。子育てを仕事として尊重してほしい。(50 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・各個人の生き方にまかせればよい。職業をもちたい人はもてばいいし、そのタイミングもその人しだい。男女ともに人それぞれでよい。(30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・個人の価値感による (50 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・人それぞれ (60 歳代・男・その他)
- ・人それぞれだと思うので体力・体調に合わせられたらよい (40 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・その人の自由で決めればよい (18 歳以上 20 歳未満・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・as you like (50 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・個人にとりまく事情はどうであれ、仕事を持ちたい人は持ち、そうでない方はしなくても良い。(20 歳代・女・無職)
- ・可能であればどちらでも自由でよい (60 歳代・女・自営)
- ・人それぞれだと思う (30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・個々の考え方がある (50 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・その人によって違うと思う。家に居るのが好きな人もいる。こうするべきと決められる方がおかしい。(50 歳代・女・臨時 (フルタイム勤務だが一時的なもの))
- ・個々人の考え方によると思う (40 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・個人の自由 (70 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・人それぞれ (40 歳代・女・自営)
- ・好きにしてよいとおもう個人がきめること (20 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・個人の自由 (20 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・個人の自由でいいと思う。(40 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))

女性の考えを尊重したらよい

- ・本人の意思、状況による (60 歳代・男・無職)
- ・本人の意思を尊重すれば良いと思う (20 歳代・女・学生)
- ・産休と育休をとる ・家庭生活が維持できれば、本人 (女性) の意志を尊重する。小さな子どもにとって母親は大切であり、「仕事」のかわりは、他の人でもできる。本人が、求職 (再就職) したくなれば、職を求めるといふ自由性があれば良いと思う。(60 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・その女性によると思う。(50 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・本人の考え方次第で自由にしたら良い。(40 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・本人の意志を尊重すれば良いと思う (40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

- ・本人の好きにするのがよい (30 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・本人の意思を尊重すべき (20 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・本人の自由意志 (20 歳代・女・その他)
- ・その人が決めればよい (20 歳代・女・学生)
- ・本人の意思を尊重すべき。(30 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・女性の希望を尊重する (30 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・女性の判断 (40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・本人が働く意思があるのなら時期に関わらず職業を持てばよいと思う。(20 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))

状況に応じて考えたらよい

- ・ケースバイケース (50 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・就業は家庭それぞれの環境次第なので各々の考えがあると思う。(40 歳代・男・自営)
- ・その人の状況に応じてすればいいしなくてもいい (40 歳代・女・臨時 (フルタイム勤務だが一時的なもの))
- ・その家庭状況によって考えたら良いと思う。(40 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・夫婦間や家庭の事情により、自由に選ばばよいと思う。(40 歳代・女・臨時 (フルタイム勤務だが一時的なもの))
- ・こうしたらよい、というより、本人の状況や考え、思いを重点に仕事をもてばよい。(50 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・その人自身の家庭環境・考え方で違うのでは… (70 歳代・女・無職)
- ・結婚や出産等に限らず、個人の様々な状況に応じて職を持てばよい (20 歳代・男・学生)

家庭のことも考えつつ就業したらよい (やめなくてよい)

- ・仕事と家庭のバランスをとりながら就業できたらよい。(50 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・結婚相手と相談し、子供との時間が十分取れるのであれば、仕事をやめる必要はないと思う。(18 歳以上 20 歳未満・女・学生)

仕事をした方がよい

- ・環境に限らず、仕事をしたい人は仕事をした方がよい。ただ、仕事をしたくない人に仕事をしないといけない風潮を作ってはいけない。(40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・良い事で続けていけばよい。(40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・環境が様々と思うが、もつことは良いと思う (40 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・その人の能力に合った仕事があればすることが望ましいと思う。(60 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・家族にも色々な事情が有るが現在の社会情勢からしても職業を持つ事が必要です。(80 歳以上・男・自営)
- ・もちたい人はもった方がよい (30 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

小さい頃は子育てに専念した方がよい

- ・小学校へ上る迄は子供の環境を考えて（80歳以上・女・自営）

小さい頃は子育てに専念し、その後は働いた方がよい

- ・子供が出来たら小さい頃は子育てした方がよい。それ以後は家族の理解が得られれば再び仕事した方がよい。（40歳代・女・常勤（正社員・正職員））

どうするかは自由だが、小さい頃は一緒にいた方がよい

- ・子どもが小さい間は母親と一緒にいる時間が長い方がよいと思うが、どうするかはその方の自由（50歳代・女・常勤（正社員・正職員））

協力者が必要

- ・当事者の環境による。子どもを見る祖父母が近くいる等（60歳代・男・自営）
- ・仕事は持った方がよいと思います。しかし、家事、育児、介護、等の両立は困難で、自分を見失います。職場の理解と協力者（親、ベビーシッター）が必要です。（60歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））

仕事内容による

- ・仕事の内容による（80歳以上・女・無職）
- ・職業の内容による（80歳以上・男・無職）

社会全体の制度を整える

- ・男女とわず働きながらも安心して子どもを生み育てる社会環境を作るべきだと思う。（60歳代・男・臨時（フルタイム勤務だが一時的なもの））
- ・それぞれの家庭のことなので家庭での判断となると考える。仕事の仕方も選択ができるように行行政、インフラの整備、会社のDX化などいろいろな過大はあると考える。（50歳代・男・自営）
- ・職業を持つ持たないは個々の考えや環境によるものなので、人がその時に判断できるような社会の在り方が必要と思う。（60歳代・女・無職）
- ・男女かわからず、当人が思うようにできる家庭や社会になればいいと思う（30歳代・女・臨時（パートタイム勤務））

職場の状況を変える

- ・短時間労働や休業期間の選択が仕事をやめずにできると良い（40歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・職種により（5）の様に来るなら良い方法とも言える（70歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））

- ・産休を取りやすく、産休後の再就職が出来ること（70歳代・女・無職）

女性がどうこうという考えがない

- ・女性が…とは特に考えていません（40歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・個人の性格や考え、環境によると思うので、そもそも「女性が」という考えがない。（40歳代・女・常勤（正社員・正職員））

わからない

- ・わからない（70歳代・女・無職）

その他

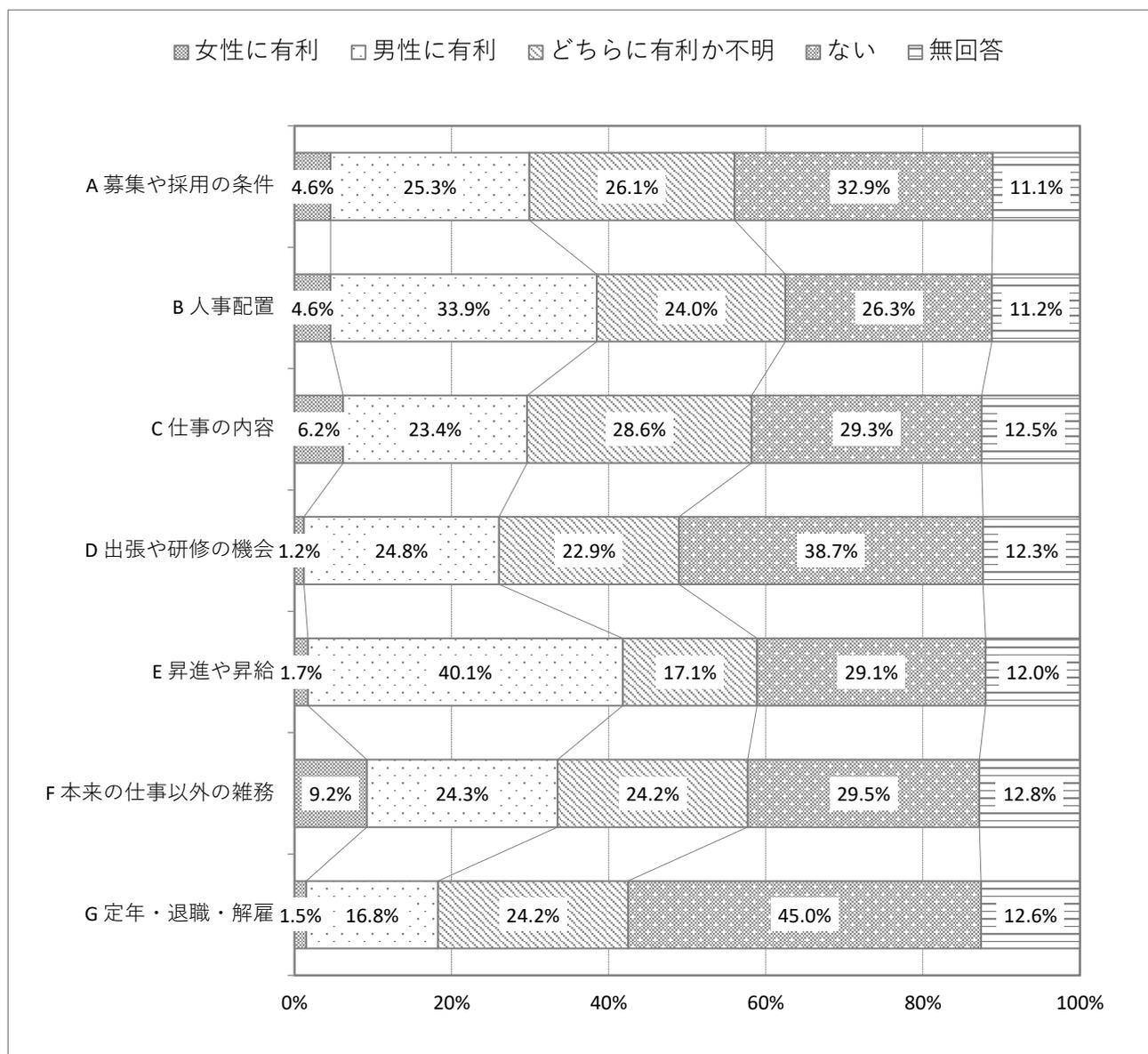
- ・本人の……。一本の定規では計れないと思う？（80歳以上・男・無職）
- ・男性と同じ（40歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・この質問自体が無くなるようになれば良い（20歳代・女・自営）
- ・女が仕事をする理由は様々だろうしこうであるべきといった考え自体ないので上記に当てはまる事項はありません。ただ個人的には生計のために働いてますが働く必要がなくなっても、自身のペースに合わせて働くと思います。（30歳代・女・臨時（パートタイム勤務））

問19 あなたの職場や、あなたの身近な人の職場では、次のことについて男女の間に格差があると思いますか。または、そのような話を聞いたことがありますか。

- A 募集や採用の条件
- B 人事配置
- C 仕事の内容
- D 出張や研修の機会
- E 昇進や昇給
- F 本来の仕事以外の雑務
- G 定年・退職・解雇

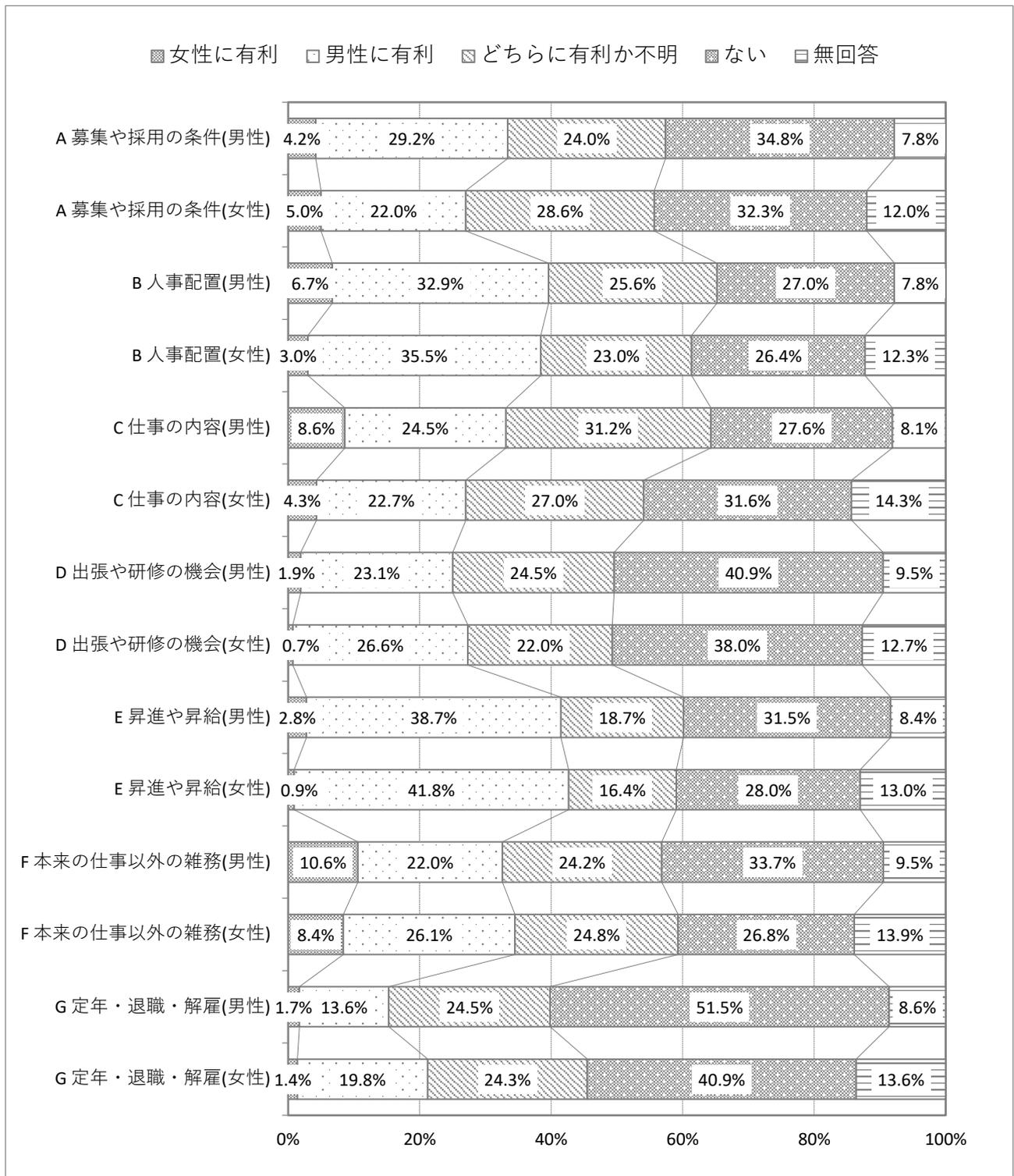
【全体 (n=811)】

全ての項目において、「男性に有利」と答えた人の割合が「女性に有利」を大きく上回っている。「男性に有利」と答えた人の割合が高いのは、「E 昇進や昇給」40.1%、「B 人事配置」33.9%である。「ない」と答えた人の割合が高いのは、「G 定年・退職・解雇」45.0%である。



【男女比較（男性 n=359、女性 n=440）】

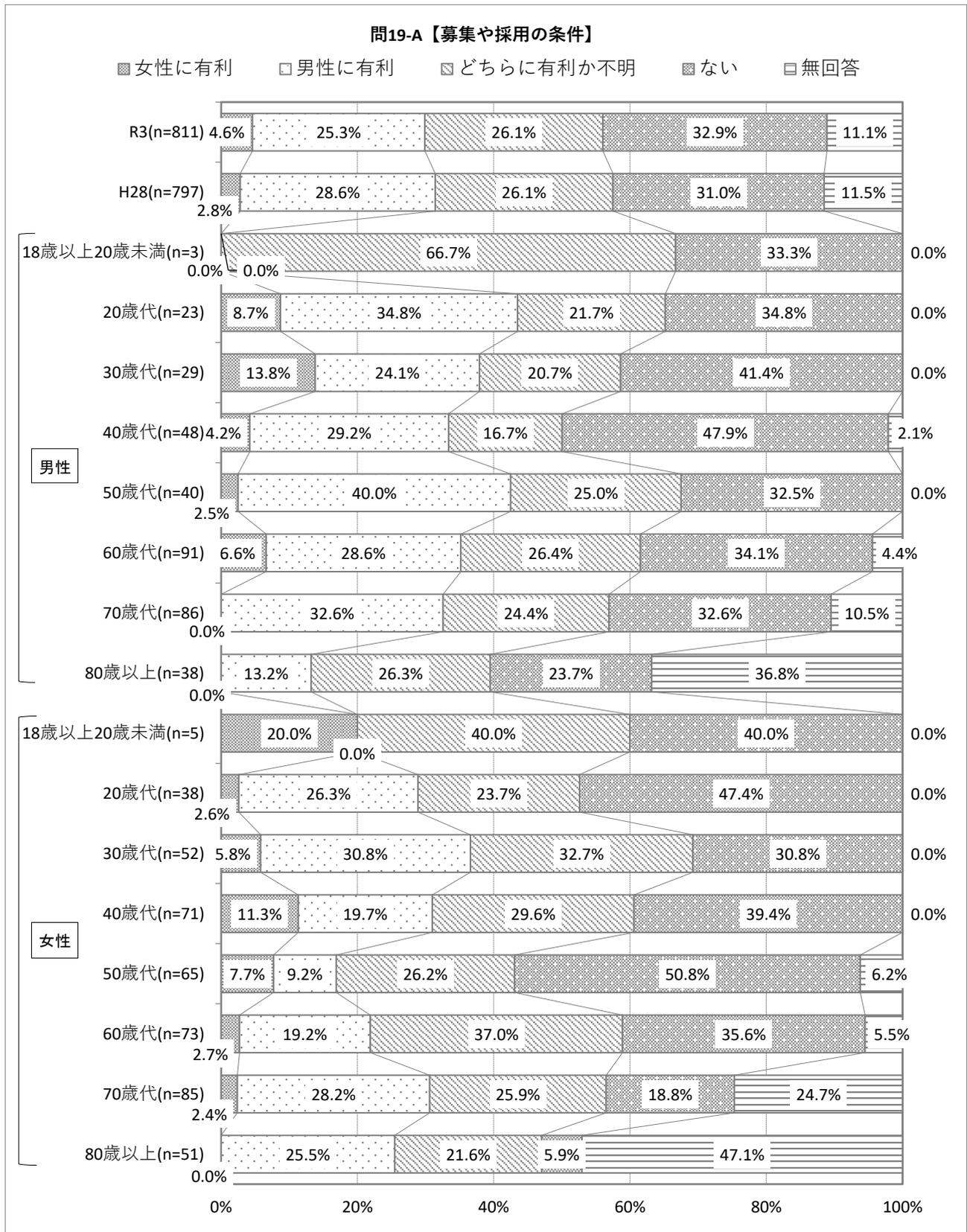
性別でみると、どの項目でも「男性に有利」と答えた人の割合が「女性に有利」よりも高くなっている。「A 募集や採用の条件」では、「男性に有利」と答えた人の割合は、男性 29.2%、女性 22.0%と男女の差が大きい。



【経年・年代比較（問 19-A 募集や採用の条件）】

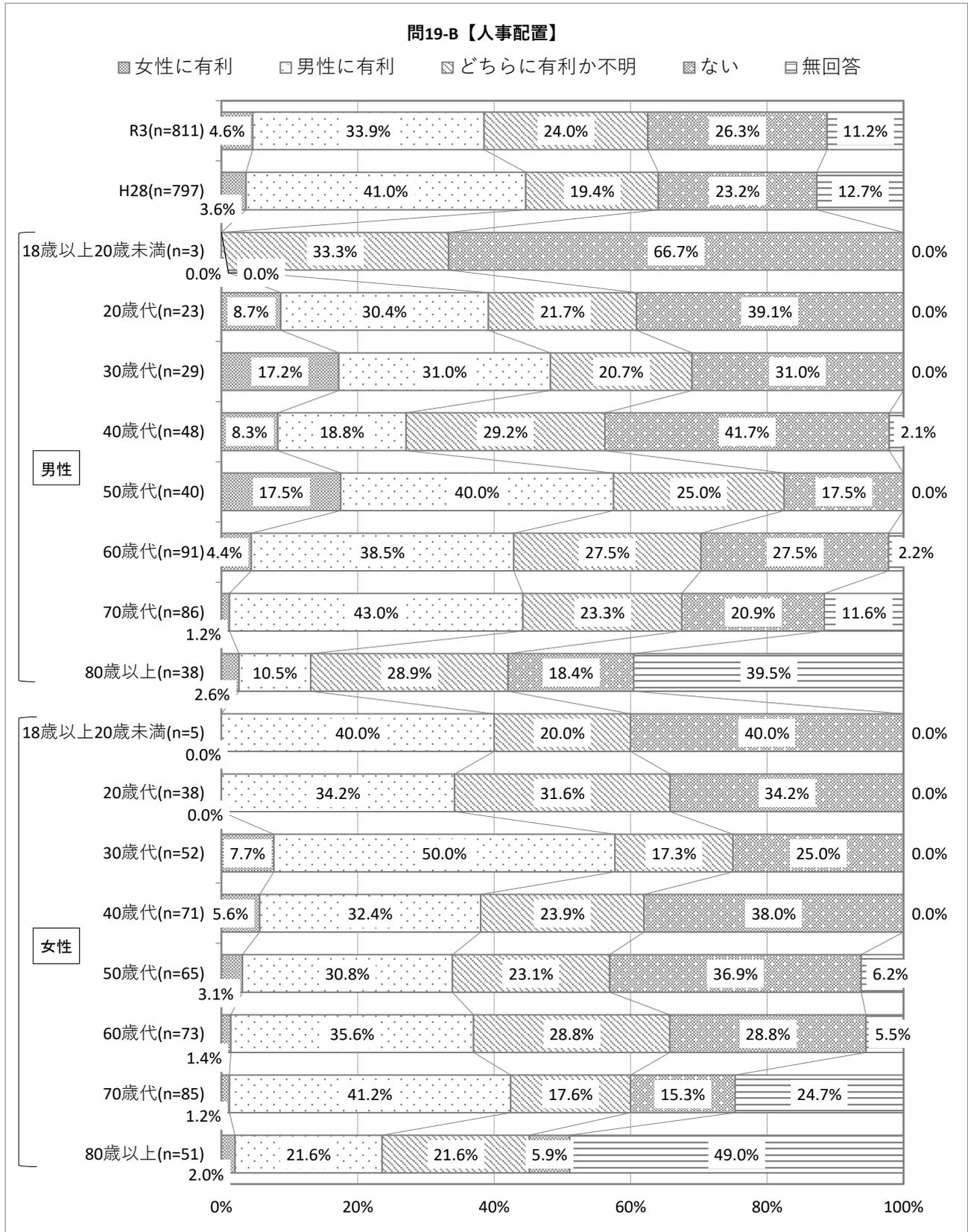
「募集や採用の条件」において、「男性に有利」と答えた割合は、男性では 50 歳代が 40.0%、女性では 30 歳代が 30.8%と、各年代の中で最も高い。

前回調査と比較してみると、「女性に有利」と答えた割合は 1.8 ポイント増加し、「男性に有利」と答えた割合は 3.3 ポイント減少している。



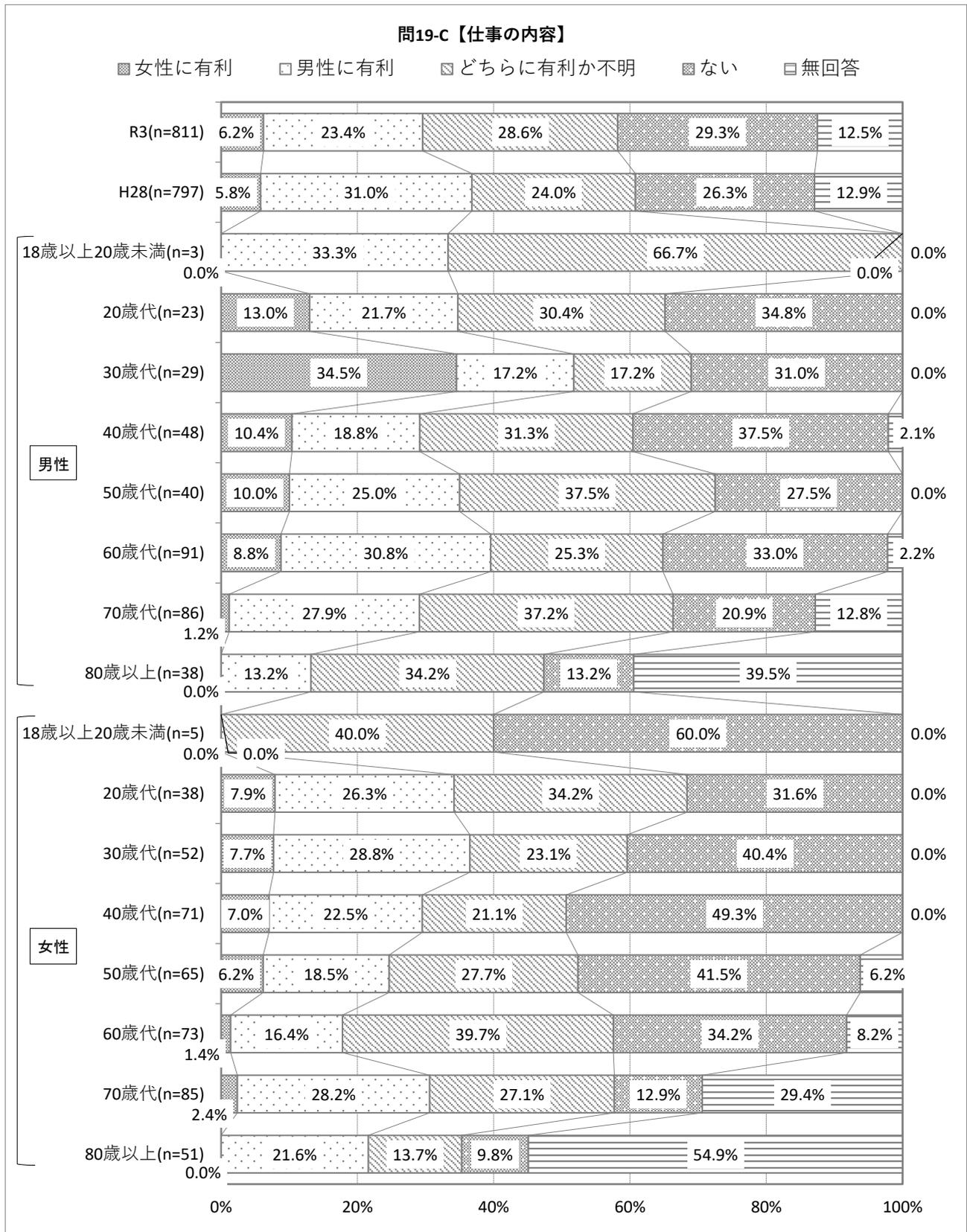
【経年・年代比較（問 19-B 人事配置）】

「人事配置」において、「女性に有利」と答えた割合が高いのは、男性 30 歳代（17.2%）、男性 50 歳代（17.5%）である。「男性に有利」と答えた割合が高いのは、女性 30 歳代で 50.0%と半数を占めている。前回調査と比較してみると、「女性に有利」と答えた割合が 1 ポイント増加、「男性に有利」と答えた割合が 7.1 ポイント減少している。



【経年・年代比較（問 19-C 仕事の内容）】

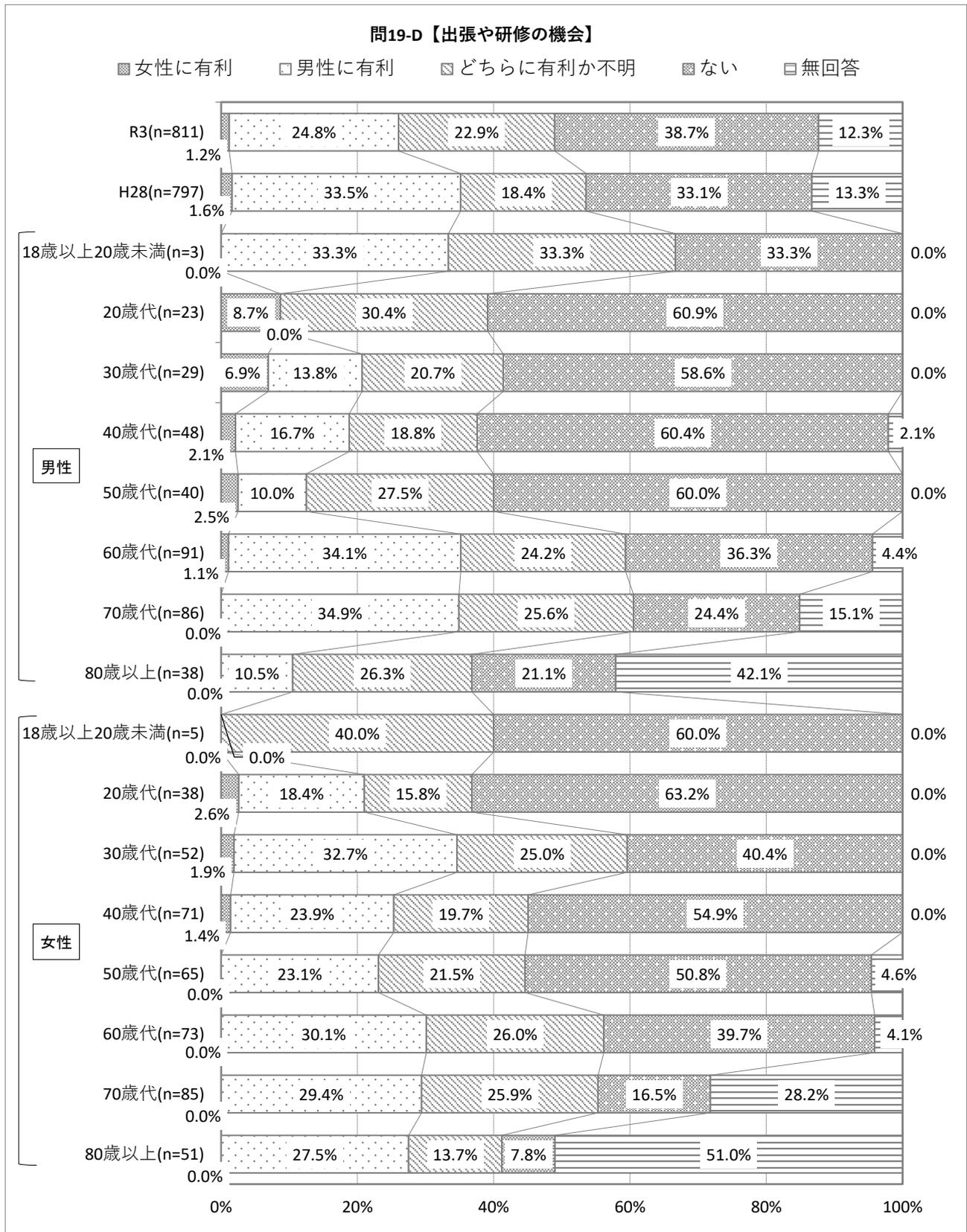
「仕事の内容」において、「女性に有利」と答えた割合が、男性 30 歳代で 34.5%と高くなっている。女性では、30 歳代（28.8%）、70 歳代（28.2%）、20 歳代（26.3%）が「男性に有利」と答えている割合が高い。前回調査と比較してみると、「女性に有利」と答えた割合が 0.4 ポイント増加、「男性に有利」と答えた割合が 7.6 ポイント減少している。



【経年・年代比較（問 19-D 出張や研修の機会）】

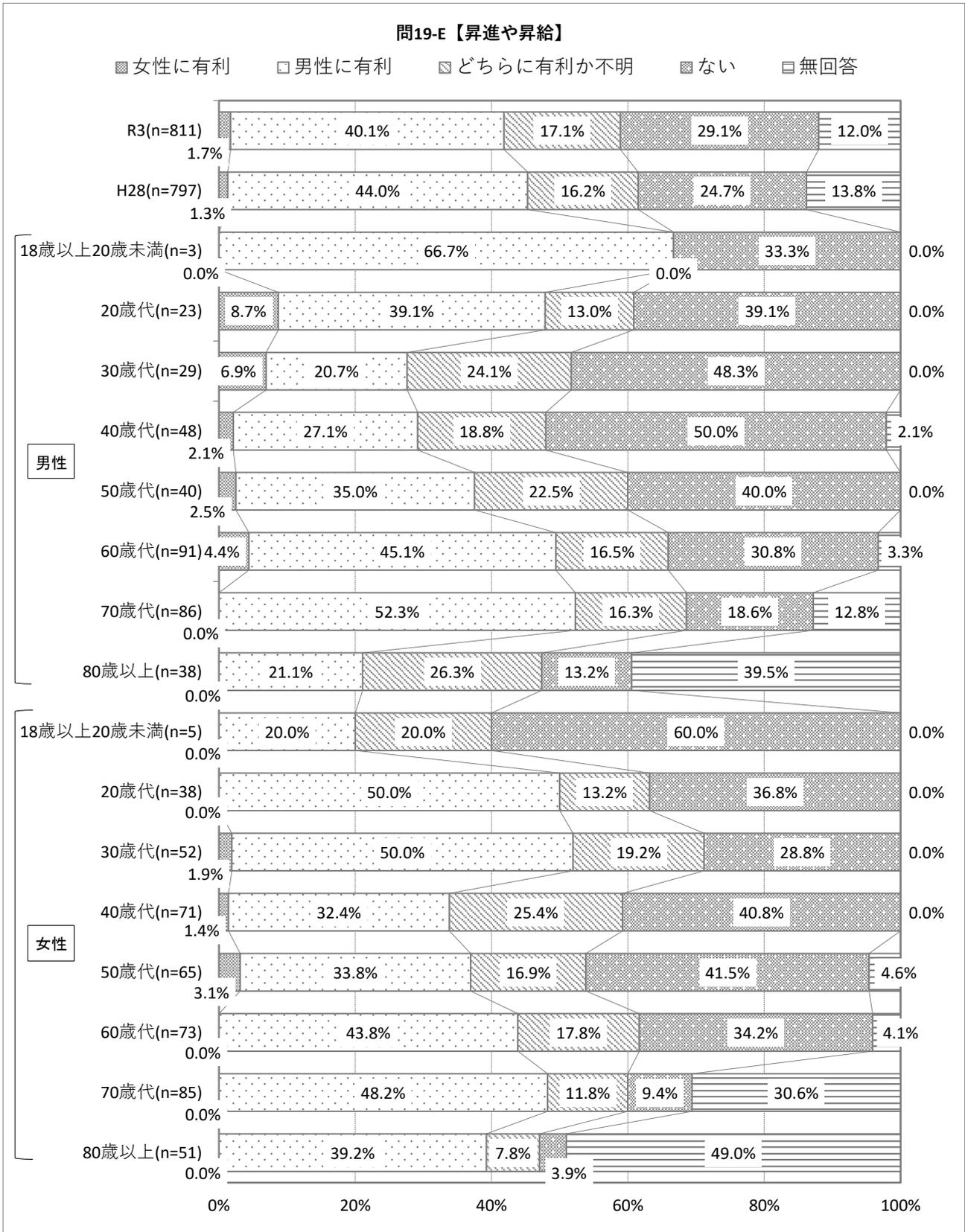
「出張や研修の機会」において、男女間の格差が「ない」と答えた人の割合は、男性では20歳代(60.9%)、30歳代(58.6%)、40歳代(60.4%)、50歳代(60.0%)が高い。女性では「ない」と答えた人の割合は、20歳代(63.2%)、18歳以上20歳未満(60.0%)が高い。

前回調査と比較してみると、「男性に有利」と答えた割合が8.7ポイント減少している。



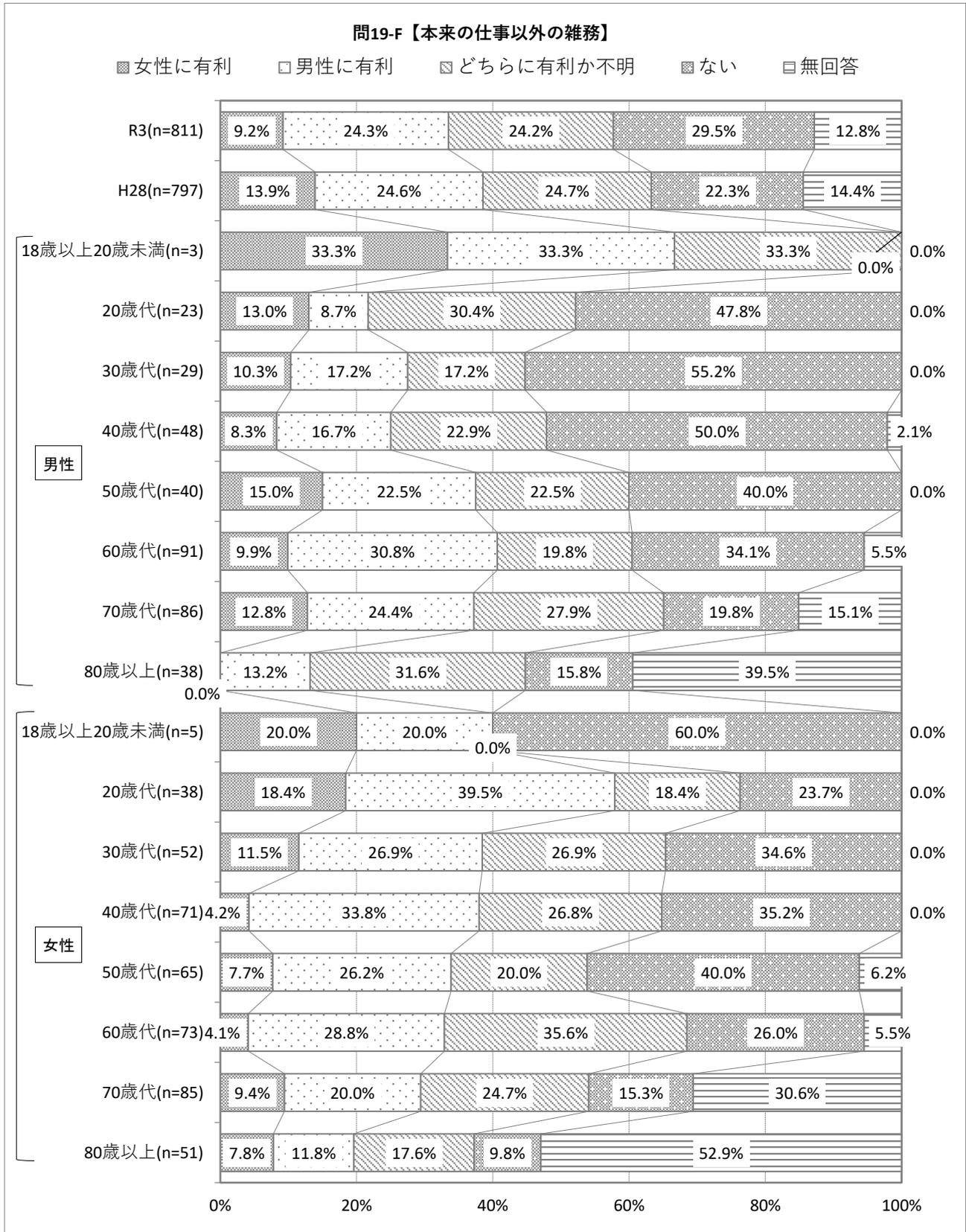
【経年・年代比較（問19-E 昇進や昇給）】

「昇進や昇給」において、「男性に有利」と答えた人の割合が、男性では18歳以上20歳未満（66.7%）と70歳代（52.3%）で高い。女性では、20歳代以上で「男性に有利」と答えた人の割合が3～5割である。「ない」と答えた人の割合は、男性40歳代（50.0%）と男性30歳代（48.3%）が高い。前回調査と比較してみると、「男性に有利」と答えた割合が3.9ポイント減少している。



【経年・年代比較（問 19-F 本来の仕事以外の雑務）】

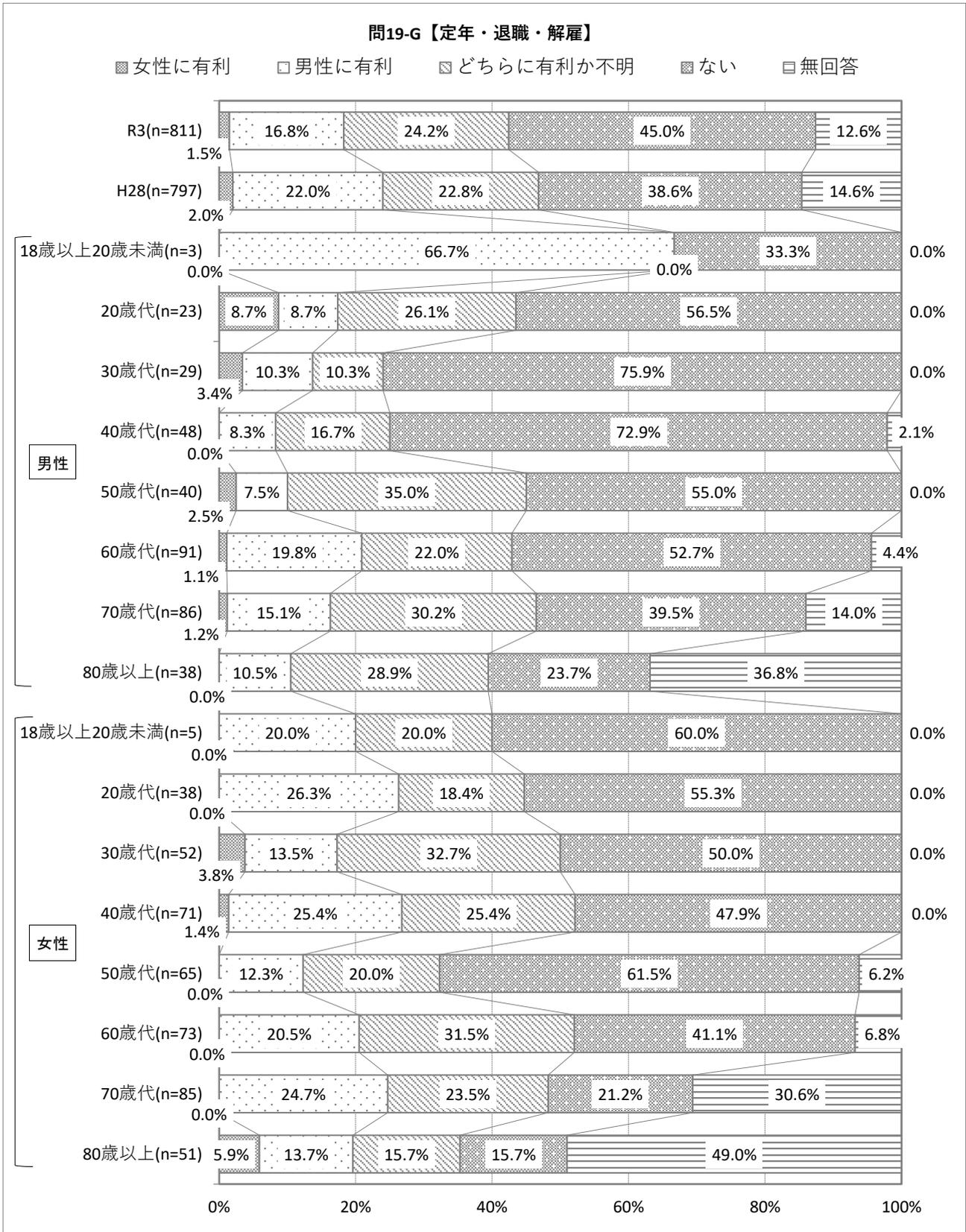
「本来の仕事以外の雑務」において、男性では、20歳代から50歳代で「ない」と回答した割合が4～5割である。女性では、20歳代で「男性に有利」と回答した割合が39.5%と各年代の中で最も高い。前回調査と比較してみると、「女性に有利」と答えた割合が4.7ポイント減少、「ない」が7.2ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 19-G 定年・退職・解雇）】

「定年・退職・解雇」において、男女間の格差が「ない」と答えた割合は、男性では 30 歳代（75.9%）と 40 歳代（72.9%）、女性では 50 歳代（61.5%）が高くなっている。

前回調査と比較してみると、「男性に有利」と答えた割合が 5.2 ポイント減少、「ない」と答えた割合が 6.4 ポイント増加している。



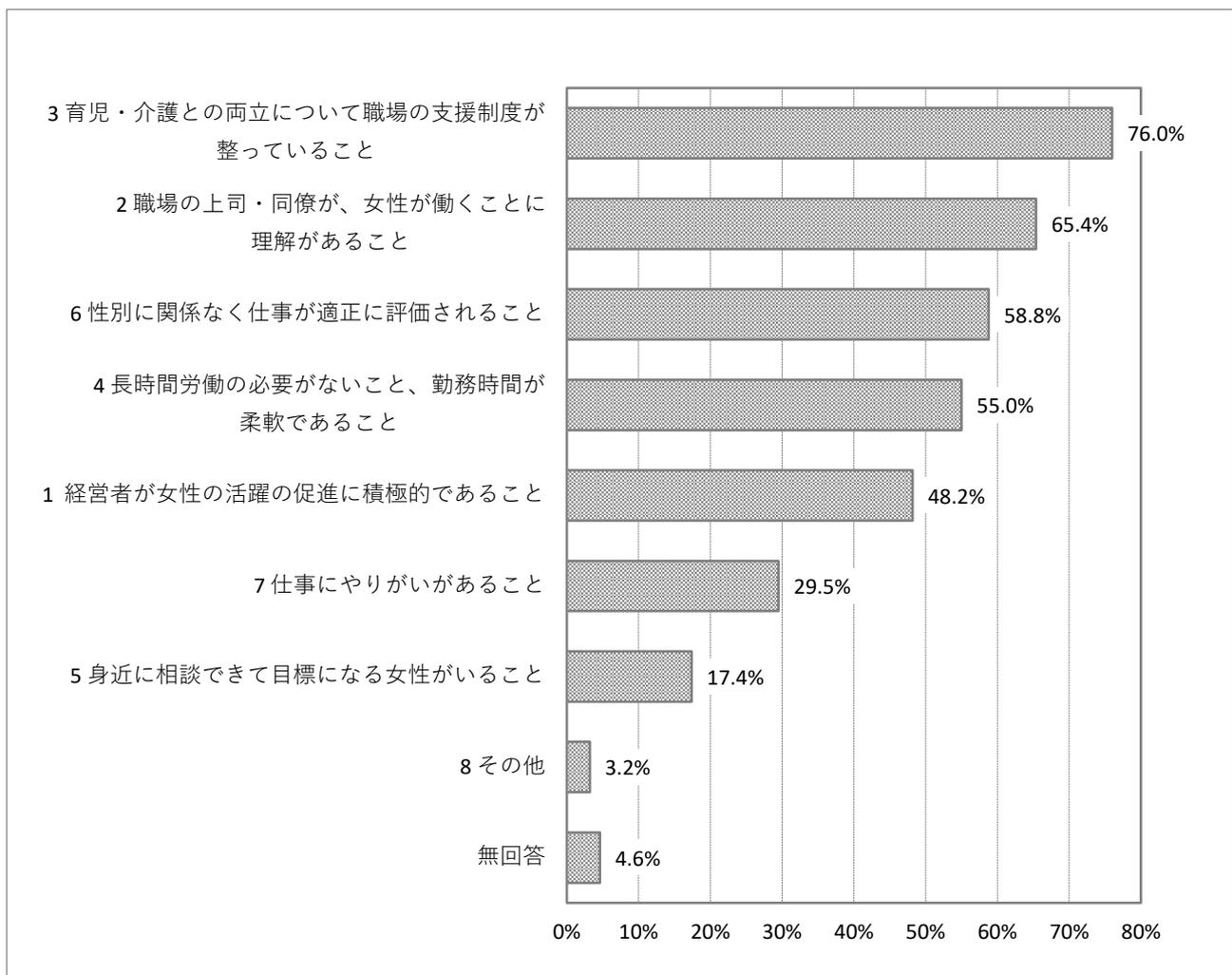
4 女性活躍の推進について

問20 女性が活躍できる仕事・職場環境にするために何が重要とご思いますか。
次の中からあなたが思うものを5つ以内で選んでください。

- 1 経営者が女性の活躍の促進に積極的であること
- 2 職場の上司・同僚が、女性が働くことに理解があること
- 3 育児・介護との両立について職場の支援制度が整っていること
- 4 長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること
- 5 身近に相談できて目標になる女性がいること
- 6 性別に関係なく仕事が適正に評価されること
- 7 仕事にやりがいがあること
- 8 その他

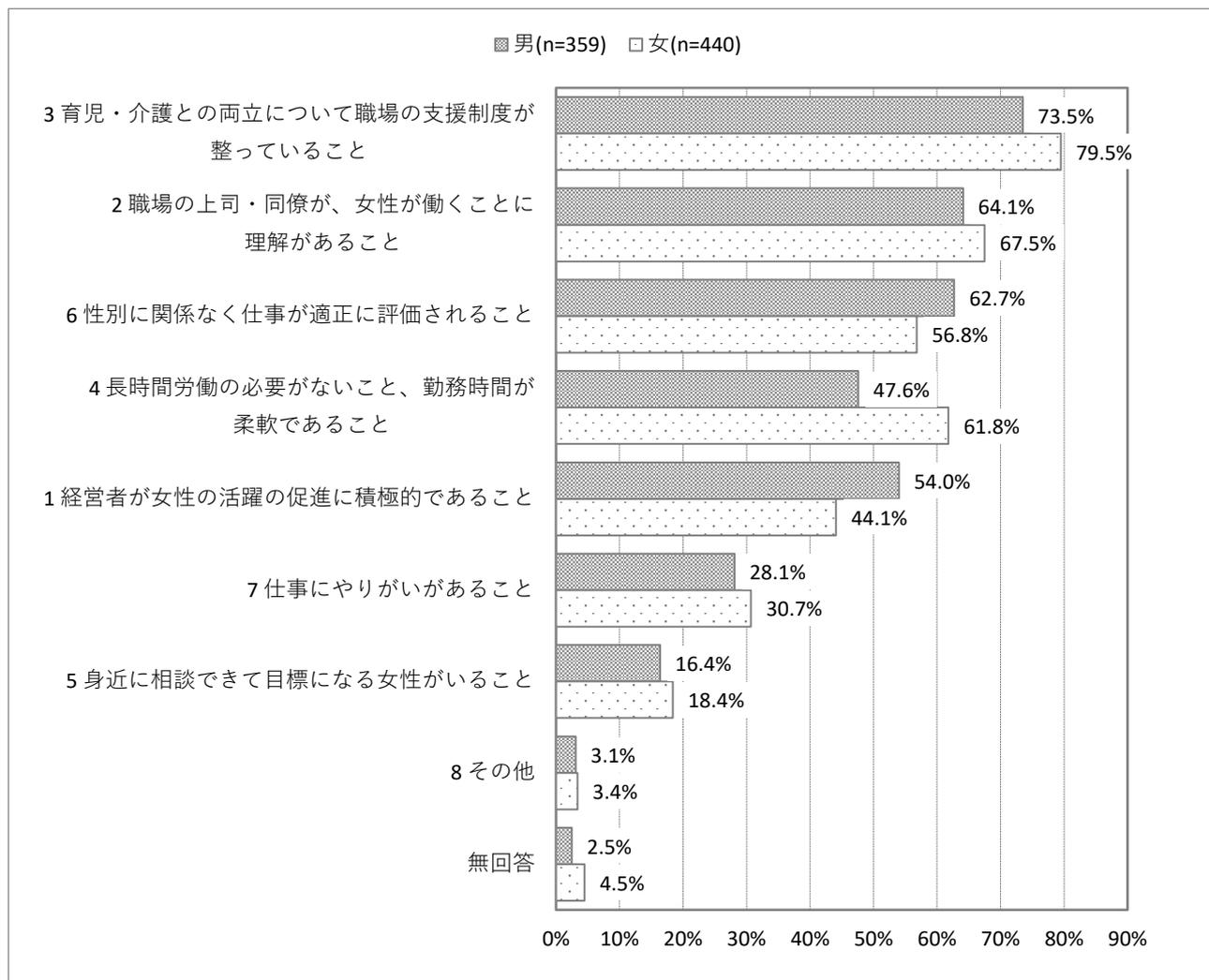
【全体 (n=811)】

全体では、「育児・介護との両立について職場の支援制度が整っていること」が76.0%と最も高く、次に「職場の上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」が65.4%と高い。



【男女比較】

男女ともに、「育児・介護との両立について職場の支援制度が整っていること」「職場の上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」と答えた人の割合が高い。男性では、「経営者が女性の活躍の促進に積極的であること」が54.0%で、女性より少し割合が高い。女性では、「長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること」が61.8%で、男性より割合が高い。



【問 20-8 その他の回答】

職場に関すること

- ・男性の上司の教育が必要 (70 歳代・男・無職)
- ・女だけの職場にしないこと。(40 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・経営状況や経営者の考え方による所が大きいと思う。(60 歳代・男・無職)
- ・性別に関係なく、3、4 が実現できている職場環境 (50 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・職場の上司・同僚が子育てに理解があること。休みを取りやすいこと。(40 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・「コンプライアンス」を学び合い、ハラスメントがない・行われぬような環境づくりをすること。(60 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))
- ・仕事量を男女共に減らす。女性も男性と同じように忙しい場所・内容をさせる。(30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))

- ・職種にもよると思う（50歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・well-beingな職場（30歳代・男・常勤（正社員・正職員））

賃金が保障されていること

- ・時短で賃金が保障されること。（30歳代・女・常勤（正社員・正職員））

企業に対する支援

- ・全ての会社が一律に対応はできない。中小企業に対する支援が必要と考える。（50歳代・男・自営）

女性の考え方を変えること

- ・女性自身が、自立心を持つこと。男性に頼る女性が多い。甘えた女性が多い。（60歳代・男・臨時（パートタイム勤務））
- ・女性自身のキャリアプラン・目標をしっかりとしたものにするサポート助言体制も必要（60歳代・男・無職）
- ・自身のやる気（60歳代・男・自営）
- ・女性1人々のかんがえ方によらと思う。（50歳代・男・常勤（正社員・正職員））

施設を充実させること

- ・育児や介護を外注する事に抵抗のない社会にする。また、それを可能にする経済的余裕のある社会。（30歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・残業時にこどもを預かってもらえる安心なしせつ（30歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・保育施設・放課後学級・保育士人材の充実と柔軟性（60歳代・女・臨時（パートタイム勤務））

社会の理解

- ・本人次第であるが、根本的には社会全体として各性の特性を理解が必要。（30歳代・男・常勤（正社員・正職員））

わからない

- ・わからない（70歳代・女・無職）

その他

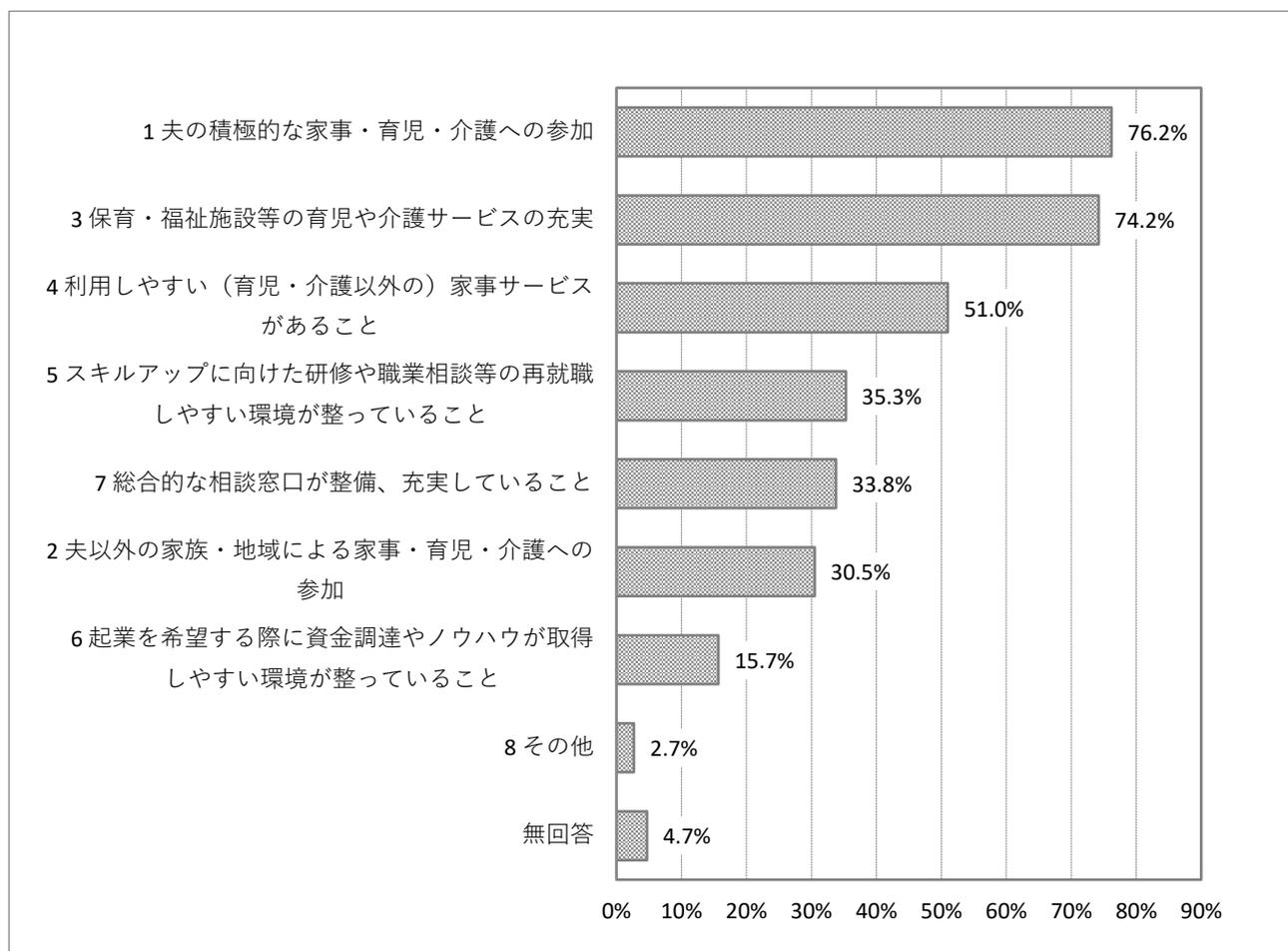
- ・家族の協力、家庭内での男女平等。（40歳代・女・臨時（フルタイム勤務だが一時的なもの））
- ・人間関係が良好であること。（60歳代・男・無職）
- ・周囲の環境ではなく自分のやりたいことを自分で決めて動けること＝自律が大事。そのためには子供の頃の夢に道筋がみえる（実現可能性を感じられる）ことが必要と考える。（30歳代・女・常勤（正社員・正職員））

問2 1 女性の活躍が進むためには、家族や社会等でどのような環境整備が必要と思いますか。
次の中からあなたが思うものを5つ以内で選んでください。

- 1 夫の積極的な家事・育児・介護への参加
- 2 夫以外の家族・地域による家事・育児・介護への参加
- 3 保育・福祉施設等の育児や介護サービスの充実
- 4 利用しやすい（育児・介護以外の）家事サービスがあること
- 5 スキルアップに向けた研修や職業相談等の再就職しやすい環境が整っていること
- 6 起業を希望する際に資金調達やノウハウが取得しやすい環境が整っていること
- 7 総合的な相談窓口が整備、充実していること
- 8 その他

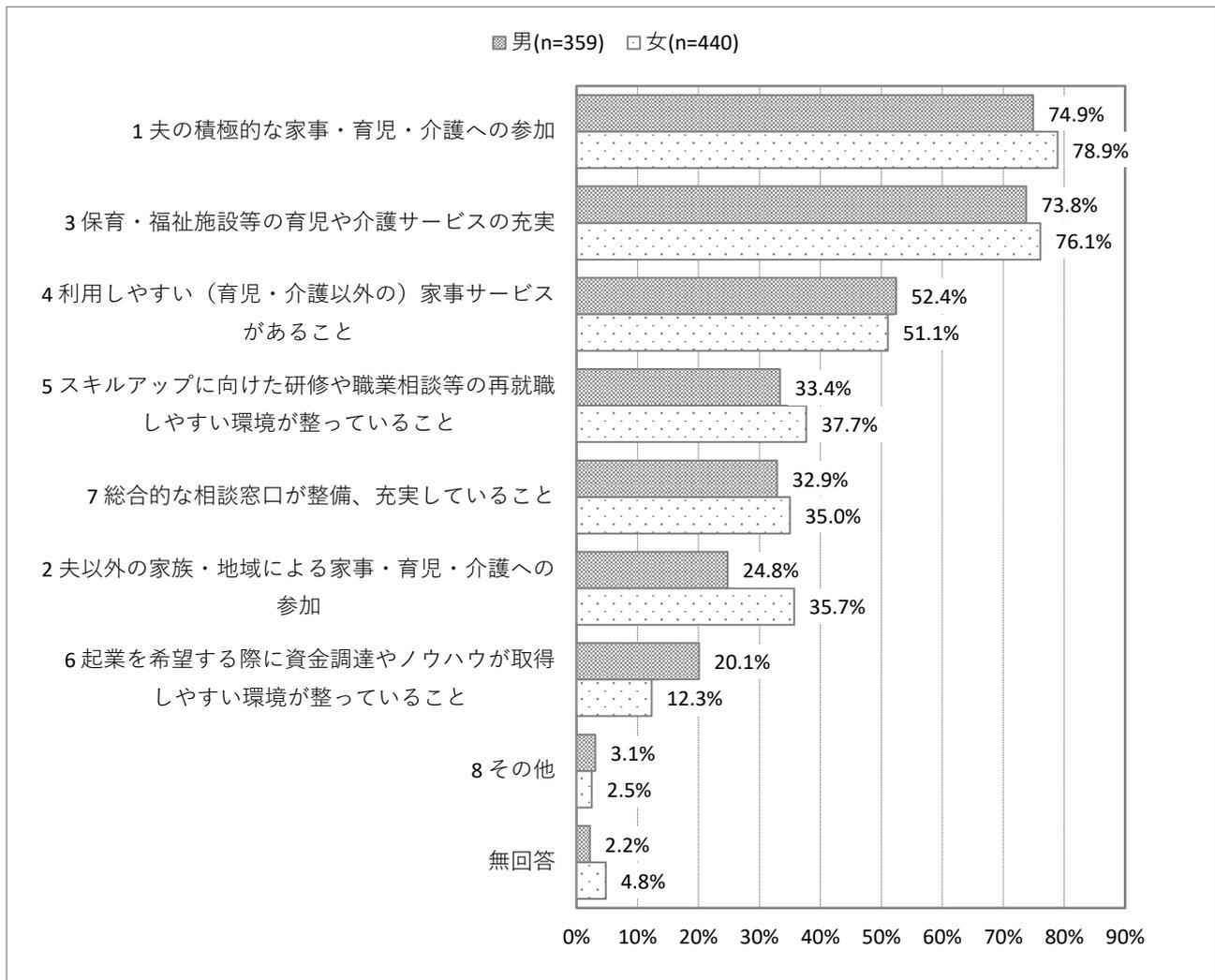
【全体 (n=811)】

全体では、「夫の積極的な家事・育児・介護への参加」が76.2%と最も高く、次に「保育・福祉施設等の育児や介護サービスの充実」が74.2%と高い。



【男女比較】

「夫の積極的な家事・育児・介護への参加」は女性の方が4ポイント高い。「保育・福祉施設等の育児や介護サービスの充実」も同じく、女性の方が2.3ポイント高い。「起業を希望する際に資金調達やノウハウが取得しやすい環境が整っていること」は、男性が7.8ポイント高い。男女で差が大きいのは「夫以外の家族・地域による家事・育児・介護への参加」で、女性の方が10.9ポイント高い。



【問 21-8 その他の回答】

女性以外が家事・育児・介護へ参加すること

- ・夫も夫以外の家族も積極的に家事・育児・介護の参加（20歳代・男・学生）
- ・家事・育児は母親がやっていたりまえという考え方をなくしていくこと。（30歳代・女・常勤（正社員・正職員））

身近に頼れる人がいること

- ・近所に助けてくれる人がいること。地域の人と仲良くしておくなど自分自身も関係を築くなどがんばらないといけない。（40歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・親が近くに住んでいて、頼れること！（50歳代・女・臨時（パートタイム勤務））

夫婦の関係性

- ・夫婦のすれ違いの時間を少なくし、互いに話せる環境が必要。(50 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・上手に夫にたよる (30 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

働き方・職場の環境の見直し

- ・子育て・介護世代への仕事の分量の配慮 (40 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・女性の特性が活かせる職場で働くこと (50 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・仕事に必要な資格技能を身につけること (60 歳代・男・臨時 (パートタイム勤務))
- ・時短で賃金が保障されること。(30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))

考え方を変えること

- ・育児休業・介護休業があたりまえの環境整備、全員の意識改革 (60 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))
- ・女性の意識 (50 歳代・女・臨時 (フルタイム勤務だが一時的なもの))
- ・女性男性という性差があるという概念を取り除くということ。性別でなく個人をみて評価されるべき。(20 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

相談できる場所をつくること

- ・女性のメンタルの相談窓口、相談相手 (60 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))

わからない

- ・わからない (70 歳代・女・無職)
- ・わからない。(50 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

その他

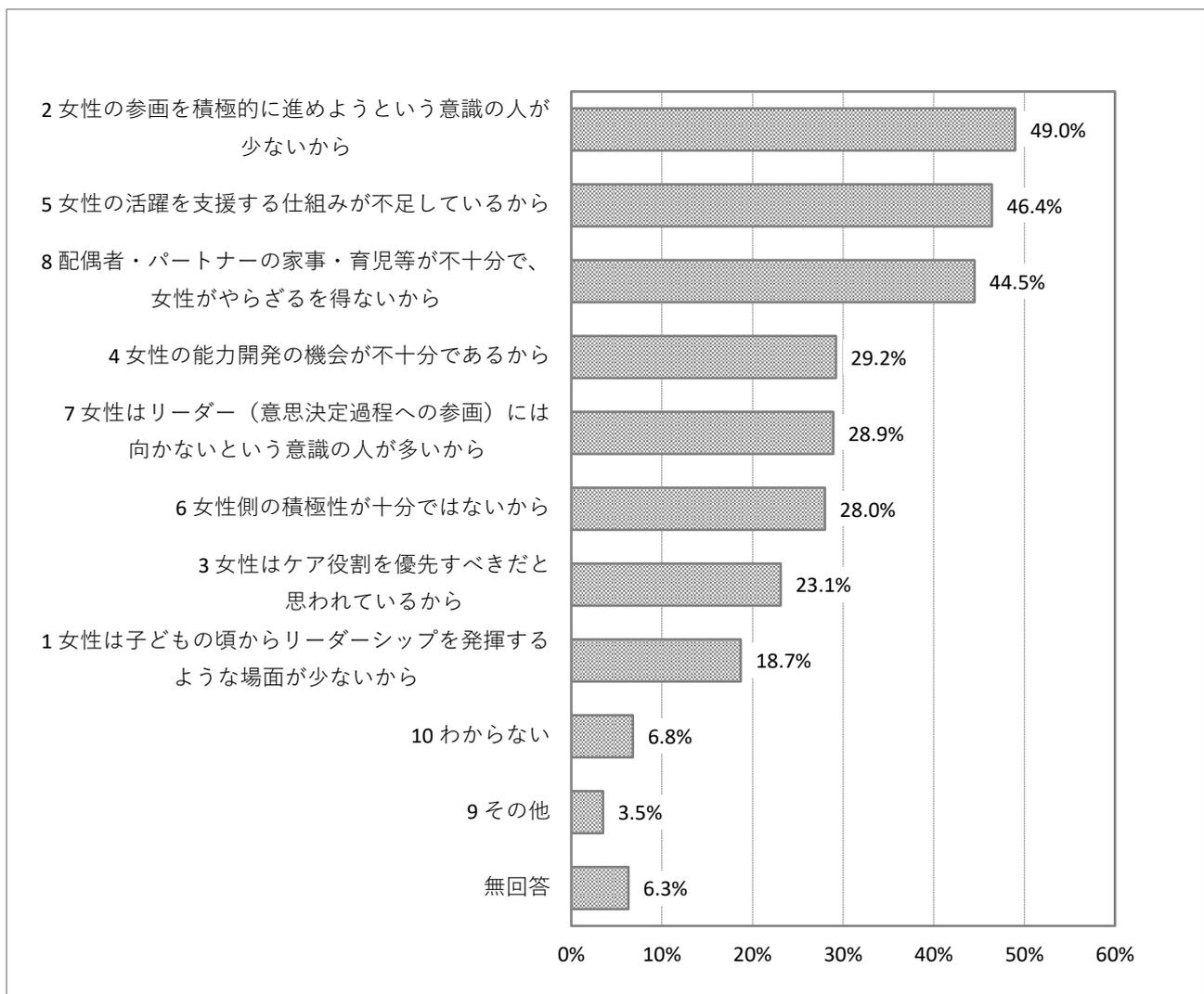
- ・過去に比べ資金調達や研修等は充実している。学童の時間や学校への他地域からの就学の制限などがあり、介護のため仕事をしたくてもできない人もいるため、公序の見直しが必要ではないか。(50 歳代・男・自営)
- ・教育、メディア放送内容及び催事等慣習などの見直し。(30 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

問22 あらゆる分野で政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。次の中からあなたが思うものを5つ以内で選んでください。

- 1 女性は子どもの頃からリーダーシップを発揮するような場面が少ないから
- 2 女性の参画を積極的に進めようという意識の人が少ないから
- 3 女性はケア役割を優先すべきだと思われるから
- 4 女性の能力開発の機会が不十分であるから
- 5 女性の活躍を支援する仕組みが不足しているから
- 6 女性側の積極性が十分ではないから
- 7 女性はリーダー（意思決定過程への参画）には向かないという意識の人が多から
- 8 配偶者・パートナーの家事・育児等が不十分で、女性がやらざるを得ないから
- 9 その他
- 10 わからない

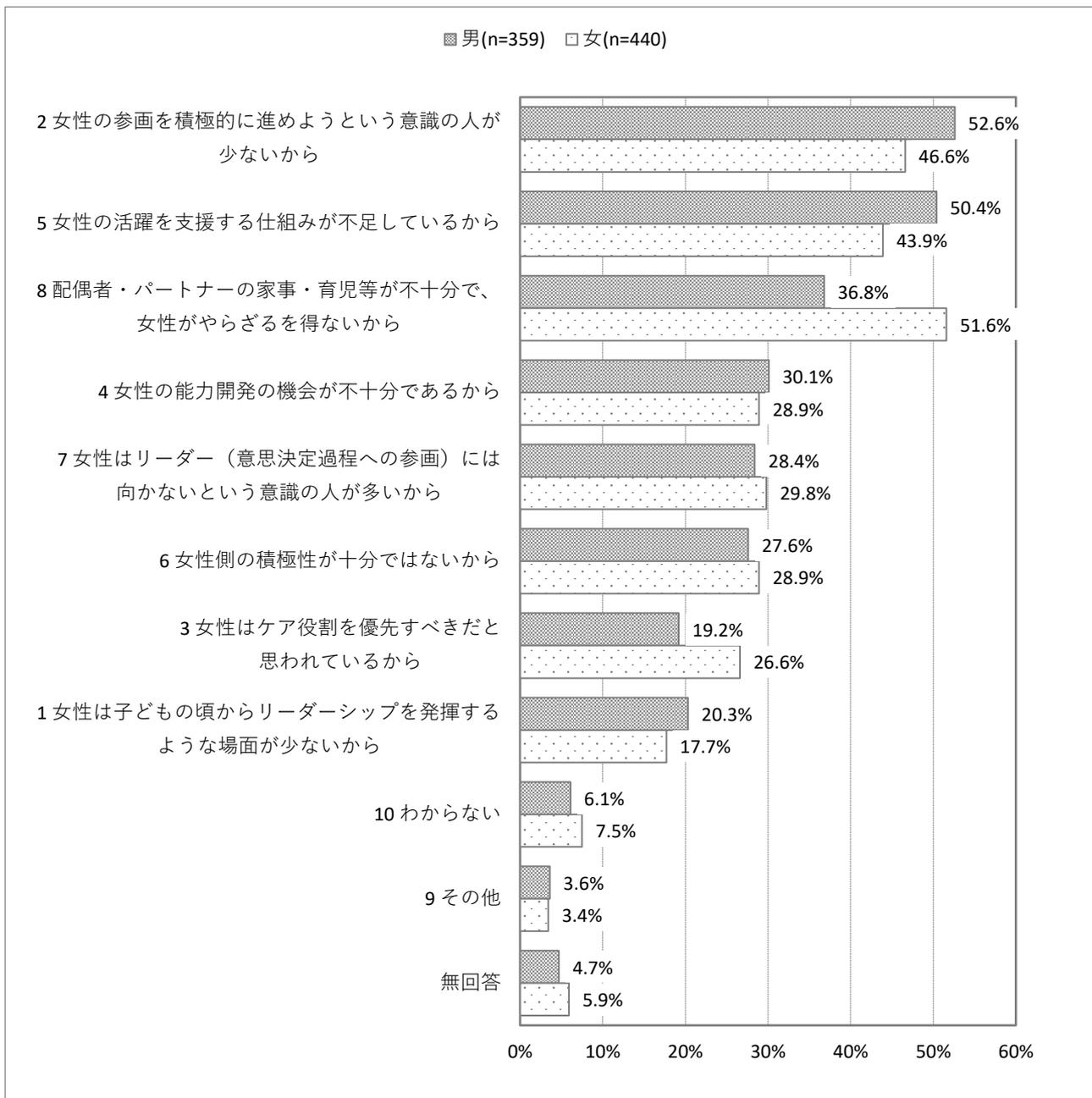
【全体 (n=811)】

全体では、「女性の参画を積極的に進めようという意識の人が少ないから」が 49.0%と最も高く、次に「女性の活躍を支援する仕組みが不足しているから」が 46.4%と高い。



【男女比較】

男性では、「女性の参画を積極的に進めようという意識の人が少ないから」と回答した人の割合が最も高く 52.6%で、次に「女性の活躍を支援する仕組みが不足しているから」50.4%である。女性では、「配偶者・パートナーの家事・育児等が不十分で、女性がやらざるを得ないから」と回答した人の割合が最も高かった。男女の差が大きいのは「配偶者・パートナーの家事・育児等が不十分で、女性がやらざるを得ないから」で、女性の方が14.8ポイント高かった。



【問 22-9 その他の回答】

女性の活躍を良く思わない風潮があるから

- ・ジェンダー役割が固定化されているから。(50 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・女性は出しゃばるなという空気があるから (40 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・まわりの理解がないから (70 歳代・女・無職)
- ・女性リーダーに抵抗感のある人が多いから。(40 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・女性の活躍を良しとしない社会通念・風潮が残っている (60 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))
- ・風土 (30 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

男性の意識に問題があるから

- ・男性が女性が自分より優れているのを認めたくないから (40 歳代・女・自営)
- ・男性の意識を変えるのが先 (70 歳代・男・無職)
- ・男性に今まで通りの決め方の固定観念がある。意識を高める、必ず女性を参画するルール必要 (60 歳代・男・無職)

政治・社会の仕組みに問題があるから

- ・政治家に女性が少ないから (40 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・社会的な仕組・制度が不十分 (70 歳代・男・無職)
- ・頭の固い老人が今の社会を取り決めているから (20 歳代・男・学生)
- ・政治の舞台でも欧米のように女性・男性のバランスを対等に近づける。(60 歳代・男・臨時 (フルタイム勤務だが一時的なもの))
- ・女性の本来の力を活かしきれていない。女性の本来の力は男性では引き出せないと思います。女性と男性はまったく違う生き物なので男性が作り上げた社会に参入するよりも自分たちにあった働き方をいちから作る方が良いです。(30 歳代・女・自営)

職場に問題があるから

- ・仕事をしたくても子供がいると休まざるを得ない場合が多く、「また子供で休みか」と会社で言われる社会だから。→預け先の充実、時間等増えるとよい (30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))
- ・民間のあて職に女性が少ないから (60 歳代・男・臨時 (フルタイム勤務だが一時的なもの))
- ・男性の育休等に職場の理解が得られず女性がやらざるを得ないから (30 歳代・女・常勤 (正社員・正職員))

女性の責任感が弱いから

- ・男性と女性に同じ仕事を任せた場合、女性の方が責任感が低い。(60 歳代・男・臨時 (パートタイム勤務))
- ・ディベートなどの経験が少ないから ・歴史から観て、男性のトップが多いと学んでおり、矢面に立つ将の器と、参謀の器を無意識に比較しているし、決定過程に責任を持つ腹がくくれない事があるから。(60 歳代・女・主婦・主夫 (家族の家事を行っている人))

女性が参画することに対して偏見があるから

- ・女性が長期的に取り組めるような状況(独り身)であっても、そこに対する偏見もある。また、そういった取り組みに魅力を感じる方が少ない。(20 歳代・女・自営)

参画する余裕がないから

- ・声をかけられても、そこに参画できる余裕がない(時間、体力、金銭など)。(30 歳代・女・常勤(正社員・正職員))

女性が実力不足だから

- ・女性が実力を付ける。(60 歳代・女・常勤(正社員・正職員))

女性の参画が多ければ良いわけではない

- ・女性が多ければ良いというものではない(50 歳代・男・常勤(正社員・正職員))

女性の参画が少ないとは思わない

- ・少ないとは思わない(40 歳代・男・常勤(正社員・正職員))

その他

- ・女性の参画が少ないという根拠は?(60 歳代・男・常勤(正社員・正職員))
- ・参画しようという人が少ないからとしか言えない。女性がとかではなくただ男性女性と分けて見たとき少ないというだけ。(20 歳代・男・常勤(正社員・正職員))

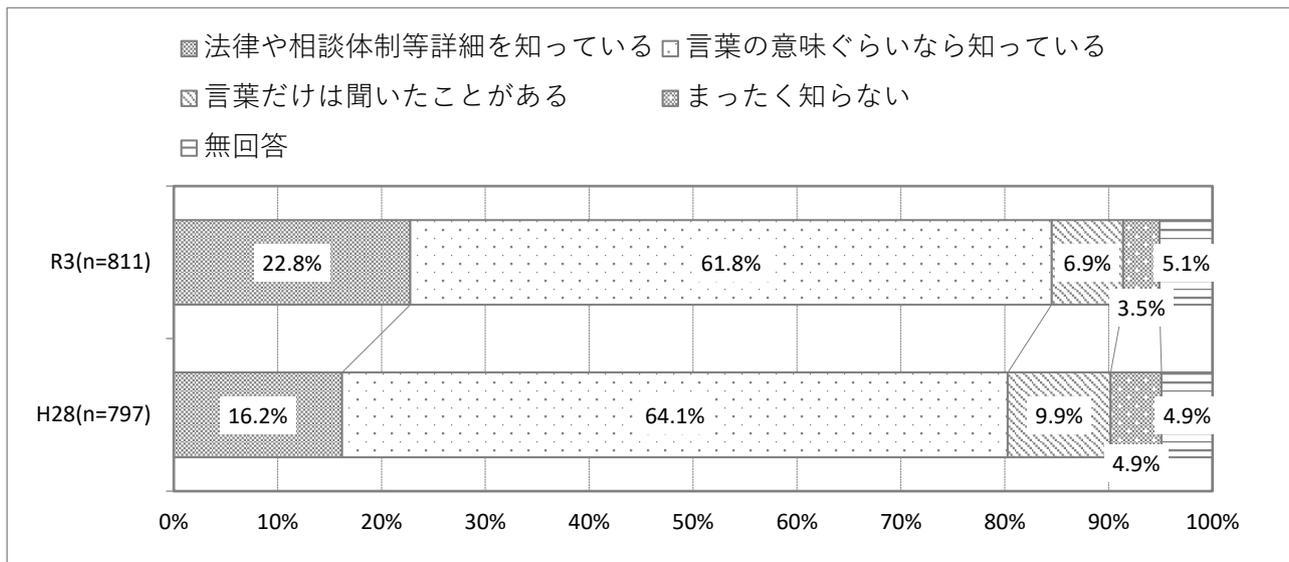
5 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問23 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）に関してどのくらい知っていますか。

【経年比較】

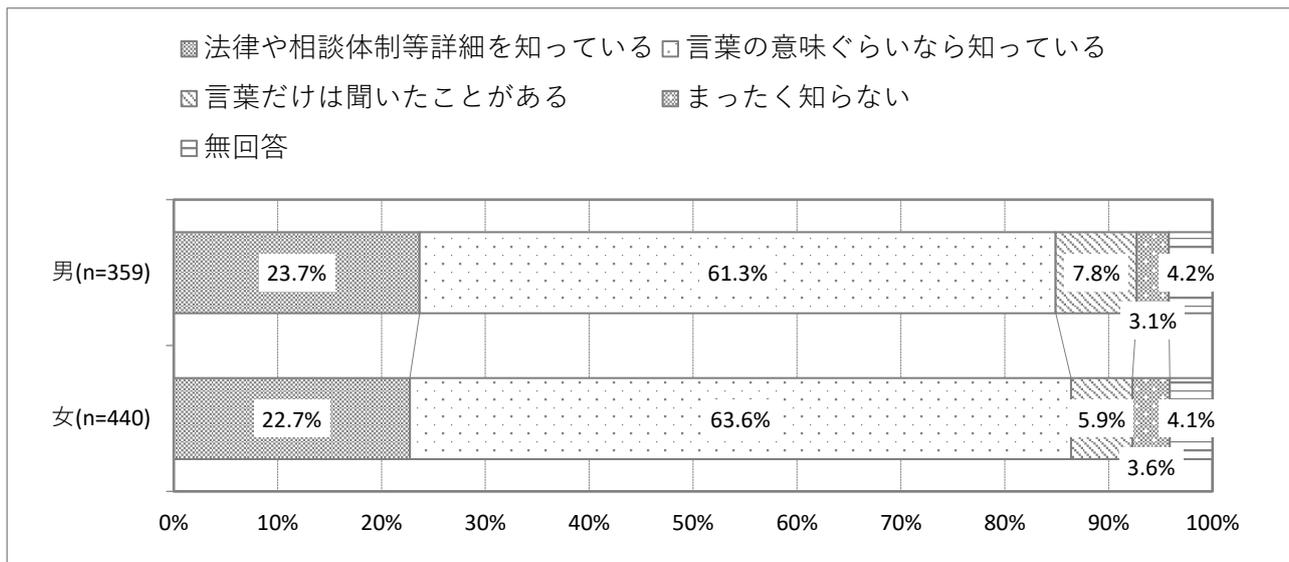
全体では、「言葉の意味ぐらいなら知っている」が61.8%と最も高く、次に「法律や相談体制等詳細を知っている」22.8%となっており、約8割がDVについて知っていると言える。

前回調査と比較してみると、「法律や相談体制等詳細を知っている」と答えた割合が6.6ポイント増加し、「言葉の意味ぐらいなら知っている」と答えた割合が2.3ポイント減少している。



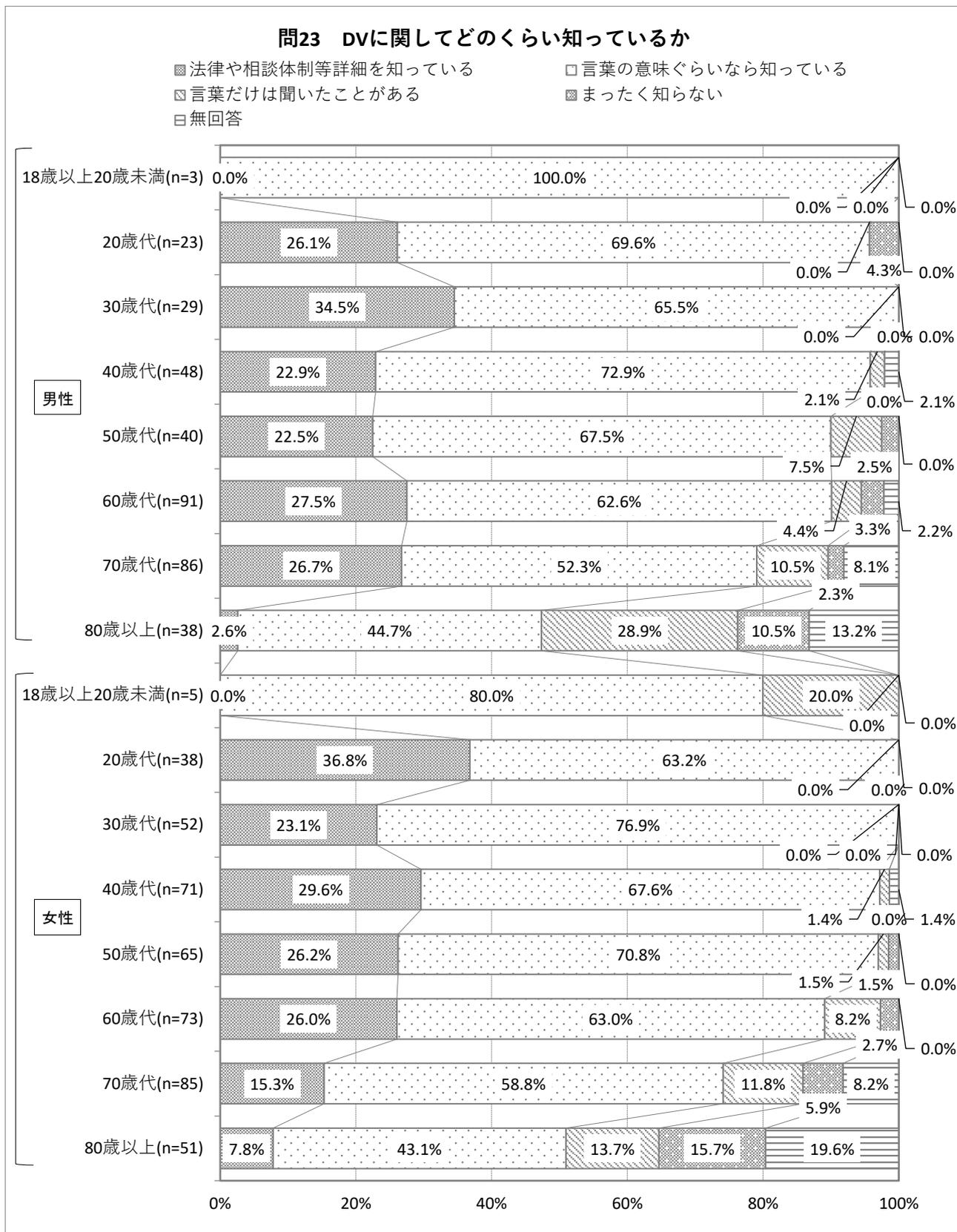
【男女比較】

性別でみると、「法律や相談体制等詳細を知っている」と答えた割合は、男性の方が1ポイント高く、「言葉の意味ぐらいなら知っている」と答えた割合は、女性の方が2.3ポイント高い。



【年代比較】

「法律や相談体制等詳細を知っている」と答えた割合が高いのは、男性では30歳代で34.5%、女性では20歳代で36.8%となっている。男女ともに、「まったく知らない」と答えた割合は80歳以上で高く、男性10.5%、女性15.7%である。

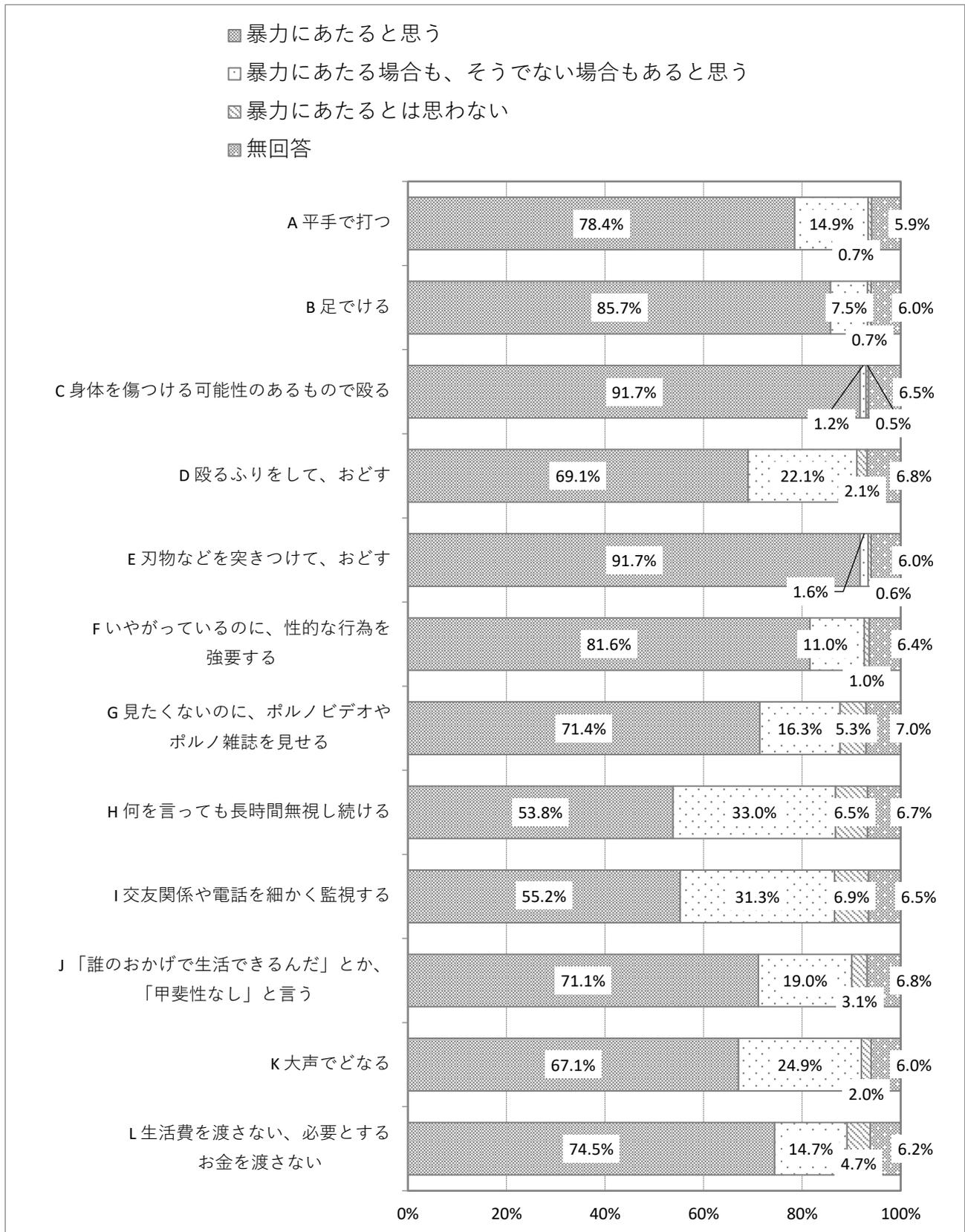


問24 あなたは、次のようなことが夫婦間等で行われた場合、それを暴力だと思いますか。

- A 平手で打つ
- B 足でける
- C 身体を傷つける可能性のあるもので殴る
- D 殴るふりをして、おどす
- E 刃物などを突きつけて、おどす
- F いやがっているのに、性的な行為を強要する
- G 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる
- H 何を言っても長時間無視し続ける
- I 交友関係や電話を細かく監視する
- J 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う
- K 大声でどなる
- L 生活費を渡さない、必要とするお金を渡さない

【全体 (n=811)】

12 の項目全てにおいて、「暴力にあたると思う」と答えた人の割合が高い。「C 身体を傷つける可能性のあるもので殴る」は 91.7%、「E 刃物などを突きつけて、おどす」は 91.7%が「暴力にあたると思う」と回答している。

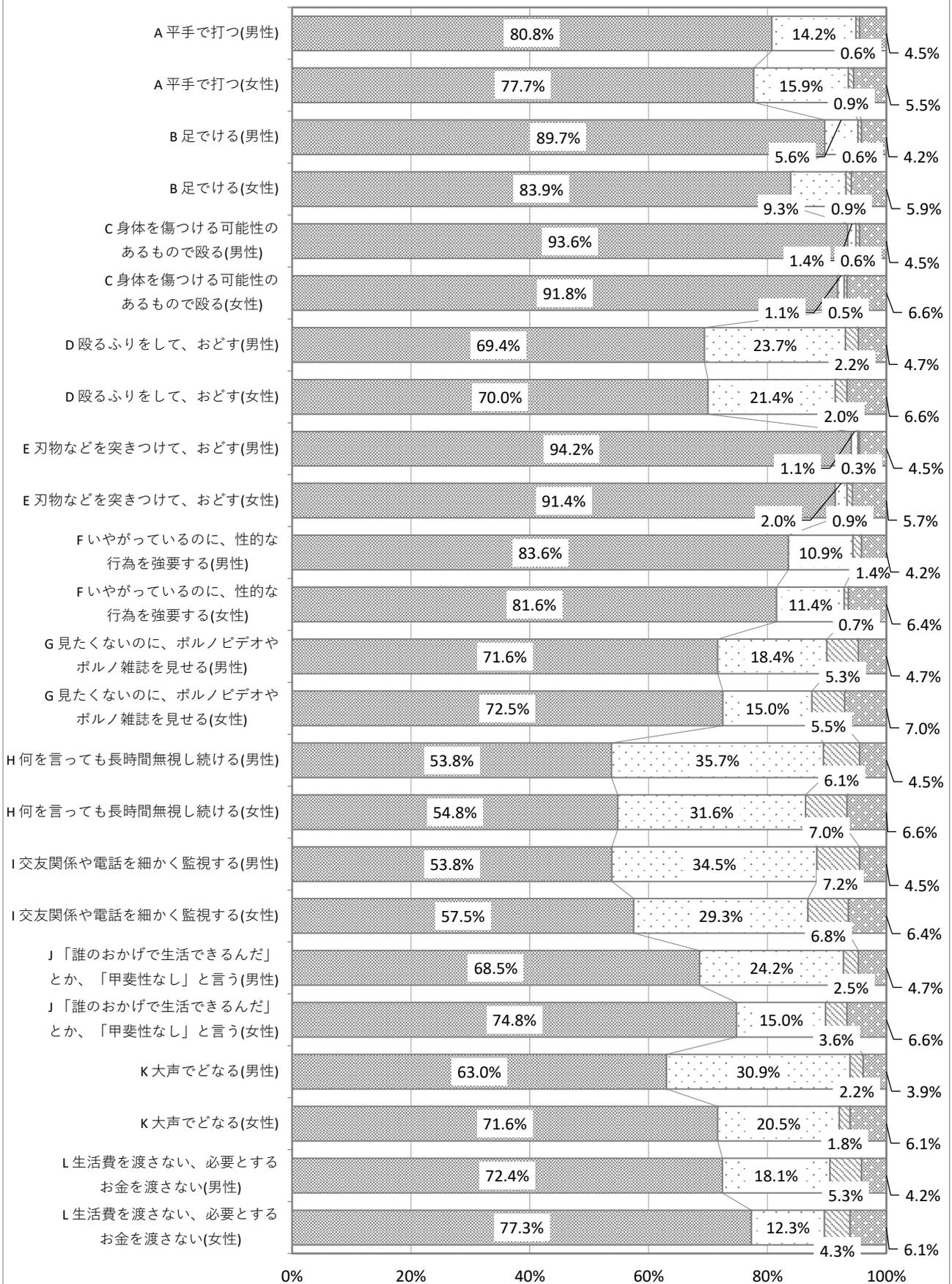


【男女比較（男性 n=359、女性 n=440）】

男女ともに「暴力にあたる」と答えた人の割合が9割を超えているのは、「C 身体を傷つける可能性のあるもので殴る」（男性 93.6%、女性 91.8%）と、「E 刃物などを突きつけて、おどす」（男性 94.2%、女性 91.4%）である。「暴力にあたると思う」と答えた人の割合で男女の差が大きいのは、「K 大声でどなる」と「J 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う」だった。「K 大声でどなる」は女性の方が 8.6 ポイント高く、「J 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う」は女性の方が 6.3 ポイント高い。

男女ともに、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答えた人の割合が高いのは、「H 何を言っても長時間無視し続ける」（男性 35.7%、女性 31.6%）と「I 交友関係や電話を細かく監視する」（男性 34.5%、女性 29.3%）である。男女の差が大きいのは「K 大声でどなる」で、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答えた割合が、男性の方が 10.4 ポイント高い。

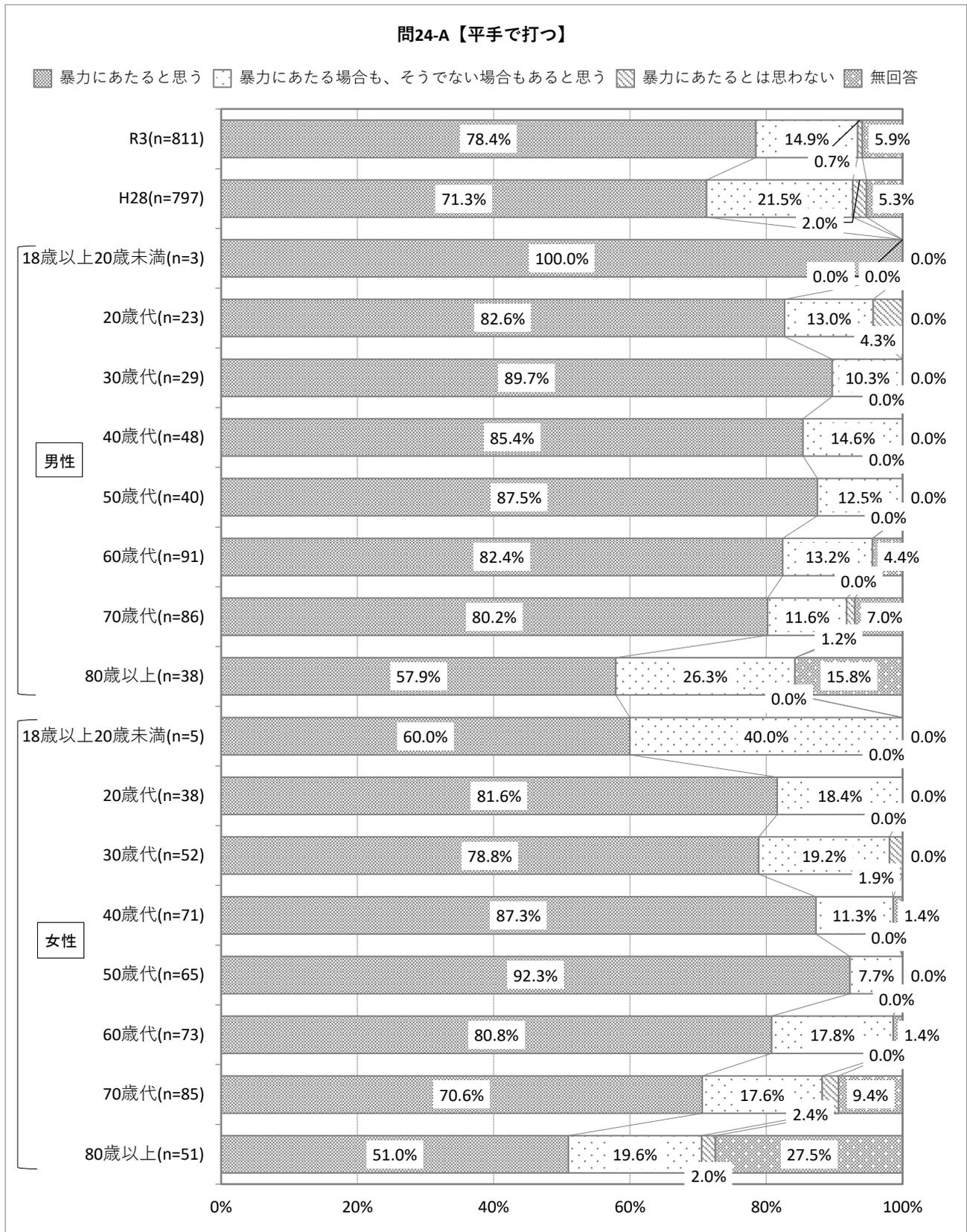
暴力にあたると思う
 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
 暴力にあたるとは思わない
 無回答



【経年・年代比較（問 24-A 平手で打つ）】

「平手で打つ」において、「暴力にあたる」と答えている割合は、男性では、18歳以上20歳未満から70歳代で8割以上であるが、80歳以上で57.9%と低い。女性では、20歳代から70歳代で7~9割と高いが、18歳以上20歳未満で60.0%、80歳以上で51.0%と低い。

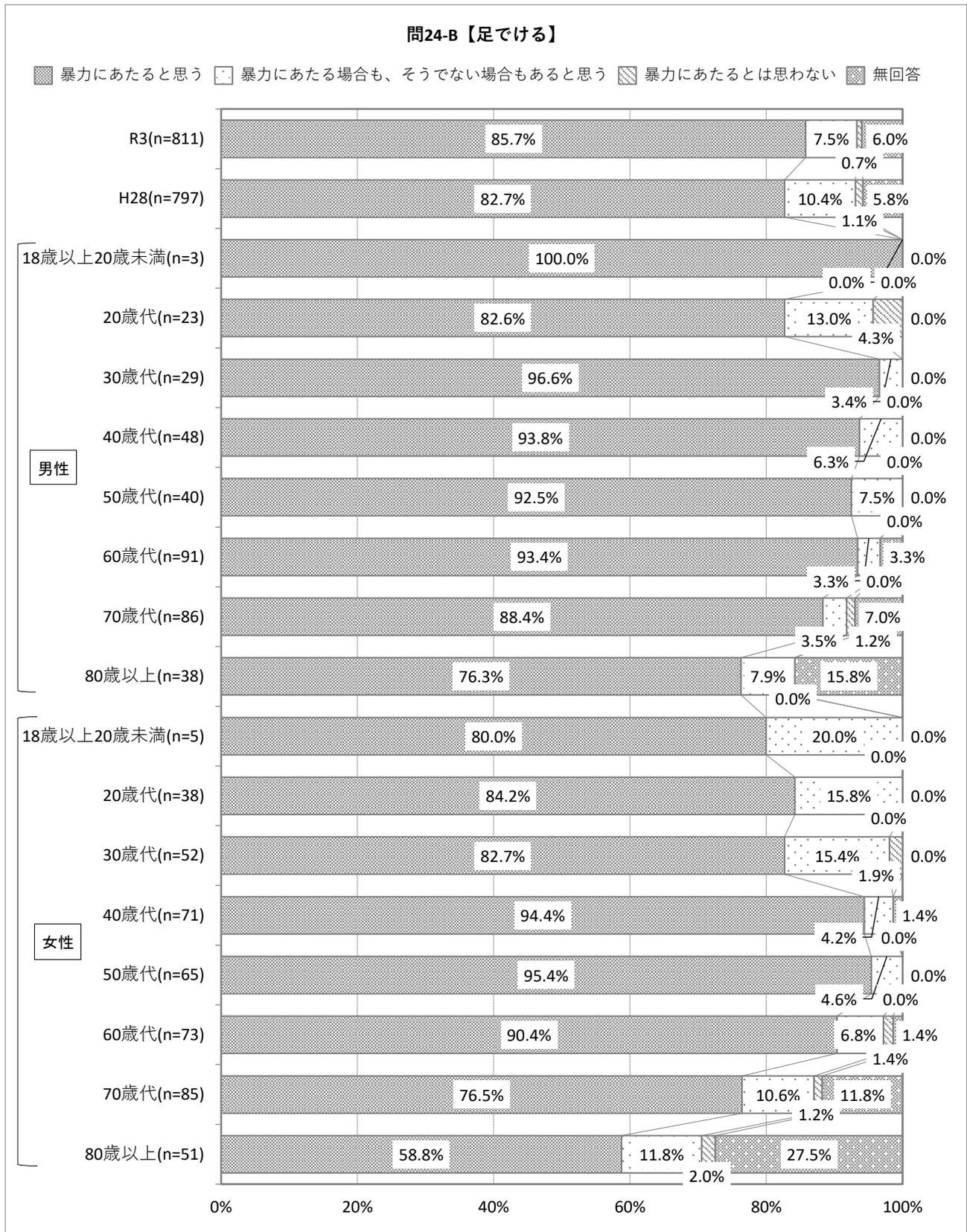
前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合は7.1ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 24-B 足でける）】

「足でける」において、男性では、どの年代においても「暴力にあたる」と答えている割合が概ね 8 割以上と高い。女性でも、18 歳以上 20 歳未満から 70 歳代で概ね 8 割以上と高いが、80 歳以上で 58.8% と低い。

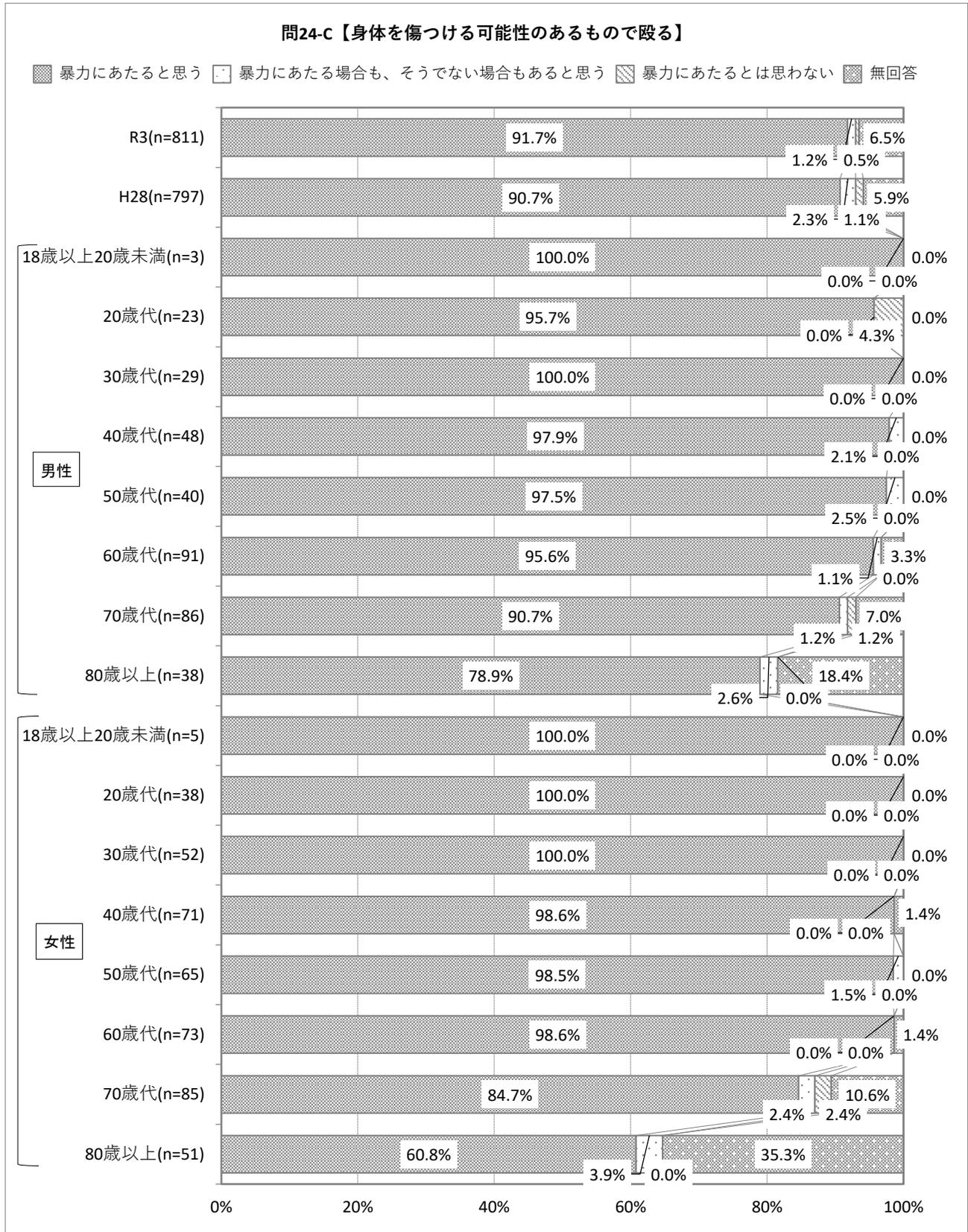
前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合は 3.0 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 24-C 身体を傷つける可能性のあるもので殴る）】

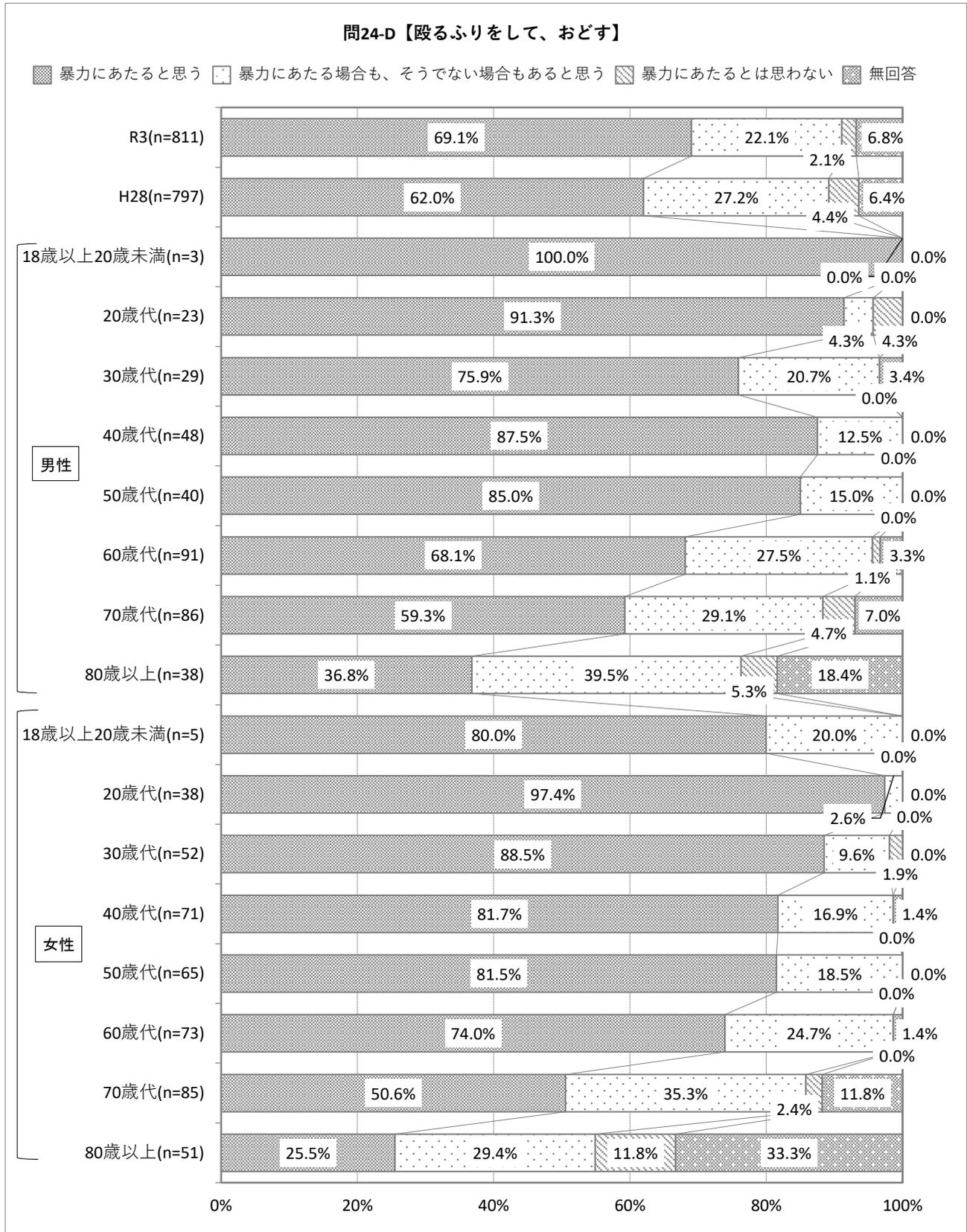
「身体を傷つける可能性のあるもので殴る」において、男性女性ともに、18歳以上20歳未満から70歳代で概ね9割以上が「暴力にあたる」と答えているが、80歳以上では、男性78.9%、女性60.8%と低い。

前回調査と比較してみると、大きな違いは見られない。



【経年・年代比較（問 24-D 殴るふりをして、おどす）】

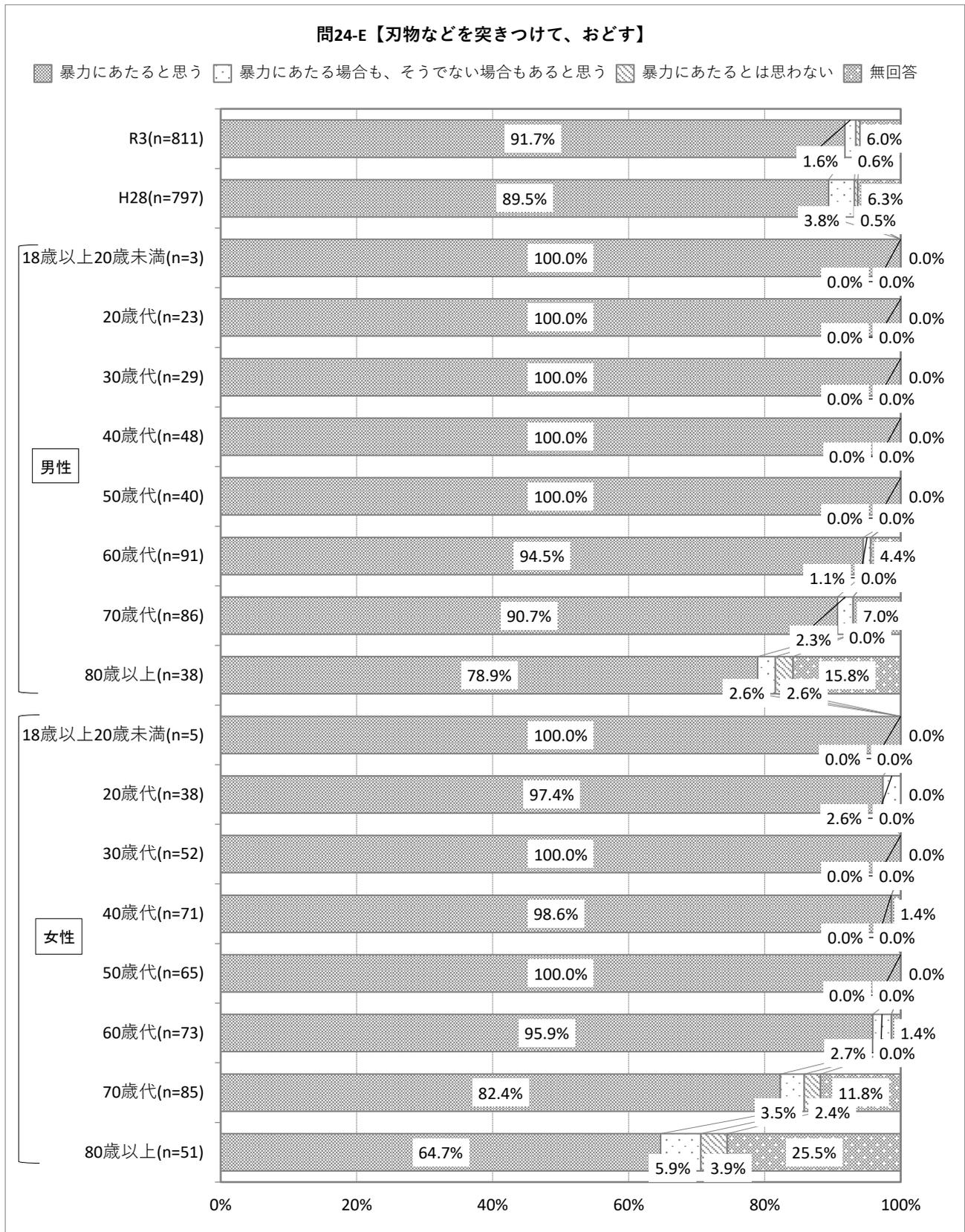
「殴るふりをして、おどす」において、男性では、「暴力にあたる」と答えている割合が 20 歳代から 50 歳代で 8～9 割となっているが、60 歳代から 80 歳以上では、年代が上がるにつれて割合が低下し、80 歳以上で 36.8%と低い。女性では、年代が上がるにつれて割合が低下し、80 歳以上で 25.5%と低い。前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が 7.1 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 24-E 刃物などを突きつけて、おどす）】

「刃物などを突きつけて、おどす」において、男女ともに 70 歳代までは概ね 9 割以上が「暴力にあたる」と回答しているが、80 歳以上では男性 78.9%、女性 64.7%と低い。

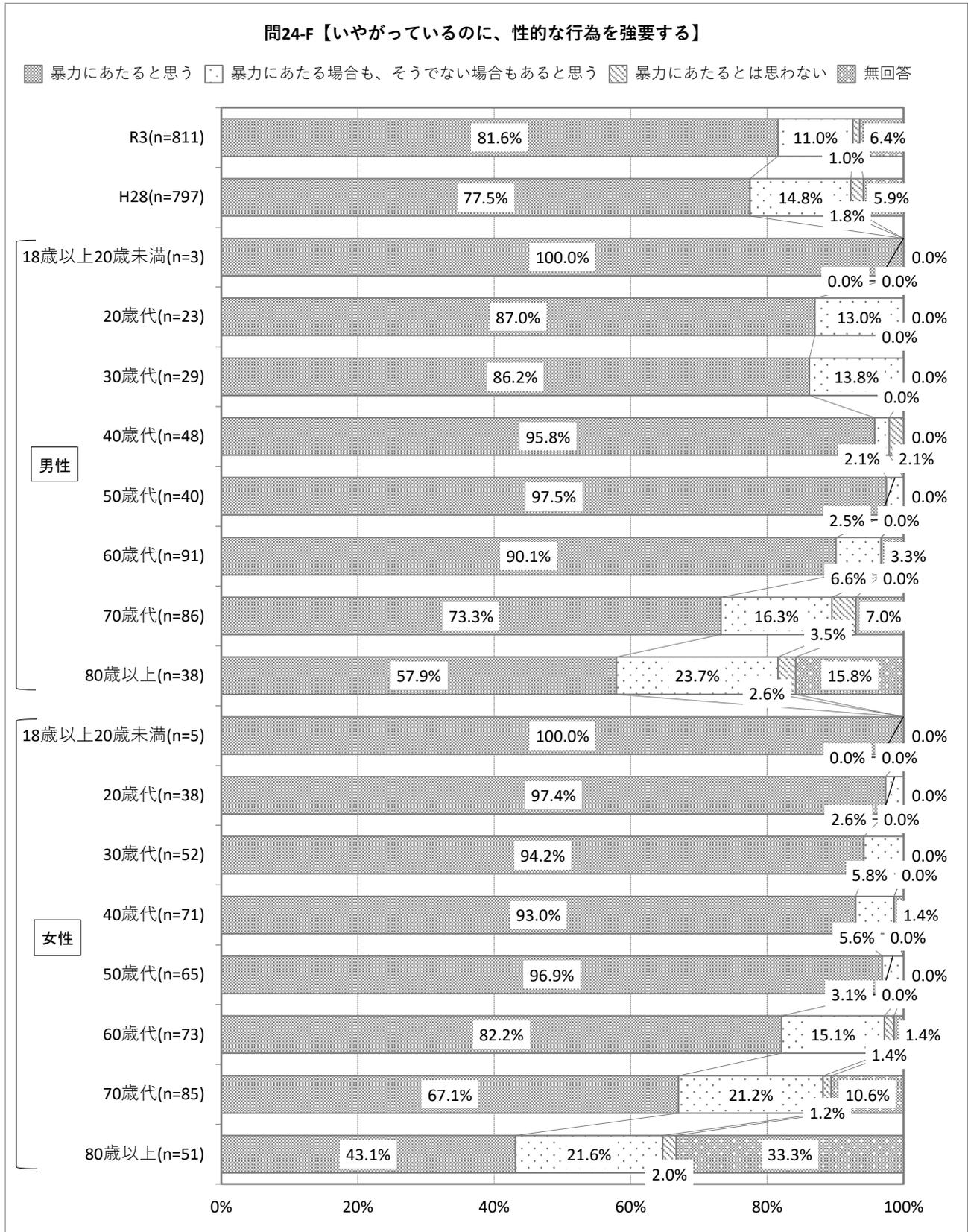
前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が 2.2 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 24-F いやがっているのに、性的な行為を強要する）】

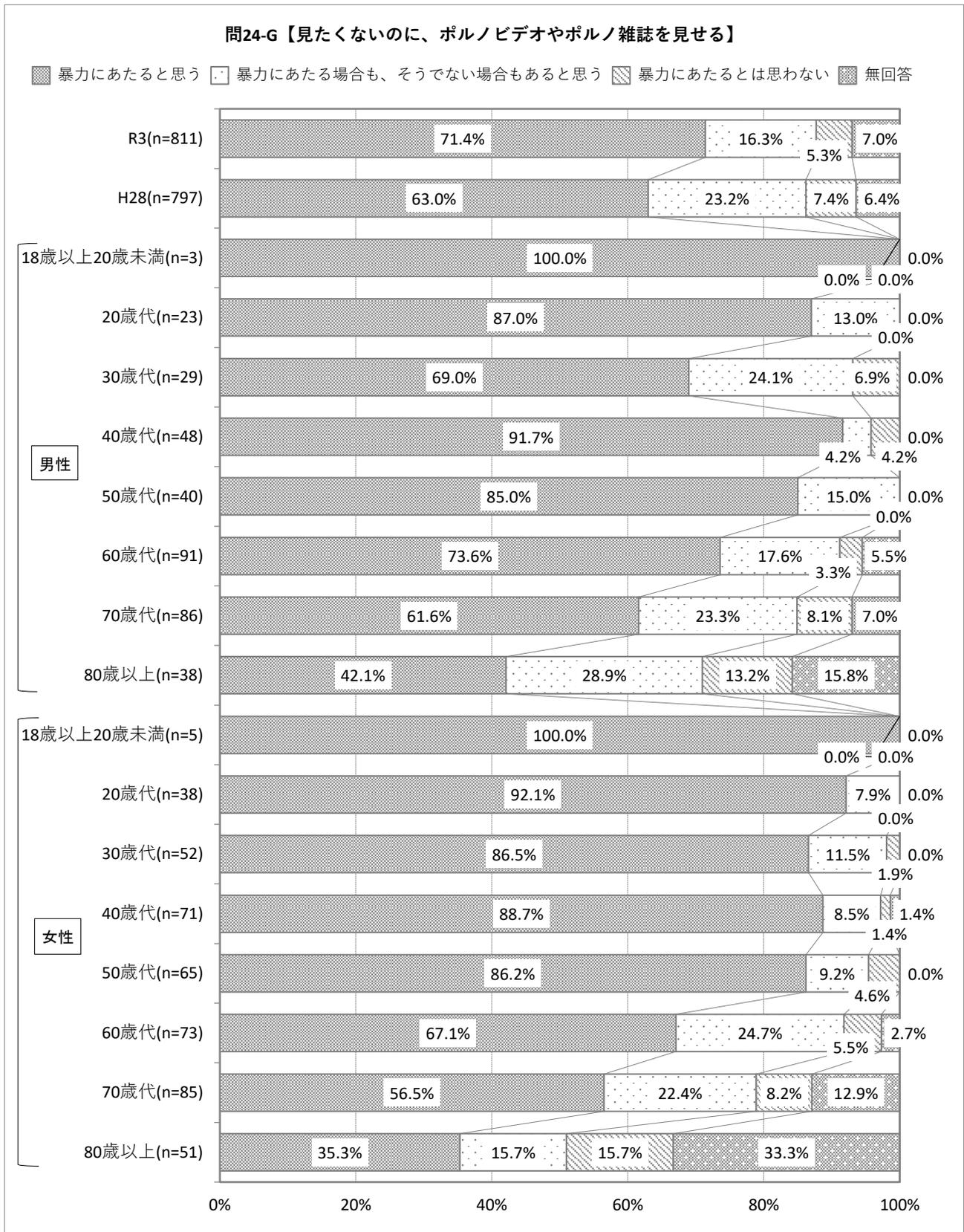
「いやがっているのに、性的な行為を強要する」において、男女ともに、ほとんどの年代において「暴力にあたる」と答えている割合が高いが、70歳代で男性73.3%、女性67.1%、80歳以上で男性57.9%、女性43.1%と低い。

前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が4.1ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 24-G 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる）】

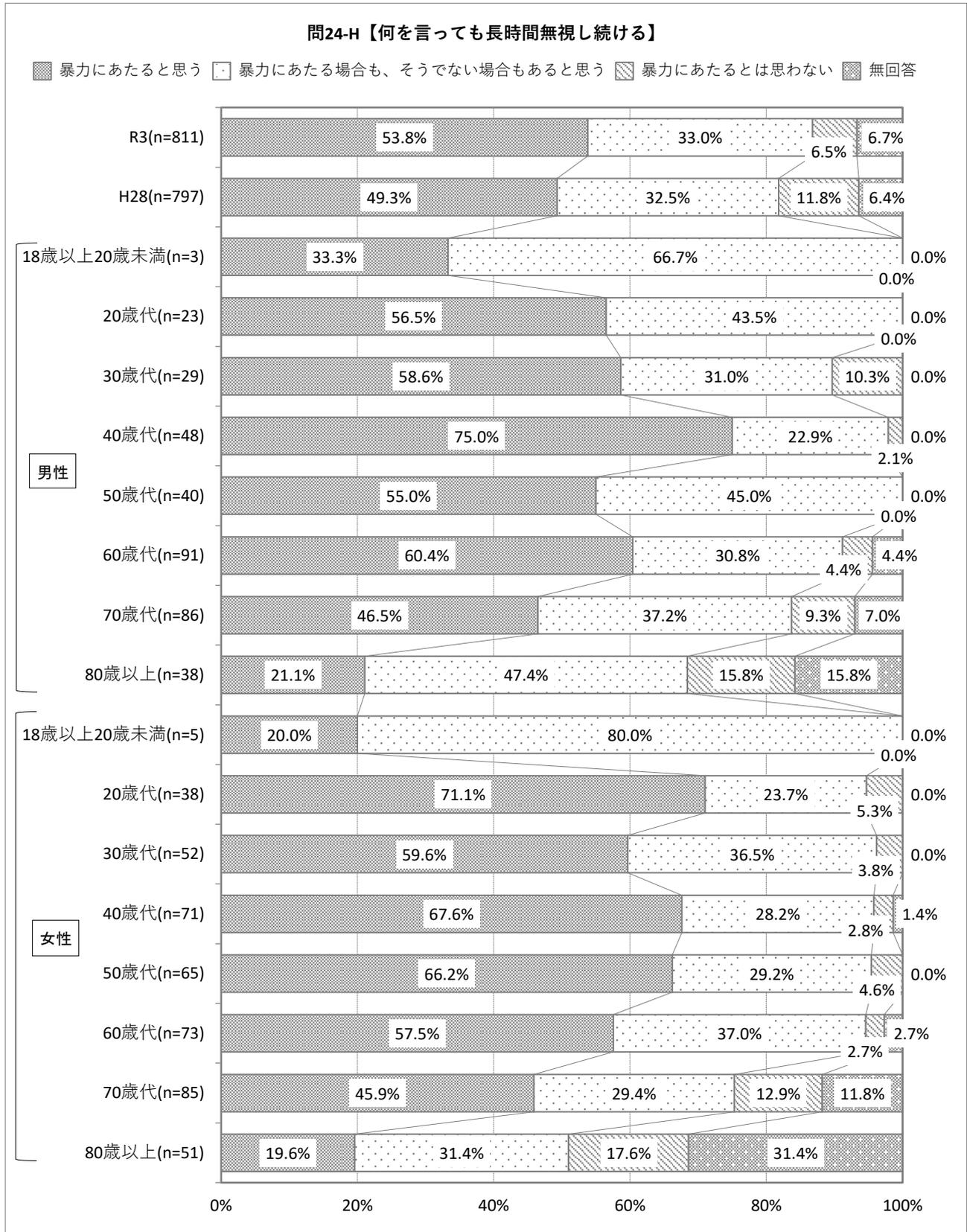
「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」において、男女ともに年代が上がるにつれて「暴力にあたる」と答えた人の割合が概ね低下し、80歳以上で、男性 42.1%、女性 35.3%である。前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が 8.4 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 24-H 何を言っても長時間無視し続ける）】

「何を言っても長時間無視し続ける」において、「暴力にあたる」と答えた人の割合が最も高いのは、男性で 40 歳代 75.0%、女性で 20 歳代 71.1%である。男女ともに 70 歳代以上では、「暴力にあたると思わない」と答えた人の割合が高い。

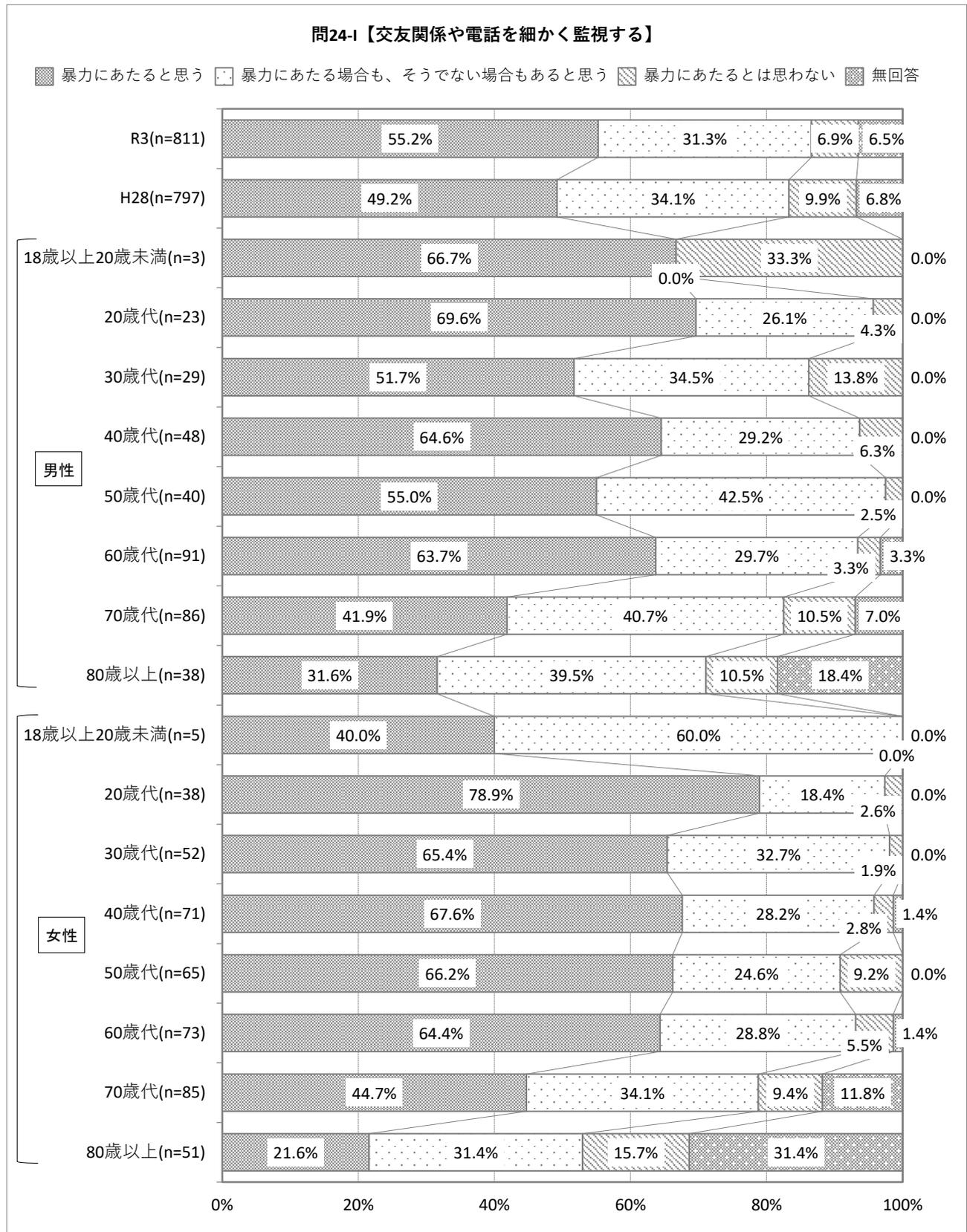
前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が 4.5 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 24-I 交友関係や電話を細かく監視する）】

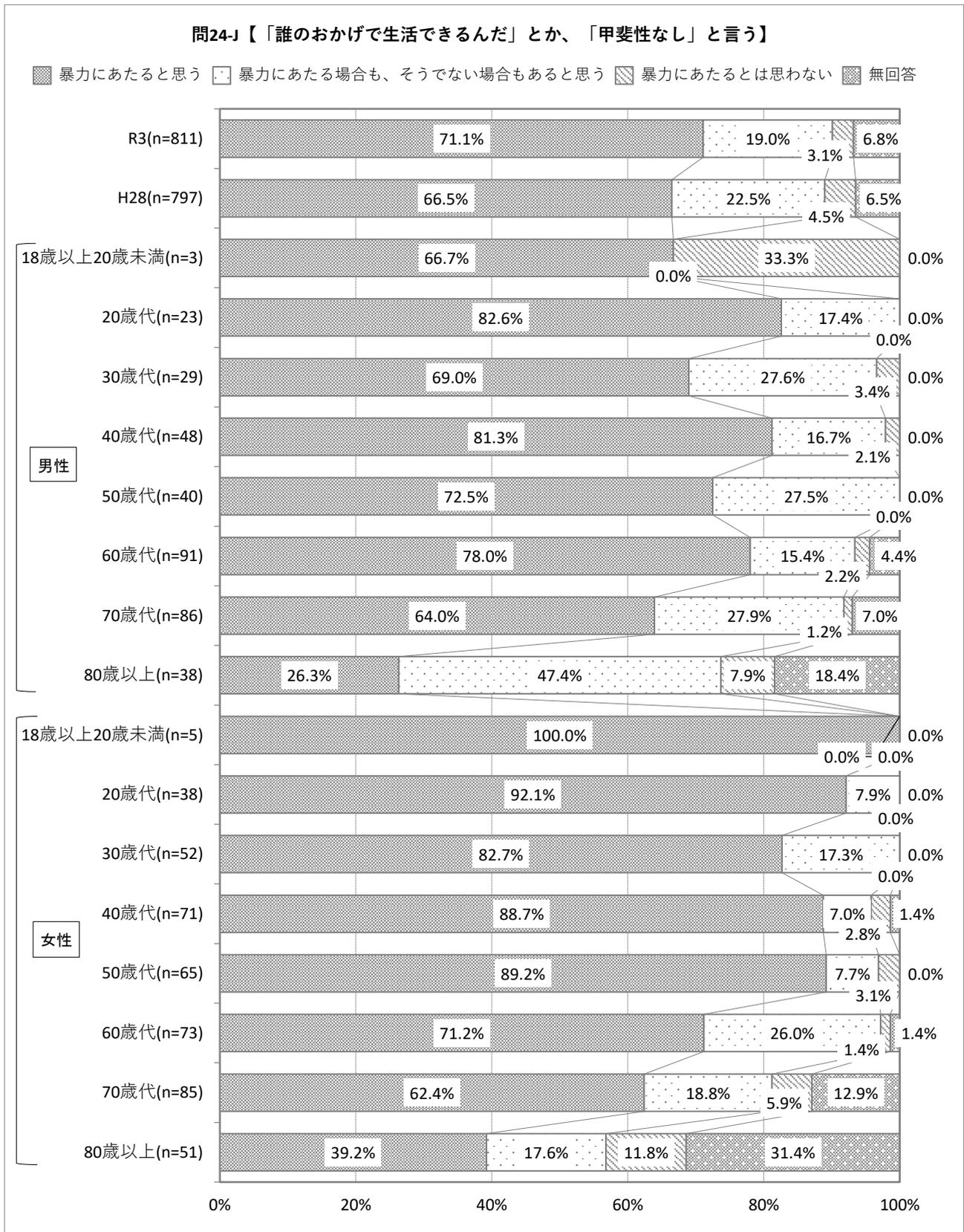
「交友関係や電話を細かく監視する」において、「暴力にあたる」と答えている割合が、70歳代で男性41.9%、女性44.7%、80歳以上で男性31.6%、女性21.6%と、他の年代に比べて低い。

前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が6.0ポイント増加している。



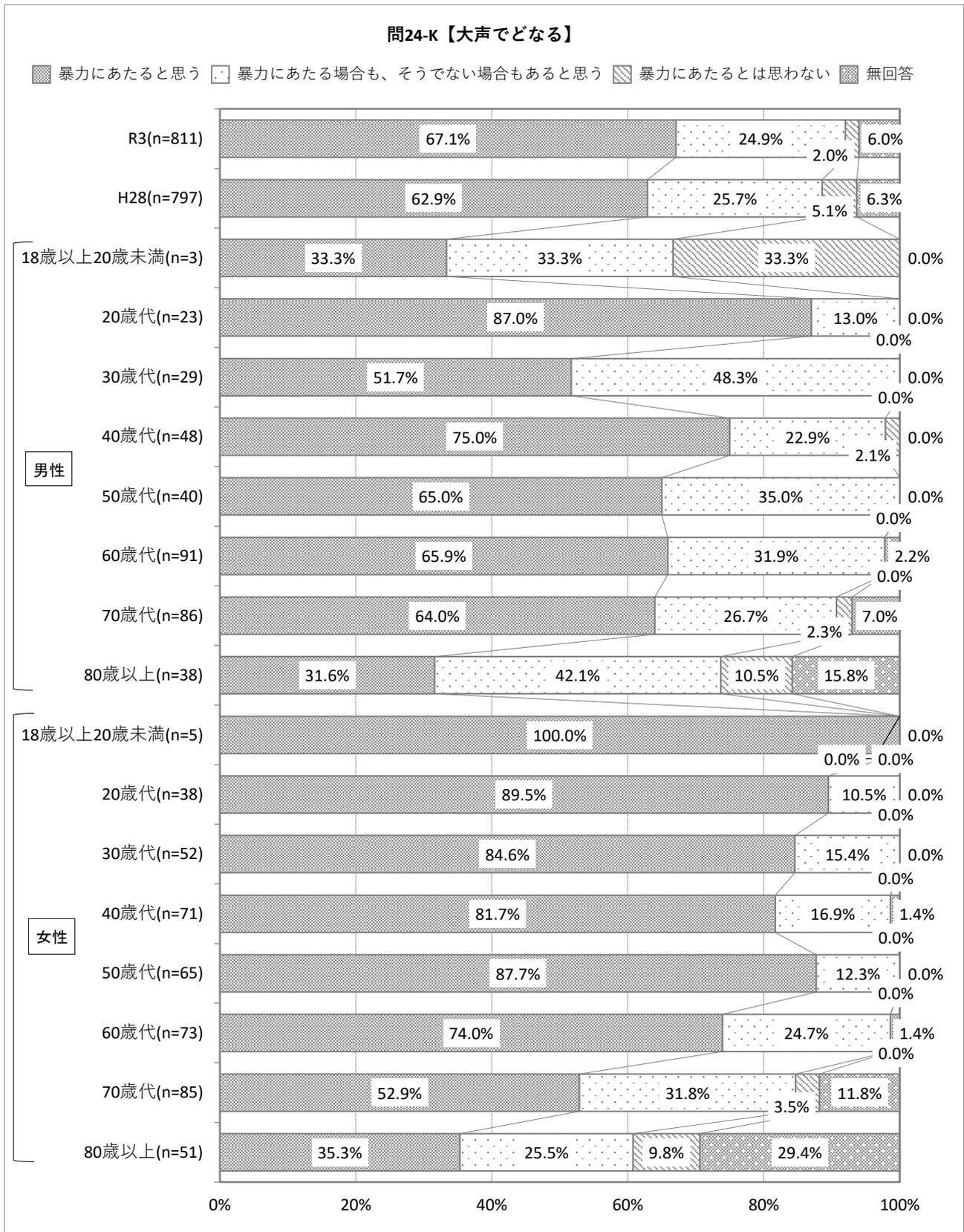
【経年・年代比較（問 24-J 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う）】

「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言うにおいて、男女とも、ほとんどの年代において「暴力にあたる」と答えている割合が高いが、80歳以上で、男性26.3%、女性39.2%と低い。前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が4.6ポイント増加している。



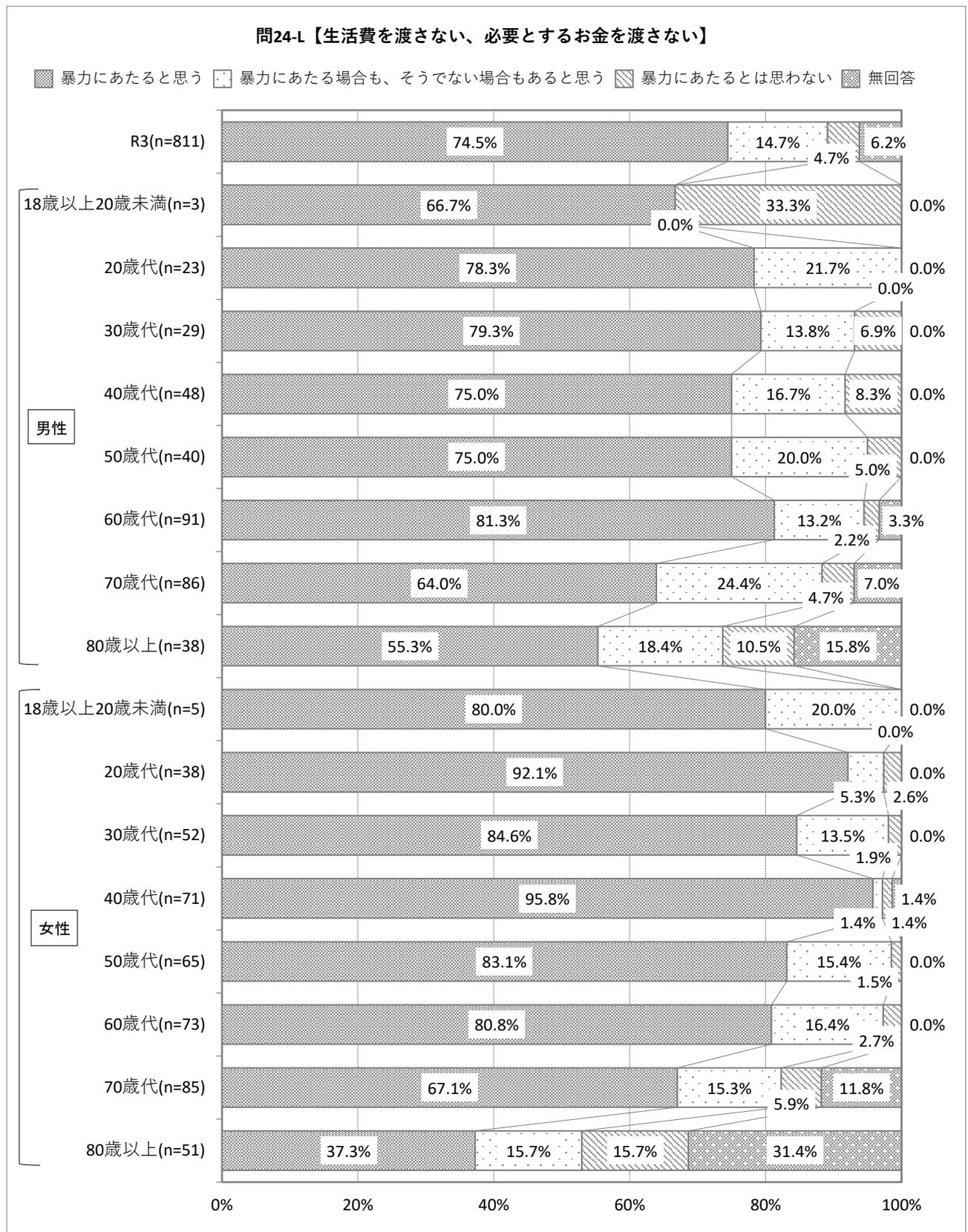
【経年・年代比較（問 24-K 大声でどなる）】

「大声でどなる」において、「暴力にあたる」と答えている割合が高いのは、男性では 20 歳代で 87.0%、女性では 20 歳代から 50 歳代で 8~9 割であるが、80 歳以上では、男性 31.6%、女性 35.3%と低い。前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が 4.2 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 24-L 生活費を渡さない、必要とするお金を渡さない）】

「生活費を渡さない、必要とするお金を渡さない」において、「暴力にあたる」と回答している割合は、男女ともに、18歳以上20歳未満から60歳代で8～9割となっているが、70歳代では男性64.0%、女性67.1%、80歳以上で男性55.3%、女性37.3%と、他の年代に比べて低い。



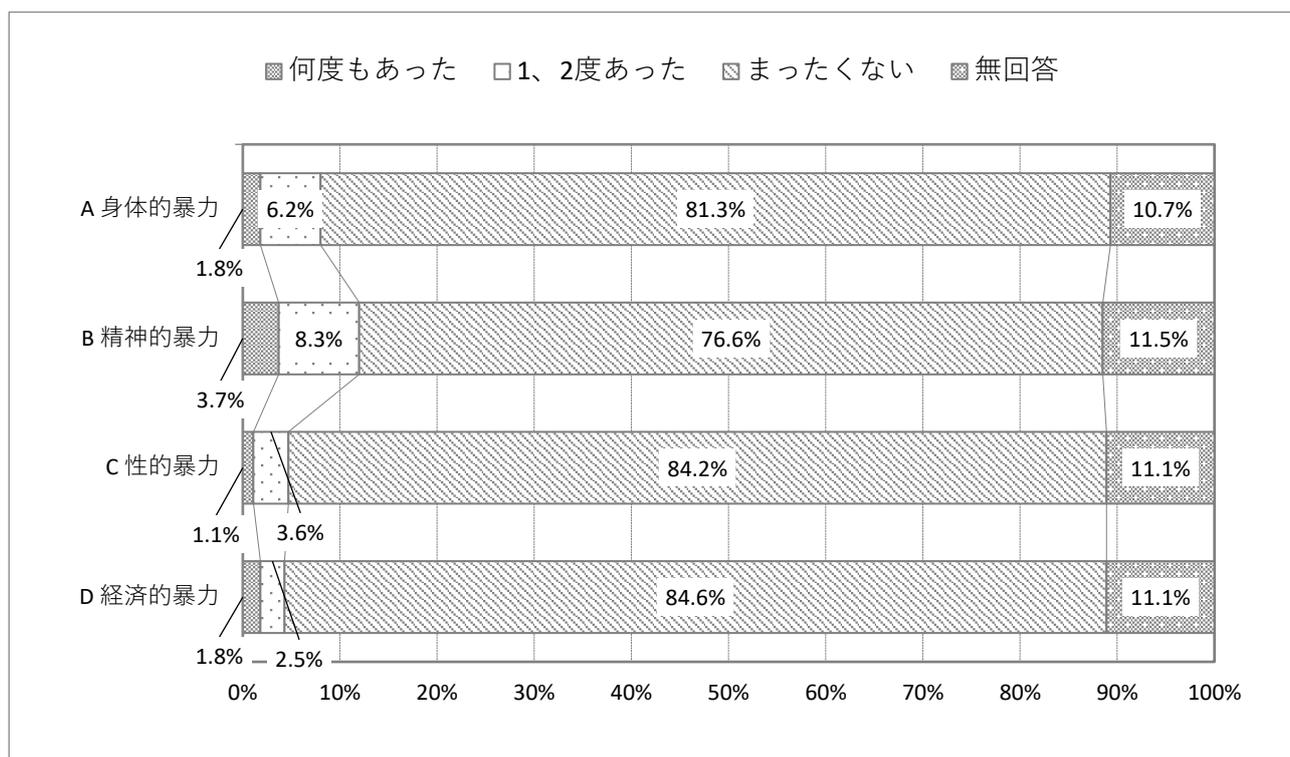
問25 あなたは、最近5年間、あなたの配偶者等から次のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者等」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者や恋人も含まれます。

- A 身体的暴力（例えば、殴ったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）
- B 精神的暴力（例えば、人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）
- C 性的暴力（例えば、いやがっているのに、性的な行為を強要されるなど）
- D 経済的暴力（例えば、生活費を渡さない、必要とするお金を渡さないなど）

【全体】

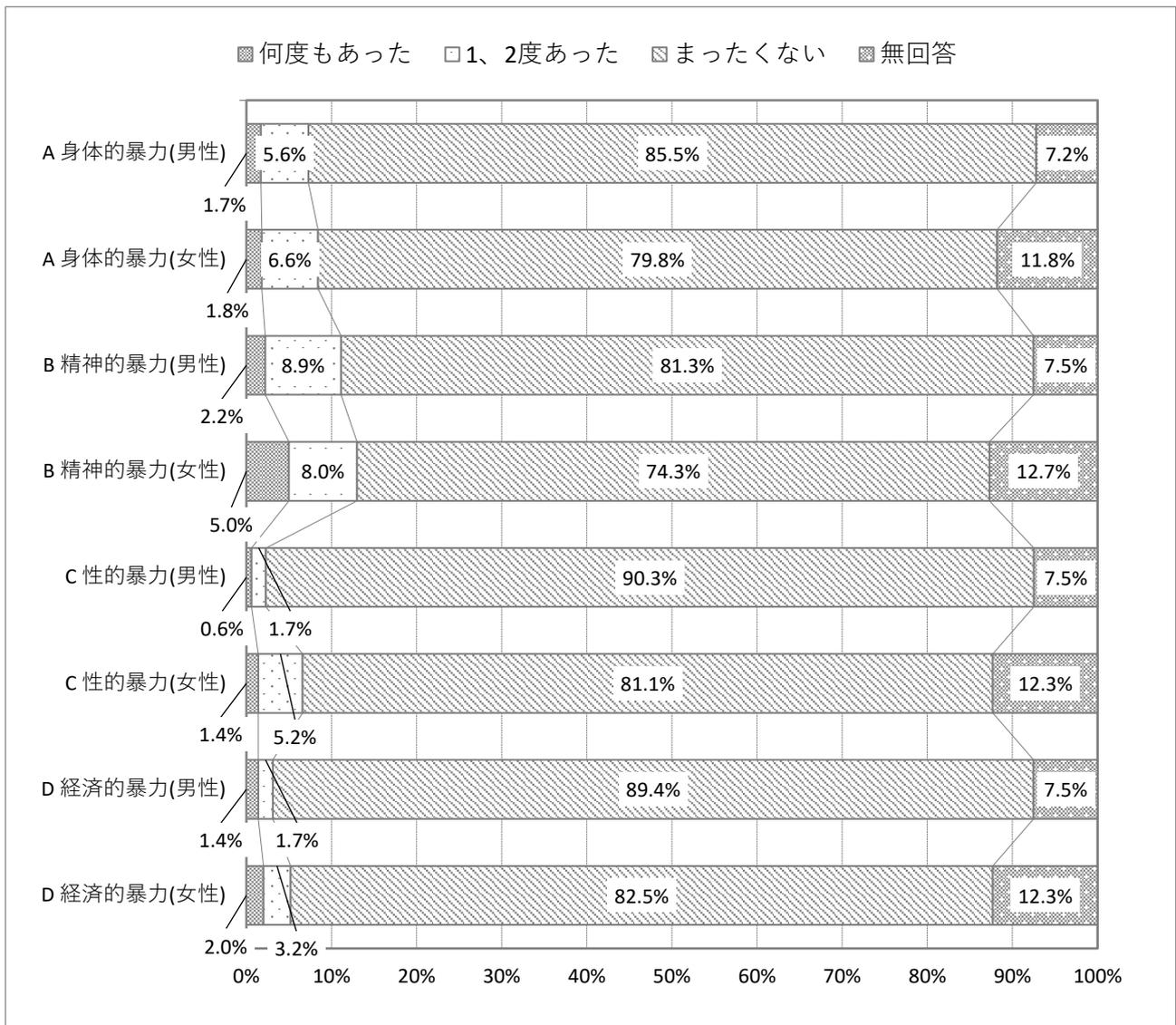
「何度もあった」「1、2度あった」を合わせた割合は、「A 身体的暴力の被害」が8.0%、「B 精神的暴力の被害」が12.0%、「C 性的暴力の被害」が4.7%、「D 経済的暴力」が4.3%となっている。

「A 身体的暴力」「B 精神的暴力」について、「何度もあった」「1、2度あった」と回答した人の割合が高い。



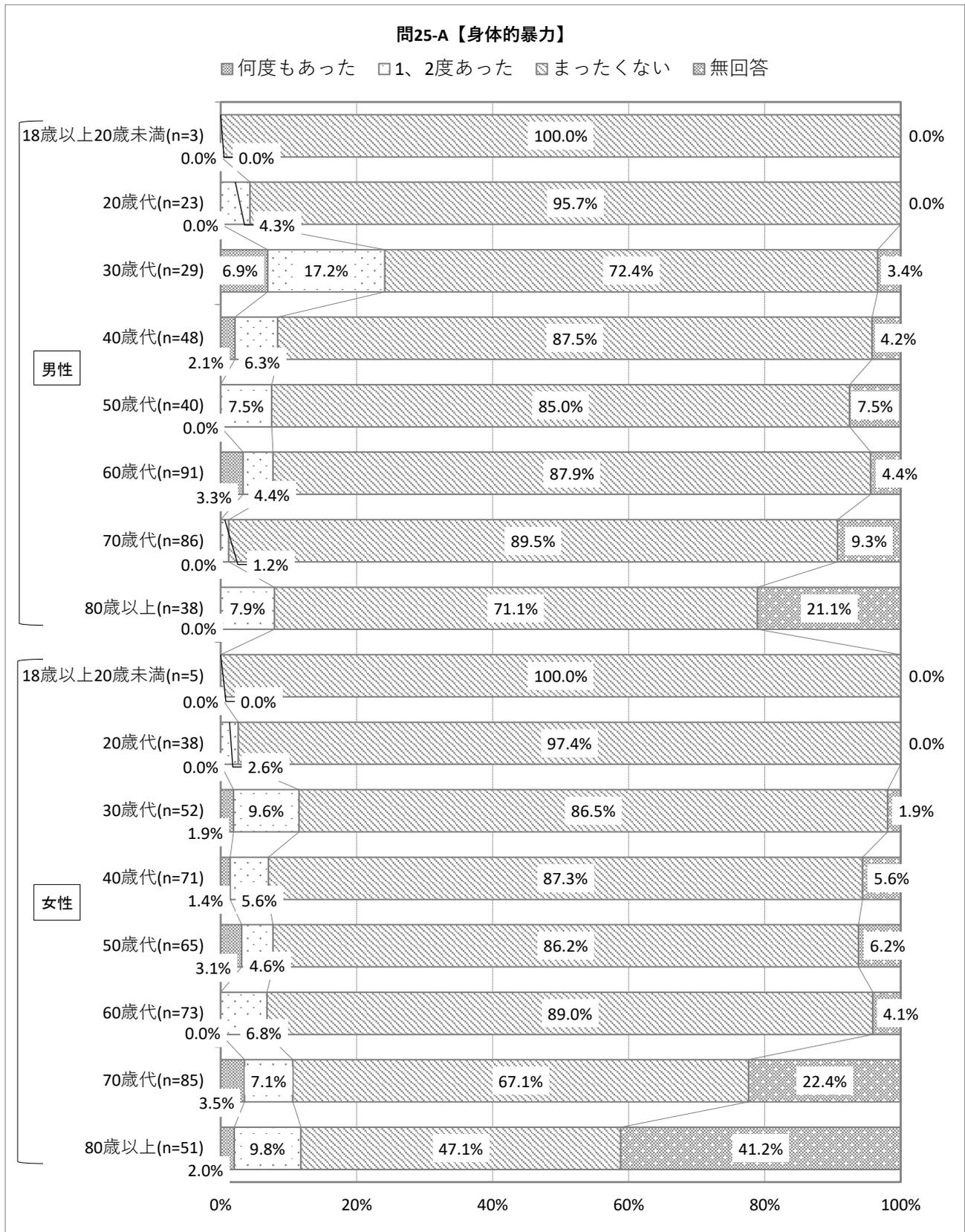
【男女比較】

性別でみると、「何度もあった」「1、2度あった」を合わせた割合は、全ての項目で女性の方が男性よりも高い。



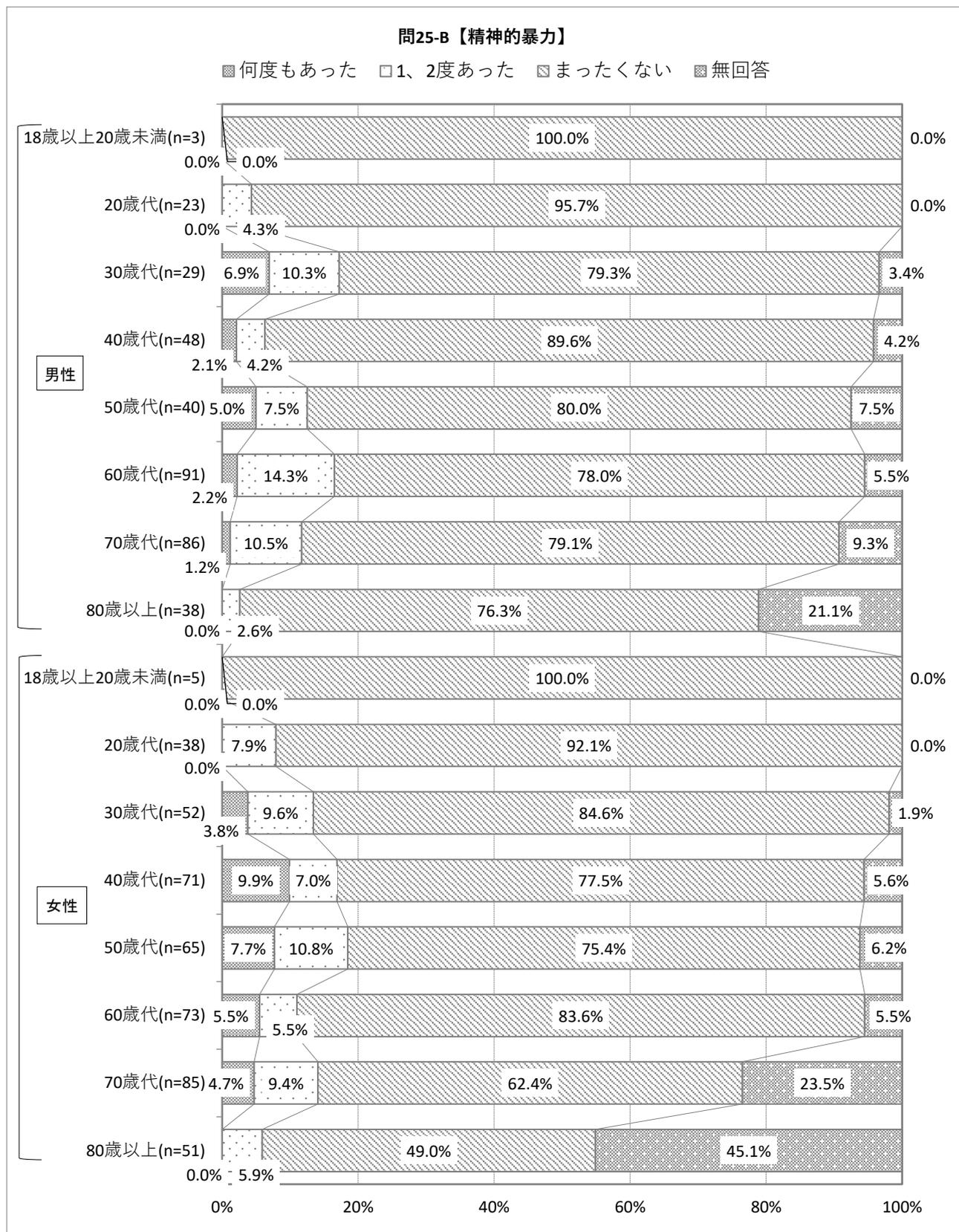
【年代比較 A 身体的暴力（例えば、殴ったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）】

年代別では、男性では「何度もあった」「1、2度あった」と答えた人は30歳代で24.1%と高い。女性では、30歳代以上で「1、2度あった」と答えた人が多い。



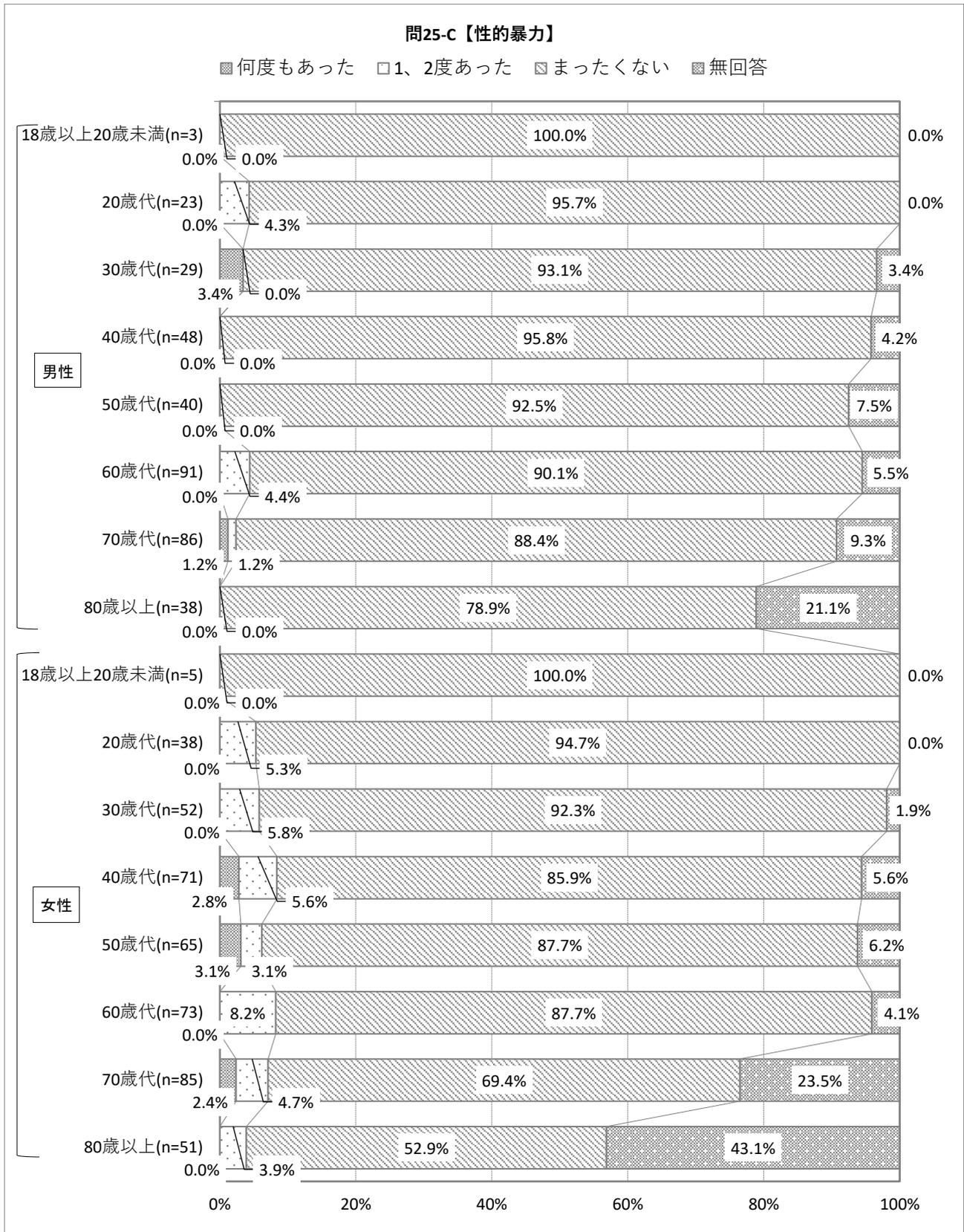
【年代比較 B 精神的暴力（例えば、人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）】

年代別では、「何度もあった」「1、2度あった」と答えた人の割合が、男性では、30歳代で17.2%、60歳代で16.5%と高い。女性では、50歳代で18.5%、40歳代で16.9%と高い。



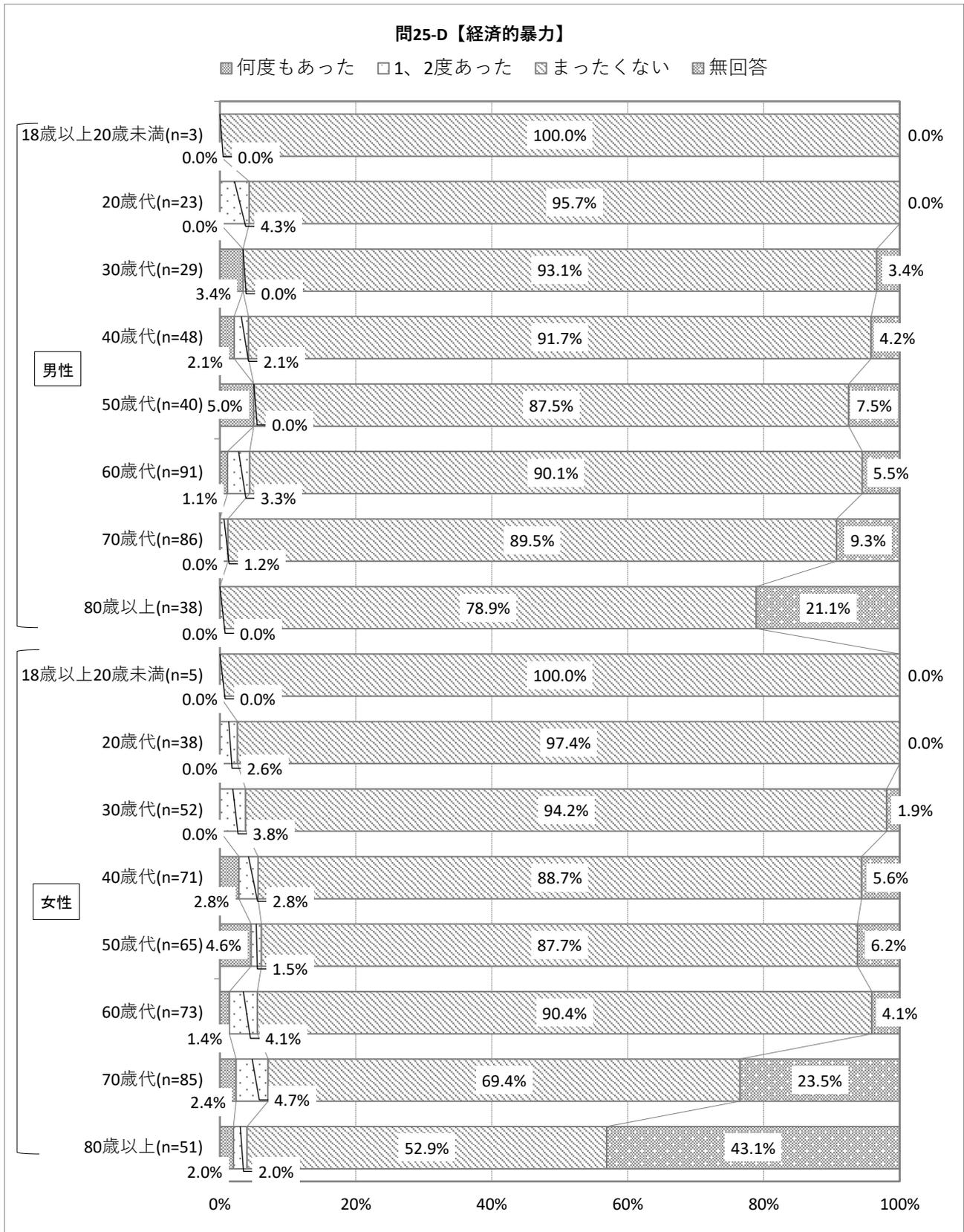
【年代比較 C 性的暴力（例えば、いやがっているのに、性的な行為を強要されるなど）】

年代別では、男性では、どの年代も8～9割が「まったくない」と回答している。女性では、「何でもあった」「1、2度あった」を合わせた割合が、40歳代で8.4%、60歳代で8.2%と高い。



【年代比較 D 経済的暴力（例えば、生活費を渡さない、必要とするお金を渡さないなど）】

年代別では、「まったくない」と回答している割合は、男性では、どの年代も 8~9 割となっている。女性では、60 歳代までは約 9 割であるが、70 歳代では 69.4%、80 歳以上では 52.9%と低い。

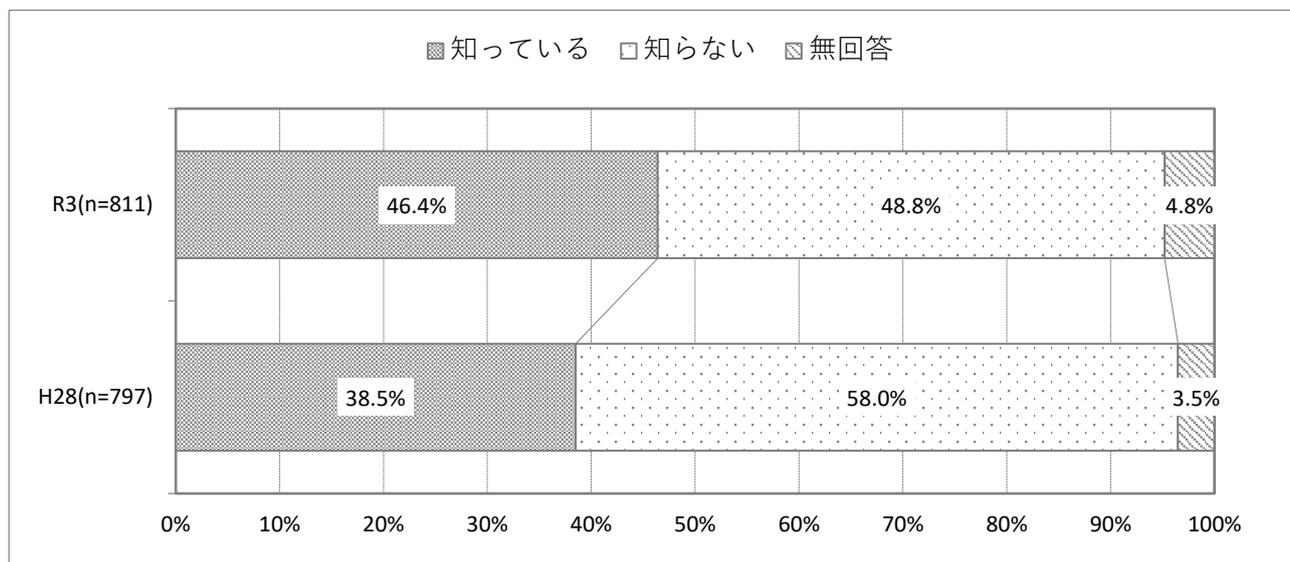


問26 あなたはDVに関する相談窓口を知っていますか。

【全体】

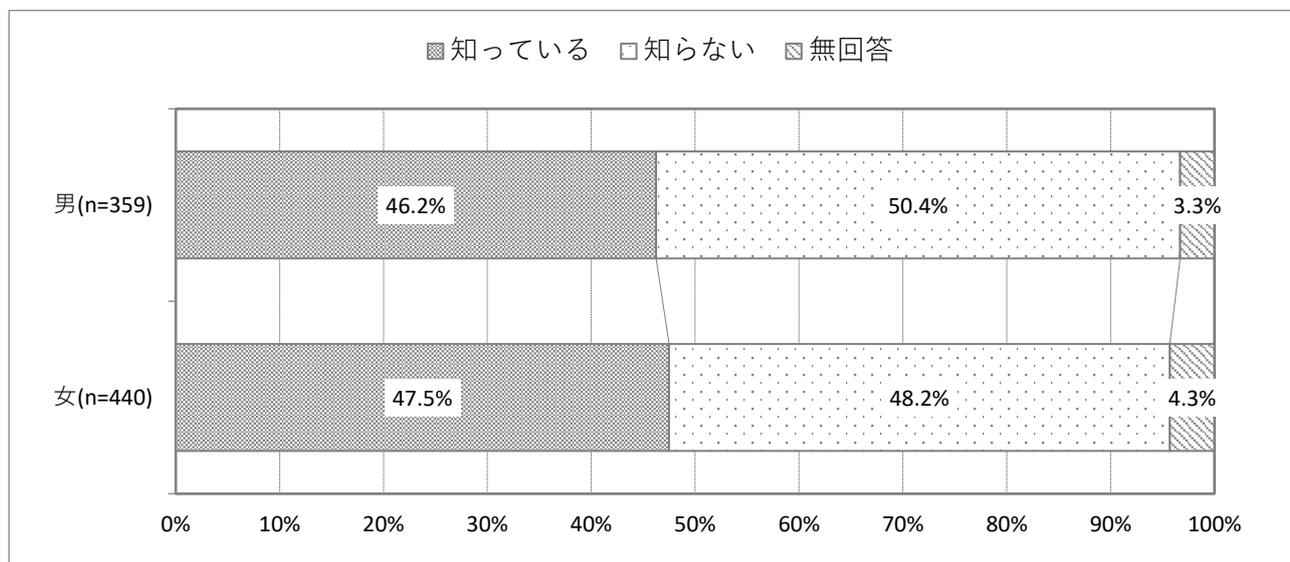
全体では、「知っている」376人(46.4%)、「知らない」396人(48.8%)で、「知らない」と答えた人の割合が若干高い。

前回調査と比較してみると、「知っている」と答えた割合が、7.9ポイント増加している。



【男女比較】

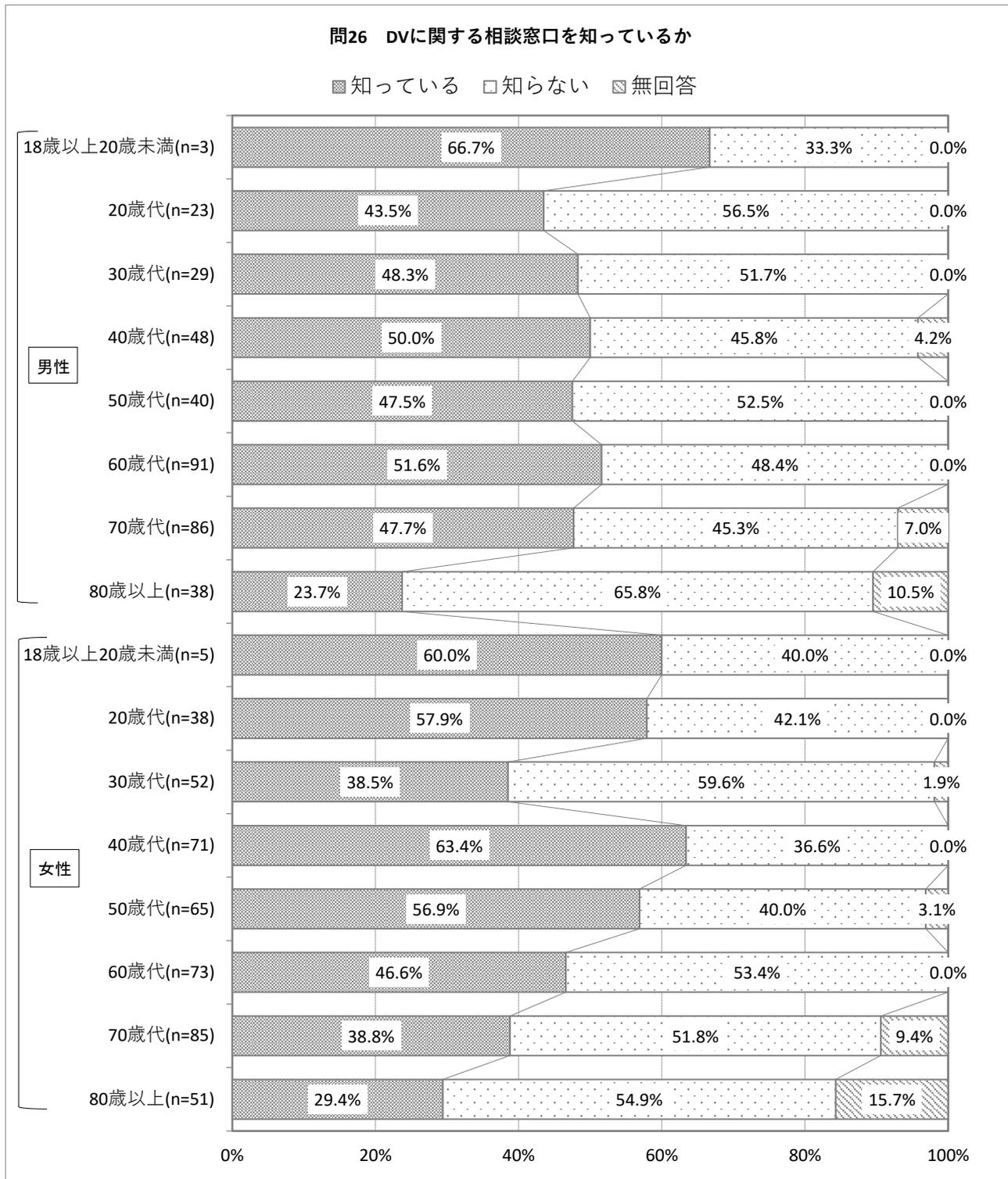
性別でみると、「知っている」と答えた割合は、男性46.2%、女性47.5%で、女性の方が1.3ポイント高い。「知らない」と答えた割合は、男性50.4%、女性48.2%で、男性の方が2.2ポイント高い。



【年代比較】

年代別では、男性において、20歳代から70歳代で「知っている」と答えた人の割合は約5割であるが、80歳以上では、23.7%と低い。女性において、「知っている」と答えた人の割合が高いのは、40歳代で63.4%である。低いのは、80歳以上で29.4%、30歳代で38.5%である。

男性は、年代による認知度の変化は少ないが、女性は、年代が上がるにつれて認知度が低くなる。

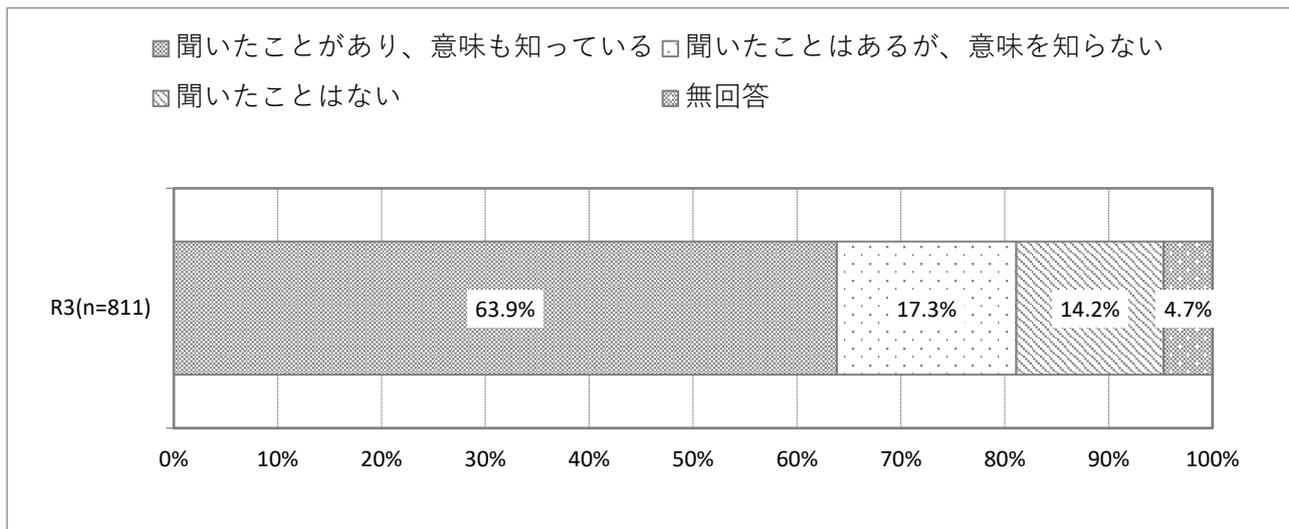


6 性の多様性について

問27 あなたは、「LGBT」という言葉を聞いたことがありますか。

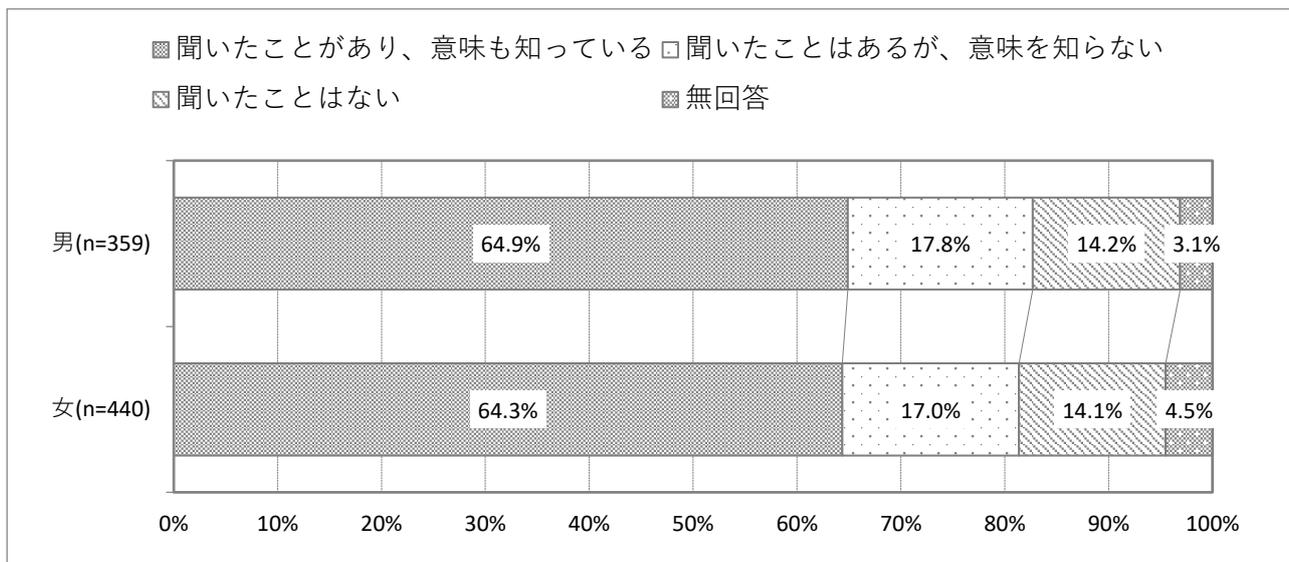
【全体】

全体では、「聞いたことがあります、意味も知っている」が63.9%、「聞いたことはあるが、意味を知らない」が17.3%、「聞いたことはない」が14.2%となっており、約8割が「LGBT」という言葉を聞いたことがあると言える。



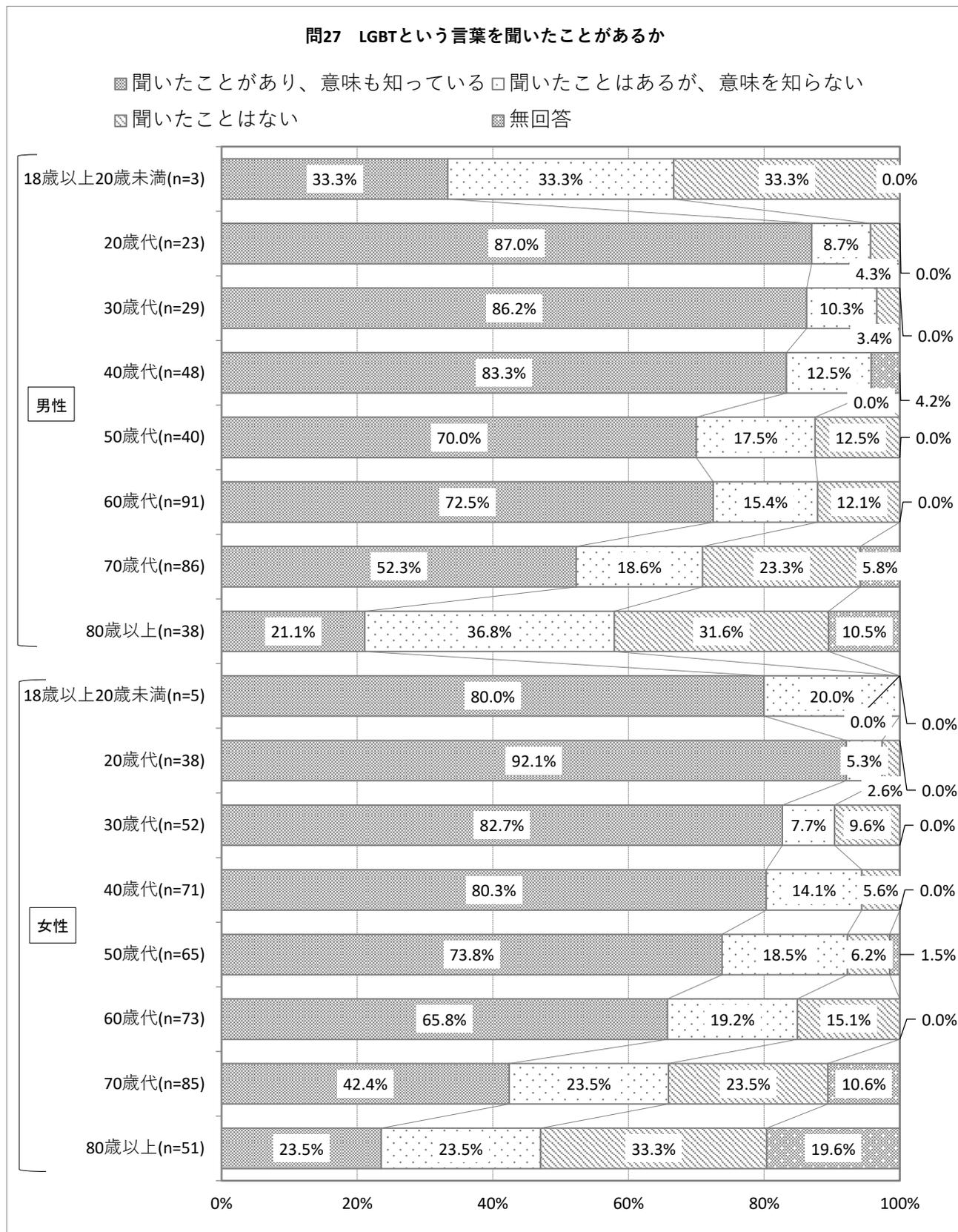
【男女比較】

性別でみると、男性では「聞いたことがあります、意味も知っている」が64.9%、「聞いたことはあるが、意味を知らない」が17.8%、「聞いたことはない」が14.2%、女性では「聞いたことがあります、意味も知っている」が64.3%、「聞いたことはあるが、意味を知らない」が17.0%、「聞いたことはない」が14.1%であり、男女で認知度に差はほとんどない。



【年代比較】

「聞いたことがあり、意味も知っている」と答えた割合が高いのは、男性では、20歳代から40歳代で8～9割である。女性では、20歳代で92.1%と各年代の中で最も高い。男女ともに、「聞いたことはない」と答えた割合は、年代が上がるにつれて概ね高くなっている。



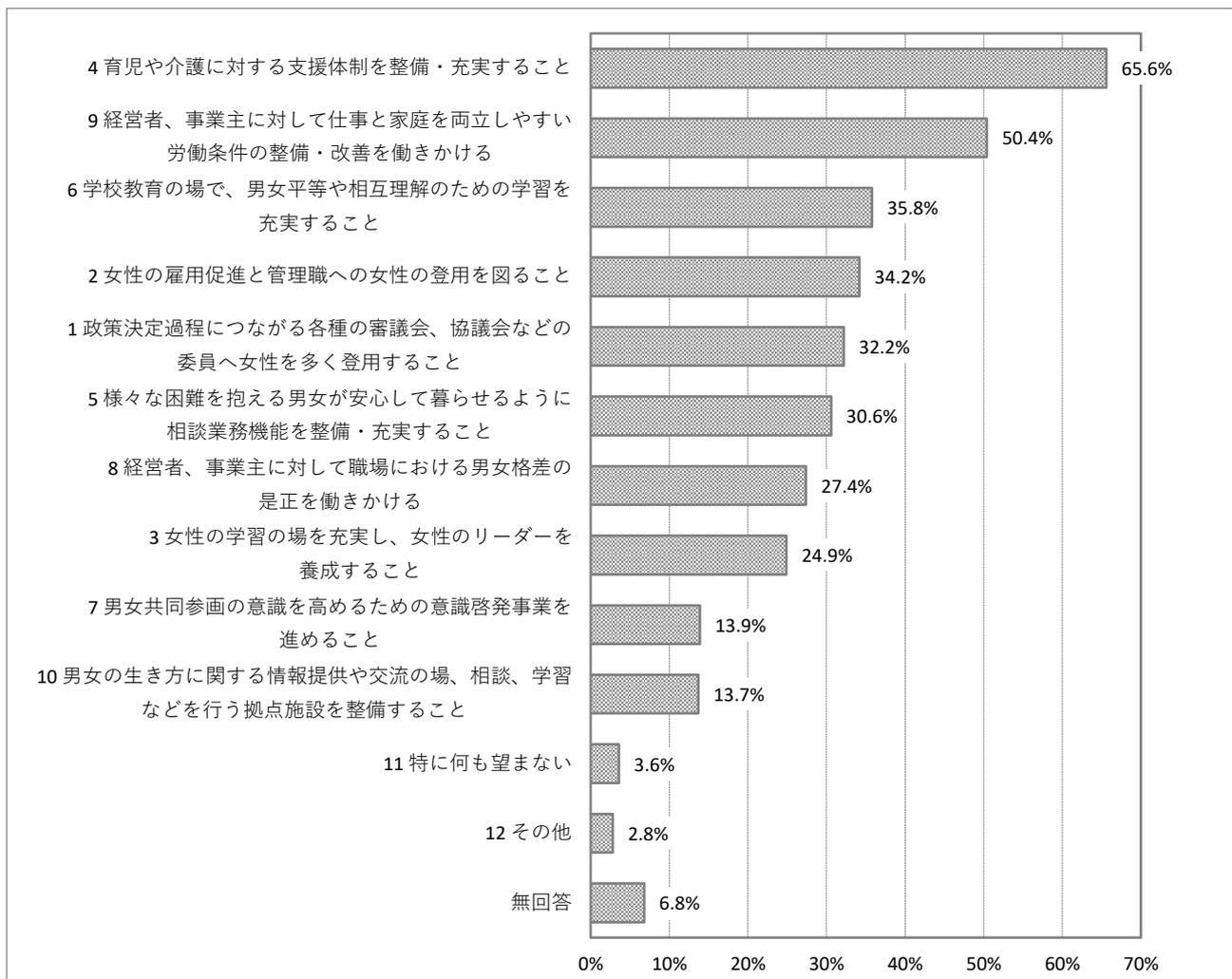
7 男女共同参画推進のために必要な取組みについて

問28 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、行政に対してどのような施策を望みますか。

次の中からあなたが思うものを5つ以内で選んでください。

- 1 政策決定過程につながる各種の審議会、協議会などの委員へ女性を多く登用すること
- 2 女性の雇用促進と管理職への女性の登用を図ること
- 3 女性の学習の場を充実し、女性のリーダーを養成すること
- 4 育児や介護に対する支援体制を整備・充実すること
- 5 様々な困難を抱える男女が安心して暮らせるように相談業務機能を整備・充実すること
- 6 学校教育の場で、男女平等や相互理解のための学習を充実すること
- 7 男女共同参画の意識を高めるための意識啓発事業を進めること
- 8 経営者、事業主に対して職場における男女格差の是正を働きかける
- 9 経営者、事業主に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける
- 10 男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、学習などを行う拠点施設を整備すること
- 11 特に何も望まない
- 12 その他

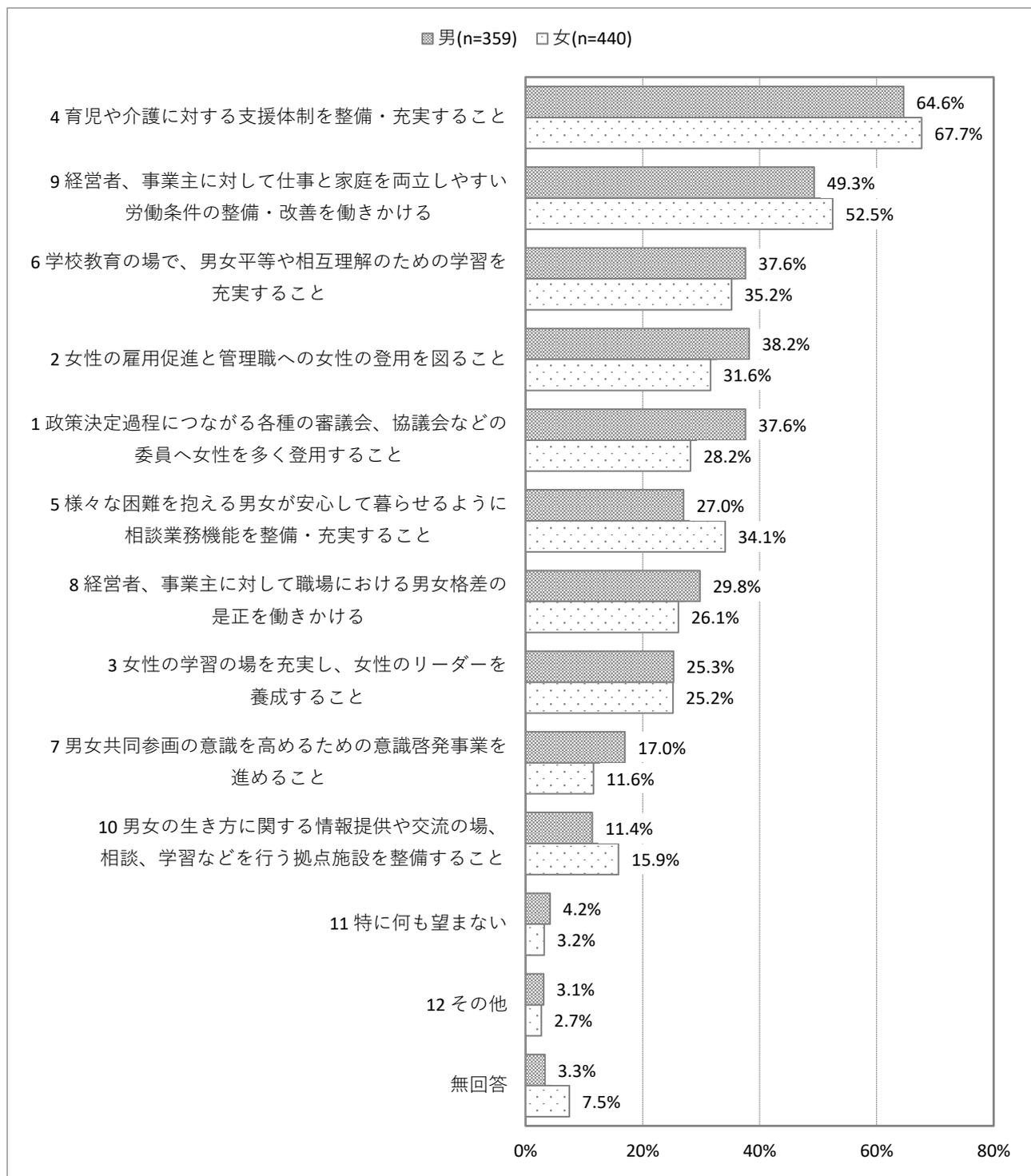
【全体 (n=811)】



【男女比較】

男女共同参画に向けて行政に望む施策としては、男女ともに「育児や介護に対する支援体制を整備・充実すること」が最も割合が高く、男性 64.6%、女性 67.7%である。次に「経営者、事業主に対して仕事と家庭を両立しやすい労働条件の整備・改善を働きかける」で男性 49.3%、女性 52.5%である。

男女の違いでみると、「政策決定過程につながる各種の審議会、協議会などの委員へ女性を多く登用すること」において、男性が 37.6%であるのに対して、女性では 28.2%と、男性の方が 9.4 ポイント高くなっている。



【問 28-12 その他の回答】

男性・女性の意識を変えること

- ・女性うんぬんより先に男性の洗脳が先と思う（70 歳代・男・無職）
- ・女性の自覚（60 歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・男性の意識改革（40 歳代・女・常勤（正社員・正職員））
- ・男性はこう、女性はこうという固定概念をなくす。（20 歳代・男・常勤（正社員・正職員））

家事・育児・介護に対する意識を変えること

- ・育児が大変価値のある創造的なしごとであるという意識を持つ人をふやす。（50 歳代・女・臨時（パートタイム勤務））
- ・男性が子育て、家事、介護をするのはすごいことではなく、当たり前のことだと世間に促すこと。自立を促すこと。（40 歳代・女・常勤（正社員・正職員））

法律や社会の在り方を変えること

- ・県内では、以前、下松市が“住みたい市町”上位に選ばれたように、住み良さ日本一を国内で上位を目指して、目標を掲げて改革をしていく（全体の良さが男女共同参画の実現に近づけると思いました）。（60 歳代・女・主婦・主夫（家族の家事を行っている人））
- ・法の整備を先ず行う事（環境）（60 歳代・男・常勤（正社員・正職員））
- ・男性も辛い・弱さを許せる社会も目指していかないとミソジニストが量産されるだけになりかねないので、バランスも考えないといけないと思う（50 歳代・女・臨時（パートタイム勤務））

リーダーを変えること

- ・若いこのような考えを持っている人をリーダーに立たせること（20 歳代・男・学生）
- ・女性の大臣をとにかく増すこと（60 歳代・男・臨時（フルタイム勤務だが一時的なもの））

教育を見直すこと

- ・幼い頃から教育に組み込むこと（家事や男女のコミュニケーションのしかた）（30 歳代・女・常勤（正社員・正職員））

貧富の差をなくすこと

- ・貧富の格差を是正していかないと男女共同参画社会に手が届きにくいと思う。（60 歳代・女・自営）

障害者への理解を高めること

- ・障害者に対しての理解がたらく残念です（60 歳代・男・無職）

わからない

- ・わからない (70 歳代・女・無職)
- ・わからない、(50 歳代・男・常勤 (正社員・正職員))

その他

- ・審議会、協議会なるものはほぼ税金の無駄使いとなっている。1 は前提が間違っている。(60 歳代・男・自営)
- ・ただただ教育文化と言うような人では山口は発展できないと思う。(60 歳代・男・自営)
- ・行政がどんな施策をしてくれても夫婦間の男女差別はなくならないと思う特に私の場合は旦那が有資格者だからしょうがないと思わざる得ないです (40 歳代・女・自営)

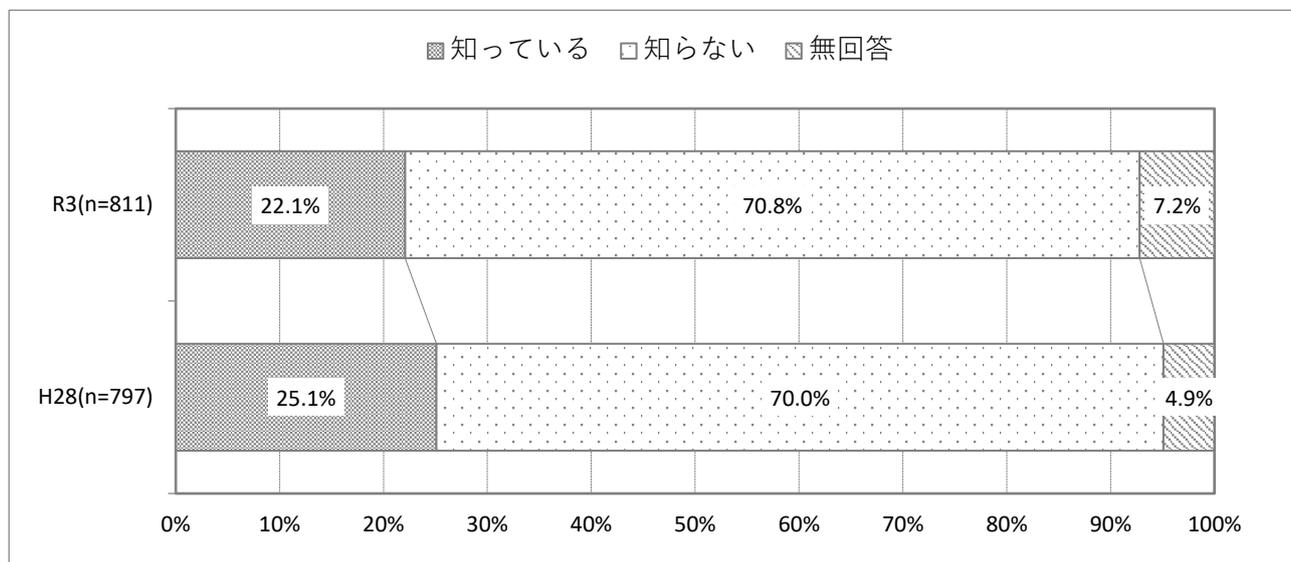
感想

- ・よーしてもらってます。(50 歳代・女・臨時 (パートタイム勤務))

問29 あなたは、男女共同参画を推進する拠点施設として、山口市に平成21年4月1日に開設された「山口市男女共同参画センター」を知っていますか。

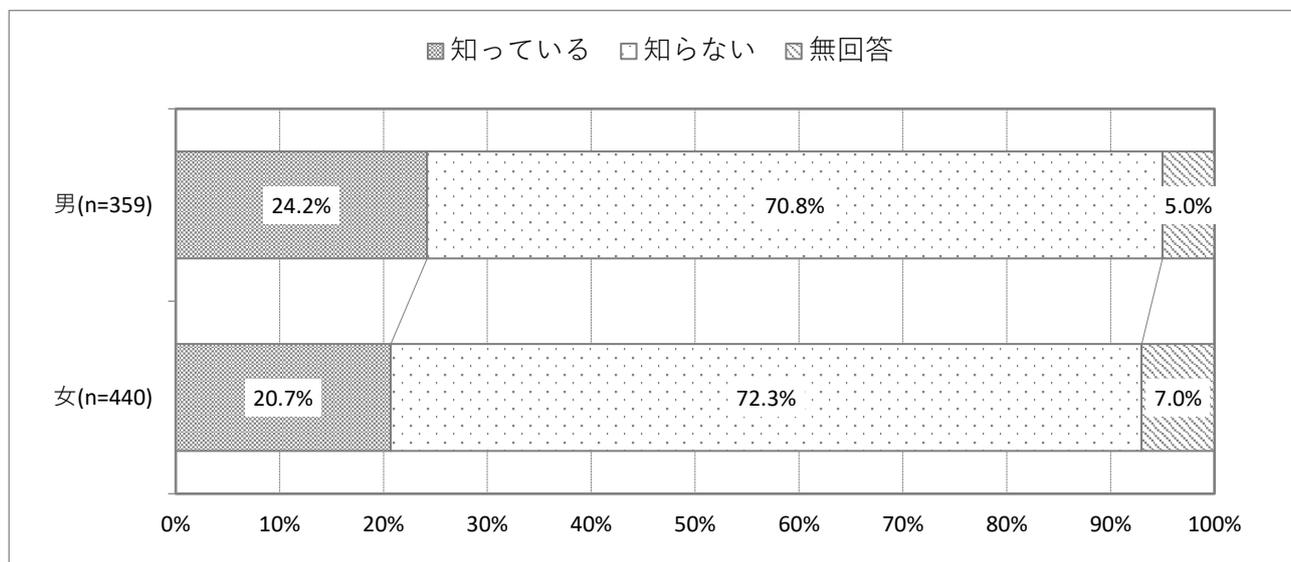
【経年比較】

全体では「知っている」179人(22.1%)、「知らない」574人(70.8%)となっている。前回調査と比較してみると、「知っている」と答えた割合が3.0ポイント減少している。



【男女比較】

性別でみると、男性では「知っている」24.2%、「知らない」70.8%、女性では「知っている」20.7%、「知らない」72.3%であり、男性の方が認知度が高い。



【年代比較】

年代別では、「知っている」と答えた割合が高いのは、男性では60歳代33.0%、40歳代29.2%である。女性では、60歳代26.0%、40歳代23.9%となっている。

